

令和2年度版

筑波大学年次報告書

国立大学法人
筑波大学

はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大により、単に移動の制限と経済活動の陰りのみならず、紛争をはじめとする国際情勢の変化、科学技術と産業の発展により引き起こされた環境問題など、一国のみではおさまらない様々な地球規模の課題が浮き彫りとなってきました。その一方で、コロナウイルス禍は社会のデジタル化を進展させ、社会の有り様を大きく変えてきています。

未来社会の姿が見えない VUCA の時代に大学に求められていることは、来たるべき社会を牽引できる哲学を確立し、それらに基づいた新たな価値を創造することです。それは、現状に対応できる科学技術を発展させることであり、将来において社会に貢献する才能を育てることです。

我が国の大学改革の先導者としてたゆみない改革を行ってきた本学は、建学の理念に掲げた、あらゆる意味において「開かれた大学」として、今後も予測不可能な時代の中で怯むことなく未来社会をデザインし、自らその実現に挑戦してまいります。垣根の低い組織構成を拠りどころとする学際性、海外の有力大学に比肩する国際性、および筑波研究学園都市という立地などを活かし、学問の自由を共有できるパートナーとの多様な学問分野の協働により、新たな学問分野や価値を共創してまいります。

我々は、未来社会の基盤となる、個人と個人、個人と組織あるいは社会だけではなく、社会と社会、組織と組織、国と国までを含めた信頼関係を “GLOBAL TRUST” と提唱し、その創出のために努力してまいります。そのためには、本学の置かれている状況や自らの活動成果を常に的確かつ客観的に把握しておくことが必要不可欠です。本学報告書は、その基礎資料として、社会からの理解と自らが進める改革・改善のために大いに活用されるものであることを期待しています。

令和4年3月

筑波大学長 永田 恭介

目 次

I	総論	1
II	教育研究組織の評価結果	35
III	各種資料	
1	管理運営関係	
(1)	沿革	58
(2)	運営組織等	65
(3)	主要行事	67
(4)	役員・教職員数	69
(5)	予算決算	71
2	教育関係	
(1)	学年暦	80
(2)	学生数	81
(3)	開設授業科目数	90
(4)	卒業・修了者等数	95
(5)	入学者選抜	109
3	研究関係	
(1)	科学研究費助成事業採択状況	122
(2)	研究プロジェクト支援経費	124
(3)	その他の研究費	133
(4)	日本学術振興会特別研究員採用状況	135
(5)	国際テニュアトラック採用状況	136
(6)	論文数等	137
(7)	各種受賞学会賞等	139
4	産学連携関係	
(1)	民間等との共同研究費	142
(2)	産学連携推進プロジェクト	143
(3)	取得特許等	145
(4)	アントレプレナーシップ教育	146
(5)	大学発ベンチャー	147
5	学生生活関係	
(1)	学生の表彰	148
(2)	学生の懲戒	156
(3)	学生の交通事故	156
(4)	奨学生数	157
(5)	学生団体数及び加入者数	160
(6)	課外活動団体の主な成績	161
(7)	就職等状況	164
(8)	学生相談利用状況	168
6	国際交流関係	
(1)	教職員等の交流	171
(2)	学生の交流	173
(3)	国際交流協定	175
(4)	グローバル化に向けた教育研究	186
(5)	国別交流者数	191
7	筑波研究学園都市連携等関係	
(1)	連携大学院一覧	193
(2)	研究学園都市共著論文実績	194
(3)	TGSW2020実施状況	195
(4)	つくば産学連携強化プロジェクト	197
8	社会連携・大学公開関係	
(1)	社会貢献プロジェクト	199
(2)	地方自治体との連携協定	200
(3)	高大連携事業一覧	201
(4)	公開講座実施状況	203
(5)	教員免許状更新講習	205
(6)	特別支援学校教員資格認定試験	206
(7)	視察・来訪者	207
(8)	エクステンションプログラム実績	209
(9)	現金による寄附受入実績	210
9	医療・保健関係	
(1)	附属病院	211
(2)	保健管理センター	213
10	附属図書館関係	
(1)	利用統計	215
(2)	基盤統計	216
(3)	推移	217
(4)	オリエンテーション・講習会	218
11	施設・環境関係	
(1)	施設整備状況	219

I 総論

【1】大学の基本的な目標等

筑波大学は、国内的にも国際的にも「開かれた大学」として、旧来の固定観念に捉われない柔軟な教育研究組織と次代の求める新しい大学の仕組みを率先して実現することを基本理念とし、我が国の大学改革を先導する役割を担っている。社会経済状況が大きく変化し、持続的な競争力と高い付加価値を生み出す自律的な改革が大学に求められる中、筑波大学は未来を構想しその実現に挑むフロントランナーと自らを位置付け、本学に根ざす人材育成マインド「師魂理才」の下、地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出を目指す世界的な教育研究の拠点としての機能を充実・強化すべく、以下の目標を掲げる。

1. 高い倫理観の下、自然と人間、社会と文化に係る幅広い学問分野における深い専門性を追求するとともに、分野融合型の領域を開拓し、研究機能の再編成と国際性の強化により、卓越した知の創造拠点として世界トップレベルの研究を展開する。
2. 世界から多様な学生を受け入れるとともに、高度で最先端の研究成果に裏打ちされ、学生の個性と能力を開花させる教育システムを学位プログラムにより構築し、豊かな人間性と創造的な知力を生涯にわたって養い、自立してグローバルに活躍できる人材を育成する。
3. 国際的互換性のある教育と世界トップレベルの研究活動を多彩な分野を擁する総合大学として展開し、世界の国々や地域とのネットワークの中心としての存在感を高めるとともに、国際的な信頼性と発信力を備え、国際性が日常化された大学を実現する。
4. 科学技術が集積するイノベーション創出拠点 TSUKUBA における中核的役割を担い、教育研究諸機関及び産業界との連携を強化し、自らの教育研究機能を高めるとともに、我が国のグローバルな産業競争力強化に貢献する。
5. 教職員のそれぞれが専門的かつ多様な能力を高めつつ、学長のリーダーシップの下、情報ガバナンスと経営基盤の強化及び学内資源の再配分を推進し、自律的に教育研究機能を改革することにより、世界と社会の変化に最も迅速に対応しうる大学として我が国の大学改革を先導する。

◇ 未来を構想しその実現に挑むフロントランナーとして

本学は、前身校の歴史と伝統の上に「新構想大学」として設立され、国内的にも国際的にも開かれた大学であることを理念に、これまで我が国の大学の在り方を先導してきた。

第3期にあっては、本学に根ざす人材育成マインド「師魂理才」の下、地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出を担う世界的な研究教育の拠点としての機能を充実・強化させるべく、国境や機関、制度といった様々な「壁」を越えたトランスボーダー連携による研究教育等の展開を核とした5つの基本目標を掲げた。

第3期中期目標期間の5年目となった令和2事業年度においては、急激な社会変化により、大きな構造転換が必要とされる中、本学及び筑波研究学園都市のグローバル化を主導し、国際的プレゼンス向上に取り組むとともに、知の創出と継承、すなわち研究とそれを継承する人材育成について、将来に対するしっかりとした展望を持って臨むことを念頭に、研究・教育から業務運営に亘る各分野において、研究教育の質の向上及び業務運営の改善・効率化に係る施策を実施したほか、持続的な「競争力」を持ち、高い付加価値を生み出す体制への転換を推進した。

【2】教育研究等の質の向上の状況

1. グローバル化の推進に向けた大学運営上の取組

◇ グローバル化に向けたトランスポーター連携拠点の拡大

○ キャンパス・イン・キャンパス構想に係る取組

- ・ キャンパス・イン・キャンパス (CiC) パートナー大学の拡充に向けて、オセアニア地域（オーストラリア、ニュージーランドなど）、カナダ、欧州（北欧、イギリス、東欧）から候補を絞り、オセアニア地域の大学を優先的な候補として選定し、オンラインにより候補大学との具体的な調整を行った。
- ・ キャンパス・イン・キャンパスパートナー大学であるボーfum大学と、科目ジュークボックスを活用した履修コースについて、オンラインによる相互履修を策定し、科目ジュークボックスのポータルサイト化を図った。また、筑波大学より175科目のオンライン科目をキャンパス・イン・キャンパスパートナー校へ科目ジュークボックスを通じて開放し、15名の受講生を迎えた。

<CiC 協定パートナー大学>



○ 学生及び教職員の国際化に資するワンストップサービス等の実現

- ・ 日本及び関係各国のコロナ感染状況や渡航情報を踏まえつつ、各拠点等におけるオンラインでの現地入試の在り方や実施体制について検討した。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、スチューデント・コモンズは閉室とし、オンラインによる情報提供・国際交流活動（留学経験者や留学生の学生スタッフによる留学相談、ライティング・ヘルプデスク業務、国際交流イベント等の実施等）を実施した。
- ・ 海外留学プログラムへの参加を促進するための施策として、海外留学フェアをオンラインで実施し、10月15日～10月30日の開催期間中305名の参加登録があり、延べ994名が参加した。

○ 海外における高機能中核拠点の整備

- ・ 今年度は新たに台湾の成功大学 (NCKU) と研究者交流プログラム及び共同研究プロジェクトの協定を締結し、同協定に基づき公募・採択によりそれぞれの交流を開始した。
- ・ 高機能中核拠点を中心にリクルーティング計画を立て、オンラインでの留学フェアや説明会を企画し、関係組織との連携により66回実施した。

◇ 筑波研究学園都市全体のグローバル化の牽引

○ 「つくばグローバルサイエンスウィーク (TGSW)」の開催及び「筑波会議」の推進

・通算 10 回目の開催となる Tsukuba Global Science Week (TGSW)2020 は、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、会場を例年行われてきたつくば国際会議場から筑波大学キャンパスへ変更し、かつオンラインによる開催を中心とする、これまでとは異なる形式によって開催した。TGSW2020 では、海外の協定校や筑波研究学園都市に所在する研究機関との共同主催を含む 25 のセッションが行われ、日程は 9 月 28 日～30 日を中心としつつ、セッションによっては後ろに期間をずらし、最終的に 2 月まで開催された。

また、TGSW 初の試みとして、オンライン上で電子媒体のポスターを掲示するデジタルポスターセッションを開催し、11 セッション、230 以上の研究発表ポスターをインターネット上にて展示した。最終的には 53 か国・地域、256 機関 (うち国外 108) から 976 名 (うち外国籍 356) の参加登録があり、「国外参加機関数 30 機関、国外参加者数 300 人」という中期目標における KPI を達成するとともに、コロナ禍においても筑波研究学園都市の存在を国内外にアピールした。

・令和 3 年度に開催予定の筑波会議 2021 の準備について、学内の会議協力体制を整備するため筑波会議協力委員会を組織し、10 月に第 1 回委員会を開催し、本学の参加・協力に係る方針を策定した。また、1 月に筑波会議 2021 のセッションについて学内募集を行い、最終的にコンカレントセッション 6 件、スペシャルセッション 8 件、計 14 件の応募があった。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-1 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
CiC 協定パートナー大学	10	5	7	8	10	10

【中期計画-5 関連】

令和 3 年度における TGSW 国外参加

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
参加機関	30	46	88	84	105	108
参加者	300	300	262	298	344	356

※「H31 実績値」欄は筑波会議に係る実績値

2. 国際的に互換性のある教育の実施に向けた大学運営上の取組

◇ 国内外の大学や研究開発法人などとのトランスボーダー連携による教育の実施

- 国内外の国公立大学との多様な形態による共同学位プログラム等の実施
 - ・科目ジュークボックス内でのナンバリングの効果的な活用方法については、CiC 協定校（海外 10 校）との連携が不可欠であるため、4 月以降から事務レベルでの打合せを 5 回開催し、10 月には学長レベルが参加する CiC ミーティングを実施した。このミーティングにおいて、ナンバリングの活用を含めた教育関連の更なる推進を目指すための「教育部会」が設置された。
 - ・科目ジュークボックス内にオンラインで履修できる科目を登録することにより、本学学生及び海外 CiC 協定校の学生がオンラインで履修できる環境を構築し、秋学期からの募集を行った。本学では 1 名が国立台湾大学のオンライン科目を履修するとともに、海外からは 17 名の学生が本学での履修申請をし、最終的には 15 名が単位修得した。
- 国内外の政府・大学等の要請に基づく教育業務の受託
 - ・オンラインによるカリキュラム編成・プログラム運営への助言や授業など、状況にあわせて関係機関間で調整し実施した。
 - ・海外大学からの学生インターンシップについては、オンラインでの実施とオンサイトによる実施など、インターンシップの在り方の見直しや、ウィズコロナ、アフターコロナでの実施について検討した。

◇ 我が国の高等教育をリードする学位プログラム制への移行及び教育体系の構築

- 学位プログラム制への全学的移行
 - ・従来の 8 研究科 85 専攻を全面的に改組再編し、3 学術院 6 研究群の下で学位プログラムを運営する新しい教育システムを構築した。その下で、従来の組織の枠を越えた教員の協働や各学術院における共通専門基盤科目の開設、各学位プログラムの授業科目の精選など、効率的な資源投入の下で教育の効果の向上を図る取組を推進した。
- 学位プログラムの充実
 - ・筑波スタンダード（大学院版）を全面改訂し、4 月に本学ホームページで公表した。改訂版では、大学院の全学位プログラムにおいて、全学共通に達成すべき汎用力及び各学位プログラムにおいて養成する専門力をディプロマポリシーに明示した上で、学修成果の評価に係る方針及び学位論文に係る評価の基準を明確化した。また、筑波スタンダードの英語版作成に着手した。
 - ・令和元年度までグローバル教育院で運営してきた分野横断型学位プログラム（ヒューマンバイオロジー学位プログラム、エンパワーメント情報学プログラム、ライフイノベーション学位プログラム）を、令和 2 年度に設置した学術院・研究群の中に位置付け、学生受入を開始した。
 - ・協働大学院方式により開設したライフイノベーション学位プログラムの領域を、従来の 4 領域（病態機構、創薬開発、食料革新、環境制御）に新たに 2 領域（生物情報、生体分子材料）を加えて拡充するとともに、協働大学院方式による新たな学位プログラムとして「リスク・レジリエンス工学学位プログラム」を開設し、学生受入を開始した。
- 教育の質保証体制の充実
 - ・教学マネジメント室を設置し、学位プログラムのモニタリング（毎年の点検）及びプログラムレビュー（数年おきの総合的 point 検・評価）に用いるループリックを策定するとともに、実施に関するガイドラインを定め、それに沿って、7 学群・20 学類・1 学位プログラムでプログラムレビューを実施し、教育の質保証・向上につなげた。また、モニタリング、プログラムレビューの中からグッドプラクティスを抽出し、FD 等により全学に波及させた。
 - ・以下のとおり学士課程の教養教育の充実を図った。
 - ・総合選抜（大括り入試）入学者の学類・専門学群への移行のための教育関係情報システムの機能について試行、検証を行い、3 月末に運用を開始した。
 - ・総合選抜入学者を含む 1 年次の学修が円滑に行えるよう、専門導入科目等の時間割を規格化し、令和 3 年度以降の時間割を確定した。
 - ・令和元年度の専門導入科目の履修状況を踏まえ、総合選抜入学者の履修状況を想定した令和 3 年度以降の各科目の受講定員と開設方法を検討した結果、いくつかの科目でオンデマンド授業を活用することにより、学生の科目選択の幅を広げることができた。
 - ・学生の能動的学修の促進に係る FD の内容をより充実させる観点から、令和元年度に実施した学位プログラムのモニタリングの試行実施により得られたデータに基づき全学的に課題意識の高いテーマを設定して FD を実施することとし、全学 FD 研修会として「成績評価の組織的 point 検と学修達成度の評価システム」及び「より開かれた大学を

目指して～教育改善に向けた学生及び就職先との連携」を開催した。また、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン授業に関する学修状況等の実態調査を実施し、その検証・分析結果を秋学期に活かすために全学 FD 研修会「オンライン授業を考える：手探りの春学期から改善の秋学期へ」を開催した。

- ・本学の将来構想を見据えた学士課程の見直しの中核的取組として、全学的チュートリアル教育を導入することとし、指定国立大学法人構想に組み込み、行動計画として、2040年までを見通した工程表を策定した。さらに、教学デザイン室に「チュートリアル教育タスクフォース」を設置し、検討を進めた。また、チュートリアル教育に係る今年度の検討状況について、3月にFDを開催し、全学の教職員に共有するとともに様々な意見を聴取し、次年度の検討につなげた。

◇ 世界から多様かつ優秀な学生を受け入れる入学者選抜の実施

○ 総合選抜の導入を含む入学者選抜改革

- ・既存の入試管理システム及びWeb出願システムを総合選抜へ実装するために必要な改修を行い、事前の入念な検証を重ね1月から運用を開始した。また、総合選抜に関する重要事項を決定する組織を設置し、2段階選抜、合否判定方法、定員管理等の制度面を整備した。さらに、万全を期すため志願者数に応じた外部試験場等の設定や実施要員及び試験監督員への説明等の事前の準備を行い、学力検査、採点、合否判定及び合格発表までを滞りなく進行させた。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当初予定をしていた「受験生のための筑波大学説明会（夏のオープンキャンパス）」及び「春の進学説明会」をオンライン開催に変更し、動画による各学群・学類の紹介やライブ配信による個別相談を実施した。また、6月よりアドミッションセンター教員によるオンライン進学相談を毎週実施（入試実施期間を除く）するとともに、高等学校教員向けのオンライン説明会や電話による高等学校への広報と情報収集を行った。さらに、令和3年度入試について、本学Webサイトでの特設ページ開設や入試案内パンフレットの作成を行い、総合選抜の志願者拡大のため幅広い広報活動を実施した。総合選抜の定着を目指し、令和4年度入試案内についても制作を完了した。

○ グローバル入学者選抜システムの構築に向けた取組

- ・国際バカロレア特別入試、海外教育プログラム特別入試及び私費外国人留学生入試については、個別学力検査等で導入している新規Web出願システムに切り替え、それぞれ8月下旬、1月上旬に運用を開始した。

◇ 社会人受入の拡充など社会的ニーズに対応した取組

○ 社会人等の学び直しの推進

- ・令和2年度に設置した大学院の新組織において、前身組織から引き続き博士後期課程早期修了プログラムを実施しており、受入れ学生数は入学定員の10.1%を達成し、令和3年度に入学定員の7%としているKPIを大きく上回る実績をあげている。
- ・履修証明プログラムとして、新たに「精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成」を開設し5プログラムを実施した。また、認定を受けている3つの職業実践力育成プログラム（BP）を実施した。現職教育講座はコロナ禍により減少したが、合計8講座を実施し、これらのプログラムにより、社会人等の学び直しを推進した。

◇ 大学入学者選抜の実施体制の強化に関する取組

令和2年度入試の実施に万全を期すため、以下の対応を行った。

（教育組織長等への周知徹底）

- ・教育組織の長で構成する学群教育会議、学群入学試験実施委員会において、教育担当副学長より、文部科学省通知や本学での事例を示し、試験問題の作成、試験の実施、採点、合否判定等におけるミスの未然防止、早期発見、ミス発生時の迅速かつ組織的な対応等、入試の円滑な実施に万全を期すよう要請した。
- ・試験問題の出題委員に対し、不適切な出題の未然防止及び出題ミスの早期発見を図るため、マニュアル等の確認を徹底するよう要請した。
- ・各教育組織等が主体となって作題や入試の実施に関して、出題及び合否判定ミス等の防止の徹底を要請するとともに、入試業務における基本的チェック事項を作成・配付し、入試課への報告を義務化した。
- ・大学入学共通テスト及び個別学力検査等に関しては、監督者説明会への対象者全員の参加義務を課すとともに、上述と同様の対応の徹底について要請した。

(出題・採点ミス防止に係る取組)

- ・前期日程試験の入試問題の点検・確認に関しては、専門教員による用字・用語チェックの強化、学内外の出題ミスや注意すべき事例の事前確認、出題に関わっていない教員も含めた点検など、試験実施前や試験開始後の点検体制を強化し、ミスの早期発見に努めた。
- ・採点及び合否判定に関しては、個人情報取扱いの工夫を含む採点ミス防止に係る注意喚起を行うとともに、面接や実技試験等対面で行う試験については、採点基準の明確化や複数名での採点を行うことなど、公正性の確保に努めた。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-2 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
英語だけで履修可能な教育プログラム開設	60	49	52	63	65	65

【中期計画-12 関連】

附属高等学校、附属坂戸高等学校における在学中の海外での武者修行経験者

KPI	目標値	H29 実績値	H30 実績値
附属高等学校	SGH 対象者の	45%	100%
附属坂戸高等学校	80%以上	100%	100%
全体	—	56%	100%

※SGH（第1期：平成26年度～平成30年度）指定校期間最終年度に目標達成。

【中期計画-15 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
履修証明プログラム数 (現職教育講座等含む)	33	24	44	46	51	27

◇ 教育に関する全国共同利用拠点の取組状況

(1) 『日本語・日本事情遠隔教育拠点』

(グローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC))

グローバルコミュニケーション教育センター（以下、CEGLOC）は、外国語教育部門、日本語教育部門（留学生対象）、国語部門の3言語部門に加え、教材開発・支援部門（関連拠点事業の運営を含む）と企画調整部門からなる全学共同教育センターである。令和2年度においては、次年度から学群学生の受入れが始まる総合学域群への準備と対応を行った。また新型コロナウイルス感染拡大という非常事態の中で、対面授業からオンライン授業に全面的に切りかえるための措置を取った。CEGLOCの基幹部門である3言語部門の主要課題は、(a)外国語教育部門では日本人学生の英語力強化と日本人・留学生のトライリンガル教育の充実・強化、(b)日本語教育部門では留学生数の増加とその対応、(c)国語部門では日本人学生の思考力・発信力強化である。本年度は、オンライン教育を通じて、各部門がそれぞれの課題に取り組んだ。また、CEGLOCの言語教育の特長である総合的な言語教育という観点から、発表技能等の育成において3言語部門の教育は深く連動していることを意識し、部門横断的な教育・研究活動の一層の推進を目指した。

外国語教育部門では、学群学生の英語力強化の全学的な取組として導入した外部の英語能力試験（今年度からTOEFL ITPからTOEIC IPに変更）をオンライン方式で実施した。例年以上に教育組織と連携してその有効活用と受験率向上に注力した結果、3年次学生の受験率が90.5%となり（1年次生の受験率は98.4%）、中期計画のKPIを一年前倒しで達成することができた。またコロナ禍にあっても、英語を使った専門教育の強化・拡大という学内の需要に応えるためにオンラインFD研修を前年度並みの頻度で行った。CEGLOC担当教員がオンライン授業をスムーズに行えるようにするためのFD研修を部門ごとに、また部門を超えて協力して実施した。

国語部門では、オンライン教育を通じて、国語による論理的表現力、発表・交渉能力を向上させる教育に取り組んだ。これらの能力は外国語の運用にも直結することから、外国語教育（英語、初修外国語）、外国語としての日本語教育との連携を意識した教育活動を目指した。

日本語教育部門では、コロナ禍で来日することができず本学の留学を断念した海外の学生に対して日本語教育をオンラインで行った。特に、中央アジアのキャンパス・イン・キャンパス協定校であるカザフ国立大学東洋学部（カ

ザフスタン)の学生に科目ジュークボックスに登録した日本語科目を積極的に提供した。

日本語・日本事情遠隔教育拠点では、日本語教育部門が開発した日本語 Web テストの Tsukuba Test Battery of Japanese (以下、TTBJ) のコンテンツ改修(利用説明動画の追加など)を行ったことでさらなる一般ユーザの拡大が見込まれることになった。また今後、多様な出身地から来学する本学の留学生の比率がますます大きくなることを予想して、TTBJ のホームページの多言語化に着手した。具体的には、英語、ベトナム語、中国語(簡体字、繁体字)、スペイン語、ポルトガル語の8言語が対象である。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、CEGLOC の3言語部門の教育活動は、すべてオンラインによって行われた。当初、担当教員は、学生と同様に、大きな精神的、肉体的な負担に苦しんだが、慣れるにしたがって、オンライン・コミュニケーションツールを用いた新しい教育技術と教育形態の可能性に気づく余裕も生まれ、ポストコロナ時代の新しい言語教育のあり方を検討する契機ともなった。

①拠点としての取組と成果

【1：筑波大学日本語・日本事情遠隔教育拠点】

教育関係共同利用拠点として遠隔教育コンテンツの安定した運用を継続した。昨年度末で公開終了予定であった「筑波日本語 e ラーニング」については、新型コロナウイルス感染拡大によるオンライン日本語教育リソースの必要性を考慮し、8月末まで運用を延長した。また、ウェブ日本語テストのつくば日本語テスト集(TTBJ)は本学以外の留学生の受入れの日本語能力評価、海外の大学の入学試験の日本語免除のための日本語能力評価、国立国語研究所の調査における日本語能力評価など、他機関による多様な活用が行われた。

つくば日本語テスト集(TTBJ)の受験実績は次のとおり。

区分	所属機関数 ※1	利用人数 ※2
国立大学	39	1,749
公立大学	8	85
私立大学	56	2,672
大学共同利用機関法人	1	44
民間・独立行政法人等	13	213
外国の研究機関	25	1,014
計	142	5,777

※その他の個人受験者数 9,232 人、団体・個人合計 15,009 人、受験者 1 名のみの機関 50 機関

※1 団体受験利用機関と 2 名以上個人受験を利用した機関の合計数

※2 団体受験者数と 2 名以上個人受験を利用した機関の受験者の合計数

【2：その他コンテンツの実績】

区分	回数
日本語学習辞書のページビュー数	78,654
場面・機能別日本語会話練習データベースのページビュー数	20,505
筑波ウェブコーパスのページビュー数	611,801
nihongo123 の新規ダウンロード数	1,249
Basic Kanji Plus の新規ダウンロード数	5,899
SuMo Japan の新規ダウンロード数	144

【3：広報活動】

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、対面でのイベントは開催することはできなかったが、国際室と連携して南米への広報に注力し、ペルー、ブラジル、スペイン、コロンビア、チリ、アルゼンチンでの「オンライン留学フェア」にてコンテンツの情報を提供した。また、講演会「帰国・外国人児童のための JSL 国語教科書語彙シラバスデータベース『COSMOS』プロジェクトについて」及びシンポジウム「未来志向の日本語教育 2.0」を CEGLOC 日本語教育部門、アジア・アフリカ学術基盤形成(研究代表 小野正樹)と共催し、日本語教育人材の育成に寄与した。さらに、日本語教育関係者向けに、ニュースレターや SNS で拠点コンテンツの利用法などに関する情報を積極的に発信した。

②センター等の独自の取組と成果

外国語教育部門の英語においては、コロナ禍において、各学群に対して学群学生の英語能力を1年次と3年次で定点観測するための外部英語能力試験をオンラインで実施した。本年度入学の1年生は、プレイメントテストを4月に行うことができなかったため、1月に TOEIC IP 試験をオンラインで行った。1年次必修科目である English Reading Skills II の単位授与に紐付けることで、98.4%の受験率を達成した。3年次についても TOEIC IP 試験を特定科目の受講要件とする、各学生への周知を例年以上に徹底するなどの方策を講じたことが功を奏し、90.5%の受験率となった。第3期中期計画の KPI である 90%の目標値を1年次生、3年次生ともに上回ることができた。

受験率向上施策と並行して、外部の英語能力検定試験対策として、またアメリカ留学準備の対策として、TOEFL

Practice や TOEFL Preparation を開設し、検定試験のスコア向上に貢献できるよう努めた。また、大学全体の英語力強化のため、専門科目を英語で教える授業のサポートを推進し、関連する学群教員のためにオンライン FD 研修を 4 回(各 1 日) 提供し、参加者へのアンケート調査において授業運営などに役立った旨の回答を得た。加えて、CEGLOC 英語教員のための英語教育 FD 研修会を 2 回開催し、言語指導・異文化理解への知見を深めた。

今年度も全国共同利用施設である筑波大学日本語・日本事情遠隔教育拠点では、国内外で知られている、独自に開発した日本語オンライン教材(①筑波日本語 e ラーニング、②TTBJ、③日本語学習者辞書、④場面・機能別日本語会話練習データベース、⑤筑波ウェブコーパス、⑥nihongo 123、⑦Basic Kanji Plus、⑧SuMo Japan、⑨にほんごアベニュー)の一般公開利用を通じて社会に大きく貢献した。特に筑波ウェブコーパスのページビュー数は、昨年度の約 35 万回から今年度は約 61 万回とその数を大きく伸ばしている。これは国内利用だけではなく、海外(特に中国)からの利用が増えていることが影響している。そのため、3 月には筑波ウェブコーパスの操作言語を日本語以外に英語、中国語(簡体字、繁体字)を加え、利用者の拡大を図った。さらに、3 月には日本語読解学習支援システム『リーディング・チュウ太』を筑波大学運用版として新規に導入した。

(2) 『ナチュラルヒストリーに根ざした山岳科学教育拠点』

(山岳科学センター)

旧菅平高原実験センターと旧農林技術センターの演習林部門の合併により新たに生まれ変わった山岳科学センターを母体として、生物多様性周辺分野の基礎から応用までを網羅する教育内容の広範化と高度化によって、21 世紀最大の課題である生物多様性問題と、山岳の幅広い自然環境関連問題を解決できる人材を育成する事業に取り組んだ。令和 2 年度は多彩な実習プログラム、内外のフィールド系機関との連携、幅広い広報を行って、多くの実習生を受け入れていくことを方針として掲げて実施した。その結果、本事業は全国の教育拠点事業の中で最も活発に事業を行っている拠点の一つであると考えている。また、今後も国内だけではなく留学生や海外の学生を受入れるように国際化など更なる発展を目指していく。

①拠点としての取組と成果

菅平高原実験所においては第 1 期「ナチュラルヒストリーに根ざした森と草原の生物多様性教育拠点」の活動から継続して、また、今年度より演習林部門の本格的な参画により、山岳科学センター全体を挙げてフィールドと研究施設を最大限に活用して、学部生・院生向けの公開実習を開講してきた。また、学内外の実習や、その他教育活動の受け入れや、学内外の学生の研究指導の受け入れを行っている。その他、本拠点事業のホームページや、430 の大学学部へのポスター・リーフレットの送付、SNS との連携、STEP10 への登録、その他イベント参加などにより、これらの活動を積極的に広報してきた。その結果、菅平高原実験所の利用延べ人数は、平成 26 年度は 2,662 人、平成 27 年度は 2,922 人、平成 28 年度は 3,075 人、平成 29 年度は 2,954 人、平成 30 年度は 2,748 人、令和元年度は 2,347 人、令和 2 年度は 608 人、演習林部門においても平成 28 年度は 2,401 人、平成 29 年度は 4,617 人、平成 30 年度は 3,218 人、令和元年度は 2,834 人、令和 2 年度は 1,080 人となった。特に、公開実習における学外学生の受講生数は、平成 26 年度は 8 名だったのに対して、平成 27 年度は 27 名、平成 28 年度は 34 名、平成 29 年度は 44 名、平成 30 年度は 30 名、令和元年度は 46 名と着実に伸びており(令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため全公開実習が中止)、拠点として、感染対策を十分に講じ、全国の学生の研究を滞らせることのないよう努めた。なお、活動改善を目的としたアンケート調査の結果からも、公開実習は非常に好評を得ているとともに、アンケートによって出た要望を踏まえ改善しホームページにて公開している。

②センター等の独自の取組と成果

山岳科学センターは、菅平高原実験所、演習林部門(井川演習林、八ヶ岳演習林、筑波実験林)及び筑波キャンパスに所属する生物学・農学・地球科学・環境科学を横断する教員の緊密な連携のもとに運営されており、この連携を活かした本教育拠点事業への多岐にわたる取組を行った。具体的には、本センターの研究部門やフィールドステーションの情報をホームページ上で整備し、併せて本拠点事業に関する情報を再整備し、デザイン力の高い広報ポスターなどを公開するとともに、英語表記にも対応したホームページへと更新した。一方、最新の設備を活用した魅力的なフィールド教育・研究が行える場であることをアピールするため、今年度はホームページ上に、小学生向け・中高生向け・学生社会人向け・大学院生専門向けの 4 つのレベルのオンライン自己学修教材(動画・ワークシート・ハンドブック)システムを構築するとともに、公開化した点が特筆される。

また、各ステーションは 3 密が発生しやすいことから、人数制限を設けるとともに、新たに実習前後の健康状態を追跡するための健康管理チェックシートの開発、感染症対策(マスク、非接触型体温計・手指消毒器、共用箇所における消毒)を徹底し、学内実習や研究利用などにおいて一人も感染者を出さなかった。このように安全管理体制及び施設利用を整備した。

(3) 『多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点』

(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター)

令和 2 年度は教育関係共同利用拠点の最終年度であり、これまでの活動内容を拡大・充実させるとともに、新規

の教育関係共同利用拠点の申請を行った。2月18日にダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター教育関係共同利用運営委員会を開催し、今年度の活動実績の評価及び次年度の新規拠点活動計画を立案・検討した。引き続き、認定時の特記事項に挙げられた「教員、職員、専門的職員等の各層別のニーズに即したプログラムの開発」や「LSBの内容の充実や各大学への普及」について進めており、また、新規拠点の事業内容についても学外有識者から高評価を得た。

①拠点としての取組と成果

【1：発達障害学生支援に関する他大学を対象としたFD/SD研修会の開催】

発達障害学生支援に関する各大学教職員等を対象としたオンライン型研修会を7回開催し、前年度の2.7倍にあたる1,699名が参加した。ライブでの配信だけでなく見逃し配信（オンデマンド配信）を実施した。加えて、各大学教職員が自由にアクセスできるようにe-learning型の講義動画コンテンツを公開した。講義動画では教員、職員、専門的職員等の各層別のニーズに即したプログラムを取り入れている。今年度は16件の講義動画を公開した。

【2：発達障害学生支援に関する相談対応】

各大学等からの発達障害学生支援に関するメール・電話等の遠隔相談対応を延べ14件行った。また、相談対応についてオンライン型相談の導入を進め、各大学教職員と支援ノウハウを共有できるようにクローズ型ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）による相談ネットワーク「RADDネット」を開始した。現在までに前年度の23.3倍にあたる全国70校（国立19校、公立4校、私立42校、短期大学1校、その他4校）から参加申し込みがあった。また、申込者は計101名（教員44名、職員20名、専門職員40名、一部重複あり）であった。

【3：発達障害学生支援に有効なデータベース構築と配信】

4月より受益者負担による利用料収入を得ながら、支援情報配信サービス「Learning Support Book (LSB)」の共同利用を全国28校（国立4校、公立2校、私立22校）で開始した。教職員が閲覧可能なトライアル版は26校、所属学生も自由に閲覧できるフルサポート版は2校より申し込みがあった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、オンライン授業の受け方に関するコンテンツなどLSBの内容の充実を図った。今年度のコンテンツ数は前年度の1.5倍にあたる58件となった。また、LSBを活用し、利用者が日々の困りごとを投稿すると、それに対応した対処法を自動的に提案するチャットボットシステム（人工知能による自動応答システム）の開発を新たに企画し、進めている。現在までに、入力が予想される困りごとと応答のパターンを215項目定義した。これにより、各大学の教職員等が学生支援に関する疑問が生じた際に即座に対応できる仕組みを構築するとともに、さらなるデータベースの充実と各大学への普及を進める予定である。

【4：発達障害学生支援に関する各種講習会への講師依頼の対応】

各大学等からの講師派遣依頼に基づき、拠点運営スタッフが15件、前年度の1.2倍にあたる延べ1,289名に研修を行い、来年度も継続する予定である。実際の学生支援に即した知識・技能を学習できるように、発達障害学生の仮想事例動画を制作し、講義のみならず、遠隔でのグループワークを通じて教職員が検討できるように研修を実施した。

②センター等の独自の取組と成果

【1：グラフィックレコーディングによる障害に関する理解・啓発】

教職員や学生、一般等への発達障害に関する理解・啓発を目的として、芸術学を専門とする発達障害の診断を受けた当事者の職員を雇用し、本拠点に関する活動内容について、マンガ（グラフィックレコーディング）による情報発信を行った。1月時点で本拠点の活動等に関連する投稿について、Facebookでは14,232名にリーチし、Twitterの関連投稿には延べ5,223件の「いいね！」（全19回の関連投稿中、投稿1回あたり平均274件）を得ており、社会的に高い反応・関心を得ている。

【2：オンライン授業等における障害学生対応】

新型コロナウイルス拡大の影響により、オンライン授業の受講等における障害学生への対応を行った。それに伴い、障害のある学生に対応する方法や課題をまとめた指針を作成した。これらのオンライン授業に関連する取組等について、読売新聞、教育学術新聞、筑波大学新聞等より取材を受け、取組等が報道された。

【3：支援情報配信サービス「Learning Support Book (LSB)」の配信】

全国の高等教育機関と共同利用をしている支援情報配信サービス「Learning Support Book (LSB)」が、12月にユニバーサルデザインの国際的顕彰事業であるIAUD国際デザイン賞コミュニケーションデザイン部門で銅賞を受賞した。

3. 学生の自立性を高めるための支援の実施に向けた大学運営上の取組

◇ グローバル人材の育成及び国際性の日常化に向けた取組

○ 国際的コミュニケーション力の充実

- ・外部の英語能力検定試験について、各教育組織への調査結果に基づき、学生の意識向上や受験率のさらなる向上を目指して、3年次の実施時期の見直し（5月から11月へ変更）を行うとともに、TOFEL ITP から TOEIC® IP へ移行した。1年次については、実施時期を4月から1月に変更し、TOEIC® IP テストをオンライン方式により実施した。また、TOEIC® IP テストをオンライン方式により複数回実施することにより、3年次の受験率が昨年度の81.5%から90.5%に向上した。さらに、外部英語能力検定試験の1年次から3年次スコアの向上率を個人別に分析し、教育組織に配信する仕組みを検討した。

○ 学生支援の充実

- ・平成29年度に策定した授業料と奨学金が一体となった経済支援の運用モデルの成績優秀者を対象とした経済支援について、令和元年度から実施している「大学院進学奨励奨学金」に加え「学業成績優秀者支援奨学金」を実施した。
- ・海外派遣の支援実施状況は、筑波大学海外留学支援事業「はばたけ！筑大生」の4月期募集は渡航緩和の見込みがないと判断し中止としたが、12月期募集（令和3年4月以降渡航）については、再開を前提として申請受けを行い、採択手続きを進めている。なお、新たな試みとして、令和2年度中の単位取得を伴うオンライン留学等への経費支援策を検討して募集を行い、条件をクリアした学生への支援を実施した。

◇ 多様な学生へのキャリア形成等を見据えた支援の充実

○ 同窓会の連携拡大に向けた取組

- ・茗溪・筑波産業人倶楽部と就職課との共催で、オンラインによるキャリアカフェ※を実施した。
※キャリアカフェ：在学生と企業のOB・OGとの懇談による就職支援イベント

○ ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターの取組

- ・博士人材の能力の可視化と共有を行い、産業界等へ博士人材の価値や強みの発信を行うことを目的に、今年度はアンケート調査を実施した。また、博士前期学生等に配布するため、本学における学内の様々な博士後期学生への支援コンテンツを一元的に整理し、ガイドブックを作成した。
- ・学生同士の相互支援体制として、これまで障害領域別（視覚、聴覚、運動・内部、発達）に分かれていたピア・チューター制度を抜本的に見直し、支援ニーズ別（テキストデータ化、要約筆記、移動支援、発達障害支援活動等）のピア・チューター制度へ移行した。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-11 関連】

学群第1学年及び第3学年の外部の英語能力検定試験受験率

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
学群1年次生	90%	67.9%	98.9%	99.4%	99.6%	98.4%
学群3年次生	以上	42.5%	54.4%	65.6%	81.5%	90.5%
全体	—	54.9%	76.2%	82.0%	90.3%	94.4%

【中期計画-22 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
在学期間に 学生を海外派遣	半数 相当	約38%	約40%	約43%	約40%	約1%

【中期計画-23 関連】

KPI	目標値	実績
グローバルレジデンスの整備	平成30年度までに整備	平成29年度整備

4. 世界トップレベルの研究の推進に向けた大学運営上の取組

◇ 既存の研究センターの見直し・集約等をはじめとする「研究循環システム」の構築に資する取組及び研究支援体制の充実

- 研究センターの級別分類等の研究の成長ステージに応じた効果的な研究推進体制の構築
 - ・ 研究センターの5年ごとの評価システム（3年目に中間評価）において第1回目となる「研究センター中間評価」を実施した。本評価は学長を機構長とする全学的に研究戦略立案、マネジメントを行う研究戦略イニシアティブ推進機構において策定された「研究センター中間評価要項」に基づき、研究機構運営委員会委員及び学内有識者により構成された評価委員会により実施し、書面評価及びヒアリングにより評価結果を決定した。本評価において高い評価を受けた微生物サステナビリティ研究センターについては、令和3年度よりR2（全国級研究拠点）に昇格させるとともに、支援の拡充を図った。
 - ・ 「令和2年度リサーチユニット強化事業募集要領」に基づき公募を行い、支援対象となる4件のリサーチユニットを採択した。
- 世界最高水準の研究拠点形成のための体制整備
 - ・ 世界展開研究拠点形成機構において、支援対象組織が世界最高水準の研究拠点を形成するために令和2年度に取り組まなければならない、研究の活性化及び質の向上に重点を置いた環境整備事業に対して、重点的・戦略的な予算配分を行った。
- 研究成果や学術情報の公表
 - ・ つくばリポジトリコンテンツの拡充・可視性向上のため、論文データ以外の貴重書画像データ等、より広範なデータの柔軟な登録が可能となる新 JAIRO Cloud への移行作業を進めた。さらに、オープンサイエンスを推進する企画としてオンラインワークショップ「CMS を利用したデジタルアーカイブの構築」を人文社会国際比較研究機構共催で9月11日に開催し、学内外から145名の参加者を得て最新の知見を共有した。
 - ・ ORCID (Open Researcher and Contributor ID) の登録を促進するツールを導入・利用し、全教員に対して登録促進を行った。また、毎月の新規採用者及び異動者に対し登録促進を行っている。さらに、人文社会科学分野を皮切りに F1000Research とともに開発を行い、論文をはじめとする多様な研究成果の迅速な出版を日本語でも可能にした筑波大学ゲートウェイの運用を開始し、初年度は5報の論文が公開された。

◇ 国際性の強化による卓越した知の創造拠点の展開

- 世界トップレベルの研究の推進
 - ・ 国際統合睡眠医科学研究機構 (IIIS) において、IIIS 発ベンチャー企業である (株) S' UIMIN を活用し、研究成果の社会実装第一号として睡眠検査の商用サービスを計画より半年早い9月に開始した。当該サービスの実施が前倒しになったことで、蓄積される睡眠と疫学のビッグデータによる病気のリスク予測法の開発に早期に取り掛かれることになったことから、このリスク予測法の開発を日本医療研究開発機構 (AMED) が所管するムーンショット型研究開発事業の目標の一つに掲げ、同事業の採択につなげることができた。
 - ・ 毎年行われる現地視察の結果に基づく WPI プログラム委員会の評価において “IIIS is one of the leading sleep research institutes in the world.” との非常に高い評価を受けた。また、今年度に募集が行われたムーンショット型研究開発事業に、IIIS を中核とする研究グループを組織して「睡眠と冬眠：2つの「眠り」の解明と操作が拓く新世代医療の展開」プロジェクトを提案して採択された。来年度から約22億円の予算規模で5年間の研究開発事業を実施する。
- 国際的な研究拠点の形成
 - ・ 下田臨海実験センターにおいて、沿岸海洋生命に関する幅広い分野の基礎研究と、海洋環境問題への取組の両面から先進的な研究に取り組んでいる。令和2年度は海洋マイクロプラスチックの全国沿岸調査を、TARA-Japan とマリノバイオ共同推進機構との連携で実施したほか、海洋酸性化研究の国際研究拠点形成（令和3年度から始動）、ホヤにおける新しい遺伝子発現調節機構の研究で創発的研究支援事業への教員1名の採択などの実績があった。またホヤの変態の分子メカニズム、ウニでのゲノム編集技術開発、酸性化状態にある生物群集の変遷プロセス解明などの大きな研究成果が上がり、Current Biology 誌や Global Change Biology 誌といった著名な雑誌への掲載を含め、30を超える論文を発表した。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-26 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
研究領域において世界100位以内を実現	相当数	1分野 QS世界大学 ランキング	2分野 QS世界大学 ランキング	1分野 QS世界大学 ランキング	2分野 QS世界大学 ランキング	2分野 QS世界大学 ランキング
		Sports- related Subjects (26位)	Sports- related Subjects (25位)	Sports- related Subjects (49位)	Library & Information Management (33位)	Library & Information Management (40位)
			Library & Information Management (37位)		Sports- related Subjects (51-100位)	Sports- related Subjects (51-100位)

【中期計画-27 関連】

KPI	目標	実績
開発研究センターのシステム確立	平成29年度	平成29年度に達成済 (令和2年度末現在12センター設置)

【中期計画-34 関連】

KPI	目標	実績
大学院教育における研究倫理科目	平成30年度までに必修化	平成30年度に大学院共通科目、専門科目等で必修化

◇ 共同利用・共同研究拠点の取組状況

(1) 『先端学際計算科学共同研究拠点』(計算科学研究センター)

本センターが運用する2台のスーパーコンピュータ Cygnus 及び Oakforest-PACS (東京大学と共同運用) を全国共同利用に供するため、学際共同利用プログラム及び HPCI 一般課題等を実施する。Cygnus は本センターが独自に開発した多重複合型演算加速スーパーコンピュータであり、演算加速装置として GPU と FPGA を同時搭載する世界でも類を見ないシステムである。FPGA を高性能計算に適用するという新たな試みに向け、全国の研究者にこれを提供する。Oakforest-PACS は単体システムとして HPCI 第2階層中、国内最高クラスの性能を有するシステムであり、メニーコアアーキテクチャによる汎用プログラミングによって様々な計算科学・計算工学課題の研究にこれを提供する。

①共同利用・共同研究拠点としての取組と成果

筑波大学独自で進めるスーパーコンピュータ共用プログラムである学際共同利用に独自開発システムである Cygnus と、東京大学と共同調達・運用するシステムである Oakforest-PACS を供し、令和2年度には合計83件の課題、454名のユーザ、またその結果として138報の学術論文が発表された。文部科学省が推進する HPCI においては Oakforest-PACS を東京大学と共同で運営する最先端共同 HPC 基盤施設 (JCAHPC) として提供し、令和2年度には33件の課題、644名のユーザが利用した。

特に Cygnus は GPU と FPGA の両者を備える世界でも唯一の実用的多重複合演算加速システムであり、この特性を生かすための特別課題として8件が学際共同利用で採択された。

さらに、令和2年度には HPCI の下で新型コロナウイルス感染症対応特別課題の緊急公募があり、Cygnus では2件、Oakforest-PACS では3件の課題が採択され、全18件の採択課題のうち5件が本センターを利用しており、新型コロナウイルス感染症の対策に向けた創薬研究等で社会に大きく貢献した。

②センター独自の取組と成果

Cygnus スーパーコンピュータは本センターが独自開発した世界でも類を見ない多重複合型演算加速システムで

あり、特に FPGA の高性能計算利用を目指している研究者から世界的に注目されている。当該システムの利用を推進するため、文部科学省における「高性能汎用計算機高度利用事業」(次世代領域研究開発)に採択された課題「次世代演算通信融合型スーパーコンピュータの開発」において、同システムのシステムソフトウェア及びアプリケーションを開発し、この成果として令和2年度には6件の学術論文が発表された。

メニーコア型スーパーコンピュータ Oakforest-PACS は令和2年度においてフラッグシップシステムである「富岳」を除いては、国内の大学が有する単独のスーパーコンピュータとして最高性能であり、様々なアプリケーション開発に供されているが、本センターとしても素粒子・宇宙・物質科学等の分野において「富岳」での高性能化のためのアプリケーション開発に Oakforest-PACS を用い、独自アプリケーションを開発している。

③共同利用・共同研究体制を強化する取組や拠点の意義に即した取組状況

センターがスーパーコンピュータ資源の提供機関に留まらず、学術研究をリードする機関としてトップレベルの研究を行うべく、自らのシステムやアプリケーションの開発を行うとともに、以下の最先端の計算資源を全国の学術研究に供するための取組を行っている。

- ・研究者コミュニティへの貢献として、最先端スーパーコンピュータを学際共同利用及び HPCI を通じて全国の研究者に提供するだけでなく、本センター内において海外主要研究者の中期招聘やセンターの若手研究者の中期派遣プログラムを設け、国際共同研究を促進する取り組みを行なっている。
- ・大学の機能強化への貢献として、本センターは学内における最高レベル研究センター (R1 組織)、さらに世界トップレベルを目指す研究機関として認定されており、論文発表・外部資金獲得・国際的 MOU の締結等において学内をリードし、本学の研究力強化に貢献している。また、Cygnus システムが目指す多重複合型次世代スーパーコンピュータのコンセプトの下、次世代領域研究開発予算を獲得しており、本学の研究環境・機能強化に貢献している。

(2)『形質転換植物デザイン研究拠点』(遺伝子実験センター)

(平成29年4月1日より本センターはつくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) の一部へ改組)

つくば機能植物イノベーション研究センター・遺伝子実験センターは、遺伝子組換え植物に関する総合研究拠点として、特にわが国の植物科学研究でボトルネックとなっている植物遺伝子や植物バイオテクノロジー研究分野におけるトランスレーショナル研究の実践を通じて、国内に順次設置される組換え植物のフィールド実験施設に共同利用研究で生み出したノウハウを提供するとともに、それらのネットワーク化を推進する。令和2年度は、植物科学のトランスレーショナルリサーチを推進する国内拠点機能としての維持・強化に一層努めるとともに、海外機関との共同研究強化による形質転換植物デザイン研究の国際共同利用・共同拠点化の推進及び国際共同研究を強化した。また、植物科学研究を推進する国内4共同利用・共同研究拠点による連携事業を進めた。産学連携の成果としては、ゲノム編集産物の商品化支援の実績を得ることが出来た。さらに FAO 遺伝資源条約や名古屋議定書等に則した遺伝資源利活用研究基盤構築、植物バイオテクノロジーの実用化に向けた社会的受容性醸成に向けた取組を行った。

①共同利用・共同研究拠点としての取組と成果

- ・実用化候補作物作出に繋がる共同研究を44件採択・実施した。拠点運営の状況、成果及び将来計画に関する点検・評価を目的とした運営協議会を、年2回メール会議で開催した。
- ・共同利用・共同研究課題において、ベトナムでの海外連携型での現地共同研究1件の継続支援に加え、新規にスペインカタルーニャ農業食品技術研究所 (IRTA) との国際共同研究課題1件を実施した。
- ・11月に、岡山大学植物資源植物科学研究所、鳥取大学乾燥地研究センター、琉球大学熱帯生物圏研究センターとの植物研究4拠点アライアンス交流会を筑波大学主催でオンラインにて実施した。また交流会後、4拠点アライアンス合同による植物科学シンポジウムをオンラインにて開催した。
- ・トマト遺伝資源を配布した (NBRP 事業全体207件のうち、当該拠点での利用は29件)。
- ・センター教員が関わる45報 (うち37報が国際学術誌) の論文を発表した。その中で本センターが求められている遺伝子組換え植物の社会受容に関わる情報発信活動及び遺伝資源に関するリスク評価についても積極的に情報発信した (花粉症治療に利用可能なシラカバ花粉アレルゲンの大量生産、4月 Frontiers in Plant Science 誌、遺伝子組換え植物の社会受容に関わる情報発信活動及び遺伝資源に関するリスク評価に関する論文、10月 Frontiers in Genetics 誌及び PLOS ONE 誌、1月 Scientific Reports 誌、2月 Transgenic Research 誌に掲載)。
- ・江面教授が開発したゲノム編集 GABA 高蓄積トマトが一般流通食品として厚生労働省において承認された。

②センター独自の取組と成果

- ・共同利用・共同研究による基礎研究と応用研究の成果の進展により、新規に9件の科研費 (学術変革領域研究 (A) 1件、基盤研究 (B) 1件、基盤研究 (C) 5件、挑戦的研究 (萌芽) 2件) を獲得した。また11件の民間との共同研究、16件の受託研究費、2件の奨学寄付金を獲得した。拠点で進めている海外機関との共同研究強化の成果の進展により、平和中島財団国際共同研究助成を獲得した。

- ・コロナ禍を意識し、主に高校生を対象とした公開講座をオンラインで開催した。関東近郊だけでなく、愛知県、静岡県、兵庫県、奈良県、宮城県、福島県、山形県、三重県から73名（うち60名が高校生）の受講があった。
- ・研究者を対象とした公開セミナーを6件実施した。

③共同利用・共同研究体制を強化する取組や拠点の意義に即した取組状況

【1：若手研究者の確保と人材育成、テニユアトラック制の活用と人材流動性】

学内の承継人事（戦略的分野拡充ポイントを用いた新分野開拓に係る承継人事等）や卓越研究員制度等に応募するとともに、民間企業との特別研究事業を利用して、将来のセンター運営の中核を担う若手教員の確保、人材育成を進めている。また、国際会議・海外での現地人材育成活動等へ派遣するとともに学内教育活動にも関与させ、単に専門家としてとどまることなく世界規模で活躍できる能力を兼ね備えた総合的研究力を持つ人材として育成を行っている。

令和2年度は、戦略的分野拡充ポイントを用いた新分野開拓に係る承継人事及びナショナルバイオリソースプロジェクトに係る若手の助教2名を新規採用した。また、センター専任の准教授1名、助教3名は審査を経てテニユアを獲得した。3月現在、3名の助教が任期付き教員であり、平成28年度から令和2年度にかけて8名の教員が転入し、8名の教員が転出しているなど、人材流動性を担保した人事を行っている。

【2：クロスアポイントメント制度を活用した拠点機能強化】

平成30年度より農水省とのクロスアポイントメント人事によりつくば機能植物イノベーション研究センター専任の産学連携担当URA1名を採用している。また、平成30年度より農業・食品産業技術総合研究機構とのクロスアポイントメント人事により教授1名、助教1名を受入れ、研究体制の強化を図っている。

【3：外国人・女性研究者の積極的受入れ】

国際公募による若手や外国人教員の登用を行っており、令和2年度現在、2名の外国人教員（2名とも女性研究者）を採用している。さらに海外の著名な外国人研究者（フロリダ大学 Harry Klee 教授）を本学の客員教授として招聘し海外研究室のユニットを日本国内に構築することで、国際連携の強化や学生・教員の人材交流の促進を図っている。令和2年度は、新型コロナの影響により直接の人的交流はできなかったが、拠点所属教員との共同研究を進めた。

【4：大学共同利用機関との連携による研究力向上】

平成29年度より理化学研究所環境資源科学研究センターと共同で、バイオマス増産組換えサトウキビの特定研究室栽培試験を、本学と全学研究交流協定を締結するベトナム国ホーチミン市バイオテクノロジーセンターで行うなど、大学共同利用機関との連携を強化している。令和2年度は、前年度に引き続き理化学研究所と共同で海外連携研究機関利用型共同利用・共同研究を活用した形質転換サトウキビのベトナム網室及び圃場における試験栽培を行った。さらに、拠点協定組織であるタイのカセサート大学での遺伝子組換えキャッサバの栽培試験の調整を行なっている。

【5：各機関等の枠を越えた連携による異分野融合・新分野創成のための組織の設置、学術研究の大型プロジェクトの推進】

つくば機能植物イノベーション研究センターでは、ゲノム編集技術を用いてストレス軽減や血圧降下に効果があるとされるGABA含有量の高いトマトを開発し、世界で初めて直接食べるゲノム編集作物として12月に、厚生労働省から流通が認められた。本センターの研究成果の実際の社会還元物として、このことは世界中で大きくニュース等で報じられた。植物バイオテクノロジーの研究開発及び実用化は、地球規模の気候変動や人口増加に応じた食料生産や資源の持続的確保のためのソリューションとして強く期待される。近年、先進国各国では、高齢化する人口問題やそれに伴う医療費の増大に対し関心が注がれ、機能的食品の健康増進や未病への貢献の可能性が高まりつつある。次期拠点では、これを端緒として食品科学、健康科学、環境科学、情報科学といった異分野融合による食・生物資源開発に係る新分野創成と大規模学術フロンティア促進事業認定を目指す。

(3)『放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点』（アイソトープ環境動態研究センター）

アイソトープ環境動態研究センターでは、文部科学省認定共同利用・共同研究拠点事業「放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点」の中核機関として、2年目である令和2年度においても、地球生態系での放射性物質の循環過程の解明という大きな目標を掲げ、福島大学、弘前大学、日本原子力研究開発機構、国立環境研究所、量子科学技術研究開発機構の異なる研究コミュニティをバックグラウンドとした連携ネットワーク型の異分野融合研究を共同研究及び共同利用などを通じて推進し、アイソトープをトレーサーとした新しい環境動態解析の学問分野の創成という特色ある研究等を推進するとともに、その学術的成果を福島復興にも還元している。

新型コロナウイルス感染症の影響により、人の移動の制限がされることとなったが、オンライン会議ツールやMicrosoft Teamsを活用した情報共有を行い、創意工夫の上、拠点間の連携をとり共同研究等を推進した。キックオフミーティングや年次報告会においても、オンライン形式で開催し、世界中の研究拠点をネットワーク環境でつなぎ、ポスターセッションなどによる研究者同士の交流を行い、異分野融合のための研究推進に係る取り組みを行った。国際的には、国際原子力機関 IAEA、フランス放射線防護原子力安全研究所 IRSN をはじめとする国際機関と積

極的に協力しながら放射能環境動態分野における世界的な情報発信の拠点を構築した。

また、国内では、当センターの放射線安全管理部がこれまで蓄積してきた放射性物質、核燃料物質や放射線発生装置の安全管理、放射線教育と使用者の被ばく管理などの教育実績を基礎とした原子力災害からの復旧・復興支援のための人材育成を実施した。1月には、当センターのドイツ人客員教授によるオンライン配信の授業を実施する等、放射線業務への理解を深める教育活動をさらに推進した。

①共同利用・共同研究拠点としての取組と成果

【1：Nature Reviews Earth & Environmentでのレビュー論文発表】

福島第一原子力発電所事故から10年が経過したが、陸域、森林生態系、水棲生物などにその影響が残っている。これまでの知見の集約が必要とされていたが、既存の研究を客観的に総括し、科学的に検証した論文はなかった。そこで、当センターを中心としたネットワーク拠点のチームにより福島の陸域環境モニタリングに関する研究論文210本以上を網羅的に集約し、特に放射性セシウム137による陸域汚染の実態と環境回復の全貌を明らかにした。陸域環境における事故の影響を概観し、チェルノブイリ原発事故と比較するレビュー論文は、Nature Reviews Earth & Environmentに公開された(Onda et al. 2020)。この論文はプレス発表され、福島民報では1面トップで報道されたほか、朝日新聞等の全国紙においても報道された。この福島由来の放射性核種は、既知の単一地点を放出源とする高感度環境トレーサーとみなすことができる。これに、大気核実験由来の人工放射性核種（いわゆるグローバルフォールアウト）や、ウラン系列の天然放射性核種などの地球科学トレーサーを組み合わせることで、複数環境をまたぐ物質の輸送プロセスを解明する新しい研究分野「アイソトープ環境動態学/放射能環境動態解析学」の創成の動きを進展させ、世界に発信することができた。この研究をベースとして、本研究拠点に所属する研究者と本拠点で共同研究を行った研究者が協働して、令和3年度学術変革領域研究（A）に「スフェアをつなぐアイソトープ環境動態学」と題する研究を計画し、申請を行った。

【2：公募型共同研究による異分野融合研究の推進】

アイソトープ環境動態研究センターでは、共同利用・共同研究拠点の中核機関として、電子メール及びホームページを活用して、国内外に向けて共同研究を広く公募し、合計126件の共同研究課題を採択し、研究活動を開始した。その内訳は、公募型研究として、重点共同研究59件、海外共同研究25件、若手共同研究27件、公募型以外に拠点間での共同研究をより強化するための拠点間共同研究15件となっている。当センターの施設やデータベースを活用した共同研究を推進しており、森林、陸水分野、海洋生態系分野、農産物分野など各分野で数々の学術論文を発表し、令和2年度のネットワーク拠点による論文は156報である。また、5月には、新型コロナウイルス感染症の影響で、人の移動が制限されたため、オンライン会議システム（WebEx）を用いて、海外も含めた80余りの拠点（共同研究者等）を繋ぎ、キックオフミーティングを開催し、国内外から参加した約100名の研究者がポスター発表等を行った。3月には、オンラインによる年次報告会を開催し、フラッシュトークやポスターセッションなど世界中から118名の研究者が集い、研究成果の発表やディスカッションを行い、異分野融合型の研究を推進した。

【3：ネットワークの強みを活かした福島原発アーカイブプロジェクトの推進】

当該拠点事業では、3大学（筑波大学、福島大学、弘前大学）のネットワーク拠点及び連携ネットワーク型拠点の3機関（日本原子力研究開発機構、量子科学技術研究開発機構、国立環境研究所）が協働して、データアーカイブ、サンプルアーカイブ、環境試料測定の3つのプロジェクトのワーキンググループを立ち上げ、各関係省庁及び研究機関が所有する貴重な福島原発関連環境試料を長期保存するための活動を行っている。

データアーカイブワーキンググループでは、データ公開及びデータ検索サイトのハード面及びソフト面の整備を完了させた。研究計画に基づき、6機関にデータ提供を要請するとともに専用のホームページを開設しデータ投稿の受付を開始している。

サンプルアーカイブワーキンググループでは、各研究機関が保有する環境試料を検索できるシステムの構築を進め、筑波大学の陸水試料、福島大学の土壌、農業関連、オブザバトリーサイトの試料、弘前大学の海水、生物試料を中心に、福島第一原発事故初期の環境試料をアーカイブとして集約し、検索システムを通じて拠点内外の科学研究で利用申請が行えるようにシステム基盤整備を進めている。



【4：オンライン会議ツール活用による取組】

当ネットワーク拠点では一昨年からオンライン会議を打ち合わせ等で利用していたこともあり、コロナ禍においてはオンライン会議ツールの活用やポスター発表などを内容に応じてツールを変えるなど、コロナ禍におけるデメリットを可能な限りメリットに変えるための環境の整備に努めている。3月には、当ネットワーク拠点の年次報告会及び運営委員会等をオンライン会議ツールWebExとRemoを併用して開催し、WebExでは全体による議論やフラッシュトークを行い、Remoではポスター発表及びディスカッション等の研究交流を目的に活用した。令和2年度のポスター発表は122件あり、世界中から118名が参加し、ディスカッション等の活発な研究交流が行われた。特にテーブル形式のRemoによるセッションはインタラクティブに進めることができ、大変好評を得た。震災後10年経つ中においても解決しなければならない課題は多く、コロナ禍にあっても、国内外の研究者らが拠点関連研究機関との共同研究により122件もの研究を発表できたことは、まさに当ネットワークや所属研究者らの研究活動の賜物である。今後もしばらくコロナ禍は続くと思料されるが、学術的貢献また福島課題への取組を、引き続き滞ることなく継続させていきたい。

②センター独自の取組と成果

【1：福島原発アーカイブに係る世界唯一のデータベースサイトの完成】

平成23年の福島第一原発事故直後からの放射性核種等の貴重な環境試料等のデータを集約し、DOI管理・出版を担う「国際連携データ解析部門」を設置した。福島原発事故で環境に放出された放射能及び放射線の観測データに加え、事故以前の放射能データを集約し英語化、位置情報、メタデータを付したデジタルオブジェクト識別子(DOI)を付与し管理しており、さらには、本センターデータベースサイト上で公開を開始するなど共同研究に広く活用できる研究体制を整備した。令和2年12月時点で、約170万を超えるデータを出版・管理している。また、福島事故後に緊急時環境モニタリングで採取された環境試料についても、サンプルの採取期間や種別などの情報をデータベースとして集約し、現在15,000個を超えるサンプルのリスト化を行い、福島第一原発事故初期試料を保管するアーカイブ倉庫の整備が完了している。これらは地理的座標、収集深度、サンプルタイプ、サンプリング日/期間で利用可能なサンプルを検索し、ダウンロードすることができるとともに、共同研究への環境試料の貸し出しを今後開始する予定である。これらのデータは環境放射能の研究者だけでなく、行政機関、世界各国の政策決定者を含むすべての人に環境放射能の正確な情報を提供することを目的とし、Creative Commons 4.0のライセンス下でオープンデータとして公開し、串刺し検索、閲覧、ダウンロードができる世界唯一のデータベースサイトを構築した。この取組は世界中の研究者またそれに係る人々や科学の進歩に大きく貢献していると言える。また、コロナ禍における学生への経済的支援も考慮し、筑波大学学生人材バンクを通じて、広く学生募集を行い、優秀な学生を短期雇用者として任用し、サンプルデータ等の整備を推進した。

【2：新たな標準試料の作成と福島試料測定に係る活動をスタート】

坂口綾准教授がリーダーを務める測定班は、これまで標準試料がなかったCs-135について、その重要性に着目し、令和3年度以降に産業技術総合研究所との共同研究による開発を本格的に進める計画である。また、福島県の土壌や竹の試料を採取し、海外の測定機関へ輸送する等、コロナ禍においてもできることを実施した。さらにIAEAが主催する国際会合等は、オンラインで参加し、世界の研究動向を調査するとともに最新の情報収集等に努めた。初期試料の再測定によるデータ検証や観測データの質の保証、福島起源の標準試料による測定技能試験及

び標準測定方法の検討等を国際的な機関である IAEA や ALMERA (IAEA が設立した世界の環境放射能分析専門の研究機関が参加するネットワーク) と協働して行っている。特に国際的な研究活動として、環境中に拡散した放射性物質の移行についての調査研究では、国際原子力機関 (IAEA)、フランス放射線防護原子力安全研究所 (IRSN)、Plymouth 大学等の国際機関と連携して、世界最高水準の手法及び技術を用いて、水・土砂移行モニタリング及びモデリングを行うなど課題解決に向けて取り組んでいる。

【3：国際的な研究プロジェクト参加による社会貢献活動】

平成 30 年度から継続しているノルウェー生命科学大学環境科学・天然資源管理学部環境放射能センター (CERAD) との部局間交流協定では、相互に研究交流が活性化され当該研究分野における研究発展を遂げている。フランス放射線防護原子力安全研究所 IRSN とは全学交流協定を延長し、研究交流を継続するとともに共著研究論文を発表し国際連携活動を着実に強化している。11 月に、恩田教授が KANSO 計測分析所に出張し、国際原子力機関 (IAEA) 関係者及び福島大学とともに福島県いわき市沖合での船上による調査活動「ILC2020 の試料採取ミッション活動」を行った。10 月には、恩田教授らが編纂に携わった IAEA TECDOC No.1927 として Environmental Transfer of Radionuclides in Japan following the Accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Report of Working Group 4 Transfer Processes and Data for Radiological Impact Assessment Subgroup 2 on Fukushima Data IAEA Programme on Modelling and Data for Radiological Impact Assessments (MODARIA II) が上梓された。これらは、チェルノブイリ原発事故と並ぶ福島第一原発事故における「事故後の環境動態に関する研究成果」を後世に残すものである。また、ユーラシア大学・アスタナ医科大学・シャカリム大学との国際交流協定を締結し、「カザフスタンにおけるウラン鉱山周辺地域における汚染調査」に係る国際貢献活動をスタートさせた。さらに坂口綾准教授による JST axis 事業 (持続可能開発目標達成支援事業) では、日本、カザフスタン、ロシアなどの研究者による若手研究者や学生を対象としたウインタースクールを 11 月にオンラインにより開催し、1 週間にわたって講義や実習を行い 240 名の参加があった。3 月には「The Forum on Clean Energy and Nuclear Safety - 10 Years after Fukushima」に恩田教授が招待され、「The Impact and Fate of Fallout Radionuclides by Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident in Terrestrial Systems and Post-accident Environmental Recovery」をテーマに、環境中の放射性核種の移行に影響を与えた環境要因と人為的要因について、また、福島地域での集中的な除染活動と降雨量の多さが、チェルノブイリ周辺地域に比べて福島地域の環境中の被ばく放射能が急速に減少したことなどについてオンラインで講演した。

【4：外部資金の獲得活動】

福島大学と共同で申請した JST/JICA SATREPS をはじめ、新学術領域研究 (研究領域提案型)、基盤研究 (C)、若手研究などの新規採択があり、外部資金獲得について、若手研究者を中心に意欲的に取り組んでいる。さらに、防災科学技術研究所、日本原子力研究開発機構、福島大学からの受託研究やフランス IRSN、宇宙航空研究開発機構、電力中央研究所との共同研究を継続して実施している。若手研究者育成を目的とした文部科学省「原子力緊急時対応と放射性廃棄物処理・処分を支える高度人材育成事業」では、講演などの録画データについて YouTube で動画配信を行うなど、コロナ禍においても大学院生等への教育用コンテンツとして有効に活用されている。

③共同利用・共同研究体制を強化する取組や拠点の意義に即した取組状況

アイソトープ環境動態研究センターは、共同利用・共同研究拠点事業のネットワーク拠点の中核機関として、環境中に放出された環境試料を長期保存するためのサンプルアーカイブ施設を設置した。また、前述した当センターの国際連携データ解析部門により、各連携ネットワーク機関が保有する森林・陸水試料、海洋試料、野生動物試料、土壌・農業環境試料等のデータを集約し英語化、位置情報、メタデータを付したデジタルオブジェクト識別子 (DOI) を付与し、本学ホームページ上にて集約した情報を公開し、共同研究に広く活用できる体制づくりを推進している。これらの活動は、6 機関協働で実施しており、共同研究者にとっての利便性向上につながる取組であり、このような活動は、ネットワーク研究基盤の強化につながっている。また、国際的な情報発信力強化のために Web サイトを作成し、また、情報の更新、広報資料の作成等を行っている。インターネットの活用やホームページを整備することで環境試料アーカイブ化のためのデータベース管理の強化を行った。さらに若手研究者人材育成のための支援策として、共同研究公募の段階で、35 歳以下の若手研究者に対して、研究費の配分額を他の共同研究費よりも手厚く措置し、若手研究者育成の支援活動を行っている。また、毎月 1 回開催しているセミナーでは、WEB 会議での参加を可能とするなど研究情報等の交換の場やディスカッションの場の提供も行っている。異なる研究者コミュニティを背景とした異分野融合の 6 機関が協働して、本ネットワーク拠点事業を推進することは、地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出を目指す「世界的な教育研究拠点」の創成であり、異分野融合型の新領域である「アイソトープ環境動態解析学」という卓越した知の創造拠点の創成に繋がっている。さらに国内外の大学等の研究機関との連携及び強化にも力を入れており、放射性核種が環境に与える影響及び評価についての双方向型の共同研究を推進することによって、海外共同研究者との共著論文の増加、被引用数の増加、国際的な研究発信力の強化に繋がっている。論文引用に関しても、令和 2 年度からの新たな取組として、各連携ネットワーク機関において Twitter など SNS を積極的に活用しており、研究の活性化を図っている。

5. 産学連携機能の強化とイノベーション創出

◇ 産学官連携の実績及び共同研究増加に向けた取組

○ 他機関等との連携による産学連携の推進

- ・オープンイノベーション国際戦略機構において7名のクリエイティブマネージャーが「組織」対「組織」の連携による企業ニーズドリブン型の大型共同研究の獲得を推進した。また、コロナ禍の影響により、直接企業へ訪問しての産学連携活動が困難なため、Zoom等を活用した、オンライン・ニーズドリブン型の産学連携活動を展開し、企業トップ共創型、クリエイティブマネージャー人脈起点型の産学連携活動を推進した。

◇ 大学発ベンチャーの活躍

○ 実践的なアントレプレナー教育の実施

- ・筑波クリエイティブ・キャンプ・ベーシック (TCCB) と筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンスド (TCCA) を開講してそれぞれ43名と26名が受講した。文部科学省補助事業グローバルアントレプレナー育成促進事業 (EDGEプログラム) においては、つくば地区の国立研究機関等にも門戸を拡げており、基礎編、発展編、海外編を実施してそれぞれ31名、34名、21名が受講した。これらのアントレプレナー教育全体の受講者数は155名であり、起業家などイノベーション創出に資する人材の継続的な輩出につながっている。
- ・起業家マインドを醸成し起業家の裾野拡大を図るため、全学対象の総合科目として学群1年生の必須選択科目「次世代起業家養成講座」と学群生向け自由科目「次世代起業家養成のための経営知財必須知識」を開講して、それぞれ139名と55名、合計194名が受講した。これらとTCCB、TCCAを含め起業スキルに合わせたカリキュラム・到達目標を設定して4つの授業科目が整備され、アンケート調査や顕在化した起業活動などの結果から意図したシナジーを含む教育効果が確認された。また、今年度のつくば地区アントレプレナー教育の延べ受講者は349名であり、令和元年度317名に比較して約10%、平成28年度の66名に比べて約5.3倍と起業家などイノベーション創出に資する人材輩出数が増加した。

○ 大学発ベンチャーの支援

- ・世界的なコロナ禍の中、シリコンバレー拠点 (LII; The Laboratory for Intellectual Innovation) を活用して、現地の企業、VC、アクセラレータとの連携を目指す教員の国際展開を支援するプログラムをオンラインで実施した。また、ボストンエリアにおける産学連携活動とベンチャー育成活動に関するオープンイノベーションのエコシステムの調査及び他大学の取組について、ボストンにスタッフを有する企業に委託し、今後の米国ボストンエリアでの産学連携活動基盤を整備した。

◇ 産学官連携を推進するためのマネジメント強化等に関する取組

- ・オープンイノベーション国際戦略機構において、統括クリエイティブマネージャーのもと、民間企業のCTO等と対等に議論ができる経験と能力を有する7名のクリエイティブマネージャーを産業分野別に配置することで、民間企業が信頼できる全学マネジメント体制を構築し、M2B2A (Market to Business to Academia) 型産学連携をさらに推進した。
- ・令和2年度はオンラインを活用した企業トップ対談型の産学連携活動を推進し、約15億円の民間共同研究費を獲得した。
- ・開発研究センターを新たに3センター設置し、合計12センターとした。
- ・大学等の優れた技術シーズを基にした大学発ベンチャーの創出を促進するためのプログラム「社会還元加速プログラム (SCORE)」に採択され、学内の研究者の技術シーズを基にした大学発ベンチャーの創出にむけた研究開発課題の募集・選考、及び起業活動支援プログラムの運営体制を整備し、これを推進した。

◇ 中期計画で設定した主な数値や指標等の現状値

【中期計画-35 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
間接経費・ 知財収入	H24 年度比 100%増 (106,928)	約 224%増 (173,061)	約 229%増 (175,854)	約 469%増 (304,041)	約 518%増 (330,208)	約 483%増 (311,956)

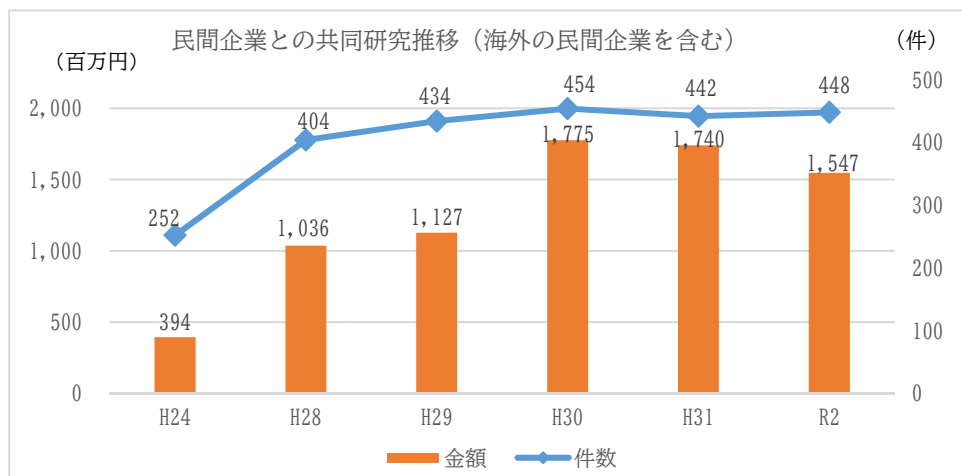
【中期計画-36 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
共同研究件数	H24 年度比 70%増 (約 528 件)	約 52%増 (472 件)	約 66%増 (516 件)	約 74%増 (542 件)	約 66%増 (515 件)	約 71%増 (532 件)

<令和2年度産学連携関係実績>

- ・民間企業との共同研究
件数 439 件 (平成 24 年度比 178% (246 件))
受入額 14 億 9,723 万円 (平成 24 年度比 390% (3 億 8,377 万円))
- ・海外民間企業との共同研究
件数 9 件 (平成 24 年度比 150% (6 件))
受入額 49,466 千円 (平成 24 年度比 790% (6,264 千円))
- ・特別共同研究事業
件数 13 件
受入額 2 億 7,275 万円
- ・特許権実施収入額 4,269 万円 (平成 24 年度比 335% (1,276 万円))

<共同研究のうち、特に伸びが顕著な民間企業との共同研究の推移>



6. 社会との連携・地域貢献の推進／知的成果の幅広い社会還元

(産学連携関連についてはP18～「産学連携機能の強化とイノベーション創出」において記載)

◇ オリンピック・パラリンピックに向けた取組

○ オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・大規模なスポーツ大会を運営するに当たって、障害の有無に関わらず、観客や選手の方々に対応できるボランティアの養成が社会的に要請されているため、学内では、ボランティア養成科目の基礎科目として、ダイバーシティ&インクルージョン入門(総合科目):150人、障害科学Ⅰ:175人、障害科学Ⅱ:129人、特別支援教育:477人、アダプテッド・スポーツ教育:219人、アダプテッド・スポーツ科学:102人を実施するとともに、実践講座として、おもてなし学-グローバルマナーと異文化コミュニケーション-(総合科目):349人を行った。学外では、スポーツを軸に大学領域を越えた社会・人文・自然科学分野の幅広い教養・教育について考え、グローバル社会で活躍できる教養人育成を目指した7大学連携スポーツ・リベラルアーツ講座(早稲田大学、立教大学、東京大学、上智大学、慶應義塾大学、神田外語大学と主催)を、コロナ禍においてオンラインで実施した。中学から大学までの学生アスリートを対象として、新型コロナウイルス等の影響による長期休み明けに、怪我がなく段階的に元のコンディションに戻していくトレーニング再開方法について、研究者や学生らの協力を得て「筑波大学アスリート<リブートプログラム>」と題する動画を作成し、本学のWEBサイト及びYouTubeにより配信する活動を行った。

◇ 地域貢献の推進及び知識・成果の幅広い社会還元

○ エクステンションプログラムの推進

- ・令和2年度のエクステンションプログラムは、すべての講座についてオンラインを活用して開催し、11講座(14プログラム)を実施した。

○ つくば3Eフォーラムの推進

- ・筑波研究学園都市のネットワーク強化による省エネルギー・低炭素の科学都市構築に向けた取組である「つくば3Eフォーラム」の活動では、次世代エネルギーシステムタスクフォース(TF)においては、産学官から現在18機関が参画し(昨年度より2機関増)、県内における水素を主とした次世代エネルギーの普及を推進する活動として、「いばらき水素普及促進シンポジウム2020」を茨城県といばらき水素利用促進協議会(会長:次世代エネルギーシステムTF座長)と共同開催した。そのほか「UAV(ドローン)を用いた農地や湖沼等における地球温暖化ガス濃度の三次元測定技術の開発」等、計3件のプロジェクトを実施した。また、目標達成状況やこれまでの活動等に対する評価を受けるため、1月に有識者による「外部評価」を実施した。評価結果を踏まえて、今後の活動の方向性や実施体制等を検討することとした。

<附属病院による地域医療への貢献>

- ・新型コロナウイルス感染拡大のため、つくば市医師会及び近隣の医師会と電話やFAXを用いた情報共有・意見交換を行い、新規開業されたつくば市医師会(10施設)とのネットワーク拡大及び土浦医師会(89施設)との新たなネットワーク構築について検討を行った。
- ・救急外来部門別システムとして『Next stage ER』を7月に導入し、診療録記載、データベース機能などの完全移行を達成した。
- ・古河・坂東地域医療教育センターへ新たに常勤教員4人を増員配置した。茨城県地域医療対策協議会の要請に基づき、関係診療科との調整結果を踏まえて令和3年度の配置医師数を決定した。
- ・病院長が会長を務める茨城県地域医療対策協議会をはじめ、主要な審議会等に参画するとともに、同県とは、今後の地域医療の在り方等について日常的に意見交換を行っている。また、茨城県地域医療対策協議会からの医師派遣要請に基づき、関係診療科との調整結果を踏まえて令和3年度の派遣医師数を決定したところであるが、同時に県に対して医療機関の再編・統合の具体策や派遣先勤務環境の改善などの医療政策を提言し、地域における医療提供体制の充実や医師の不足・偏在の解消に取り組んでいる。

<附属学校による地域貢献活動の推進>

- ・地域の教育委員会との連携体制については、3自治体教育委員会(東京都文京区・目黒区、茨城県大子町)との間で運営組織が構築され、活動を行っている。地域の教育委員会と連携した教育研究活動では、社会貢献プロジェクトオンライン特別支援教育講座を、令和2年度は23都道府県の40校園において行った。教育委員会が主催する委員会に附属学校教員が委員として参加し、公立学校における児童生徒の学力向上に関する検討に助言を行っており、教育委員会開催の研修会・公開講座に附属学校教員が講師として参加し、附属学校における教育研究成果を踏まえた講義を行った。さらに、附属学校における研究発表会や研修会・講習会には、オンライン開催で日本全国から多数の学校教員(附属学校全体で4千名以上)が参加した。

7. 附属病院機能の強化

7-1. 質の高い医療人育成及び臨床研究の推進

○ 医療人材育成に向けた取組と臨床研究の推進

- ・希望者向けに、医学類生の海外医科大学等とのオンラインセミナー参加支援を行うとともに、タイ、ラオスの大学及びブラジルの日系人医学生とオンラインセミナーを行い、本学の教育システムや留学制度を紹介するなど、新たな海外派遣支援制度策定に努めた。
- ・令和2年度の臨床研修プログラムのマッチ者は57名（昨年より3名増）であった。専門医研修については108名の応募者があった（昨年より4名増）。基礎研究医プログラムの申請を行い、厚労省より定員1で認可されたため、令和3年度に募集を開始する。
- ・引き続き、院内の医療安全、感染対策及び医療倫理講習を日本専門医機構共通講習の認定を受けて実施した。看護師については、看護特定行為のパッケージ研修を3領域（外科術後病棟管理領域・術中麻酔管理領域・救急領域）導入し、初めて修了生を3名輩出した。また、1年間で延べ76名（昨年より30名増）が入校した。
- ・医療系アントレプレナー育成プログラム「Research Studio」については、慶應義塾大学及び大阪大学に展開し、全国展開を図った。令和2年度は、国内プログラム及びUCSDメンタリングプログラムをオンラインにて実施した。また、次世代医療機器連携拠点事業については、国立がん研究センター東病院及び東京女子医大との合同公開シンポジウムをオンライン開催した。さらに、茨城県を中心とする企業とのニーズ・シーズマッチングを行い、臨床現場との対話も行った。

7-2. 質の高い医療の提供及び開発

○ 健康増進等に向けた取組

- ・外国人患者対応マニュアル【初版】の改訂版として第二版を作成し、院内職員に対して周知・共有を図った。さらに、外国人コミュニケーションツールを随時更新し、院内案内表示の英語表記などを進めた。
- ・つくば予防医学研究センターでは、アスリート健診としてスポーツドッグ（仮称）を10月及び11月に実施するとともに、新設のオプションドックとして「ゲノムドック」を2月に開設した。
- ・つくばヒト組織バイオバンクセンターへの検体提供数については、コロナ禍の影響の中でも、前年度実績（589例）を若干上回る提供数（602例）となり、また、同センターにおける院内外への症例利用実績についても、前年度実績（80例）を大幅に上回る利用実績（235例）となっている。
- ・医薬品・医療機器の研究開発経験者2名を増員し、プロジェクトマネジメントを強化した。令和3年度シーズ公募について、物質・材料研究機構、産業技術総合研究所、国立がん研究センター東病院及び東京理科大学等に対して、説明会開催又は施設内周知の要請を行い、公募した。
- ・医師主導治験2件について、症例登録を完了し、フォローアップを行った。その他進行中の治験について、新型コロナウイルス感染症の影響による遅延を補うための施設追加等の対応を実施した。
- ・令和2年4月から県内唯一の「高度救命・救急センター」の稼働が始まり、救急医療に係る拠点機能をより一層強化していくこととしている。また、同年4月から同県により新型コロナウイルス感染症重点医療機関（最大確保病床23床）として指定され、同感染症重症・中等症患者の診療に取り組んでいる。

7-3. 継続的・安定的な病院運営

- ・つくばスポーツ医学・健康科学センターにおける人員の配置、機器・環境の整備のほか、感染拡大の予防等に重点を置きつつ、利便性の向上及びサービスの拡充を図った。人員配置の見直しとして、理学療法士によるアスレティックリハビリテーション及び保険診療実施を拡大している。
- ・医療機器研究開発人材育成プログラム「バイオデザイン」体験ワークショップについては、デザイン思考やビデオ収録した臨床現場実習教材を取り入れ、オンラインにて実施した。
- ・次世代医療機器連携拠点事業では、筑波大学が主導して、国立がん研究センター東病院及び東京女子医大との合同公開シンポジウムをオンラインで開催した。また、オンライン対応臨床現場体験ワークショップを試行するとともに、企業の要望に対応したワークショップを3回開催した。臨床ニーズ調査の結果を企業へ提供し、5社との産学連携活動を開始した。
- ・平成30年度から、健全経営を軌道に乗せるステージから“真の機能強化”を目指すステージへシフトし、これまでと同様、経営改善努力（利益を生み出す努力）は継続しつつ、生み出す利益分を活用した投資により機能を強化し、“マグネットホスピタル”の実現を目指している。令和2年度は、高度救命救急センターの稼働、先端的医療機器の更新、B棟再開発整備など必要不可欠な投資を行いつつ、これまでの投資効果を最大限発揮し、現金ベースでの黒字化を図るため、以下の重点事項に取り組んだ。
 - ・情報共有の徹底、病床稼働率の向上、手術人数の増加、入院診療単価の上昇、陽子線治療患者数の増加

8. 附属学校教育の充実

8-1. 教育課題の解決に向けた研究の推進

○ グローバル人材育成システムの構築

- ・ワールド・ワイド・ラーニング（WWL）事業2年目を迎えた今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による一斉休業後にオンライン等を活用した活動を再開した。附属坂戸高等学校では、国内在住の外国人との新規交流プログラムを開発し、コロナ禍での国際交流のあり方を発信した。また、附属学校教育局は幹事校管理機関として、本学の地球規模課題学位プログラム等との連携でオンラインによる全国高校生フォーラム分科会を開催し、日本のグローバル人材育成に大いに貢献した。
- ・附属坂戸高等学校における国際バカロレア・ディプロマプログラム（DP）コースでは6名が最終試験を受験し5名がディプロマを取得し、そのうち2名が海外の名門大学に進学した。

○ インクルーシブ教育モデル開発

- ・本年度より本格実施となった新教職必修科目「総合的な学習の時間の指導法Ⅰ・Ⅱ」については、附属学校教育局教員3名と附属学校教員10名が20コマ中の17コマをオンデマンド形式で実施した。同時に、新型コロナウイルス感染拡大の中、教職希望の本学学生全員に対して「教育実習」を実施することができた。また、当初は対面型で計画していた「教員免許状更新講習」と受講者対象のシンポジウムをオンライン型で実施し、障害者に対する情報保障も行った。
- ・海外への派遣及び海外からの受入れはすべて中止とし、高校生国際ESDシンポジウムに焦点を当てたオンライン国際交流を実施した。例年のSDGs17目標に世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大下での活動をテーマに加え、海外からの参加国及び学校数も増加した。また、教育開発国際協力研究センターの協力を得て、東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）の高校ネットワークに加盟し、国際交流の範囲拡大を図った。
- ・附属学校群全体の将来計画については、附属学校教育局将来構想検討委員会、附属坂戸高校将来計画タスクフォースを開催して検討を進めた。計画の一部となる附属坂戸高校の筑波地区移転について、つくば市及び坂戸市の公立中学校関係者との意見交換の場を設けた。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大のため、宿泊行事である三浦海岸共同生活は中止とし、全附属学校で共生社会実現に向けた動画等を作成し、オンラインでプレゼンテーションリレーを実施した。
- ・「筑波型インクルーシブ教育システムを目指したプログラム」による教材教具・指導法のデータベースを管理運営する特別支援教育連携推進グループが、令和2年度文部科学大臣優秀教員表彰を組織として受賞した。昨年度に引き続き、附属特別支援学校5校により開発されたデータベースのコンテンツを「授業を豊かにする筑波大附属特別支援学校の教材知恵袋＜自立活動編＞」として書籍化した。また、データベースのコンテンツの元となる各附属特別支援学校の実践成果を3月のセミナーで広く発信した。
- ・本年度7回目となる「共生社会を目指すシンポジウムの集い」は、本学障害附属学校卒業生の音楽家による講演と演奏を中心に、オンラインによる交流を実施した。オンラインの効果で多くの保護者が参加し、新たな形態での障害者の理解啓発や共生社会の意義を深める一助となった。

8-2. 大学及び附属学校間の連携強化

- ・本学体育系と連携し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業への協力や国際ピエールド・クーベルタン・ユースフォーラムなどの事業を通じて、附属学校の生徒のグローバル素養育成に関しては成果を上げた。特に、高校生を対象としたオリンピック・ユースフォーラムでは、12月に国内での「クーベルタン・嘉納・ユースフォーラム」をオンラインで実施し、2022年度の実施が決定した「国際ピエールド・クーベルタン・ユースフォーラム」キプロス大会の準備に入った。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックの延期により、開催年度として予定していた教育推進の事業の取り組みに制約を受けたが、オンライン会議での普通附属学校と特別支援学校とのインクルーシブ的交流やアスリートの講演会などを実施することで、オリンピック・パラリンピックに対する興味や関心を高める実践を新たに蓄積することができた。また、オンライン会議の活用が、遠隔での競技の体験や対戦などのオリンピック・パラリンピック教育の新たな展開の可能性を生み出し、実践の成果として、開発した教材や指導法についてデータベースを通じて発信することができた。
- ・大学と附属学校の連携による研究に関しては、大学の教員・学類生・大学院生・留学生、理療科教員養成施設学生の研究は附属学校群をフィールドとして実施し、研究成果は文書で各学校に還元している。また、大学と附属学校が連携した研究も、附属学校教育局指導教員と全附属学校教員が参加する、4種のプロジェクト研究をはじめ、個々の学校と大学教員との連携研究が複数の専攻及び他大学との間でも行われている。また、他大学と連携した研究活動も複数校で行われている。大学と附属学校の連携による令和2年度の教育活動は次のとおりである。附属学校教員による大学での授業は、附属学校4校の教員により、学校における教育研究活動の成果を踏まえて行われた。

- ・令和2年度における教育実習では、附属学校10校で介護等体験も含め200名以上の学生が参加した。
- ・本学教職科目「総合的学習の時間の指導法Ⅰ・Ⅱ」について、附属学校教員10名（附属学校8校）が講師として参加してオンデマンド型授業で実施した。

8-3. 地域との連携、社会貢献活動の推進

(P20～「6. 社会との連携・地域貢献の推進／知的成果の幅広い社会還元」に記載)

8-4. 附属学校の体制・機能の見直し

- ・諸会議の見直しを行い、企画調整会議、教育長・校長連絡会を廃止し、附属学校教育局マネジメント会議を規定するなど、所要の改正を行うことで、意思決定への過程が明確となり円滑に会議を運営することができた。
- ・令和2年度は、附属学校将来構想検討委員会において学校群の将来構想を検討し、各校の将来構想について聞き取りを行い、各校での将来構想について関わる議論を行った。また、附属学校教育局内でも将来計画を策定するとともに、附属坂戸高校の将来計画の具体化のためにタスクフォースを組織して議論を重ねた。

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する特記事項

◇ 年度計画を上回って実施したと考える取組の注目すべき点・成果等

- 年俸制や混合給与を活用した人事給与制度に関する取組【計画-53 関連】
 - ・令和2年度末時点で年俸制教員の割合は34.7%に増加しており、第3期中期計画におけるKPI(30%)を既に上回って達成している。また、年俸制教員業績評価対象者275名に対して業績評価を行い、その結果を年俸額に反映した。さらに、今年度より導入した「基幹年俸制」を、令和2年4月以降に新規採用となった全ての教員に適用している。
 - ・混合給与は、平成27年度以降、研究開発法人や民間企業等との間で延べ80名に適用してきた。なお、令和2年度末の混合給与適用者数は53名(クロスアポイントメントシステム37名、ハイブリッドサラリーシステム16名)となり、平成27年度末における適用者9名の約6倍に達しており、第3期中期計画におけるKPI(平成27年度末時点における適用者9名の倍増)を大幅に達成している。
- ダイバーシティの実現に関する取組【計画-55 関連】
 - ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら、LGBT等に関する相談窓口を継続して実施するとともに、一層の意識啓発を目的として、「SOGI/LGBT+に関する基礎知識と筑波大学の取組」と題したオンライン(オンデマンド方式)の全学FD研修を2回(1回目は8月3日~31日、2回目は3月17日~31日)実施した。そのほか学群総合科目「ダイバーシティ&インクルージョン入門」、学群自由科目「ダイバーシティとジェンダー/セクシュアリティ」、大学院共通科目「ダイバーシティとSOGI/LGBT+」にてLGBT等に関する講義を実施し、LGBTの大学構成員のための支援体制を含むダイバーシティの環境整備・意識啓発を図った。
 - ・「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」の作成公表等のこれまでの本学における取組に加え、今年度新たに、パートナーがいる教職員(地方自治体等によるパートナーとして証明する書類が発行された教職員)の福利厚生として、休暇、休業、諸手当及び旅費の対応を行ったことが評価され、work with Prideが策定した「PRIDE指標2020」において、最高評価の「GOLD」を受賞した。
 - ・セクシュアルマイノリティに関して、意識啓発を目的とした「OUT IN JAPAN @筑波大学」(日本のLGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティにスポットライトを当てた写真展)等の取組を実施し、学生・教職員の参加を促すと共に、ダイバーシティ&インクルージョンに対する意識醸成を図った。

◇ ガバナンスの強化に関する取組について

- 学長のリーダーシップの確立
筑波大学は、学長を助け、及び学長の命を受け、校務をつかさどる「副学長」制を開学当初からいち早く取り入れ、令和2年度は10人の副学長を置いた。
また、本学独自の制度として、学長を助け、及び学長の命を受けて特定の業務を統括する「大学執行役員」を置き、教員組織の長その他の者をもって充てている。後者の特定業務を総括する大学執行役員について、令和2年度は産学連携戦略、筑波会議、国際戦略を各々担当する3人の大学執行役員を置いた。
- 学長の選考・業績評価
学長選考会議により、監事との連携協力の下で、年に一度、学長の業績評価を実施し、評価結果を学内外に公表している。
令和2年度は、昨年度に整備した新たな学長選考方法等に則り、複数回の学長選考会議を開催し、書面審議、プレゼンテーション及び質疑応答により、学長の選考を行った。
- 監事の役割の強化
法人法等の改正による監事の監査機能の強化を受けて、本学では、平成27年度から監事による重要文書の調査及び監事への重要事項の報告に関する制度を運用している。
例えば重要文書の場合には、法定会議への付議に先立ち、監事が担当組織から対面により事案の説明を受けた上で、内容の相当性や意思決定プロセスの適法性などを調査し、必要に応じて助言・提言を行っており、制度の実効性が保たれた運用とすることで、監事の日常的な監査機能の実質的な強化に繋げている。
- 経営能力のある教職員の育成
長期的な視点等から、大学運営のための調査・企画・立案等を行う体制として、平成28年度から大学戦略室を設置し、平成30年度から企業経営者を加えた教職協働型の大学経営改革室に改組した。令和2年度においては、第4期からの指定国立大学法人構想に掲げる大学経営推進局(仮称)の設置に係る検討を行った。また、第4期を含め

た中長期的なビジョンについて、教職員との意見交換を行いながら策定作業を進めた。

◇ 中期計画で設定した数値や指標等の現状値

【中期計画-53 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
若手教員	25%	21.4%	20.6%	20.1%	21.0%	20.5%
女性教員	20%	18.2%	18.2%	18.5%	19.1%	19.3%
外国人 教員	10%	7.0%	6.9%	6.7%	7.4%	7.4%
年俸制適 用教員	30%	28%	30.3%	32.3%	34%	34.7%
混合給与 適用教員	平成27年 度比倍増 (18名)	18名	26名	47名	65名	53名
(うちク ロスアポ イントメ ント)	16名	16名	19名	33名	41名	37名
(うちハ イブリッ ドサラー ー)	2名	2名	7名	14名	24名	16名

【中期計画-55 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
女性管理 職比率	20%程度	14.7%	12.5%	13.8%	19.1%	20.4%

(2) 財務内容の改善に関する特記事項

◇ 年度計画を上回って実施したと考える取組の注目すべき点・成果等

○ 附属病院の安定的な経営に関する取組【計画-63 関連】

- ・既存B棟改修に係る移転先となる仮設建物の整備工事は4月に着工し、3月末に竣工した（令和3年4月使用開始予定）。既存B棟内における移転については、9月に一部機能移転を実施し、10月から改修準備工事を開始するとともに、3月に1病棟の移転を実施した（残り2病棟は令和3年4月に移転予定）。
- ・病院長は、前年度3月中に診療科長と面談して重点施策の情報共有を図るとともに、月次単位で年間の収支状況及び診療科別の診療指標を可視化している。これらの取組により、コロナ禍においても陽子線患者数の大幅増加や医薬品購入価格等の大幅引下げ等の自助努力が功を奏して、国及び県等の財政支援も活用して年間収支の黒字を確保した。
- ・策定済の中長期財務計画を、令和元年度決算や令和2年度決算見込を反映して改定するとともに、病棟B改修等財投借入計画も将来的に発生するコストを見込んで実態より高めの金利設定でシミュレーションを行った。なお、当該中長期財務計画は毎年度複数回見直しを行うこととしている。

○ 財政維持を勘案した戦略的な教職員配置の取組【計画-64 関連】

- ・学長のリーダーシップの下、各部局に承継教員人事ポイントを競争的に配分する制度である「全学戦略ポイント（優秀な若手の任期付教員の承継化、卓越研究員の採用等）」及び「戦略的分野拡充ポイント（新たな研究分野開拓等のための教員配置等）」により、戦略的な配分を推進した。特に、令和2年度においては、全学戦略ポイント25枠相当の配分に加え、戦略的分野拡充ポイントの取組の一つである「教員抜擢昇任人事制度（一定期間内に極めて顕著な業績を残した教員に対して教授の昇任人事）」3枠相当の配分を中心に5枠相当の配分を決定した。また、令和2年度から、人件費の単純な増加を回避しつつ、戦略的な教員配置を継続するため「循環型戦略管理ポイント（最長2年間の期間に限定して配分されたポイントで部局は若手教員を採用し、配分期間終了後は部局が引き続きポイントを負担）」を開始した（23枠相当を配分決定）。
- ・大学がより一層教育・研究の強化、国際化等を進める中において、人件費の単純な増加を回避しつつ業務の多様化・高度化等に対応するために、従来の「事務系戦略枠」を見直し、最長3年間の期間に限定して任期付職員を配置する「循環型戦略職員支援制度」を開始した（4枠を配置決定）。

○ 会計業務の一元集中化による合理化の実現【計画-65 関連】

- ・これまでに実施した契約業務等の一元集中化による業務の効率化及び経費削減効果の検証を踏まえ、旅費・謝金業務について従来の一係体制から二係体制に分業化し、業務分担の整理及び最適な組織体制の整備を行ったことにより、業務のさらなる効率化を図った。
- ・一元集中化については、当初計画していた対象部局（10支援室等）に加え、各センターの契約業務等についても第3期中期目標期間中の一元集中化を目指すこととしていたが、令和2年度に一年前倒しでアイソトープ環境動態研究センター、計算科学研究センター、研究基盤総合センター及び生存ダイナミクス研究センターの一元集中化を実現した。これにより、さらなる会計業務の適正性が確保された。また、一元集中化に加え、10月より不正防止の観点から、契約業務担当部署以外の他課による契約書類の事前監査を開始し、さらなる内部牽制体制の強化を図った。

○ 事業の存廃に係る意思決定の明確化【計画-65 関連】

- ・事業評価システムを活用して開始した研究センターについて、3年目を迎えるにあたり、本システムにより掲げたインプット・アウトプットの経年の状況を検証した。この検証に当たっては、研究循環システムによる研究センターの中間評価と併せて行うことで、評価作業の効率化などを考慮して実施することができた。

○ 土地・施設の有効活用【計画-66 関連】

- ・資産価値の高いエリアに位置する東京地区の職員宿舎（常盤台職員宿舎）について、「職員宿舎再開発整備に関する委員会」において、3月に今後の整備に関する基本方針を取りまとめた。その際、抽象的な在り方論にとどまらず、職員宿舎の再整備と、余剰地の有効活用による安定的な収入の確保の両立が可能であることを、事業者ヒアリングや入居者アンケートによる具体的根拠（家賃水準の考え方、ニーズの見込める戸数、大学にもたらされる収益見込み等）を基に示したことから、事業化に向け具体的な検討段階へと大幅に前進させることができた。
- ・並木地区職員宿舎敷地については、令和2年度より段階的に譲渡することを決定していたが、令和2年度の譲渡敷地は令和2年12月18日に譲渡が完了し譲渡益の半分を大学から（独）大学改革支援・学位授与機構に納めた上でもなお、約4億円もの収入を本学にもたらした。
- ・吾妻2丁目敷地の活用については、定期借地権による賃貸借について外部企業等と協議を行った。また、アリーナ

構想から企業と共同研究を行う施設への転換に関する委員会の設置に向けた検討を実施し、令和3年度に設置予定である。資金については、大学債発行による調達も含め、広く可能性を検討する。

- ・独身・単身用職員宿舎の再開発整備計画について、民間事業者等との対話によるサウンディング型市場調査結果を踏まえ、事業の収益性や実現性について検討した。

○ 多様な財源を活用した整備手法による整備【計画-67 関連】

- ・時々の研究ニーズ等に機動的にスペースを配分するための公募スペース制度について、利用期間5年を超える際の点検・評価を厳格化した。これにより、利用目的が申請時から異なるなど問題を抱え、改善が見られない利用者に対して、初めて退去を要請するなど、従来の運用から大幅な改善・適正化を図った。
- ・本学における施設整備に係る中長期的な基本方針としてのキャンパスマスタープランについて、従前の計画から10年ぶりに、「キャンパスマスタープラン2021」を改訂した。その際、従前計画では、主として、技術的観点から今後整備・改修すべき施設を列挙することに主眼が置かれていたが、今回の改定では、指定国立大学法人構想等のソフト面の施策を実現するため、施設面としてどのような機能強化が必要となるかという観点に初めて立脚するとともに、施設マネジメントや財源確保等の推進方策も新たに盛り込むなど、内容的に大幅な見直し・充実を図った。また、インフラ長寿命化個別施設計画（令和2年3月策定）については、令和2年度概算要求において、当該計画の候補事業から3事業が予算化され、教育研究施設の耐震・機能改善を着実に実施した。
- ・民間資金の活用による施設整備事業として、春日地区宿泊等複合施設整備事業が令和2年8月31日に完成・引渡がされ、9月1日より運用を開始した。また、春日地区宿泊等複合施設整備事業による運用として、モニタリングを毎月1回実施した。

◇ 財務基盤の強化に関する取組について

○ 第3期中期目標期間における経営力強化方策

「国立大学経営力戦略」（平成27年6月：文部科学省）等を踏まえ、大学の自主財源を多様化し財務基盤の強化を図るため、「外部資金獲得戦略」、「収益的事業の展開」及び「人事戦略」の3つの柱からなる収支構造改革を目的とした「第3期中期目標期間における経営力強化方策（平成29年3月23日役員会決定）」を策定し、実現に向け取り組んでいる。これにより、令和2年度の自己収入・外部資金比率は45.0%となり、平成28年度と比べ4.4%上昇し運営費交付金のみに頼らない財源の多様化を推進した。なお、令和2年度は各戦略において、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、「学生のための緊急支援金」など必要な支援を着実にいった。

(1) 外部資金獲得戦略

科学研究費補助金の獲得増加に向けて研究基盤支援プログラムに「科研費獲得支援」を新設し、科研費のステップアップによる獲得拡大を図ったことにより、基盤研究（A）について前年度の7件を上回る13件を獲得した。大型競争的資金については、CREST（1件）、さきがけ（3件）、未来社会創造事業（1件）、ムーンショット型研究開発事業（3件）、共創の場（1件）等を獲得した。

また、筑波研究学園都市の国立研究機関と共同研究を推進する「つくば産学連携強化事業」について、茨城県知事の賛同を得て同県から1,000万円の支援を受け、令和2年度は25件を採択した。本事業は令和元年度までに、共同研究10件、ベンチャー設立2件、国の事業獲得5件、製品化1件と多様な成果を上げている。

国際産学連携を強化するための取組として、令和元年度にボストンとシリコンバレーに国際産学連携拠点を設置した。令和2年度はコロナ渦の中、オンラインによる国際ユニコーン育成プログラムの実施やボストンに本社を有するコンサル会社に現地企業や金融機関との連携に向けた調査を委託し、今後の渡米活動の基盤整備を進めた。

これらの取組により、外部資金総額として、前年度実績（12,939百万円）に対し13,678百万円を獲得した。

(2) 収益的事業の展開

本学が国立大学で初めて組織的に導入したクラウドファンディングについて、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に困窮する学生に対し、「筑波大学全学生へエールを。」と題したプロジェクトを立ち上げ、学生経済支援パッケージを新設した。これにより、本学教職員からの寄附に加え、クラウドファンディングにより34百万円を獲得し、学生に対する経済的支援等を行った。

エクステンションプログラムについては、企業・学校・需要調整機関（ハローワーク等）などの多様なキャリア支援領域における、指導者レベルの人材養成・強化を目的として、「キャリア・プロフェッショナル養成講座」等11講座（14プログラム）を開設し、29百万円を獲得した。

基金事業については、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い「学生のための緊急支援金」の募集を行い（5月～6月）、寄附額138百万円（寄附者数延べ4,107人）を獲得した。

また、学生への支援事業として、地元企業を中心に協力（86社、23百万円相当）を得て、実家からの仕送りやアルバイトの激減等により困窮する学生へ食料支援を行った。

これらの取組により、収益事業の展開では前年度実績（1,998百万円）に対し、2,714百万円（見込）を獲得した。

（3）人事戦略の取組状況

「戦略的分野拡充ポイント」及び「全学戦略ポイント」の活用に加え、令和2年度から人件費の単純な増加を伴わずに若手教員の採用促進や研究力強化を図るため、配分期間を最長2年間に限定した「循環型戦略管理ポイント」を整備し、これらにより53枠相当の配分を決定した。また、事務系職員の戦略的配置のため、令和2年度から最長3年間に限定して任期付職員を配置する「循環型戦略職員支援制度」を整備し、4枠の配置を決定した。

このほか、教員ポイントの見直しや事務系職員の採用抑制等により、令和2年度は承継教職員人件費を前年比▲319百万円に抑制した。（平成28年度からの抑制累計額は▲2,291百万円）

○ 余裕金の運用

平成31年1月より、元本償還通貨特約型預金の運用を開始し、運用益の増額を図ってきたが、3年目となる令和2年度は、これまでの運用実績及び安全性を検証し、元本償還通貨特約型預金の運用割合を10%から15%に増やす基本ポートフォリオの見直しを行った。併せて、保有債券の一部を入れ替え、利回りの高い社債の保有割合を増やす運用を行った。この結果、昨年度に比べ1百万円の運用益の増額が図られたほか、5百万円の債券売却益を獲得した。

◇ 中期計画で設定した数値や指標等の現状値

【中期計画-60 関連】

KPI	目標値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H31 実績値	R2 実績値
共同研究 件数	平成24年度比 平成29年度に 50%増 (約466件) 令和4年度に倍増 (622件)	約52%増 (472件)	約66%増 (516件)	約74%増 (542件)	約66%増 (515件)	約71%増 (532件)

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する特記事項

◇ 年度計画を上回って実施したと考える取組の注目すべき点・成果等

○ 定量的評価指標を用いた組織評価の実施【計画-68 関連】

- ・教育研究組織評価に用いる定量的評価指標について、教育の質保証のための教学マネジメントとして、令和2年度から実施したモニタリングで用いた指標を踏まえ、効率的な評価を行いつつ、本学のパフォーマンス向上に効果的な指標を設定するための検討を行った。
- ・大学教員業績評価については、策定したエフォート管理に係るガイドラインに基づき、各組織において、各教員のエフォート分布を可視化するためのシステム改修を行った。この改修により、各組織における標準的なエフォートが確認できることとなり、負荷の多い教員への助言が行える体制を整備することができた。
- ・ステークホルダーへの情報発信のため、昨年度に引き続き統合報告書を作成した。令和2年度においては、セグメント別の決算情報及び実績を新たに記載し、本学の教育研究活動がより理解を得られるよう工夫して作成するとともに、オンラインを活用した各ステークホルダーとの対話を実施したことで、次年度の統合報告書に向けての意見等を集約することができた。
- ・定量的評価指標に基づく組織評価を着実に実施しつつ、これまで実施してきた組織評価の仕組みの改善を図るための検討を行った。具体的には、組織評価における対話での議論を、各組織における次年度の活動計画の策定に速やかに反映できるように対話の時期を変更し、PDCA サイクルの更なる改善を行った。また、この対話時期の変更に併せて、書面評価を導入するとともに、評価結果に基づく各組織の改善方策について、目標値やタイムスケジュールを定めることとし、第4期における指定国立大学法人構想として掲げた各種指標の達成に向けて、各組織が海外ベンチマーク大学を見据えて教育研究力の向上に資する評価制度への改善を行った。

○ 統合報告書による情報発信【計画-68 関連】

- ・本学においては、令和元年度にミッション達成に向けた取組や活動実績などの非財務情報と財務情報を組み合わせた「統合報告書」を初めて発行し、令和2年度は「セグメント別にみる教育研究等の成果・実績及び財務状況」の章を設け、教員組織のある各系及び関連する教育研究組織（学群・学類、研究科・専攻）ごとに費用・収益を掲載した。併せて、セグメントごとに教育研究の成果・実績等とそれを支える財源及び活動に要した経費を掲載し、コストの見える化を進めた。

○ 地域への公開事業の拡大【計画-69 関連】

- ・令和4年度以降の電子ジャーナル等整備方針について、タスクフォースを設置し、整備方針案について検討を行った。タスクフォースで作成した整備方針案について、運営会議を経て教育研究評議会において審議の上、決定した。これにより令和4年度から令和6年度の方針と整備対象資料が確定し、電子ジャーナル等の継続的・安定的提供を可能とした。
- ・コロナ禍の状況で計画を柔軟に見直し、テーマを新たに策定して、12月から2月まで「令和2年度筑波大学附属図書館企画展 もう一度見たい名品～蔵出し一挙公開～」の電子展示を開催し、地域公開を行った。なお期間中のWebサイトへのアクセス件数は約4,850件となっており、例年の現物展示のWebサイトへのアクセス数と比較すると、Webサイト訪問者は約1.4倍になっている。

◇ 中期計画で設定した数値や指標等の現状値

【中期計画-71 関連】

KPI	目標値	実績
公文書館（アーカイブズ）を設置	平成30年度までに設置	平成29年4月に公文書管理法に定める「国立公文書館等」として指定

(4) その他業務運営に関する特記事項

◇ 法令遵守（コンプライアンス）に関する取組について

<情報セキュリティ対策>

情報セキュリティに関しては、情報セキュリティに係るリスクマネジメントの有効性、情報セキュリティ対策の適切性を検証し、情報セキュリティの改善につながる助言を行うことを目的として、監査室及び情報セキュリティリスク管理室の共同により情報セキュリティ監査を実施している。

令和2年度は、次の監査項目及び視点等により監査を行った。

- ①情報セキュリティに対する組織的な取組状況：部局情報環境委員会が有効に機能しているか等。
- ②外部委託時のセキュリティ対策の調達仕様等への反映状況：外部委託先が満たすべきセキュリティ要件が、契約関連書類で規定されているか。
- ③格付けに基づく情報の取扱実施状況：法人文書の情報の格付け及び取扱制限の指定に準拠した要機密情報の取扱いがなされているか等。
- ④安全区域外でのモバイル端末取扱状況：安全区域外でのモバイル端末利用時の管理の周知状況の確認。
- ⑤情報セキュリティインシデント対応体制・状況：部局における情報セキュリティインシデント対応が有効になされる体制となっているか等。

上記について、5つの部局情報環境委員会に対してヒアリング及び書面による監査を実施し、問題点の有無等について確認するとともに、情報セキュリティの改善若しくは高度化に繋がる助言・提言を行った。

「大学等におけるサイバーセキュリティ対策等の強化について」（令和元年5月24日文科高第59号）を踏まえ策定した「サイバーセキュリティ対策等基本計画」に基づき令和2年度に取り組んだ内容は次のとおり（[]内の数字は上記通知の該当する項目番号）

①未然防止に向けた取組

- ・学生、教職員のeラーニング及びセミナーによる情報セキュリティ教育を実施 [2.1.1(2)]
- ・学内への適宜の注意喚起を実施 (Adobe Flash Player のサポート終了、不審メールへの注意、脆弱性情報など) [2.1.1(2)]
- ・全教職員を対象とした標的型攻撃メール訓練を実施 [2.1.1(2)]
- ・5部局情報環境委員会を対象として情報セキュリティ監査を実施 [2.1.1(3)]
- ・情報の盗難・漏えい防止のための総合的な情報セキュリティ対策（情報の格付けに基づく取扱い、UTOS）の運用状況を確認・評価 [2.1.4(1)]
- ・他機関（学術系CSIRT情報交流会、つくば情報共有会）との情報共有会へ参加 [2.1.1(4)]

②被害最小化や被害拡大防止のための取組

- ・キャンパスネットワークにおけるセキュリティ対策として国立情報学研究所と協力しながら学内から学外への監視を実施 [2.1.1(5)、2.1.4(2)]
- ・キャンパスネットワーク上の全グローバルIPアドレスに対する脆弱性診断を定期実施 [2.1.1(5)]
- ・サブネットワーク管理者、部局ISIRT構成員を対象としたセキュリティ技術セミナーを実施 [2.1.1(1)、2.1.2(2)]
- ・筑波大学ISIRTメンバーの文科省CSIRT要員研修、NII-SOCS研修受講によるインシデント対応力向上を目指す [2.1.1(1)、2.1.2(2)]
- ・筑波大学ISIRTメンバーによる会議・議論を定期的に行う [2.1.1(1)]
- ・次期キャンパスネットワークのSOC運用に関する検討と試験を実施 [2.1.1(5)、2.1.4(2)]

<研究費不正使用の防止>

- ・本学の教育研究費の執行に関わる全教職員及び学生に対し、本学のe-Learningシステムmanaba等を用いてコンプライアンス教育を実施した。また、ルールを分かりやすく周知するために、全教職員向けに「会計ルールハンドブック」、リーフレット「やってはいけない会計ルール」及び「財務会計業務マニュアル」を作成し、各種研修等で周知するとともに、学内専用webサイトに公開し、いつでも確認できる環境を整備した。

<研究活動における不正行為の防止に向けた啓発>

- ・研究推進会議において、所属ごとの研究倫理eラーニングの受講率の情報を共有するとともに、各所属に対して常勤研究者の未受講者リスト及び有効期限が到来する者のリストを送付し受講を促し、受講率100%を達成・維持している。

<全学的なコンプライアンス意識の向上>

- ・教職員研修においては、近年、学内外で多く見られる違反事例や当該研修の対象者に応じた違反事例を掲載するなど、最新かつ職種や職位に適した資料となるよう工夫することを通じて、コンプライアンス意識の一層の向上を図った。
- ・全学にコンプライアンス意識を浸透させるため、各々の教職員がコンプライアンスを自分自身の問題としてとらえることができるよう、身近かつ具体的な違反事例に基づいた設問形式のeラーニング教材を作成の上、実施した。また、eラーニングがより効果的なものとなるよう、当該設問に係る解説やポイントを記載したり、設問に先立ち基礎知識を身に付けさせるための事前学習を設けるなど、その実施方法についても工夫した。
- ・コンプライアンス意識の一層の向上に資するため、コンプライアンスマニュアルで紹介しているコンプライアンス違反事例について、今年度、学内において発生した最新の事例やこれまで掲載のなかった事例を追記するなど内容をより充実させたとともに、これを学内に周知するなどコンプライアンスに係る啓発活動を積極的に実施した。

◇ 施設マネジメントに関する取組について

- (1) 施設の有効利用や維持管理（予防保全を含む）に関する事項
 - ・スペースの有効活用を図るため、教育・研究スペースとして利用している公募スペースについて、利用期間5年を超える際の点検・評価を厳格化し、改善が見られない利用者に対しては返還を求めることにより、新たな需要に対応するためのスペースを確保した。
 - ・資産価値の高いエリアに位置する東京地区の職員宿舎（常盤台職員宿舎）について、「職員宿舎再開発整備に関する委員会」において、職員宿舎の機能を維持しつつ、余剰の建坪率、容積率を民間事業者へ貸し付けて有効活用し安定的な収入の確保を図ることを目指し、事業者ヒアリングや入居者アンケートも実施したうえで、職員宿舎機能を維持する必要性、事業の可能性、新たな職員宿舎の概要（戸数・タイプ・面積、賃料の考え方）等について、3月に報告書を取りまとめた。
- (2) キャンパスマスタープラン等に基づく施設整備に関する事項
 - ・本学における施設整備に係る中長期的な基本方針としてのキャンパスマスタープランについて、指定国立大学法人の指定や新型コロナウイルス感染症など本学を取り巻く状況の変化等を踏まえ、本プランの位置づけ、計画期間の明確化及び本学が目指すべきキャンパスの将来像を示し、必要な施設の機能強化や整備手法等を明示するなど、現行計画から10年ぶりに内容面の大幅な見直しを行い、「キャンパスマスタープラン2021」を決定した。
 - ・「インフラ長寿命化計画」に基づき、1B棟等の耐震改修含む機能改善（省エネ対策も含む）及び受変電設備（高圧設備更新は全て完了）、電話交換機設備のライフライン更新を行い、当該計画を着実に実施した。
- (3) 多様な財源を活用した整備手法による整備に関する事項
 - ・春日地区宿泊等複合施設整備事業は、学内の老朽化が激しい3箇所の宿泊等施設の集約化を図り、本学における教育研究に従事する国内外の研究者等の利便性向上を図るための宿泊施設等（短期宿泊施設22室、長期宿泊施設28室、レストラン）の施設整備・維持管理・運営を行う事業である。本事業のスキームは民間事業者が資金調達し施設整備等を行い、本学が事業委託費を支払うものであり、令和元年7月に大和ハウス工業株式会社つくば支社と事業契約（事業期間35年）を締結後、同年9月より事業着手し、令和2年8月に完成し、9月より運用を開始した。
- (4) 環境保全対策や積極的なエネルギーマネジメントの推進に関する事項
 - ・人間系学系B棟、自然系学系D棟、1B棟、1C棟（令和2年度完成）の耐震改修工事において、複層ガラス、LED照明器具、高効率空調機等の導入、老朽化した空調機の高効率空調機（41台）への更新とともに、当該建物屋上に目標（10KW）を上回る35.5KWの太陽光発電設備を設置することにより、温室効果ガス排出量を削減した。

◇ 新型コロナウイルス感染症への対応について

（取組の実施状況や成果に関連して、報告書全体を通して記載）

<教育研究活動>

- ・5～6月にかけて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、仕送り、アルバイト等の減少により困窮する学生のため、「新型コロナウイルス流行に伴う学生のための緊急支援金」として学内教職員を中心に約1億4千万円、また、平行してクラウドファンディングやオンラインイベントを実施し、卒業生を中心に約2千8百万円、合計で約1億7千万円が集まり、約9,900人の学生に支援することができた。加えて、1月と2月には「学生のための食

料支援事業」を企画し、地元企業や卒業生に呼びかけ、総量 30 トンの物資が届けられ約 4,700 人の学生に食料を配付した。

- ・令和 2 年 1 月に「新型コロナウイルス感染症リスク対応チーム」を設置し、学内に情報の共有を図りながら対応の具体的な指針を示し、感染拡大を防止しつつ教育・研究活動を継続するための対策を講じている。また、国・茨城県等の政策に応じた本学の対応方針を決定し、感染拡大防止に取り組んでいる。
主な取組状況（ガイドライン等の策定）については、次のとおり。
 - ・ 4 月 1 日：新型コロナウイルス感染症対策に係る対応のガイドライン
 - ・ 4 月 17 日：新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動形態
 - ・ 9 月 18 日：新型コロナウイルス感染が疑われる場合の対応マニュアル及び本人の行動フロー
 - ・ 10 月 16 日：新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応指針
- ・新型コロナウイルス感染症の状況に迅速かつ機動的に対応するため、支出予算の一定割合の留保等により財源を捻出し、新型コロナウイルス感染症等経費（予算額：525 百万円）を計上した。内訳については、次のとおり。
 - ・ オンライン授業や在宅勤務に伴う情報環境整備
 - ・ 大学院生への経済支援
 - ・ 感染防止対策の強化等
- ・ 目的積立金（予算額：400 百万円）を活用し、学生への緊急支援や空調・換気設備の整備、ネットワーク環境整備等を実施した。
- ・ 教育研究活動再開に向けて、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、換気設備の充実（145 カ所設置）やトイレ改修（8 棟）などの施設整備を実施した。
- ・ 入試における新型コロナウイルス感染症の拡大防止に対応するため、学群及び大学院の教育組織長等で構成する「入試検討タスクフォース」を設置し、大学院入試等の日程変更、感染防止対策、オンライン実施に係る判断基準や実施方法、追試験の実施などについて具体的な検討を継続して行った。また、入試検討タスクフォースの下に「オンライン入試検討ワーキンググループ」を立ち上げ、オンライン会議システム等を利用した入試の実施方法・留意事項等に関するガイドラインを作成した。
- ・ 本学試験場での試験の実施に当たっては、受験者全員に受験日当日を含めた 14 日間の「健康観察記録表」の提出を求めた。試験会場については、文部科学省のガイドライン及び大学入試センターの通知等に基づき、マスクの正しい着用の義務化や試験場入口・試験室ごとの消毒液の設置、定期的な試験室の換気、受験者が密にならないための注意喚起、体調不良者が出た場合の救護室の設置、実技試験実施上の配慮、試験前後の試験室の消毒など、感染防止対策を行った。
- ・ 新型コロナウイルス感染症等による体調不良や入国制限により受験できなかった者に対しては、受験機会確保の観点から、別日でのオンライン等による追試験を実施した。
- ・ 感染拡大防止の観点から、春学期はオンライン授業を実施し、秋学期は十分な感染対策を講じながら一部の科目で対面授業を再開させた。オンライン授業実施にあたっては、教員向けにオンライン授業の実施指針や留意点を示しオンライン授業の質の改善に努めた。
- ・ 感染拡大の状況を見据えつつ、対面の方が教育効果の高い授業については教室が確保できれば対面で実施するとともに、ブレンド型学修（オンラインによる反転学修や対面授業とオンラインの組合せなど）の奨励等、オンラインによる教育も積極的に活用することも含め、より教育効果の高い実施方法についての検討を始めた。
- ・ 対面で行う授業については、渡日できない留学生や対面授業への参加に不安を感じる学生に対する対応として、対面とオンライン併用で行うこととするなど、対面授業に参加できない学生に不利益とならないよう配慮した。
- ・ 令和 2 年度より科目ジュークボックスにオンラインで履修できる科目を約 180 科目登録し、CiC 協定校とのオンライン履修による学生の派遣・受入を開始した。これにより令和 2 年秋学期に 1 名の学生を派遣するとともに 17 名の学生の受入を行った。
- ・ 国内外の移動制限により、学生が他大学や外国の大学等の授業科目をオンラインで履修するケースが増えることを想定して、オンライン履修の位置づけを整理し、学内での申請手続きを整備した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、家庭の経済状況が悪化したこと、十分な学修環境の確保が困難となったことによる論文執筆等への影響、海外からの渡日、帰国、留学が困難となったこと等の事由により、学生が様々な不利益を被る可能性があることに鑑み、令和 2 年度及び 3 年度における身分異動、授業料の免除、徴収猶予等に関する特別措置を定めた。
- ・ 本学の学生組織である全学学類・専門学群代表者会議（全代会）が行ったオンライン授業に関する調査結果（全学群生対象。実施期間：5 月 15 日～25 日。有効回答数 1,507 件）について、全代会の協力を得て教学マネジメント室において自由記述の分析を行い、各教育組織等に報告した。分析結果のレポートでは、カリキュラムレベル及び個別授業レベルで生じていると類推される課題を示した上で、次のアクションに向けて喫緊の課題、秋学期に向けての検討課題、長期的課題を提示し、各教育組織等の検討・取組を促した。
- ・ 秋学期以降の対策の検討や今後の教育改善に役立てることを目的として、「オンライン授業に関する学修状況等の実態調査」を実施した（実施期間：7 月 6 日～8 月 7 日）。調査対象は全学群生・大学院生（16,584 人）、有効回答者数は 6,358 件（38.3%）であった。教学マネジメント室及び教育推進部では、調査の実施期間中も中間分析を実施

し、全学 FD 研修会「オンライン授業を考える：手探りの春学期から改善の秋学期へ」を8月6日に開催するとともに、教育担当副学長の下で秋学期の全学的な対策（秋学期における対面授業及びオンライン授業の実施指針について）にも役立てた。最終的な調査結果については、10月に各教育組織等及び学生に周知した。FD研修会はグッドプラクティスを認知してもらう貴重な機会となった。

- ・DACセンターで実施を計画していた事業については、早急に体制を整備して、学生、教職員の個別相談をはじめとして、FD/SD研修会、合同企業説明会、各種講座等をオンラインで実施した。また、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けることが予想される、令和3年度以降に就職する学生に対し、アフターコロナの社会・仕事について考えるための情報提供を目的として、経済アナリスト、就職コンサルタント、本学社会人OBOG等によるパネルディスカッション、講演会等をオンラインで計4回開催した。
- ・障害のある学生が遠隔授業を受講する際の課題や対応方法についてまとめたガイドラインを4月8日に全教育組織に周知するとともに、全国の大学に先駆けて公開した。同ガイドラインは各大学等でも参考にされている。また、春学期において障害学生及び授業担当教員に対するアンケート調査を行い、調査結果を踏まえた遠隔授業におけるアクセシビリティをテーマとした全学FD/SD研修会を7月29日に実施、学外参加者・見逃し配信視聴者を含めて683名が参加した。これらの内容は秋学期からの授業準備にも反映された。
- ・新型コロナウイルス感染症による未曾有の危機対応に自分の専門の研究スキルを活かしたいという研究者の想いが高まり、その実現のためURAが新型コロナウイルス緊急対策のための大学「知」活用プログラムを企画し、4月末に緊急公募を実施した。本学の全ての研究部局（系）から応募があり、新型コロナウイルス感染症危機のように全分野（医学、社会、経済、教育、心理、芸術、健康等）に渡る問題への対応には、総合大学こそが力を発揮することを証明した。多様な分野に渡る27の採択課題の研究成果は、様々な場所・立場の人が課題解決に向けて研究成果を活用できるよう、いち早く社会へ発信し、大手メディア、文部科学省、JST、研究大学コンソーシアム等から多くの反響を受けた。
- ・対面式で実施していたエクステンションプログラムを全てオンライン・オンデマンド配信により実施した。
- ・シリコンバレー拠点（LII）を活用して、現地の企業、VC、アクセラレータとの連携を目指す教員の国際展開を支援するプログラムをオンラインで実施した。
- ・オンライン授業への対応として、授業に関連する図書の教員推薦を電子ブックでも受け付け、学外からアクセス（リモートアクセス）できるよう整備した。併せて附属図書館Webサイトのトップページに電子ブックへのリンクを追加する等の改修を行い、電子ブックの可視性を高めた。また、コロナ禍で必要性・緊急性の高まった医学情報へのアクセス強化のため、データベース「医中誌Web」に有料の変更契約によりリモートアクセスサービスを追加し、キャンパス外からの利用を可能とした。さらに、新型コロナウイルス感染症対応として、各出版社から期間限定で利用条件の緩和措置がなされた電子資料について、附属図書館Webサイトに一覧を掲載し周知に努めた。
- ・例年対面により実施していた図書館講習会をオンラインで開催し、来館が困難な学生・教員に対する郵送による貸出・複写サービスを開始した。
- ・オンライン授業を行う教員向けに学術情報メディアセンターのサイトに「オンライン授業教員支援ポータルサイト」を開設し、インターネットを利用してオンライン授業を行うための情報を収集して掲載し、オンライン授業の準備及び実施が円滑に行えるようにした。また、オンライン授業を受講する学生向けに同サイトに「オンライン授業受講案内」を開設し、オンラインで行われる授業を受講する手順を掲載し、オンライン授業の事前準備と遠隔授業の受講が円滑に行えるようにした。さらに、学内の各教育組織から選出されたオンライン授業担当教員を対象とした「オンライン授業実施に関する研修」をオンラインで開催し、代表的なオンライン授業の実施方法の紹介などを行った。
- ・文部科学省の国立大学法人情報機器整備費補助金を利用して、教員及び学生が利用する全学計算機システムのリモートデスクトップ環境を増強し学外からのリモートアクセス数を30台から210台に増やし、自宅等の自分のPCから学内の全学計算機システムのソフトウェアを利用して実習、演習、レポート等が行えるようにして、大学への入構が制限される中でも授業や自習ができるような対策をした。
- ・自宅等からインターネットを経由した大学内への接続を仮想的に大学内からの接続のように見せかけるVPNサービスの同時接続数を倍増し約500ユーザが利用できるようにして、在宅勤務で業務を行う教職員の利便性を高めた。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で帰国要請を受け、留学途中で帰国した学生に対する経済支援を実施した。

<附属病院>

- ・県内唯一の特定機能病院・高度救命救急センターの機能を喪失させないよう徹底した院内感染防止体制を確立するため、令和2年4月から以下の取組により診療機能（入院・外来・手術）を平時の80%程度に抑制、7月から段階的に緩和し、平時の90%程度にしている一方、非コロナで症度の高い救急患者が増加している。
 - ①外来：病態上延期が可能なものは延期するとともに、可能な限り電話再診に切り替え、来院者数の抑制を実施
 - ②入院・手術：病態上延期が可能なものは延期するとともに、院内PCR検査所を整備し、全ての入院患者を対象に入院前PCR検査を実施

- ・コロナ患者受入重点医療機関として、重症患者の治療及び感染防止に必須である人工呼吸器、体外心肺装置（ECMO）、リアルタイム PCR 検査装置等の設備整備及び陰圧病室の増室や院内 PCR 検査所等の施設整備を行い、医療提供体制の強化を図るとともに、感染を拡大させない・持ち込ませない環境の強化を図った。
- ・茨城県クラスター対策本部事務局として、県内各医療機関におけるクラスター対策等の指導を行うとともに、コロナ専用病院等及び軽症者宿泊施設への医師及び看護師の派遣による医療支援やダイヤモンドプリンセス号への DPAT・DMAT 派遣による患者搬送等を実施するなど、院外におけるコロナ対策にも貢献した。

<附属学校>

- ・令和 2 年度の教育活動は一斉休業及び緊急事態宣言下で始まり、その後はオンラインでの遠隔授業と分散登校を併用した授業形態で進めて行った。この間、国や近隣都県及び他国立大学附属学校の情報を収集しつつ、附属学校教育局と本学附属 11 校は「Ⅰ 段階的授業の展開」「Ⅱ 教科等の通常の学習と評価」「Ⅲ 学校行事と特別活動の実施形態」「Ⅳ 児童生徒の心身の健康」「Ⅴ 感染者等が発生した場合の対策」「Ⅵ 教職員の安全対策と勤務」「Ⅶ 筑波大学及び附属学校教育局の支援」の 7 つの観点から毎月協議を重ね、教育現場で新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を実践し安全教育を推進してきた。さらに、この教育活動を実現するための財政的支援とし、国の補正予算及び学長裁量経費等の学内予算により、約 1 億 2 千万円を投入した。

◇ 中期計画で設定した数値や指標等の現状値

【中期計画-73 関連】

KPI	目標値	実績
安全衛生に関する実践的科目	平成 30 年度までに 4 科目開講	学士課程及び大学院課程合わせて 4 科目開講 ・大学院共通科目「化学物質の安全衛生管理」 ・総合科目Ⅱ「安全衛生と化学物質」 ・総合科目Ⅲ「事例に学ぶ環境安全衛生と化学物質」 ・環境化学リスク論

II 教育研究組織の評価結果

令和2年度活動評価結果および 前年度組織評価結果等を踏まえた改善結果報告書

- は優れた取組・改善が見られた点として高く評価できる
●は改善すべき点として今後の改善を求める

1. 系

〔人文社会系〕

- 若手教員の増加に関する前年度の評価結果を受けて、人事案件12件の全てを若手教員の新規採用とするなど、組織的な取組が見られる。
- 系内を4学域13教員グループに再編し、きめ細かい研究戦略、研究力強化、エフォート管理にいかしている。
- 西アジア文明研究センターをR3重点育成研究拠点として展開している。
- 前年度の評価結果を受けて、論文等の研究成果の公表の増加に向けて、F1000Research 筑波大学ゲートウェイへの論文投稿を推進している。
- 国際大学協会（IAU）におけるSDG10（不平等の是正）の幹事校として、また「つくばSDGsマイスター講座」を通して、SDGsの実現にも取り組んでいる。
- 教員一人当たりの外部資金の獲得の増加に関する前年度の評価結果を受けて、「研究強化促進室」の設置などの取組を行った結果、外部資金件数および外部資金受入金額が増加した。
- 著書数が高い水準であり、伸び率も高い。
- 若手教員のさらなる増加に向けて一層の努力を期待する。
- 外部資金の獲得について、「研究強化促進室」の設置などの取組により改善が見られるものの、さらなる増加に向けて一層の努力を期待する。
- 論文数の増加に向けて取り組みを行っているものの、引き続き英文の査読付き原著論文数の増加に向けて、一層の努力を期待する。

[ビジネスサイエンス系]

- 外部資金の獲得の増加に関する前年度の評価結果を受けて、科研費申請率が100%を達成した。
- 外部資金採択件数および受入金額が増加している。
- 研究戦略委員会を組織し、共同研究の可能性について議論するなど、戦略的な研究活動の活性化を行った。その成果として、新たな研究課題の創出に加え、社会人大学院在籍の実務家とのコラボ、部局 URA のサポートで、申請した研究助成に採択された。
- エクステンションプログラム「経営学のためのデータサイエンス」を実施して多くの受講生を集めている。
- 科研費申請率が100%を超えているが、一人当たりの獲得件数は不十分であるので、獲得戦略を立て直し、獲得件数のさらなる増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 査読付き原著論文数の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- FWCI の向上に向けて、一層の努力を期待する。

[数理物質系]

- 大型の競争的資金獲得のためにリサーチユニットの編成を推奨している。
- 文部科学大臣表彰科学技術賞をはじめとする幾つかの賞を受賞しており、研究力の高さが評価されている。
- 混合給与制度を活用して、研究支援体制を強化している。
- コンソーシアムを設立して、協働大学院（国際マテリアルイノベーション学位プログラム）を開設した。
- 受託研究や企業等からの資金獲得に注力しており、獲得額が大幅に増加している。
- 被引用数の指標（総被引用数、FWCI、Top10%論文）がそれぞれ高い水準にある。
- 女性教員比率の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 一人当たり査読付き英語原著論文数は良好だが、一人当たりの論文数全体が減少している。

[システム情報系]

- 大型外部資金獲得に向けた組織的な支援により、多くの事業に採択された。
- 民間企業との間で、60 件の共同研究の受け入れ、4 件の受託研究の受け入れを行っている。
- 系戦略室が中心となって、予算の重点配分、系リサーチ・グループ制度の活用、科研費申請アドバイザー制度、申請書作成支援講演会およびワークショップの実施、科研費パワーアップ支援（インセンティブとしての研究費配分）等の企画・取り組みを進めている。
- 若手教員比率が高い水準にある。
- 女性教員比率の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 一人当たりの外部資金獲得額が減少傾向にあるため、増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 査読付き原著論文数が減少傾向にあるため、増加に向けて、一層の努力を期待する。

〔生命環境系〕

- ムーンショット型の研究開発プロジェクトの申請を支援し、採択後、プロジェクトコーディネーター2名を雇用して、学内外の関係機関との協働を可能にしている。
- 論文数の増加に関する前年度の評価結果を受けて、国際共著論文の出版に係る英文校閲費、論文掲載料、オープンアクセス費の一部を補助している。その結果教員一人当たりの国際共著論文数が継続して増加し、論文数全体も増加している。
- 政府系および民間の研究資金申請および採択歴があるものを中心に約200件の公募情報を一覧表にまとめ、教職員掲示板から年間スケジュールをダウンロードできるようにして、申請を促した。その結果、その他研究資金の獲得金額が前年度比で大幅に増加した。
- 文部科学大臣表彰・若手科学者賞をはじめとして多くの賞を受賞しており、特に若手女性教員の受賞は高く評価できる。
- 科研費の獲得金額は良好であるが、採択件数は不十分なため、採択件数のさらなる増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 若手教員比率は前年度に比べて改善したが、さらなる増加に向けて、一層の努力を期待する。

〔人間系〕

- 教員の若手比率、女性比率が高水準に保たれている。
- 系長主導でさまざまな科研費獲得のに向けた取組を行い、採択件数が増加している。
- 総被引用数、FWCI、Top10%論文の値が前年度から大きく伸びており、FWCIの値は特に高い水準にある。
- 新型コロナウイルス感染症緊急対策のための大学「知」活用プログラムに積極的に応募し、多数の課題が採択された。
- 東京キャンパスとの協業の改善に関する前年度の評価結果を受けて、オンラインを有効に使用して改善しつつある。
- 英文校閲費用や掲載費用の支援を行っており、徐々に成果を上げてはいるが、英語論文数（教員一人当たり）は依然として低く、論文の総数も減少しているため、引き続き、一層の努力を期待する。

〔体育系〕

- 科研費の採択件数の増加に関する前年度の評価結果を受けて、年 5 回の科研費だよりのメール配信や未申請者への個別連絡等により、申請者が前年よりも増加した。教員一人当たりの科研費の採択件数および獲得額も前年度から大きく伸びている。
- 全学戦略ポイント、卓越研究員事業、循環型戦略管理ポイント等を活用して戦略的な教員人事を進めた結果、若手、女性、外国人の比率が前年度に比べて上昇した。
- ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センターの全国共同利用・共同研究拠点申請に向けて準備を進めた。
- 研究成果の新聞やテレビによる報道、受賞が多く、社会に貢献する研究成果が生まれている。
- 科研費の採択件数の伸び率が上昇しているとはいえ、件数自体は依然として低いため、さらなる上昇に向けて一層の努力を期待する。
- 共同研究と受託研究の受入件数および受入金額の増加に向けて、一層の努力を期待する。

〔芸術系〕

- 芸術系教員にとって論文の投稿先が少ない状況を受け、学外に芸術学研究会を設立し、学会誌『芸術学論集』を刊行した。
- 前年度の評価結果を受けて、査読付き原著論文数の増加に向けて策を講じた結果、英文論文を含め増加させることができた。論文総数、著書数も増加している。引き続き、論文数の増加に向けて努力を期待する。
- 系研究推進室、体芸エリア支援室研究支援担当、部局 URA が連携した支援体制を作り、競争的研究資金の獲得に向けて取り組んでいる。
- QS の分野別ランキング Art & Design で世界 100-150 位（国内最上位）にランクされている。
- 若手教員と女性教員の割合が高く、バランスよく教員を雇用している。
- 競争的資金の獲得に向けて様々な取り組みを行っているが、引き続き科研費の採択件数の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 外部資金件数および外部資金金額の増加に向けて、一層の努力を期待する。

〔医学医療系〕

- 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）に採択されるとともに、橋渡し研究戦略的推進プログラム拠点（T-CReDO）を通して産学連携を強化した結果、外部資金の獲得額が順調な伸びを示している。
- 査読付き英語原著論文数が増加している。
- 総被引用数が大幅に伸びている。
- 若手教員比率、女性教員比率、および外国人教員比率の増加に向けて、一層の努力が期待される。

〔図書館情報メディア系〕

- QS ランキングの評価指標の分析結果に基づく支援策を実施し、令和2年度は世界40位（国内1位）にランクインした。
- メンター教員を配置し、公募申請書類等の改善支援を実施して、40歳以下の若手研究者の9割が科研費を獲得した。
- 若手教員率の増加に関する前年度の評価結果を受けて、循環型戦略ポイントや外部資金を活用して計4名の若手研究者を採用した。
- 大型の科研費の申請率に関する前年度の評価結果を受けて、教員会議で、重複申請、最終年度前年度申請の活用を周知し、部局URAとの伴走支援を強化している。
- 新聞やテレビなど掲載の件数および研究成果に基づく受賞が高い水準にある。
- 外部資金の増加に向けて、様々な対策を講じているようだが、共同研究やその他の研究資金が件数および金額ともに減少傾向にあり、更なる努力が求められる。
- 若手教員数のさらなる増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 被引用数、FWCIの増加に向けて、一層の努力を期待する。

2. 学群

〔人文・文化学群〕

- 大学院修士課程と一体となった地域研究イノベーション学位プログラム（ASIP）を推進しており、修士課程への進学率の増大へ繋がるものと期待される。
- ASIPの後継である履修証明プログラム「Tsukuba Global+」を全学規模で開始した。
- 学群として専門基礎科目・専門科目の規格化を行い、時間割を調整して他学類の学生が履修しやすい編成とした。
- 高い志願倍率を維持している。
- 留学生率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- インターンシップ参加率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

〔人文学類〕

- 学類の就職支援委員会が主導して「卒業生からのアドバイス」と「就職内定者からの最新情報取得会」を開催していることに加え、外部講師による就職活動支援の企画を実施している。
- 大学院への進学率が向上している。
- 考古学実習を通じて、近隣の小学生、住民に向けた社会貢献プロジェクトを行っている。
- TOEICスコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 留学生率の上昇に向けて一層の努力を期待する。
- シラバスの充実は、教育内容に基づく大学の選択が重視されるようになっていく中で、留学生を含めた学生の獲得に向けて重要なポイントであり急務である。シラバス充実に向けて一層の努力を期待する。
- 就職・進学決定率の上昇に向けて一層の努力を期待する。

〔比較文化学類〕

- 就職・進学決定率の上昇に関する前年度の評価を受けて、就職・進学決定率が大きく伸び、努力したことがわかる。
- コロナ禍においても、オンラインによる国際研修を積極的に企画し、学生の国際交流ニーズに応えている。
- 留学生率は上昇しているものの、一層の努力を期待する。

〔日本語・日本文化学類〕

- Japan-Expert プログラムでの留学生の定員化などの取組を行っており、留学生率の上昇につながっている。
- 「多文化共生」をキーワードにして、モデル授業開発やオンライン・シンポジウムなどを展開しており、第3回シンポジウムでは学内外からのべ120名が参加した。一層の展開を期待する。
- 志願倍率の回復および向上に向けて、一層の努力を期待する。

[社会・国際学群]

- チュートリアル教育の先駆けとする、総合学域群及び社会・国際学群の1年次生を対象とした「TSUKUBA 社会国際学初年次チュートリアルプログラム」の準備委員会を立ち上げ、プログラムの構築を行っている。
- 社会国際学教育プログラムを開設し、優れた留学生を獲得している。
- 地域研究イノベーション学位プログラム（ASIP）の推進により多くの学生を育成してきたことは高く評価される。
- 就職・進学決定率の一層の上昇に期待する。

[社会学類]

- コロナ禍において、インターネットを利用した社会調査実習を展開した。
- 就職・進学決定率の上昇に向けて一層の努力を期待する。
- 志願倍率は引き続き高い水準を維持しているが、令和元年度からの減少幅が大きいため、倍率の維持およびさらなる向上に向けて一層の努力を期待する。

[国際総合学類]

- 新入生に対して、レポート作成の際にも守るべきものとして、研究公正や倫理に関する教育を行なっている。
- 教員の新規採用にあたり、英語での講義能力を引き続き重視している。
- コロナ禍においても、オンラインでの協定校授業の履修を奨励して留学に関心を持つ学生をフォローしたり、来日期間について柔軟に対応したりすることによって、短期交換留学生を可能な限り受け入れている。
- 外部英語検定試験の受験対策として通信講座、書籍購入等の支援を行っており、TOEICの受験率および成績の向上につながっている。
- 志願倍率および就職・進学決定率のさらなる上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[人間学群]

- 学群の国際化を促すために英語版の「学群紹介動画」作成し、国際的な発信力を強化した。
- 「人間学群生の学修・進路に関する調査」を実施し、現状を分析している。今後の成果が期待される。
- 就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 留学生率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[教育学類]

- 教育学協働学習プロジェクトを通じた高校生との交流を行っており、志願倍率向上につながることを期待される。
- 学生のキャリア形成をサポートするため、社会的ニーズの高い免許・資格の複数の資格の取得が可能となるよう、教育課程や授業シラバスを見直した。
- オンラインでの国際交流を授業に取り入れる試みを行っている。
- 就職・進学決定率の上昇に関する前年度の評価結果を受けて、学群および学類に開設しているキャリアデザインやインターンシップに関する科目の活用を1年次から推奨した。
- 留学生率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 就職・進学決定率のさらなる上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[心理学類]

- クラス担任と授業担当者からの定期的な報告を学類で共有している。負担軽減を図り、また形式化してしまわないよう、効果的に効率よく行うしくみをさらに模索してほしい。
- 国家資格「公認心理師」の受験資格取得に向けたカリキュラムを整備し、他大学のモデルとなるようなカリキュラム体制を目指している。
- 就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 志願倍率は高い水準を維持しているが、令和元年度から大幅に下がっているため、維持および上昇に向けて一層の努力を期待する。

[障害科学類]

- 科目ジュークボックスを活用し、オハイオ大学との連携教育が実施されている。
- ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DAC)センターとも連携し、学群長、学類長、事務職員が一体となって、障害を持った個々の学生のニーズに合わせた支援に取り組んでいる。
- 志願倍率のさらなる上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 留学生率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命環境学群]

- G30の実績を基に、それぞれの学類の特色に合わせた英語プログラムへの発展を図っており、優秀な留学生の確保に繋がることを期待できる。
- 志願倍率が大幅な伸びを示している。
- 留学生率が高い水準を保っている。
- 学群全体で大学院への進学率が上昇している。
- 令和2年度のルーブリックに基づくモニタリングを踏まえて、第4期における改善計画を検討している。
- TOEFL (TOEIC) のスコアの上昇に関する前年度の評価結果を受けて、既存の英語プログラムの見直し微調整を行い、外国人留学生と日本人学生の交流を拡大させた。また、英語の講義・実験・実習フィールドワークを増やし、国際化の日常化を推進した。
- 就職・進学決定率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生物学類]

- マンチェスター大学との共同学位プログラムの締結の交渉が進んでいる。
- 志願倍率が大幅に伸びており、高い水準にある。
- チュートリアル授業「寺子屋」を開講している。
- Global Biology in English (GloBE) コースをつくり、留学生と日本人学生が英語でともに学ぶ環境づくりがなされている。
- Teams を利用して、生物学類よろず相談のチームを新設した。

[生物資源学類]

- 留学生と日本人学生が英語でともに学ぶ環境づくりがなされている。
- 留学生の定員化を行い、学際プログラムと Japan-Expert プログラムの支援体制を充実した。
- TOEFL (TOEIC) のスコアの上昇に関する前年度の評価結果を受けて、専門語学 (英語) II の成績評価に TOEFL (TOEIC) の受験の有無を考慮させ、受験を促すとともに、成績向上のために英語で行われる講義の受講を推奨した。
- 高い留学生率を維持している。
- 志願倍率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[地球学類]

- コロナ禍においても、工夫を凝らして大学院と連携したフィールドワーク教育を推進している。
- 志願倍率が順調な伸びを示している。
- TOEIC スコアの上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 就職・進学決定率の上昇に関する前年度の評価結果を受けて、キャリア支援教員による就職相談窓口を設け、学類生向けの企業説明会などの情報提供を実施している。就職・進学決定率のさらなる上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[理工学群]

- 総合政策室の下に寺子屋を設け、数理系科目に苦戦する学生に対し個別指導を提供している。
- 学群学生の英語力向上、TOEFL (TOEIC)の得点向上のため、オンライン英会話の受講のサポートを実施している。
- 高い就職・進学決定率を保持している。
- 志願倍率の向上に向けて、一層の努力を期待する。
- オンラインによる日本人学生の海外派遣、外国人留学生の受け入れの推進を期待する。
- 女子学生数の増加に向けて、一層の努力を期待する。

[数学類]

- 寺子屋と連動して、数学手習い塾を開講し、学生の多様なニーズに対応している。
- 理系共通科目の「数学リテラシー」について、前年度の内容を踏まえ、多角的なやり方で改善に取り組んだ。
- 数学類生の海外経験値の低さ（海外渡航率やTOEFL (TOEIC) スコアなど）を改善するために、学類生と外国人教員や客員の外国人研究者との交流を行い、Campus in Campus (CiC) の活用を前向きに検討した。
- 志願倍率および就職・進学決定率の向上に向けて、一層の努力を期待する。
- 海外渡航率の上昇に向けて、CiCの活用について、具体的な進展を期待する。

[物理学類]

- 外国人教員による専門英語科目やe-Learningを活用した専門英語科目を開設し、アクティブラーニングを実践している。
- 就職・進学決定率の上昇に関する前年度の評価結果を受けて、就職・進学に対する学生の早い段階での決断と行動を求めている他、卒業研究配属以降の学生指導を実施しており、就職・進学決定率が上昇した。
- コロナ禍以前から海外渡航率が低いので、海外渡航率の向上に向けて、一層の努力を期待する。

[化学類]

- 卒業生による就職支援企画講演会を毎年複数回開催することで、在学生に多様な情報を継続的に提供している。
- 志願倍率の上昇に関する前年度の評価結果を受けて、高等学校での出前授業や学類紹介ビデオの作成、ホームページやパンフレットの一新など、高校生向けの広報活動に力を入れた。
- 志願倍率の向上に向けて、一層の努力を期待する。

[応用理工学類]

- クロスアポイントメント制を活用し、外国人教員を増員した。
- TOEFL (TOEIC) のスコアの上昇に関する前年度の評価結果を受けて、英語に関する開講科目を改訂するとともに、総合理工学位プログラムで英語で提供されている講義の聴講を許可し、英語での教育の機会を充実させた。
- 就職・進学決定率が良好である。
- コロナ禍以前から海外渡航率が低いので、海外渡航率の向上に向けて、一層の努力を期待する。

[工学システム学類]

- 日本技術者教育機構(JABEE)の認定を受け、学類では教育の PDCA サイクルを実施し、教育の質を保ち、向上させている。
- 総合理工学位プログラムの授業を卒業単位として認め、英語環境に触れやすいようにしている。
- 就職・進学決定率が高い水準を維持している。
- 志願倍率は高い水準を保持しているものの、前年度と比較して低下しており、前年度並みあるいはそれ以上に上昇させる方策を期待する。

[社会工学類]

- 教学マネジメント委員会を設置し、数理・データサイエンス教育強化拠点としての教育改革を進めている。
- 留学生率の上昇に関する前年度評価結果を受けて、オンライン広報コンテンツを拡充するとともに、入試改革に対応した英語版 HP を整備し、留学生への学類プログラムの見える化を推進した。
- 地域との連携を重視した高大連携活動や、近隣の自治体とのシンポジウムの開催などの取組を進めている。

[総合理工学位プログラム]

- 英語による学士課程「総合理工学位プログラム」について、ホームページも含め、海外向けの広報を積極的に実施し、非常に優秀な学生の獲得に成功している。

[情報学群]

- コロナ禍において文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」(enPiT)活動をオンライン中心に実施するとともに、自走化について検討している。
- 情報学群が主体となり、全1年次生を対象に講義と演習から成る必修科目「データサイエンス」を開講している。
- TOEFL (TOEIC) のスコアの上昇に関する前年度評価結果を受けて、TOEIC 対策講座を開講している。
- 就職・進学決定率の向上に向けて、一層の努力を期待する。

[情報科学類]

- 情報科学特別演習で、デザイン思考に基づくチュートリアル教育を実施している。
- 高性能アルゴリズムを学習する「プログラミングチャレンジ」を開講しており、国際大学対抗プログラミングコンテスト (ICPC) アジア地区大会で優秀な成績を納めている。
- 国内では他にほとんど類を見ないほど自由度が大きな研究室選びをすることができる。
- 留学生率の向上がみられる。
- オンラインによる日本人学生の海外派遣、外国人留学生の受け入れの推進を期待する。

[情報メディア創成学類]

- TOEIC のスコアが高い水準にある。
- リモート留学に対するサポートやオンラインでの学会発表に対する学類独自の参加費支援を行っている。
- 志願倍率は昨年度と比較して若干低下しているものの、高い水準を維持している。
- 就職・進学決定率の向上に向けて、一層の努力を期待する。
- オンラインによる日本人学生の海外派遣、外国人留学生の受け入れの推進を期待する。

[知識情報・図書館学類]

- 学類を早期卒業して米国ピッツバーグ大学大学院(iSchool)に留学する「3+2 教育プログラム」の実施に向けて協定締結の準備を進めており、これを念頭に早期卒業の要件に TOEFL (TOEIC) スコアを加える学群細則改訂を行った。
- 英語多読用図書の整備、1年次必修科目の活用、読書記録手帳の導入等を通して、英語多読プロジェクトを体系的に推進している。
- 志願倍率の向上に向けて、一層の努力を期待する。
- 就職・進学決定率の向上に向けて、一層の努力を期待する。
- オンラインによる日本人学生の海外派遣、外国人留学生の受け入れの推進を期待する。

[医学群]

- 学類ごとに多様な入試（国際バカロレア特別入試、海外教育プログラム特別入試、研究人材型入試、Japan-Expert プログラム等）を実施して、グローバルに活躍できる人材および研究志向の学生獲得に努めている。
- 国家試験合格率が高い水準にある。
- 就職・進学決定率およびその伸び率が高い水準にある。
- 留学生率の向上に向けて、一層の努力を期待する。

[医学類]

- 就職・進学決定率が非常に高い水準にある。
- 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム「放射線災害の全時相に対応できる人材養成」に採択されている。
- 医師としての適性を評価するため、記述試験および口頭試験による適性試験を実施している。
- 外部委員を加えた IR を行う組織（医学教育分析センター）で在学中の成績や国家試験の成績等を解析し、優秀な人材の確保するための方策を検討している。
- 留学生率の向上に向けて、一層の努力を期待する。

[看護学類]

- 看護師および保健師の国家試験合格率が 100%だった。
- 国際バカロレアで 1 名の合格者を出した。
- Japan-Expert プログラム、国際バカロレア特別入試による学習環境の国際化に努めている。
- Japan-Expert プログラムへの学生のリクルーティングが必要である。
- 志願倍率の伸び率の改善に向けて、一層の努力を期待する。

[医療科学類]

- 英語プログラムのウェブサイトを分かり易くするため全面改訂を行った結果、令和 2 年度の入学試験にて米国人 2 名、中国人 1 名の学生が合格した。
- 就職・進学決定率が前年度から上昇しており、高い水準にある。
- 留学生率の向上に向けて、一層の努力を期待する。
- 志願倍率の向上に向けて、一層の努力を期待する。

[体育専門学群]

- 障害者学生を受け入れ、特殊なトレーニング機器を活用できる体制を整えた結果、国際大会入賞レベルのパラ・アスリートが育っている。
- 留学生率の上昇に関する前年度評価結果を受けて、令和4年度からの Japan-Expert プログラムの導入を目指し、外国人学生入試のための調査委員会や英語教育検討委員会を設置し、検討を進めている。
- 体育授業サポーター派遣事業の一環として、つくば市、常総市、土浦市の小学校に学生を派遣している。
- 留学生率の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- TOEIC スコアの向上に向けて、一層の努力を期待する。
- 就職・進学決定率の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 学生と職種のマッチングのためにも、インターンシップ参加率の増加に向けて、一層の努力を期待する。

[芸術専門学群]

- 本学センターと協力して「芸術キャリア教育」を開講している。
- Campus Artist in Residence (CAIR) を実施し、本学群生と海外の美術系大学生とのオンライン対話による共同制作やワークショップ、海外の招聘教員によるオンライン講演会を実施している。
- Japan-Expert プログラム特別入試・日本芸術コースから1名の卒業生を輩出した。
- 高い志願倍率を維持している。
- TOEFL (TOEIC) のスコアの上昇に関する前年度評価結果を受けて、3年時の受験を紐付ける他、英語による専門科目を増やしている。
- 「芸術専門学群案内」パンフレットや動画の作成と公開を行うなど、コロナ禍における入試広報を工夫して行っている。
- 就職・進学決定率の増加に向けて、一層の努力を期待するとともに、コロナ禍以外に要因はないか、現状と原因を把握して改善してほしい。
- 学生と職種のマッチングのためにも、インターンシップ参加率の増加に向けて、一層の努力を期待する。

3. 学術院

〔人文社会ビジネス科学学術院〕

- 毎月の学術院運営委員会とその開催後の情報共有のための討議は重要で、優れた試みである。
- 優秀な成績を修めた学生、顕著な功績を上げた学生を表彰する「学術院長賞」を創設した。
- 入学定員充足率の上昇に向けて、学群との協働を含めた一層の努力を期待する。
- 学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

〔人文社会科学研究群〕

- 修士論文合同演習で優れた修士論文を提出した2年次生が1年次生に対して発表を行い、研究を考える機会が提供されている。
- 『『大学院進学』という選択肢』という動画を作成して、学群の新入生オリエンテーションで全員に見せている。
- 学生の留学生比率の高さに対して入学定員充足率の低さが目立つ。日本人学生を増やすなど、入学定員充足率の上昇に向けて一層の努力を期待する。
- 学生の学会発表のための旅費支援や論文執筆に関わるいくつかの支援を行っており、学生の論文生産性を上昇させる努力がなされているが、現状では低いため、さらなる論文生産性の上昇に向けて一層の努力を期待する。

〔ビジネス科学研究群〕

- エクステンションプログラムを複数開講し、志願者獲得のツールとして活用している。
- 数理・データサイエンス・AIに関する教育の充実に向け、データベースサービスの基盤整備が行われた。
- 志願倍率が良好である。
- 学生の論文生産性の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 研究群としての入学定員充足率はおおむね良好だが、募集人員充足率が低い学位プログラムについては、上昇に向けて一層の努力を期待する。

〔法曹専攻〕

- 司法試験合格率が年々向上している。

〔国際経営プロフェッショナル専攻〕

- 国際的な学修環境が構築されている。
- 産学連携に向けたインダストリーアウトリーチ活動を行っている。
- 最終プレゼンテーション後に、質疑応答やコメントに対する報告書を提出させてその審査を行って、最終的に合格することを行っており、十分な学位審査であるといえる。
- 志願倍率が良好である。

[理工情報生命学術院]

- 学術院運営委員会で、研究群長間の情報交換や意見交換を行っている。
- 学術院内で各種書式をできる限り統一するなど、学術院としての統合を進めている。
- 学生の論文生産性が高い水準にある。
- 基本的にはこれまで通り研究群単位で大部分の業務を実施し、喫緊な統合が必要なもの以外は、時間をかけて緩やかに統合するという方針は現実的だと言えるが、学術院としてのシナジーをどう発揮していくかが今後の課題となる。
- 志願倍率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 学術院全体では入学定員が充足しているが、募集人員充足率が低い学位プログラムについては、上昇に向けて一層の努力を期待する。

[数理物質科学研究群]

- グルノーブル・アルプス大学と筑波大学がCNRSの「国際共同研究室」のプロジェクトに採択されるなど、大学院教育の国際化を推進している。
- つくば地域連携として、つくばイノベーションアリーナ（TIA）連携大学院の構築を推進しており、その一環として、サマーオープンフェスティバル、ナノテクキャリアアップアライアンス（CuPAL）の活動を行っている。
- パワーエレクトロニクス寄附講座の学生が国際学術誌、国際会議発表、受賞などにおいて優れた業績を上げている。
- 「博士課程学生と企業の交流会」等を実施することにより、産業界で活躍する博士課程修了者の増加に努めている。
- 入学時のガイダンスに加え、授業料相当額を支援するRA制度の実施など、博士後期課程進学者の増加に向けた施策を実施している。
- 学生の論文生産性が高い水準にある。
- 研究群全体として入学定員充足率はおおむね良好だが、募集人員充足率が低い学位プログラムについては、上昇に向けて一層の努力を期待する。

[システム情報工学研究群]

- エリア支援室に教育専門職員（UEA）を配置して入学定員充足率の向上に向けた取組体制を整えている。
- 研究計画調書の作成から研究費のマネジメントまでの一連のプロセスを経験できる「若手研究者育成プログラム」を研究群独自で実施し、さらに研究費の支援まで行い、若手研究者を鼓舞するシステムを構築している。
- 教育の質の保証と学修成果を可視化するため、達成度評価システムを確立し導入している。
- 社会人特別選抜の募集人員を拡大し、協働大学院方式の強化を行っている。
- 入学定員充足率が良好である。
- 留学生率が高い水準にある。
- 学生の論文生産性が良好である。
- 志願倍率のさらなる上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[生命地球科学研究群]

- 海外協定校とのダブルディグリーおよびジョイントディグリープログラムを実施し、留学生受け入れの向上および海外留学の促進に努力している。
- 社会人特別選抜入試、早期修了プログラム制度を活用し、社会人等が学位取得する機会を拡大し、キャリアアップを支援している。
- 留学生率が良好である。
- 志願倍率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。
- 入学定員充足率の上昇に向けて、一層の努力を期待する。

[国際連携持続環境科学専攻]

- マレーシア日本国際工科院・マレーシア工科大学（MJIIIT-UTM）とのジョイントディグリープログラムであり、東南アジアを中心としたアジア地域から優秀な学生を獲得している。

〔人間総合科学学術院〕

- 3つの研究科が1つの学術院・研究群になることで、学際性と国際性が質量ともに非常に充実した。さらに、統一感のある明瞭なプログラム構成になっており、大変よくコーディネートされた運営を行っている。
- 「人間総合科学基礎論」の開設とその具体的な運営方法を検討することを通じて、新たな大学院カリキュラムを開発した。
- 学術院のFDを積極的に行っている。
- 学術院として独自の武者修行派遣事業を実施している。
- 志願倍率のさらなる向上に向けて、一層の努力を期待する。
- 学術院全体として入学定員充足率はおおむね良好だが、募集人員充足率が低い学位プログラムについては、上昇に向けて一層の努力を期待する。

〔人間総合科学研究群〕

- 入学定員充足率が高い水準にある。
- 学生の論文生産性が良好である。
- 研究群全体では入学定員が充足しているが、募集人員充足率が特に低い学位プログラムについては、上昇に向けて一層の努力を期待する。

〔スポーツ国際開発学共同専攻〕

- 日本スポーツ振興センターの協力を得て、キャリア開発を支援するような授業形態を実施している。
- 鹿屋体育大学とともに、すべての講義を英語で展開している。
- 志願倍率の向上に向けて、一層の努力を期待する。

〔大学体育スポーツ高度化共同専攻〕

- 遠隔講義システムの利用により、筑波大学と鹿屋体育大学の双方の教育・研究資源を活用できるよう教育課程を編成している。
- 入学定員充足率が高い水準にある。
- 学生の論文生産性が高い水準にある。
- 留学生率の向上に向けて、一層の努力を期待する。

〔国際連携食料健康科学専攻〕

- アクティブラーニング、反転授業、アントレプレナーシップ教育、フィールドワークなど多彩な教育コンテンツを提供している。
- 国立台湾大学とボルドー大学との協働による国際連携専攻である。

4. グローバル教育院

[グローバル教育院地球規模課題学位プログラム（学士課程）]

- チュートリアル教育を目指す中、そのモデルと言える努力が行われている
- 1年次のアクティブラーニング、2、3年次のチュートリアル教育、4年次の長期インターンシップからなる4年間の系統だった学習プログラムを構築しており、第4期中期目標期間の目標に向けた学習プログラムが既に構築されている。
- 任期付き助教2名が専任として学生と向き合う体制には限界があるので、全学的な教育体制の確立が急務である。
- 志願者数、合格者数ともに減少傾向にある。

[グローバル教育院ヒューマニクス学位プログラム（一貫制博士）]

- 完全ダブルメンター制とリバースメンター制による学生指導など、先進的な取り組みを実装している。
- 本プログラム設置後2年目にして、学生数21名に対して論文が7報発表されており、優れた成果である。
- 自走化を見据えて、本プログラムへの参画企業等からの学外資金の確保、共同研究推進等のスポンサーシップ制度等の整備を進めている。
- 志願倍率の上昇に関する前年度の評価結果を受けて、コロナ禍に対応しつつ、オンラインによる入試説明会を開催し、オンライン対応（ハイブリッド）の入試を実施した。特に口述試験のみで受験生の能力を評価する仕組みを構築した。
- 志願倍率および入学定員充足率の上昇に向けて、さらなる努力を期待する。

5. センター

[計算科学研究センター]

- コロナ禍の中でもオンラインを活用して国際会議や国際連携を継続的に推進している。
- 若手教員率の登用に関しては、承継職員以外にも外部資金およびセンターの運営費により雇用を進めている。また外部資金等を活用した若手人材の育成にも取り組んでおり、特に国際テニュアトラック制度によって採用した助教を国際的競争力のある人材として育成している。
- 全国共同利用・共同研究拠点として、学際共同利用プログラムにより、83のプロジェクトを採択して共同研究を実施し、多数の学術論文を発表している。
- 前年度評価結果を受けて、MOUに基づく国際共同研究を一層推進した結果、英文の査読付き原著論文数が増加した。
- 総被引用数が高い水準にある。
- 外部資金の採択件数および獲得金額が大幅に減少しているので、増加に向けた努力が期待される。
- 女性教員比率の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 研究推進のために、教育等のエフォート管理について積極的な見直しを期待する。

[生存ダイナミクス研究センター]

- クライオ電子顕微鏡に関して、原子レベル構造解析技術の産業界への普及を目的としたサービス提供の準備を進めている。これを成功させて、民間企業との共同研究に繋げて、共同研究費の増大を実現させてほしい。
- 准教授への早期抜擢人事の制度などによる若手教員の育成・登用を推進しており、若手教員の割合が十分に高い。
- 科研費については積極的な応募を推奨した結果、申請可能な教員全員が申請した。CREST・さきがけなどの大型競争的資金については獲得のために教員を個別に訪問して働きかけている。
- 財団等からの競争的研究資金への応募を積極的に推奨した結果、多くの財団系研究資金を獲得した。
- トップレベルの論文のさらなる増加に向けた取組が期待される。
- 外部資金全体としては、件数は増えているが、特に共同研究の受入金額が減っているので、外部資金の受入金額の増加に向けて、一層の努力に期待する。
- 研究推進のために、教育等のエフォート管理について積極的な見直しを期待する。

[つくば機能植物イノベーション研究センター]

- ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) トマト事業、ABS 補助事業の拠点としてバイオリソース・遺伝資源や遺伝子組換え植物に関する国際共同研究・国際連携研究を積極的に推進している。
- 前年度の評価結果を受けて、様々な取組を行い、英文の査読付き原著論文の総数が増加した。
- 受託研究の増加に関する前年度の評価結果を受けて、受託研究の件数および受入金額を増加させることができ、外部資金全体の件数および受入金額は増加に転じた。さらなる増加に向けて努力を期待する。
- 若手教員数の増加に向けて、引き続き一層の努力を期待する。
- 国際会議や国内会議での発表件数が大幅に減少している。原因を探り、増加に向けて、一層の努力を期待する。

[アイソトープ環境動態研究センター]

- 共同利用・共同研究拠点としての活動を立ち上げ、コロナ禍の中でもオンラインを活用した研究交流活動を積極的に行なった。
- 若手教員の割合が非常に高く、大学全体の若手教員割合に大きく貢献している。
- 国際連携データ解析部門を新たに設置した。
- 科研費、共同研究、受託研究は増加傾向にある。
- 査読付き原著論文の総数の増加に向けて、一層の努力を期待する。
- 女性教員比率の増加に向けて、一層の努力を期待する。

Ⅲ 各種資料

1 管理運営関係

(1) 沿革

- 昭 37. 9 東京教育大学、5学部の統合移転候補地の調査を決定
38. 9 研究学園都市を筑波地区に建設することを閣議了解
42. 7 東京教育大学、「総合大学として発展することを期し、条件付きで筑波に土地を希望する」ことを決定
42. 9 筑波地区への移転予定機関として、東京教育大学、東京医科歯科大学医学部附属病院霞ヶ浦分院等 36 機関を閣議了解
44. 7 東京教育大学、「筑波における新大学のビジョンの実現を期して筑波に移転する」旨を表明
44. 11 文部省に筑波新大学創設準備調査会を設置
45. 5 筑波研究学園都市建設法成立
46. 6 東京教育大学、「筑波新大学に関する基本計画案」を決定
46. 7 筑波新大学創設準備調査会、「筑波新大学のあり方について」文部大臣に報告
46. 10 文部省に筑波新大学創設準備会を設置
47. 5 筑波研究学園都市に新設移転する研究教育機関として、筑波新大学（仮称）等 42 機関を閣議決定、東京教育大学に筑波新大学創設準備室を設置
47. 8 政府機関の移転を繰り上げ、昭和 50 年度までに完了することを閣議了解
48. 2 国立学校設置法等の一部を改正する法律案を閣議決定
48. 10 筑波大学設置「国立学校設置法等の一部を改正する法律（昭和 48 年法律第 103 号）」
三輪知雄、学長に就任
- 第一学群「人文学類、社会学類、自然科学類」、医学専門学群、体育専門学群、26 学系、体育センター、農林技術センター、附属図書館、保健管理センターを設置
49. 4 外国語センター、加速器センター、計算センター（昭 53.4 学術情報処理センターに改組）、企画調査室を設置
50. 4 第二学群「比較文化学類、人間学類、生物学類、農林学類（平 6.4 生物資源学類に改称）」、芸術専門学群、大学院修士課程「地域研究研究科（平成 20.4 人文社会科学研究科に改組・再編）」、大学院博士課程「哲学・思想研究科、歴史・人類学研究科、文芸・言語研究科、社会科学研究科、生物科学研究科、数学研究科、物理学研究科、化学研究科、地球科学研究科」、教育機器センター、アイソトープセンター、水理実験センター（平 12.4 陸域環境研究センター（～平 22.3）に転換）、附属病院創設準備室を設置
50. 10 国民体力特別プロジェクト研究組織（～昭 55.3）を設置
51. 4 「（修士課程）経営・政策科学研究科（平 17.4 システム情報工学研究科に改組・再編）、体育研究科（平 20.4 人間総合科学研究科に改組・再編）」、「（博士課程）教育学研究科、心理学研究科、心身障害学研究科、農学研究科、体育科学研究科、芸術学研究科」を設置
51. 5 低温センター、分析センター、動物実験センター（平成 13.4 生命科学動物資源センターに転換）、下田臨海実験センター、附属病院を設置

51. 8 宮島龍興、学長に就任
52. 4 第三学群「社会工学類、情報学類、基礎工学類（平 10.4 工学基礎学類に改組）」、「(修士課程)教育研究科（平 20.4 人間総合科学研究科に一部改組・再編）、環境科学研究科（平 19.4 生命環境科学研究科に改組・再編）、芸術研究科（平 19.4 人間総合科学研究科に改組・再編）」、工作センター、菅平高原実験センターを設置
52. 5 核物性特別プロジェクト研究組織（～昭 57.3）を設置
53. 3 東京教育大学閉学
53. 4 「(修士課程)理工学研究科（平 16.4 数理物質科学研究科、平 17.4 システム情報工学研究科及び生命環境科学研究科に改組・再編）」、「(博士課程)社会工学研究科」、理療科教員養成施設、学校教育部、附属 10 学校を設置
53. 5 ラテンアメリカ特別プロジェクト研究組織（～昭 58.3）を設置
53. 10 筑波大学医療技術短期大学部を併設
54. 4 「(修士課程)医科学研究科（平 18.4 人間総合科学研究科に改組・再編）」、プラズマ研究センターを設置
55. 4 福田信之、学長に就任
「(博士課程)医学研究科」、粒子線医科学センター（～平 2.3）、運動処方特別プロジェクト研究組織（～昭 57.3）を設置
56. 4 「(博士課程)工学研究科」を設置
57. 4 熱帯農林資源特別プロジェクト研究組織（～昭 62.3）、老化特別プロジェクト研究組織（～昭 62.3）を設置
58. 4 「(第三学群)国際関係学類（平 7.4 国際総合学類に改組）」、本能特別プロジェクト研究組織（～昭 63.3）を設置
59. 4 留学生教育センター（平 3.4 留学生センターに改称）、遺伝子実験センターを設置
60. 4 「(第二学群)日本語・日本文化学類」を設置
61. 4 阿南功一、学長に就任
大学研究センターを設置
62. 5 物質の進化特別プロジェクト研究組織（～平 4.3）、変換技術開発特別プロジェクト研究組織（～平 4.3）を設置
63. 4 代謝特別プロジェクト研究組織（～平 5.3）を設置
- 平元. 4 大学院修士課程に夜間開講の専攻を設置
大学院修士課程において昼夜開講制を実施
2. 6 陽子線医学利用研究センター（～平 12.3）を設置
3. 4 「(第三学群)工学システム学類」を設置
4. 4 江崎玲於奈、学長に就任
「(博士課程)国際政治経済学研究科」、計算物理学研究センター（～平 14.3）、新国際システム特別プロジェクト研究組織（～平 9.3）、循環器系バイオシステム特別プロジェクト研究組織（～平 9.3）を設置
大学院博士課程において連携大学院方式（第一号連携大学院方式）を実施
5. 4 「(修士課程)バイオシステム研究科（平 17.4 生命環境科学研究科に改組・再編）」、地球環境変化特別プロジェクト研究組織（～平 10.3）を設置

- 6 . 5 先端学際領域研究センター（平 22.10 生命領域学際研究センターに改組）
- 7 . 4 大学院博士課程において昼夜開講制を実施
- 8 . 4 大学院博士課程に夜間開講の専攻（後期 3 年博士課程）を設置
- 9 . 4 東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織（～平 14.3）、感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究組織（～平 14.3）を設置
10. 4 北原保雄、学長に就任
動的脳機能とこころのアメニティ特別プロジェクト研究組織（～平 15.3）を設置
11. 4 構造工学系を機能工学系に改称、アドミッションセンターを設置
12. 4 「(博士課程) 生命環境科学研究科、数理物質科学研究科、システム情報工学研究科（社会工学研究科、生物科学研究科、農学研究科、数学研究科、物理学研究科、化学研究科、地球科学研究科、工学研究科の改組）」、陽子線医学利用研究センター（～平 22.3）を設置
13. 4 「(博士課程) 人文社会科学研究科、ビジネス科学研究科、人間総合科学研究科（哲学・思想研究科、歴史・人類学研究科、文芸・言語研究科、教育学研究科、心理学研究科、心身障害学研究科、社会科学研究科、国際政治経済学研究科、経営・政策科学研究科（経営システム科学専攻、企業法学専攻及び企業科学専攻）、医学研究科、体育科学研究科及び芸術学研究科の改組）」を設置
14. 4 産学リエゾン共同研究センター、教育開発国際協力研究センター、計算物理学研究センター（～平 24.3；平 16.4 計算科学研究センターに改組）、ナノサイエンス特別プロジェクト研究組織（～平 19.3）、獲得性環境因子の生体応答システム特別プロジェクト研究組織（～平 19.3）の設置
大学院修士課程において連携大学院方式を実施
14. 10 図書館情報大学と統合「国立学校設置法の一部を改正する法律（平成 14 年法律第 23 号）」
医学専門学群「医学類、看護・医療科学類」、図書館情報専門学群、「(博士課程) 図書館情報メディア研究科」、図書館情報学系、知的コミュニティ基盤研究センター（～平 24.3）を設置
15. 4 学際物質科学研究センターを設置（～平 25.3）
比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト研究組織（～平 20.3）を設置
16. 4 国立大学法人筑波大学設置「国立大学法人法（平成 15 年法律第 112 号）」
岩崎洋一、学長に就任
看護科学系、特別支援教育研究センター、北アフリカ研究センター、学術情報メディアセンター（教育機器センター及び学術情報処理センターを統合）、研究基盤総合センター（加速器センター、低温センター、アイソトープセンター、分析センター及び工作センターを統合）、附属久里浜養護学校、大学院修士課程芸術研究科「世界遺産専攻」を設置
大学院博士課程において連携大学院方式（第二号連携大学院方式）を実施（数理物質科学研究科物質・材料工学専攻）
大学院博士課程数理物質科学研究科を 5 年一貫制博士課程から区分制博士課程に転換
17. 4 大学院専門職学位課程「ビジネス科学研究科法曹専攻、国際経営プロフェッショナル専攻」、大学院博士課程生命環境科学研究科「生命産業科学専攻」を設置

- 大学院博士課程において連携大学院方式（第二号連携大学院方式）を実施（生命環境科学研究科先端農業技術科学専攻）
- 大学院博士課程システム情報工学研究科、大学院博士課程生命環境科学研究科（構造生物科学専攻、情報生物科学専攻、国際地縁技術開発科学専攻、生物圏資源科学専攻、生物機能科学専攻）を5年一貫制博士課程から区分制博士課程に転換
18. 4 大学院修士課程教育研究科「スクールリーダーシップ開発専攻」、大学院博士課程人間総合科学研究科「フロンティア医科学専攻（修士課程）、コーチング学専攻（後期のみの博士課程）、世界文化遺産学専攻（後期のみの博士課程）」、アイソトープ総合センターを設置
18. 10 次世代医療研究開発・教育統合センターを設置
19. 4 学群改組を実施（9学群23学類により編制）
- 人文・文化学群「人文学類、比較文化学類、日本語・日本文化学類」、社会・国際学群「社会学類、国際総合学類」、人間学群「教育学類、心理学類、障害科学類」、生命環境学群「生物学類、生物資源学類、地球学類」、理工学群「数学類、物理学類、化学類、応用理工学類、工学システム学類、社会工学類」、情報学群「情報科学類、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類」、医学群「医学類、看護学類、医療科学類」、体育専門学群、芸術専門学群
- 大学院博士課程生命環境科学研究科（地球環境科学専攻、地球進化科学専攻）、大学院博士課程人間総合科学研究科（芸術学専攻）を5年一貫制から区分制に転換
- 大学院博士課程生命環境科学研究科「地球科学専攻（博士前期課程）、環境科学専攻（博士前期課程）、地球環境科学専攻（博士後期課程）、地球進化科学専攻（博士後期課程）、持続環境学専攻（博士後期課程）」、大学院博士課程人間総合科学研究科「看護科学専攻（修士課程）、世界遺産専攻（博士前期課程）、芸術専攻（博士前・後期課程）」を設置
- 附属盲学校、聾学校、大塚養護学校、桐が丘養護学校、久里浜養護学校を特別支援学校に変更
- 「学校教育法等の一部を改正する法律（平成18年法律第80号）」
20. 4 大学院人文社会科学研究科（現代文化・公共政策専攻、国際政治経済学専攻、社会科学専攻）、大学院博士課程人間総合科学研究科（教育学専攻、学校教育学専攻、心理学専攻、感性認知脳科学専攻、体育科学専攻）を5年一貫制から区分制に、大学院博士課程人間総合科学研究科（ヒューマン・ケア科学専攻、スポーツ医学専攻）を5年一貫制から後期3年博士課程に転換
- 大学院人文社会科学研究科「現代語・現代文化専攻、国際公共政策専攻、経済学専攻、法学専攻（以上、博士前・後期課程）、国際地域研究専攻（博士前期課程）、国際日本研究専攻（博士後期課程）」、大学院博士課程人間総合科学研究科「障害科学専攻（博士前・後期課程）心理専攻、生涯発達専攻、体育学専攻、スポーツ健康システム・マネジメント専攻（以上、博士前期課程）、教育基礎学専攻、生涯発達科学専攻、生命システム医学専攻、疾患制御医学専攻（以上、博士後期課程）」を設置
- 大学院修士課程教育研究科「特別支援教育専攻」を設置
21. 4 山田信博、学長に就任
- 大学院博士課程人間総合科学研究科「看護科学専攻（博士後期課程）」を設置

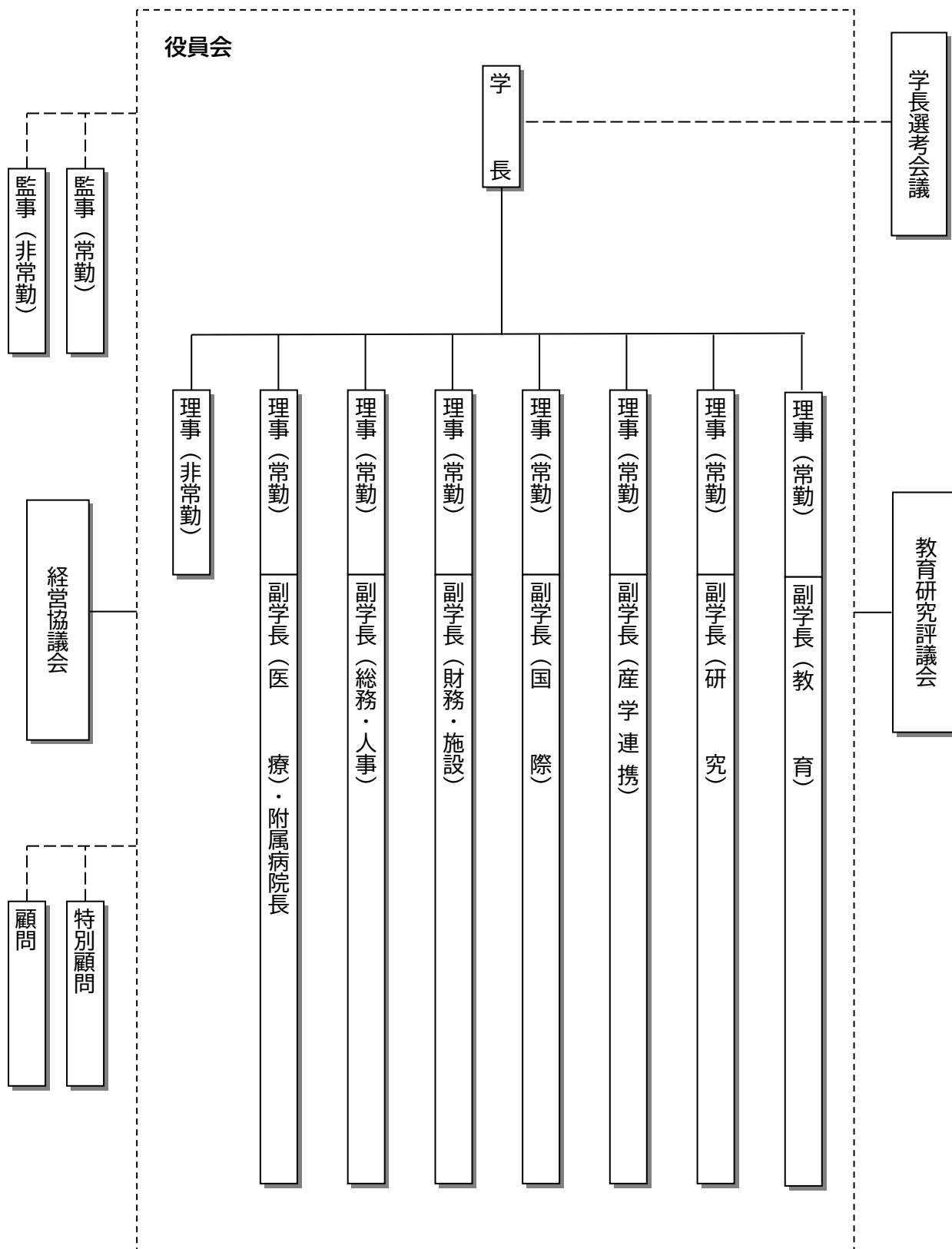
23. 4 教員組織である系(人文社会系、ビジネスサイエンス系、数理物質系、システム情報系、生命環境系、人間系、体育系、芸術系、医学医療系、図書館情報メディア系)を設置
大学院博士課程生命環境科学研究科「生物科学専攻(博士後期課程)」を設置
23. 10 サイバニクス研究センターを設置
23. 12 グローバル教育院を設置
24. 3 学系を廃止
24. 4 ヒューマンバイオロジー学位プログラム(5年一貫制博士課程)を設置
大学院博士課程数理物質科学研究科「ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻(博士後期課程)」、大学院博士課程生命環境科学研究科「生命共存科学専攻(5年一貫制)」を設置
24. 12 国際統合睡眠医科学研究機構を設置
アイソトープ環境動態研究センター(アイソトープ総合センター及び陸域環境研究センターを統合)を設置
25. 4 永田恭介、学長に就任
グローバル・コモンズ機構を設置
26. 4 エンパワーメント情報学プログラム(5年一貫制博士課程)を設置
システム情報工学研究科に社会工学学位プログラム(前期2年博士課程、後期3年博士課程)、サービス工学学位プログラム(前期2年博士課程)を設置
利益相反・輸出管理マネジメント室を設置
27. 4 ライフイノベーション学位プログラム(前期2年博士課程、後期3年博士課程)を設置
グローバルコミュニケーション教育センター(外国語センター及び留学生センターを統合)を設置
高細精医療イノベーション研究コアを設置
27. 6 つくば臨床医学研究開発機構を設置
27. 7 ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センターを設置
藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター(～令3.3)を設置
27. 10 ダイバーシティ・アクセビリティ・キャリアセンター(キャリア支援室、ダイバーシティ推進室、障害学生支援室を統合)を設置
つくばスポーツ医学・健康科学センターを設置
28. 4 URA 研究戦略推進室を設置
情報ガバナンス基盤室を設置
大学戦略室を設置
筑波大学50周年史編纂委員会を設置
筑波大学アーカイブズを設置
29. 1 プレシジョン・メディシン開発研究センターを設置
29. 4 地球規模課題学位プログラム(学士)を設置
山岳科学学位プログラム(修士課程)を設置
つくば機能植物イノベーション研究センター(遺伝子実験センター・農林技術センター(農場部門)を統合)を設置
人工知能科学センターを設置

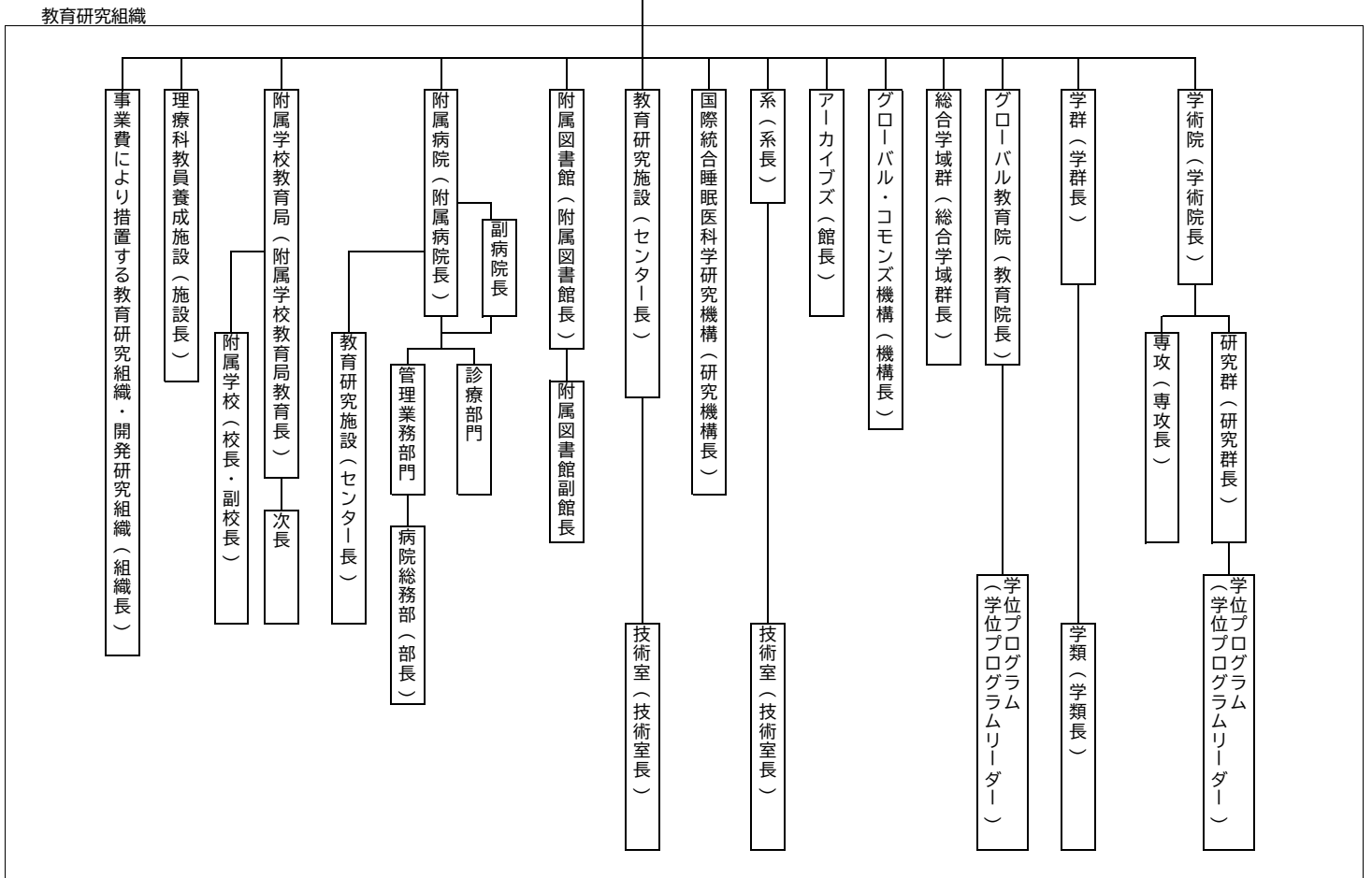
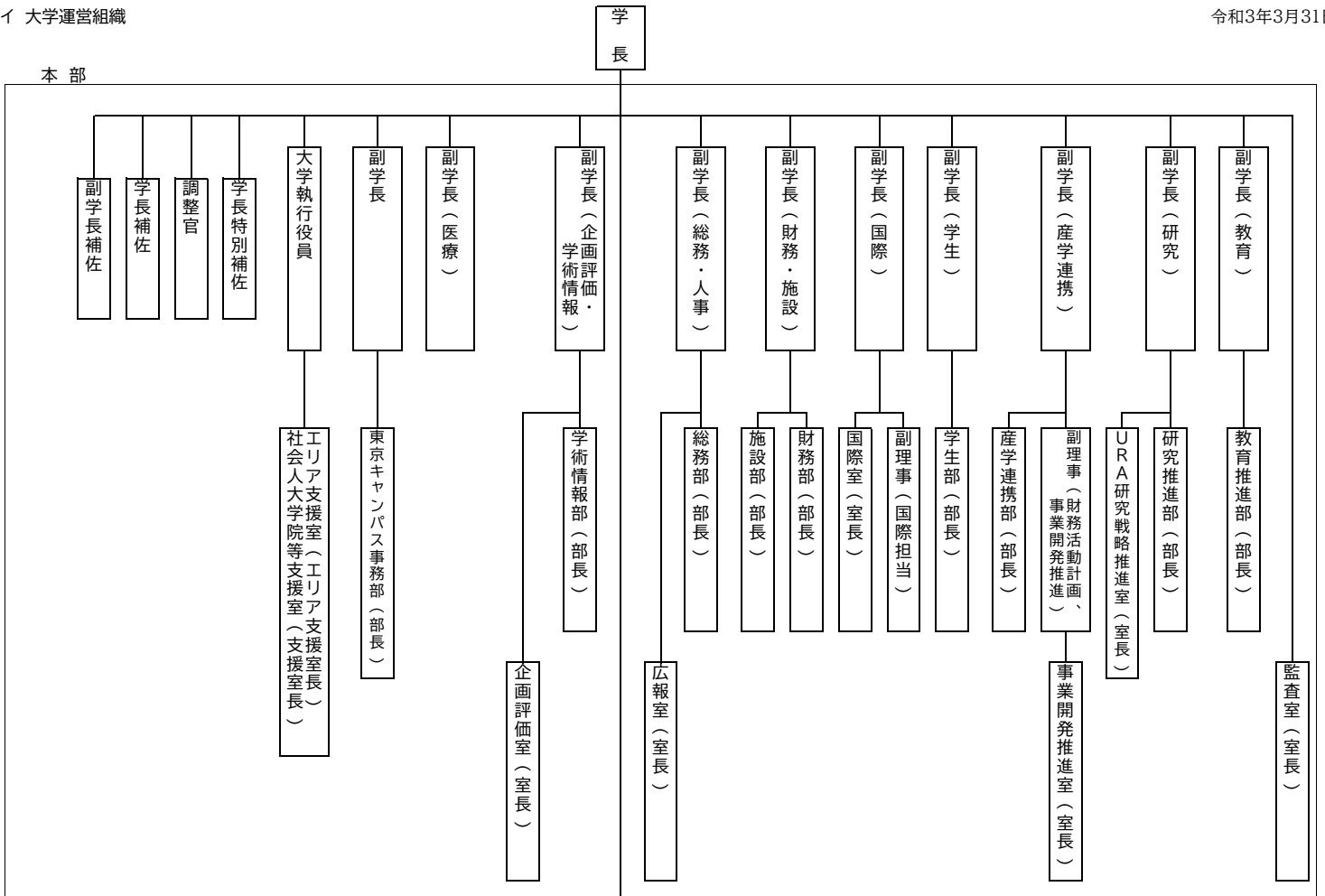
- 山岳科学センター（菅平高原実験センター及び農林技術センター演習林部門を統合）を設置
- トランスボーダー医学研究センターを設置
- スポーツイノベーション開発研究センターを設置
- 未来社会工学開発研究センターを設置
29. 6 国際イニシアティブ推進機構を設置
29. 7 ヘルスサービス開発研究センターを設置
- オリムピック・パラリンピック総合推進室を設置
29. 9 国際ジョイントディグリープログラム・人間総合科学研究科国際連携食料健康科学専攻（修士課程）を開設
29. 10 エネルギー物質科学研究センター（TREMS）（学際物質科学研究センター・数理物質融合科学センター（環境エネルギー材料研究拠点）を統合）を設置
- 宇宙史研究センターを設置
30. 4 研究センター等再編を実施（3センター群により編制）
- 先端研究センター群「計算科学研究センター、生存ダイナミクス研究センター、つくば機能植物イノベーション研究センター、下田臨海実験センター、プラズマ研究センター、地中海・北アフリカ研究センター、サイバニクス研究センター、アイソトープ環境動態研究センター、人工知能科学センター、陽子線医学利用研究センター、山岳科学センター、ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター、トランスボーダー医学研究センター、宇宙史研究センター、エネルギー物質科学研究センター、大学研究センター」、研究支援センター群「研究基盤総合センター、生命科学動物資源センター、学術情報メディアセンター」、教育等センター群「グローバルコミュニケーション教育センター、体育センター、アドミッションセンター、保健管理センター」
- 大学経営改革室を設置
- アスレチックデパートメントを設置
30. 10 微生物サステイナビリティ研究センターを設置
31. 2 テーラーメイド QOL プログラム開発研究センターを設置
31. 4 ヒューマニクス学位プログラム（5年一貫制博士課程）を設置
- 働く人への心理支援開発研究センターを設置
- 令元. 10 オープンイノベーション国際戦略機構を設置
- イノベティブ計測技術開発研究センターを設置
- 革新的創薬開発研究センターを設置
2. 4 大学院を学位プログラム制へ移行（3学術院6研究群により編制）
- 人文社会ビジネス科学学術院「人文社会科学研究群、ビジネス科学研究群」、理工情報生命学術院「数理物質科学研究群、システム情報工学研究群、生命地球科学研究群」、人間総合科学学術院「人間総合科学研究群」
- 総合学域群を設置
- 教育戦略室会議、教学デザイン室、教学マネジメント室（大学研究センターを統合）を設置
2. 6 デジタルネイチャー開発研究センターを設置

- 2 . 7 健幸イノベーション開発研究センターを設置
- 2 . 11 スマートウェルネスシティ政策開発研究センターを設置

(2) 運営組織等
ア 法人運営組織

令和3年3月31日現在





(3) 主要行事

入 学 式 学群(理療科教員養成施設を含む)・大学院 (※)
学群(秋学期入学)・大学院(秋学期入学) (※)

新入生オリエンテーション 学群(4月入学)
大学院

私費外国人研究生(4月入学)

国費外国人留学生(4月入学)

私費外国人研究生(10月入学)

国費外国人留学生(10月入学)

私費外国人研究生(12月入学)

スポーツ・デー 春 季 (※)
秋 季 (※)

入学試験等(学群)

- ・受験生のための筑波大学説明会
- ・令和3年度個別学力検査等(前期日程・後期日程)
- ・令和3年度アドミッションセンター入試
- ・令和3年度推薦入試
- ・令和2年度帰国生徒特別入試
- ・令和3年度帰国生徒特別入試(体育専門学群、芸術専門学群)
- ・令和3年度国際科学オリンピック特別入試
- ・令和3年度私費外国人留学生入試
- ・令和3年度私費外国人留学生特別コース入試
- ・令和3年度国際バカロレア特別入試
- ・令和2年度私費外国人留学生 Japan-Expert(学士)プログラム特別入試
- ・令和2年度地球規模課題学位プログラム(学士)入試
- ・令和3年度海外教育プログラム特別入試
- ・令和3年度研究型人材入試
- ・令和3年度学群編入学試験
- ・令和3年度学群編入学試験(社会・国際学群社会学類)
- ・令和3年度私費外国人留学生特別コース入試(編入学)
- ・令和3年度総合理工学位プログラム(学士)入試
- ・令和3年度帰国生徒特別入試(10月入学・英語コース)
- ・令和3年度大学入学共通テスト

入学試験(大学院)

令和3年度大学院入学者選抜

入試期 9月期・10月期・2月期

(専ら夜間において教育を行う課程の入試、特別プログラム入試等については、上記に限らず実施)

永年勤続者(20年)表彰式

永年勤続者(退職時)表彰式

名誉教授称号授与式 (※)

学園祭(雙峰祭) (※)

卒業式・学位記授与式

学群・大学院(9月期)

学群(理療科教員養成施設を含む)・大学院(3月期)

(※)新型コロナウイルス感染症の影響により未実施

(4) 役員・教職員数

ア 役員・教職員数総表

令和3年3月1日現在

職名	学長	理事・ 監事	副学長・ 系長	教授	准教授	講師	助教	助手	特任助教	大学教 員計	研究員等	附属学校 教員	事務・ 技術・ 医療職員	合計
部局名														
学長	1									0				1
理事・監事		10								0				10
副学長（理事でない）			3							3				3
本部（教員）				17	10	1	4			32				32
調整官										0				0
監査室										0			3	3
企画評価室										0			8	8
広報室										0			7	7
事業開発推進室										0			14	14
国際室										0			24	24
URA研究戦略推進室										0			21	21
総務部										0			79	79
財務部										0			64	64
施設部										0			41	41
教育推進部										0			73	73
学生部										0			68	68
研究推進部										0			69	69
産学連携部										0			66	66
学術情報部										0			74	74
総合学域群										0			7	7
人文社会系			1	73	81	4	45			204	7			211
人文社会エリア支援室										0			29	29
ビジネスサイエンス系			1	25	19	0	2		1	48				48
社会人大学院等支援室										0			17	17
数理工学系			1	66	71	20	66		1	225	9			234
数理工学エリア支援室										0			29	29
数理工学系技術室										0			11	11
システム情報系			1	70	76	5	54			206	13			219
システム情報エリア支援室										0			43	43
システム情報系技術室										0			11	11
生命環境系			1	76	72	9	75		5	238	24			262
生命環境エリア支援室										0			57	57
生命環境系技術室										0			20	20
人間系			1	41	28	4	25		8	107	5			112
人間エリア支援室										0			16	16
体育系			1	38	43	2	38		12	134	6			140
芸術系			1	24	23	0	15		1	64	2			66
体育芸術エリア支援室										0			34	34
医学医療系			1	126	106	162	104	1	2	502	9			511
医学医療エリア支援室										0			71	71
医学医療系技術室										0			33	33
図書館情報メディア系			1	20	22	5	14		1	63	1			64
図書館情報エリア支援室										0			20	20
利益相反・輸出管理マネジメント室										0			3	3
スポーツResearch&Developmentコア										0	6			6
グローバル・コモンズ機構										0			20	20
国際統合睡眠医学科学研究機構				9	6		14			29	25		25	79
計算科学研究センター				17	9	3	15			44	20			64
生存ダイナミクス研究センター				6		4	10			20	3			23
つくば機能植物イノベーション研究センター技術室										0			13	13
下田臨海実験センター										0	2			2
地中海・北アフリカ研究センター										0	2			2
サイバニクス研究センター										0				0
アイトープ環境動態研究センター										0	2		6	8
人工知能科学センター										0	3			3
研究基盤総合センター技術室										0			9	9
グローバルコミュニケーション教育センター										0	2			2
養殖イノベーションイノベーション開発センター										0	3			3
プレジジョン・メディスン開発研究センター										0	1			1
ヘルスサービス開発研究センター										0				0
イノベーション計測技術開発研究センター										0	1			1
革新的創業開発研究センター										0	1			1
働く人への心理支援開発研究センター										0				0
テラーメイドQOLプログラム開発研究センター										0	4			4
未来社会工学開発研究センター										0	2			2
アスレチックデパートメント										0	1			1
附属病院										0			1,208	1,208
病院総務部										0			298	298
附属学校教育局										0	1		58	59
附属学校										0		522		522
合計	1	10	13	608	566	219	481	1	31	1,919	155	522	2,649	5,256

イ 役員数

学長	理事	監事
1	8	2

ウ 大学教員異動状況

採用

	大学	研究所	企業	その他	総計
教授	12	2	2	3	19
准教授	9	1	2	5	17
講師	7	0	2	0	9
助教	27	0	8	34	69
特任助教	5	0	0	6	11
総計	60	3	14	48	125

退職

	大学	研究所	企業	定年	その他	総計
教授	9	0	4	34	16	63
准教授	6	0	5	3	4	18
講師	1	0	6	2	5	14
助教	22	1	13	1	14	51
特任助教	3	0	1	0	8	12
総計	41	1	29	40	47	158

(5) 予算決算

ア 貸借対照表

(令和3年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部			
I 固定資産			
1 有形固定資産			
土地	244,462,830		
土地減損損失累計額	<u>△1,200,197</u>	243,262,633	
建物	168,097,217		
建物減価償却累計額	<u>△88,816,466</u>		
建物減損損失累計額	<u>△789,393</u>	78,491,358	
構築物	12,511,820		
構築物減価償却累計額	<u>△7,704,420</u>		
構築物減損損失累計額	<u>△19,481</u>	4,787,919	
機械装置	109,132		
機械装置減価償却累計額	<u>△105,879</u>	3,253	
工具器具備品	67,088,224		
工具器具備品減価償却累計額	<u>△55,221,386</u>	11,866,837	
図書		10,376,553	
美術品・收藏品		918,460	
船舶	254,681		
船舶減価償却累計額	<u>△254,576</u>	104	
車両運搬具	160,311		
車両運搬具減価償却累計額	<u>△135,043</u>	25,268	
建設仮勘定		921,457	
その他の有形固定資産		<u>6,924</u>	
有形固定資産合計		350,660,766	
2 無形固定資産			
商標権		530	
特許権		168,611	
借地権		235,000	
電気施設利用権		14,142	
ソフトウェア		235,481	
電話加入権		8,549	
特許権仮勘定		189,949	
その他の仮勘定		502	
その他の無形固定資産		<u>106,663</u>	
無形固定資産合計		959,426	
3 投資その他の資産			
投資有価証券		3,299,987	
長期前払費用		5,150	
破産債権、再生債権、更生債権その他これらに準ずる債権	20,198		
貸倒引当金	<u>△20,198</u>	—	
長期未収附属病院収入	21,214		
徴収不能引当金	<u>△21,214</u>	—	
長期未収金	46,348		
貸倒引当金	<u>△23,174</u>	23,174	
その他の投資等		<u>2,164</u>	
投資その他の資産合計		3,330,475	
固定資産合計		<u>354,950,667</u>	
II 流動資産			
現金及び預金		19,783,178	
未収学生納付金収入		112,991	
未収附属病院収入	6,039,944		
徴収不能引当金	<u>△8,661</u>	6,031,283	
未収金	1,750,305		
貸倒引当金	<u>△5,238</u>	1,745,067	
有価証券		300,145	
たな卸資産		41,927	
医薬品及び診療材料		257,630	
前渡金		9,448	
前払費用		33,768	
未収収益		11,627	
未収消費税等		42,484	
その他の流動資産		<u>133,005</u>	
流動資産合計		<u>28,502,553</u>	
資産合計		<u>383,453,219</u>	

負債の部

I 固定負債

資産見返負債

資産見返運営費交付金等	10,657,597	
資産見返補助金等	2,141,981	
資産見返寄附金	3,254,069	
資産見返物品受贈額	8,437,394	
建設仮勘定見返運営費交付金	29,503	
建設仮勘定見返施設費	731,276	
建設仮勘定見返補助金	2,042	25,253,863

長期寄附金債務		200,000
大学改革支援・学位授与機構債務負担金		134,810
長期借入金		3,052,047
長期リース債務		2,122,062
長期PFI債務		17,731,632
退職給付引当金		909,006
資産除去債務		227,867
その他の固定負債		785,252

固定負債合計 50,416,538

II 流動負債

運営費交付金債務	1,242,819	
預り補助金等	223,843	
寄附金債務	5,481,446	
前受受託研究費	803,109	
前受共同研究費	1,020,567	
前受受託事業費等	164,427	
前受金	141,783	
預り科学研究費補助金等	726,043	
預り金	1,146,968	
一年以内返済予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	79,543	
一年以内返済予定長期借入金	108,847	
リース債務	1,515,362	
PFI債務	1,742,293	
未払金	11,545,821	
未払費用	13,596	
賞与引当金	745,854	

流動負債合計 26,702,321

負債合計 77,118,859

純資産の部

I 資本金

政府出資金	230,333,303	
資本金合計		<u>230,333,303</u>

II 資本剰余金

資本剰余金	146,984,146	
損益外減価償却累計額 (△)	△75,329,436	
損益外減損損失累計額 (△)	△1,965,898	
損益外利息費用累計額 (△)	△22,955	
資本剰余金合計		<u>69,665,858</u>

III 利益剰余金

前中期目標期間繰越積立金	2,420,860	
教育研究環境等整備積立金	460,824	
積立金	1,722,036	
当期未処分利益	1,731,480	
(うち当期総利益)	1,731,480)	
利益剰余金合計		<u>6,335,200</u>

純資産合計 306,334,360

負債純資産合計 383,453,219

イ 損益計算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(単位：千円)

経常費用			
業務費			
教育経費		7,256,105	
研究経費		6,710,570	
診療経費			
材料費	14,213,070		
委託費	3,858,402		
設備関係費	4,041,578		
研修費	8		
経費	1,139,294	23,252,352	
教育研究支援経費		2,112,913	
受託研究費		2,982,453	
共同研究費		1,701,491	
受託事業費等		847,199	
役員人件費		227,684	
教員人件費			
常勤教員給与	27,396,729		
非常勤教員給与	580,870	27,977,599	
職員人件費			
常勤職員給与	19,051,688		
非常勤職員給与	3,652,551	22,704,239	95,772,603
一般管理費			2,793,572
財務費用			
支払利息			327,280
雑損			91,028
経常費用合計			<u>98,984,482</u>
経常収益			
運営費交付金収益		35,259,111	
授業料収益		8,374,331	
入学金収益		1,348,129	
検定料収益		283,849	
附属病院収益		34,894,697	
受託研究収益		3,714,276	
共同研究収益		1,982,457	
受託事業等収益		918,652	
施設費収益		841,224	
補助金等収益		5,101,621	
寄附金収益		2,625,717	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	1,349,438		
資産見返補助金等戻入	549,666		
資産見返寄附金戻入	708,147		
資産見返物品受贈額戻入	7,006	2,614,256	
財務収益			
受取利息	11,942		
有価証券利息	14,750		
為替差益	4,121		
有価証券売却益	381	31,194	

雑益			
公開講座収入	33,623		
財産貸付料収入	241,332		
学生寄宿舍収入	537,574		
職員宿舍料収入	111,667		
文献複写料収入	3,391		
研究関連収入	866,536		
その他の雑益	876,010	2,670,134	
経常収益合計			100,659,648
経常利益			1,675,166
臨時損失			
固定資産除却損		114,652	
災害損失		5,838	120,490
臨時利益			
運営費交付金収益		3,114	
施設費収益		2,724	
資産見返運営費交付金等戻入		66,891	
資産見返寄附金戻入		26,652	
資産見返物品受贈額戻入		0	
資産見返補助金戻入		8,005	107,387
当期純利益			1,662,063
目的積立金取崩額			69,417
当期総利益			1,731,480

ウ 令和2事業年度 決算報告書

国立大学法人筑波大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)	備 考
収 入				
運営費交付金	37,386	38,592	1,206	(注1)
施設整備費補助金	6,082	5,431	△651	(注2)
船舶建造費補助金	—	—	—	
補助金等収入	2,521	5,688	3,167	(注3)
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	114	114	—	
自己収入	48,528	46,376	△2,152	
授業料、入学科及び検定料収入	9,244	9,018	△226	(注4)
附属病院収入	36,165	34,732	△1,433	(注5)
財産処分収入	1,007	806	△201	(注6)
雑収入	2,112	1,820	△292	(注7)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	13,259	13,371	111	(注8)
引当金取崩	791	743	△49	(注9)
長期借入金収入	1,211	1,211	—	
貸付回収金	5	17	12	(注10)
目的積立金取崩	564	103	△461	(注11)
出資金	—	—	—	
計	110,461	111,646	1,184	
支 出				
業務費	83,992	81,032	△2,960	(注12)
教育研究経費	48,550	46,922	△1,629	
診療経費	35,442	34,110	△1,332	
施設整備費	9,173	8,522	△651	(注13)
船舶建造費	—	—	—	
補助金等	2,272	3,236	964	(注14)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	13,259	10,349	△2,910	(注15)
貸付金	5	19	14	(注16)
長期借入金償還金	1,494	1,492	△3	
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	266	402	136	(注17)
出資金	—	—	—	
計	110,461	105,053	△5,408	
収入－支出	—	6,593	6,593	

- (注1) 運営費交付金については、追加予算の交付などにより、予算額に比して決算額が1,206百万円多額となっています。
- (注2) 施設整備費補助金については、一部事業を翌年度繰越のため、予算額に比して決算額が651百万円少額となっています。
- (注3) 補助金等収入については、新型コロナウイルス感染症に関する補助金などを獲得したため、予算額に比して決算額が3,167百万円多額となっています。本収入には、授業料等減免費交付金293百万円や、新型コロナウイルス感染症患者入院病床確保事業補助金2,158百万円が含まれており、本補助金は授業料等免除や入院病床確保事業に使用しております。
- (注4) 授業料、入学金及び検定料収入については、新型コロナウイルス感染症による留学生在籍者数の減少などにより、予算額に比して決算額が226百万円少額となっています。
- (注5) 附属病院収入については、新型コロナウイルス感染症による病床確保などの影響により、予算額に比して決算額が1,433百万円少額となっています。
- (注6) 財産処分収入については、事業計画の見直しにより、予算額に比して決算額が201百万円少額となっています。
- (注7) 雑収入については、新型コロナウイルス感染症により、寄宿舎料収入などが減少したため、予算額に比して決算額が292百万円少額となっています。
- (注8) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、積極的に資金の獲得に努めたことなどにより、予算額に比して決算額が111百万円多額となっています。
- (注9) 引当金取崩については、賞与引当金等の取崩しが減少したため、予算額に比して決算額が49百万円少額となっています。
- (注10) 貸付回収金については、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、学生などへの貸与が予算段階の見込みより増額したため、予算額に比して決算額が12百万円多額となっています。
- (注11) 目的積立金取崩については、事業計画の見直しにより、予算額に比して決算額が461百万円少額となっています。
- (注12) 業務費については、光熱水費の使用量の節減に努めたことや、翌年度に継続して行う事業を繰越したことにより、予算額に比して決算額が2,960百万円少額となっています。
- (注13) 施設整備費については、(注2)に示した理由を主な要因として、予算額に比して決算額が651百万円少額となっています。
- (注14) 補助金等については、予算段階では予定していなかった国からの補助金等の獲得に努めたため、予算額に比して決算額が964百万円多額となっています。
- (注15) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、翌年度に継続して行う事業を繰越したことにより、予算額に比して決算額が2,910百万円少額となっています。
- (注16) 貸付金については、(注10)に示した理由を主な要因として、予算額に比して決算額が14百万円多額となっています。
- (注17) 大学改革支援・学位授与機構施設費納付金については、職員宿舍跡地売却収入が予算段階の見込みより増額したため、予算額に比して決算額が136百万円多額となっています。

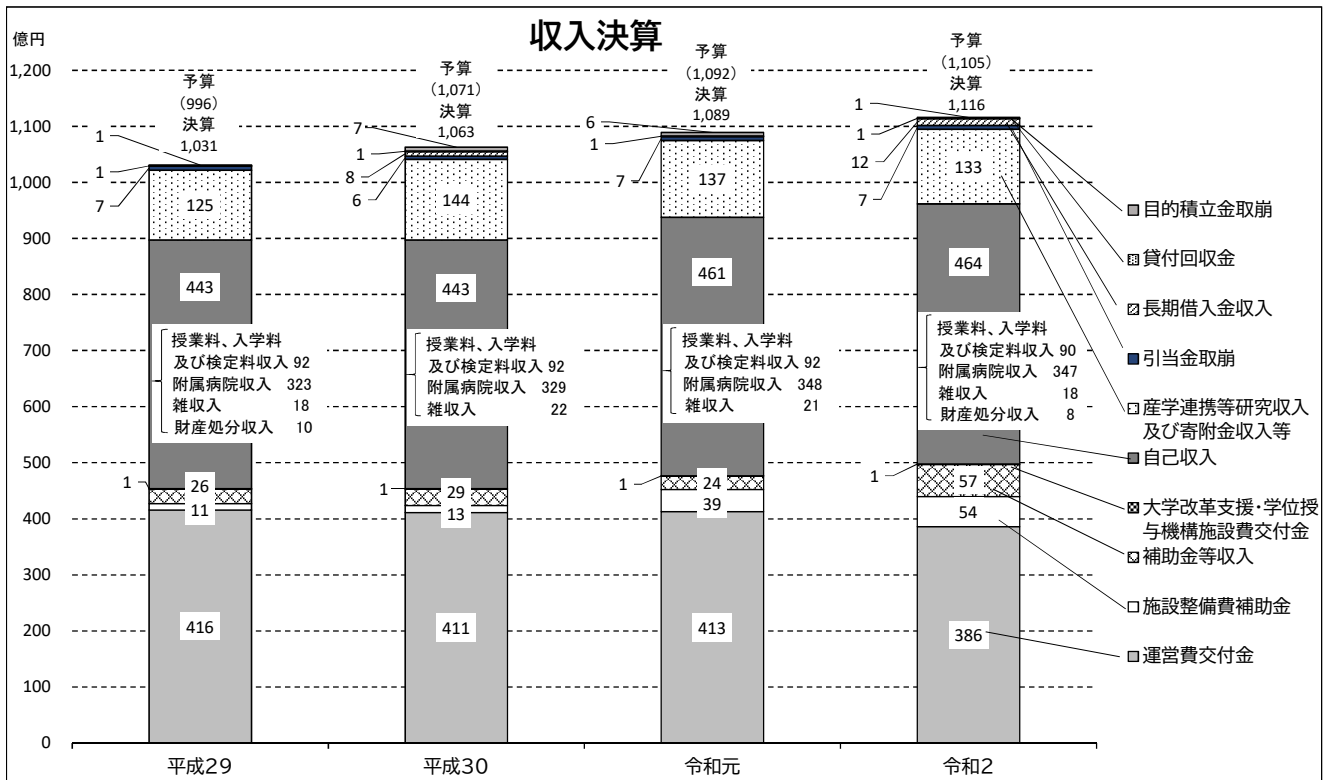
エ キャッシュ・フロー計算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

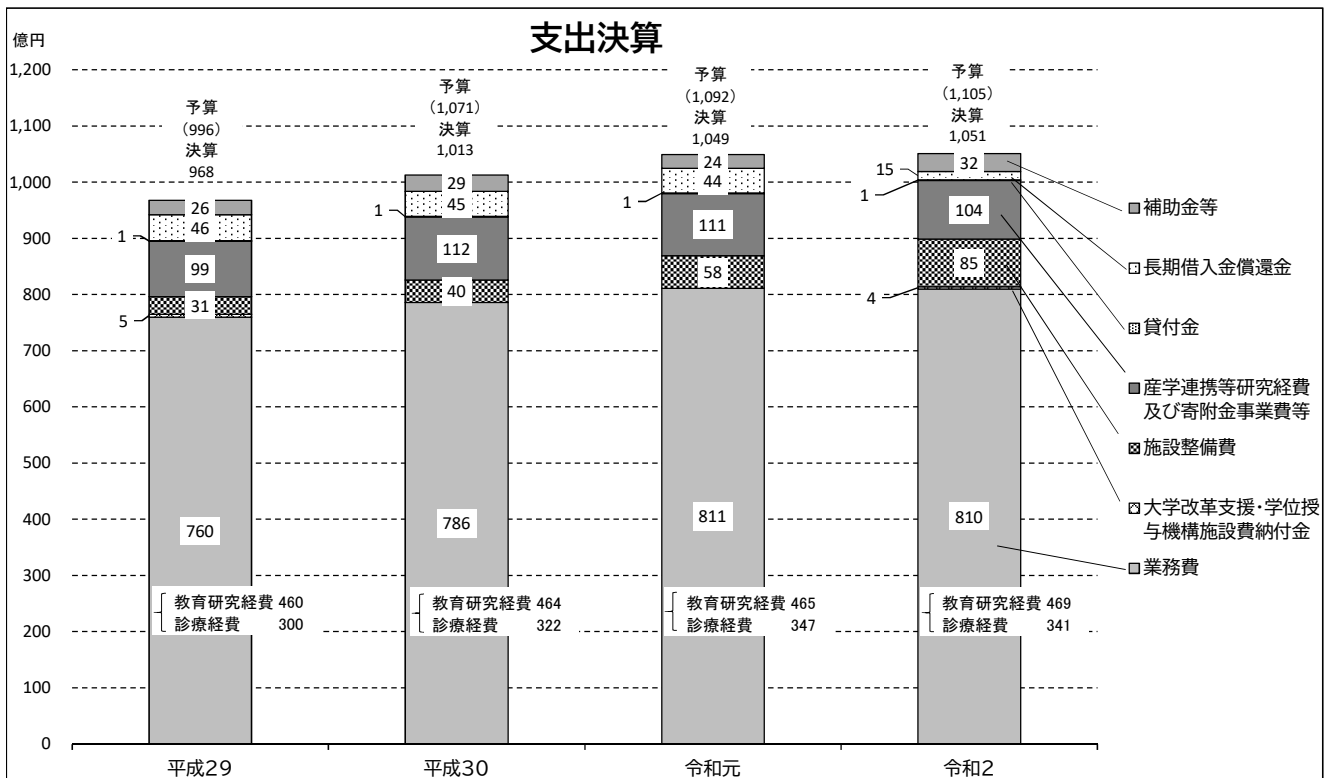
(単位：千円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
教育研究業務支出	△14,482,758
診療業務支出	△20,366,551
人件費支出	△51,572,116
その他の業務支出	△3,150,165
運営費交付金収入	37,730,529
授業料収入	7,423,582
入学金収入	1,309,110
検定料収入	283,309
附属病院収入	34,732,024
受託研究収入	4,520,981
共同研究収入	1,849,898
受託事業等収入	1,036,159
補助金等収入	5,060,735
補助金等の精算による返還金の支出	△57,598
寄附金収入	3,219,973
その他の業務収入	2,901,385
預り金の増加	230,442
業務活動によるキャッシュ・フロー	10,668,938
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△600,000
有価証券の売却による収入	305,421
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	△8,217,082
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	805,556
定期預金の預入による支出	△36,900,000
定期預金の払戻による収入	35,700,000
施設費による収入	5,615,751
施設費の精算による返還金の支出	△70,372
大学改革支援・学位授与機構への納付による支出	△402,232
資産除去債務の履行による支出	△15,254
その他の投資支出	△19,095
その他の投資収入	16,549
小計	△3,780,758
利息及び配当金の受取額	63,635
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,717,123
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	1,210,968
長期借入金の返済による支出	△1,321,461
大学改革支援・学位授与機構債務負担金の返済による支出	△135,853
リース債務の返済による支出	△1,562,547
その他の財務支出	△1,809,850
小計	△3,618,743
利息の支払額	△354,919
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,973,662
IV 資金に係る換算差額	△447
V 資金増加額	2,977,706
VI 資金期首残高	8,105,472
VII 資金期末残高	11,083,178

才 収入支出概況

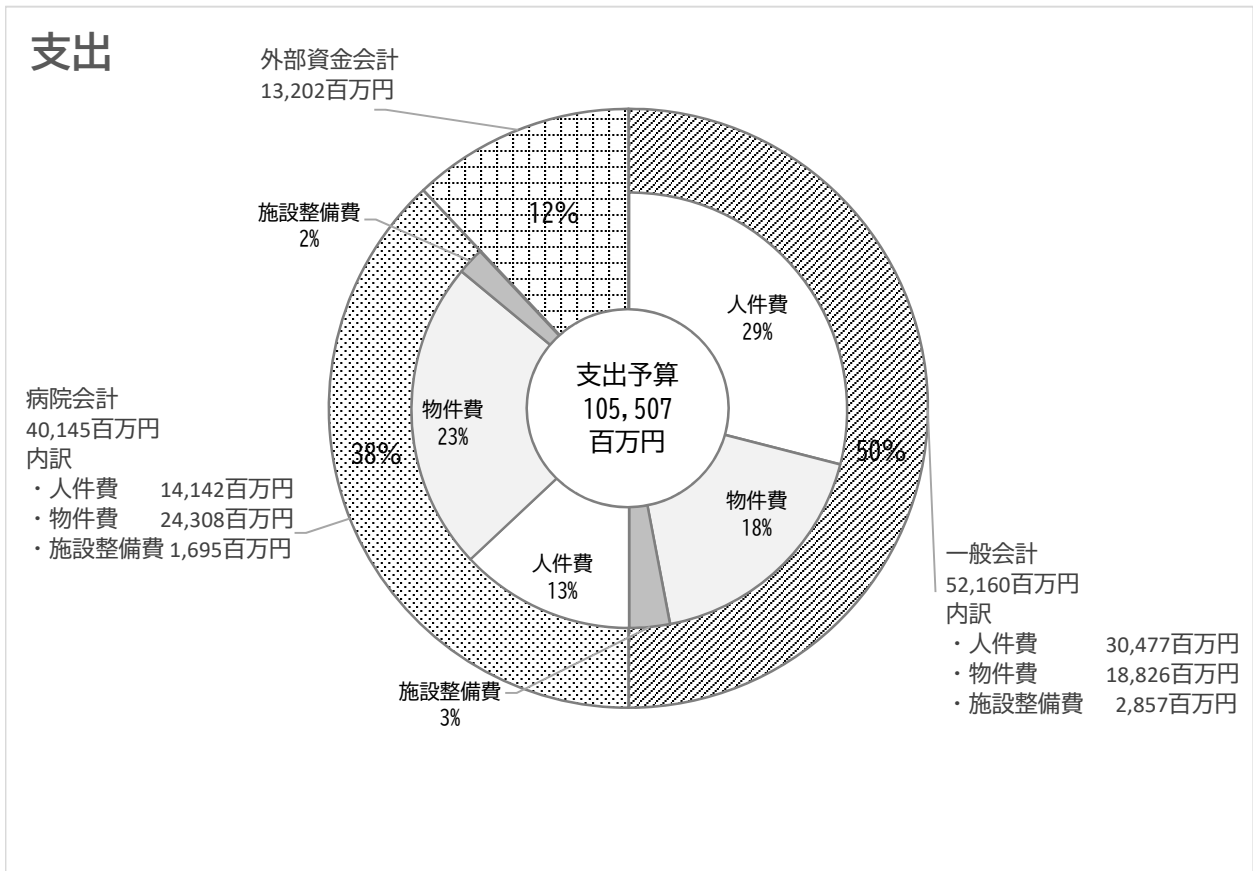
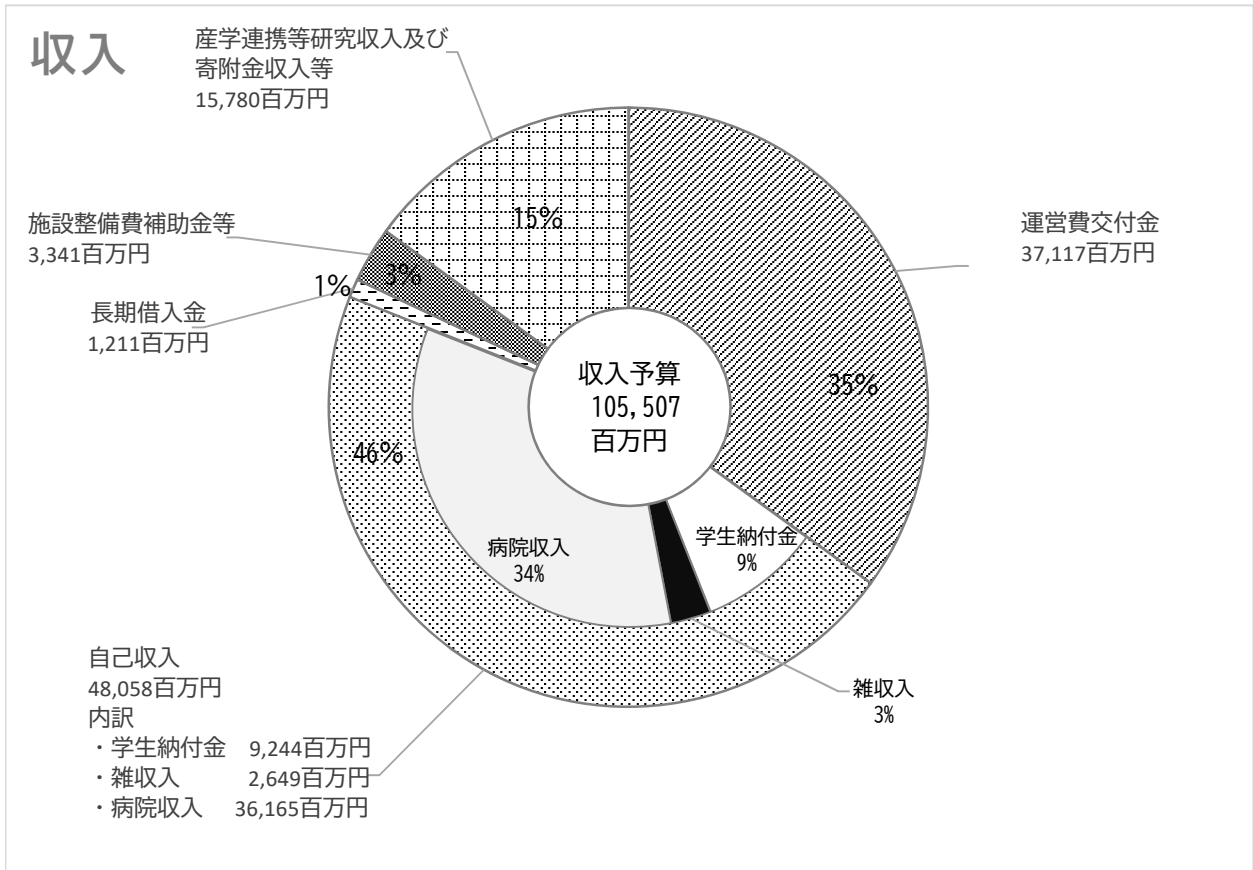


(注) 表中数字は決算額を、() は年度計画予算総額を指す。



(注) 表中数字は決算額を、() は年度計画予算総額を指す。

カ 令和2年度予算構成図（当初配分予算）



(注) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等の外部資金会計における収入と支出の差異は、支出予算において間接経費を一般会計に繰り入れているため生じたものである。

2 教育関係

(1) 学年暦

令和2年度学年暦

事項	学群	大学院 【 】は 東京キャンパス
春学期(4月1日～9月30日)		
学年開始	4月1日(水)	4月1日(水)
春季休業	4月1日(水)～4月4日(土)	4月1日(水)～4月4日(土) 【4月1日(水)～4月3日(金)】
春学期授業開始	4月27日(月)	4月27日(月) 【4月7日(火)】
春ABモジュール期末試験	6月29日(月)～7月3日(金)	6月29日(月)～7月3日(金)
春ABCモジュール期末試験	8月3日(月)～8月7日(金)	8月3日(月)～8月7日(金) 【7月25日(土)、7月28日(火)、7月30日(木)、 7月31日(金)、8月5日(火)】
春学期授業終了	8月7日(金)	8月7日(金) 【7月29日(水)】
期末試験予備日		【8月1日(土)、8月4日(火)、8月6日(木)】
夏季休業	8月8日(土)～9月30日(水)	8月8日(土)～9月30日(水) 【8月7日(金)～9月30日(水)】
卒業式	9月25日(金)	
大学院学位記授与式		9月25日(金)
秋学期(10月1日～3月31日)		
秋学期入学式	9月30日(水)	9月30日(水)
★1 開学記念日	10月1日(木)	10月1日(木)
秋学期授業開始	10月1日(木)	10月1日(木) 【10月1日(木)】
筑波キャンパス電気設備点検(全学停電)	10月下旬(予定)	10月下旬(予定)
★2 学園祭	11月6日(金)～11月8日(日)	11月6日(金)～11月8日(日)
秋Aモジュール末試験予備日	11月10日(火)	11月10日(火)
秋季スポーツデー	11月14日(土)～11月15日(日)	11月14日(土)～11月15日(日)
秋ABモジュール期末試験	12月22日(火)～12月28日(月)	12月22日(火)～12月28日(月)
冬季休業	12月29日(火)～1月5日(火)	12月29日(火)～1月5日(火) 【12月27日(日)～1月4日(月)】
秋ABCモジュール期末試験	2月4日(木)、2月9日(火)、2月10日(水)、 2月12日(金)、2月15日(月)	2月4日(木)、2月9日(火)、2月10日(水)、 2月12日(金)、2月15日(月) 【1月21日(木)、1月22日(金)、1月27日(水)、 1月30日(土)、2月2日(火)】
秋学期授業終了	2月15日(月)	2月15日(月) 【1月26日(火)】
期末試験予備日	2月16日(火)	2月16日(火) 【1月28日(木)、1月29日(金)、2月3日(水)】
春季休業	2月17日(水)～3月31日(水)	2月17日(水)～3月31日(水) 【2月4日(木)～3月31日(水)】
卒業式	3月25日(木)	
大学院学位記授与式		3月25日(木) 【3月27日(土)】
学年終了	3月31日(水)	3月31日(水) 【3月31日(水)】

(備考)

- ★1 10月1日(木)の開学記念日は、休講とせずに授業を実施する。
- ★2 学園祭の実施に伴い、11月6日(金)及び11月9日(月)の授業は臨時休講とする。(東京キャンパスを除く)
- 3 定期健康診断の日程については、別に定め、実施時間に当たる教育組織の授業は、臨時休講とする。(東京キャンパスを除く)
- 4 授業日数確保のため、下記のとおり授業を実施する。(東京キャンパスを除く)
 - 4月29日(祝)は水曜日の授業を実施する。
 - 5月9日(土)は月曜日の授業、5月16日(土)は火曜日の授業、5月23日(土)は水曜日の授業、5月30日(土)は月曜日の授業を実施する。
 - 6月6日(土)は火曜日の授業、6月13日(土)は水曜日の授業、6月20日(土)は木曜日の授業、6月27日(土)は金曜日の授業を実施する。
 - 7月23日(祝)は木曜日の授業、7月24日(祝)は金曜日の授業を実施する。
- 5 推薦入試の実施に伴い、11月25日(水)～11月27日(金)は全日臨時休業とする。(東京キャンパスを除く)
- 6 大学入学共通テストの実施に伴い、1月15日(金)及び1月18日(月)は全日臨時休業とする。(東京キャンパスを除く)
- 7 医学類に係る卒業日は令和3年3月10日とし、卒業式は上記日程に従い実施する。

※ 学期(学期の区分)は、春学期と秋学期の2学期とし、5週単位の6つ(春A, 春B, 春C, 秋A, 秋B, 秋C)のモジュールで構成する。

ウ 科目等履修生・研究生・特別聴講学生・特別研究学生

(令和2年度)

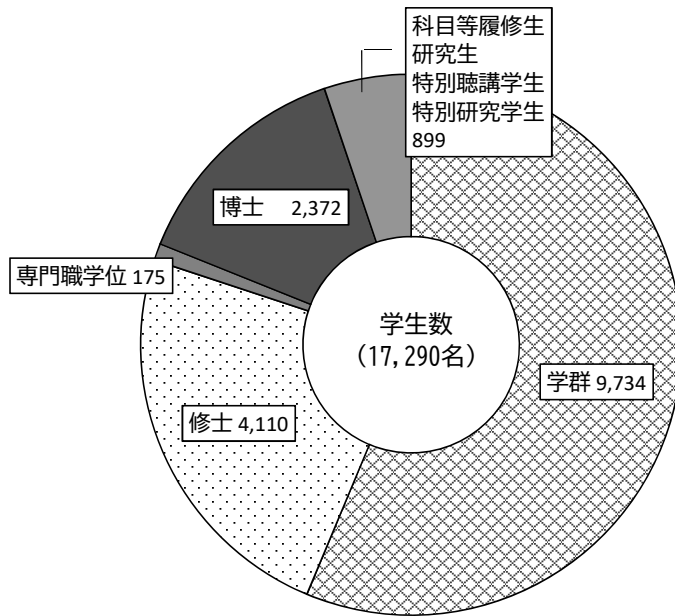
所 属		科目等履修生	研究生	特別聴講学生	特別研究学生	計
学 群	人文・文化 学群	人文学類	9 (3)	4 (3)	20 (17) ※20 ※(17)	33 (23) ※20 ※(17)
		比較文化学類	2 (2)	2	17 (12) ※17 ※(12)	21 (14) ※17 ※(12)
		日本語・日本文化学類	2 (1)	5 (4) ※5 ※(4)	17 (11) ※15 ※(10)	24 (16) ※20 ※(14)
	国際学群 社会・	社会学類	2 (1)	1	9 (4) ※7 ※(3)	12 (5) ※7 ※(3)
		国際総合学類			13 (9) ※13 ※(9)	13 (9) ※13 ※(9)
	学人間	教育学類	15 (6)	7 (3)	1 (1) ※1 ※(1)	23 (10) ※1 ※(1)
		心理学類	1 (1)	2 (1)	1	4 (2) ※0 ※(0)
		障害科学類	3 (2)	2 (1)		5 (3) ※0 ※(0)
	生命環境 学群	生物学類	3 (1)		3 (2) ※1 ※(1)	6 (3) ※1 ※(1)
		生物資源学類	6 (3)	1 (1)	3 (2) ※3 ※(2)	10 (6) ※3 ※(2)
		地球学類	4 (2)		3 (1) ※	7 (3) ※1 ※(0)
	理工学群	数学類	2			2 (0) ※0 ※(0)
		物理学類	3			3 (0) ※0 ※(0)
		化学類			1	1 (0) ※0 ※(0)
		応用理工学類	3 (1) ※1 ※(1)		1 (1) ※1 ※(1)	4 (2) ※2 ※(2)
		工学システム学類	2 ※1	1	2 (2) ※1 ※(1)	5 (2) ※2 ※(1)
		社会工学類	1	1	4 (3) ※4 ※(3)	6 (3) ※4 ※(3)
	情報学群	情報科学類	4	1 (1)	3 (1) ※2 ※(1)	8 (2) ※2 ※(1)
		情報メディア創成学類		1	3 ※	4 (0) ※1 ※(0)
		知識情報・図書館学類	3 (2)			3 (2) ※0 ※(0)
	医学群	医学類			2 (2)	2 (2) ※0 ※(0)
		看護学類		1		1 (0) ※0 ※(0)
		医療科学類			4 (4)	4 (4) ※0 ※(0)
	体育専門学群	22 (5)	15 (3)			37 (8) ※0 ※(0)
	芸術専門学群	19 (15) ※1 ※(1)		3 (3)		22 (18) ※1 ※(1)
	学 群 計	106 (45) ※3 ※(2)	44 (17) ※5 ※(4)	110 (75) ※87 ※(61)	0 (0) ※0 ※(0)	260 (137) ※95 ※(67)

所 属		科目等履修生	研究生	特別聴講学生	特別研究学生	計		
大 学 院	旧 組 織	教育研究科	9 (6) ※9 ※(6)			9 (6) ※9 ※(6)		
		人文社会科学研究科 (修士・博士前期課程)	8 (8) ※8 ※(8)	1 (1) ※1 ※(1)	7 (5) ※7 ※(5)	16 (14) ※16 ※(14)		
		ビジネス科学研究科 (博士前期・専門職学位課程)		5 (2)		5 (2) ※0 ※(0)		
		数理工学科学研究科 (博士前期課程)	9 (1) ※9 ※(1)	1	1 ※1	11 (1) ※11 ※(1)		
		システム情報工学研究科 (博士前期課程)	31 (10) ※31 ※(10)	4 (3) ※4 ※(3)	2 ※2	37 (13) ※37 ※(13)		
		生命環境科学研究科 (博士前期課程)	10 (4) ※10 ※(4)		3 (2) ※3 ※(2)	13 (6) ※13 ※(6)		
		人間総合科学研究科 (修士・博士前期課程)	26 (16) ※24 ※(14)		3 (2) ※3 ※(2)	29 (18) ※27 ※(16)		
		図書館情報メディア研究科 (博士前期課程)	1 ※1			1 (0) ※1 ※(0)		
		小 計	0 (0) ※0 ※(0)	94 (45) ※92 ※(43)	11 (6) ※6 ※(4)	16 (9) ※16 ※(9)	121 (60) ※114 ※(56)	
	一貫制・博士後期・3年制博士課程	人文社会科学研究科 (一貫制博士課程)	2 (1) ※2 ※(1)			14 (10) ※14 ※(10)		
		人文社会科学研究科 (博士後期課程)	1 (1) ※1 ※(1)		1 (1) ※1 ※(1)	2 (2) ※2 ※(2)		
		ビジネス科学研究科 (博士後期課程)	2 (1)			2 (1) ※0 ※(0)		
		数理工学科学研究科 (博士後期・3年制博士課程)	4 (2) ※4 ※(2)		1 ※1	5 (2) ※4 ※(2)		
		システム情報工学研究科 (博士後期課程)	2 (1) ※2 ※(1)		2 ※2	4 (1) ※3 ※(1)		
		生命環境科学研究科 (博士後期・3年制博士課程)	6 (5) ※5 ※(4)		1 (1) ※1 ※(1)	7 (6) ※6 ※(5)		
		生命環境科学研究科 (一貫制博士課程)				0 (0) ※0 ※(0)		
		人間総合科学研究科 (博士後期・3年制博士課程)	4 (4) ※4 ※(3)		1 (1) ※1 ※(1)	5 (5) ※4 ※(4)		
		人間総合科学研究科 (医学の課程)	4 (1) ※4 ※(1)		1 (1)	5 (2) ※3 ※(1)		
	図書館情報メディア研究科 (博士後期課程)				0 (0) ※0 ※(0)			
小 計	0 (0) ※0 ※(0)	25 (16) ※16 ※(13)	0 (0) ※0 ※(0)	21 (14) ※20 ※(13)	46 (30) ※38 ※(26)			
新 組 織	修士・博士前期・専門職学位課程	人文社会科学研究群 (博士前期課程)	2 (2) ※1 ※(1)	34 (25) ※34 ※(25)	1 (1) ※1 ※(1)		37 (28) ※36 ※(27)	
		ビジネス科学研究群 (博士前期・専門職学位課程)	31 (13)	2 (1)			33 (14) ※0 ※(0)	
		数理工学科学研究群 (博士前期課程)	2 (1)	36 (5) ※36 ※(5)			38 (6) ※36 ※(5)	
		システム情報工学研究群 (博士前期課程)	2 (1)	55 (17) ※55 ※(16)	1 (1)		58 (19) ※53 ※(16)	
		生命地球科学研究群 (博士前期課程)	1 (1)	68 (36) ※66 ※(35)	12 (1)	1 ※1	82 (38) ※67 ※(35)	
		人間総合科学研究群 (修士・博士前期)	51 (34)	95 (57) ※89 ※(51)			146 (91) ※83 ※(51)	
		小 計	89 (52) ※81 ※(51)	290 (141) ※272 ※(132)	14 (3) ※1 ※(1)	1 (0) ※1 ※(0)	394 (196) ※275 ※(134)	
		一貫制・博士後期・3年制博士課程	人文社会科学研究群 (博士後期課程)	2 (2) ※1 ※(1)	6 (4) ※6 ※(4)	1 (1) ※1 ※(1)		9 (7) ※8 ※(6)
			ビジネス科学研究群 (博士後期課程)	1				2 (0) ※0 ※(0)
	数理工学科学研究群 (博士後期課程)			5 (1) ※5 ※(1)			5 (1) ※5 ※(1)	
	システム情報工学研究群 (一貫制博士・博士後期課程)			7 (2) ※6 ※(2)			7 (2) ※6 ※(2)	
	生命地球科学研究群 (博士後期課程)			9 (7) ※9 ※(7)		1 (1) ※1 ※(1)	10 (8) ※10 ※(8)	
	人間総合科学研究群 (博士後期・3年制博士課程)			12 (10) ※12 ※(2)		1	13 (10) ※4 ※(2)	
	人間総合科学研究群 (一貫制・医学の課程)			5 (3) ※5 ※(3)	7 (4)	1	13 (7) ※5 ※(3)	
	法曹専攻 (専門職学位課程)		17 (5) ※1 ※(1)				17 (5) ※1 ※(1)	
	国際経営プロフェッショナル専攻 (専門職学位課程)		2 (0) ※0 ※(0)				2 (0) ※0 ※(0)	
	小 計	22 (7) ※2 ※(2)	45 (27) ※35 ※(19)	8 (5) ※1 ※(1)	3 (1) ※1 ※(1)	78 (40) ※39 ※(23)		
	大 学 院 計	111 (59) ※93 ※(3)	454 (229) ※417 ※(207)	33 (14) ※8 ※(6)	41 (24) ※38 ※(23)	639 (326) ※466 ※(239)		
	合 計	217 (104) ※146 ※(5)	498 (246) ※426 ※(211)	143 (89) ※95 ※(67)	41 (24) ※38 ※(23)	899 (463) ※561 ※(306)		

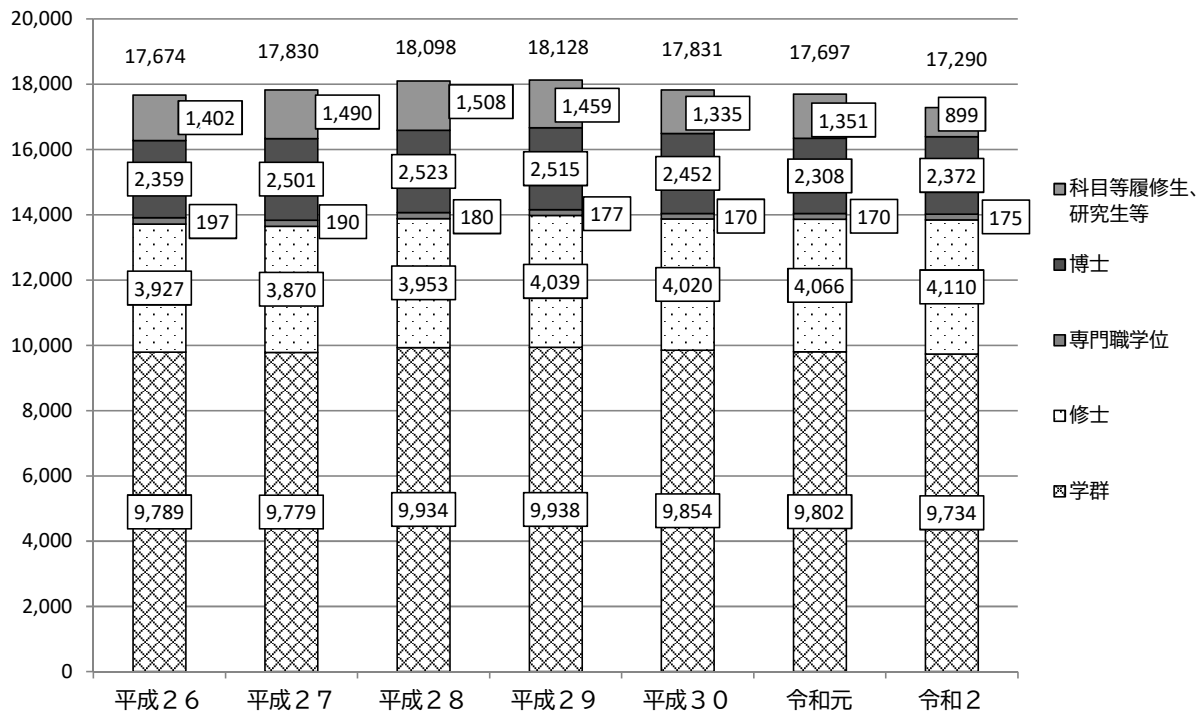
(注) 1 ()は女子を、※は外国人留学生(ただし、科目等履修生については、外国人の履修者)を、それぞれの内数で示す。
2 日本語・日本文化研修留学生は、平成28年入学者までを学群の科目等履修生、平成29年度入学者より学群の特別聴講学生として受け入れている。

工 学生数の内訳及び近年の推移

【令和2年度 学生数の内訳】



【近年の推移】



オ 附属学校の定員・現員

(令和3年3月31日現在)

学 校 名	入学定員	総定員	現 員							計	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			
附属小学校	128	768	128	128	126	127	125	124	758		
附属中学校	200	600	205	204	205				614		
附属駒場中学校	120	360	123	123	123				369		
附属高等学校	240	720	252	241	231				724		
附属駒場高等学校	160	480	164	162	160				486		
附属坂戸高等学校	160	480	158	154	155				467		
附属 視覚 特別 支援 学校	幼稚部	5	10	8	3				11		
	小学部	9	54	6	6	2	8	4	8	34	
	中学部	12	36	8	12	12				32	
	高等部	16	56	17	16	16				49	
	高等部 専攻科	鍼灸手技療法科	16	48	10	5	12				27
		音楽科	8	16	0	0					0
		理学療法科	8	24	6	1	5				12
		鍼灸手技療法研修科	8	8	0						0
小 計	82	252							165		
附属 聴覚 特別 支援 学校	幼稚部	10	30	6	8	7				21	
	小学部	12	72	4	7	10	11	12	12	56	
	中学部	12	36	15	14	13				42	
	高等部	24	72	27	25	26				78	
	高等部 専攻科	造形芸術科	8	16	2	4					6
		ビジネス情報科	8	16	7	8					15
		歯科技工科	10	30	6	3	1				10
	小 計	84	272							228	
附属 大塚 特別 支援 学校	幼稚部	5	10	2	8					10	
	小学部	4	24	4	3	4	4	4	4	23	
	中学部	6	18	6	6	6				18	
	高等部	8	24	8	7	8				23	
	小 計	23	76							74	
附属 桐が丘 特別 支援 学校	小学部	8	63	9	5	9	14	5	9	51	
	中学部	10	39	17	10	9				36	
	高等部	12	39	9	11	8				28	
	小 計	30	141							115	
附属 久里浜 特別 支援 学校	幼稚部	6	18	4	7	5				16	
	小学部	6	36	6	5	6	6	6	5	34	
	小 計	12	54							50	
附属学校合計		1,239	4,203							4,050	

(3) 開設授業科目

ア 学群

学 群 ・ 学 類		令和2
人 文 ・ 文 化 学 群	学群コア	10
	人文学類	617
	比較文化学類	382
	日本語・日本文化学類	160
社 会 ・ 国 際 学 群	学群共通	5
	社会学類	227
	国際総合学類	143
	社会国際学教育プログラム	94
人 間 学 群	学群コア	7
	教育学類	124
	心理学類	67
	障害科学類	99
生 命 学 群 環 境	学群コア	16
	生物学類	200
	生物資源学類	243
	地球学類	139
理 工 学 群	学群共通科目	60
	数学類	111
	物理学類	74
	化学類	60
	応用理工学類	241
	工学システム学類	292
	社会工学類	125
	総合理工学位プログラム	47
情 報 学 群	学群共通科目	34
	情報科学類	117
	情報メディア創成学類	100
	知識情報・図書館学類	134
医 学 群	医学類	63
	看護学類	122
	医療科学類	114
	国際医療科学人養成プログラム	32
体育専門学群		326
芸術専門学群		497
グローバル教育院 地球規模課題学位プログラム		16
共 通	総合科目	270
	体育	305
	外国語	854
	国語	54
	芸術	12
	情報	135
	日本語・日本事情等	
	教職科目及び博物館に関する科目	217
	全学群対象	14
	自由科目（特設）	38
計		7,130

注：①本表は、開設授業科目一覧で開設された5月現在の開設授業科目数

②総合科目には、フレッシュマンセミナー含む。

③「情報」は平成25年度から「情報処理」より名称変更

④外国語には、短期留学生用の日本語科目を含む。

⑤日本語・日本文化研修留学生・外国人留学生等用の補講科目は以下のとおり（平成27年度から集計記載）。

⑥日本語・日本事情等科目は平成28年度から廃止し、拡充の上、外国語（日本語）及び総合科目へ移行。

注⑤の科目	令和2
	190

イ 大学院

旧組織

大学院共通科目			1
自然保護寄付講座			32
教育研究科	修士課程	基礎科目	1
		教科教育専攻	322
		スクールリーダーシップ開発専攻	39
		教育学(国際教育)修士プログラム	24
人文社会科学研究科	修士課程	国際地域研究専攻	331
	博士前期課程	現代語・現代文化専攻	96
		国際公共政策専攻	155
		国際日本研究専攻 ^{※1}	276
	博士後期課程	現代語・現代文化専攻	56
		国際公共政策専攻	114
		国際日本研究専攻 ^{※2}	296
	一貫制博士課程	哲学・思想専攻	95
		歴史・人類学専攻	154
		文芸・言語専攻	176
数理物質科学研究科	博士前期課程	数理物質科学研究科共通	7
		数学専攻	80
		物理学専攻	264
		化学専攻	346
		電子・物理工学専攻	115
		物性・分子工学専攻	130
	博士後期課程	数学専攻	59
		物理学専攻	138
		化学専攻	179
		ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻	30
		電子・物理工学専攻	12
	3年制博士課程	物性・分子工学専攻	48
		物質・材料工学専攻	20
システム情報工学研究科	博士前期課程	研究科共通科目	2
		社会工学専攻	82
		リスク工学専攻	50
		コンピュータサイエンス専攻	57
		知能機能システム専攻	65
		構造エネルギー工学専攻	41
	博士後期課程	研究科共通科目	13
		社会工学専攻	18
		リスク工学専攻	19
		コンピュータサイエンス専攻	7
		知能機能システム専攻	17
		構造エネルギー工学専攻	2
		地球科学専攻	117
生命環境科学研究科	博士前期課程	生物科学専攻	93
		生物資源科学専攻	519
		環境科学専攻	86
		山岳科学学位プログラム	49
		地球環境科学専攻	39
	博士後期課程	地球進化科学専攻	55
		生物科学専攻	66
		国際地縁技術開発科学専攻	82
		生物圏資源科学専攻	70
		生物機能科学専攻	70
3年制博士課程	生命産業科学専攻	52	
	持続環境学専攻	13	
一貫制博士課程	先端農業技術科学専攻	18	
人間総合科学研究科(筑波)	修士課程	環境バイオマス共生学専攻	37
		スポーツ国際開発学共同専攻	39
		フロンティア医科学専攻	90
		国際連携食料健康科学専攻	40

人間総合科学研究科（筑波）	博士前期課程	教育学専攻	44
		心理専攻	67
		障害科学専攻	105
		感性認知脳科学専攻	39
		体育学専攻	263
		芸術専攻	230
		世界遺産専攻	33
		看護科学専攻	87
	博士後期課程	教育基礎学専攻	36
		学校教育学専攻	30
		心理学専攻	23
		障害科学専攻	24
		感性認知脳科学専攻	57
		体育科学専攻	16
		芸術専攻	8
		世界文化遺産学専攻	12
	3年制博士課程	看護科学専攻	25
		ヒューマン・ケア科学専攻	80
		スポーツ医学専攻	5
コーチング学専攻		18	
一貫制博士課程	大学体育スポーツ高度化共同専攻	13	
	生命システム医学専攻	57	
	疾患制御医学専攻	45	
	関東がん専門医療人養成プログラム	42	
人間総合科学研究科（東京）	修士課程	スポーツ健康システム・マネジメント専攻	67
	博士前期課程	生涯発達専攻	83
	博士後期課程	生涯発達科学専攻	30
	3年制博士課程	スポーツウエルネス学位プログラム	8
図書館情報メディア研究科	博士前期課程	図書館情報メディア専攻	84
	博士後期課程	図書館情報メディア専攻	63
ビジネス科学研究科	博士前期課程	経営システム科学専攻	96
	博士後期課程	企業法学専攻	124
	専門職学位課程	企業科学専攻	131
グローバル教育院	専攻	法曹専攻	82
		国際経営プロフェッショナル専攻	92
	博士前期課程	ライフイノベーション学位プログラム	38
	博士後期課程	ライフイノベーション学位プログラム	17
	一貫制博士課程	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	34
		エンパワーメント情報学プログラム	38
		ヒューマニクス学位プログラム	69
合計			7,919

※1 日・独・韓3大学共同学位プログラムの36科目含む

※2 インターファカルティ教育研究イニシアティブの50科目含む

新組織

大学院共通科目			62		
自然保護寄付講座			27		
人文社会ビジネス科学学術院	学術院共通専門基盤科目		19		
	人文社会科学研究群	博士前期課程	研究群共通科目	6	
			人文学学位プログラム	410	
			国際公共政策学位プログラム	168	
		博士後期課程	国際日本研究学位プログラム	113	
			人文学学位プログラム	94	
			国際公共政策学位プログラム	98	
	ビジネス科学研究群	博士前期課程	国際日本研究学位プログラム	131	
			研究群共通科目	4	
			法学学位プログラム	84	
		博士後期課程	経営学学位プログラム	40	
研究群共通科目			5		
法学学位プログラム			43		
法曹専攻	専門職学位課程	法曹専攻	81		
国際経営プロフェッショナル専攻	専門職学位課程	国際経営プロフェッショナル専攻	74		
学術院共通専門基盤科目			34		
理工情報生命学術院	数理物質科学研究群	博士前期課程	研究群共通科目	3	
			数学学位プログラム	58	
			物理学学位プログラム	229	
			化学学位プログラム	119	
			応用理工学学位プログラム	213	
		国際マテリアルズイノベーション学位プログラム	46		
		博士後期課程	数学学位プログラム	50	
			物理学学位プログラム	140	
			化学学位プログラム	59	
			応用理工学学位プログラム	76	
	国際マテリアルズイノベーション学位プログラム		37		
	システム情報工学研究群	博士前期課程	研究群共通科目	187	
			社会工学学位プログラム	17	
			サービス工学学位プログラム	15	
			リスク・レジリエンス工学学位プログラム	11	
			情報理工学位プログラム	15	
		博士後期課程	知能機能システム学位プログラム	28	
			構造エネルギー工学学位プログラム	13	
			社会工学学位プログラム	11	
			リスク・レジリエンス工学学位プログラム	11	
			情報理工学位プログラム	13	
	一貫制博士課程	エンパワーメント情報学プログラム	6		
	生命地球科学研究群	博士前期課程	研究群共通科目	13	
			生物学学位プログラム	78	
生物資源科学学位プログラム			134		
環境科学学位プログラム			48		
山岳科学学位プログラム			33		
博士後期課程		地球科学学位プログラム	93		
		生物学学位プログラム	52		
		農学学位プログラム	15		
		生命農学学位プログラム	13		
		生命産業科学学位プログラム	16		
国際連携持続環境科学専攻	博士前期課程	国際連携持続環境科学専攻	62		
環境科学学位プログラム		6			
国際連携持続環境科学専攻	博士前期課程	国際連携持続環境科学専攻	33		
学術院共通専門基盤科目			31		
人間総合科学学術院 (筑波)	人間総合科学研究群 (筑波)	修士課程	フロンティア医科学学位プログラム	57	
			公衆衛生学学位プログラム	19	
			博士前期課程	教育学学位プログラム	288
				心理学学位プログラム	54
				障害科学学位プログラム	91
				ニューロサイエンス学位プログラム	19
		看護科学学位プログラム		77	
		体育学学位プログラム		216	
		博士後期課程	スポーツ・オリンピック学学位プログラム	29	
			芸術学学位プログラム	165	
			デザイン学学位プログラム	37	
			世界遺産学学位プログラム	33	
	情報学学位プログラム		52		
	教育学学位プログラム		53		
	3年制博士課程	心理学学位プログラム	15		
		障害科学学位プログラム	24		
		ニューロサイエンス学位プログラム	13		
		看護科学学位プログラム	11		
		体育科学学位プログラム	14		
		芸術学学位プログラム	4		
	医学を履修する博士課程	デザイン学学位プログラム	11		
		世界遺産学学位プログラム	1		
	一貫制博士課程	情報学学位プログラム	21		
	スポーツ国際開発学共同専攻	ヒューマン・ケア科学学位プログラム	5		
大学体育スポーツ高度化共同専攻	パブリックヘルス学位プログラム	5			
国際連携食料健康科学専攻	スポーツ医学学位プログラム	8			
	コーチング学学位プログラム	4			
	医学学位プログラム	128			
	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	53			
	修士課程	38			
	3年制博士課程	13			
	修士課程	49			
	国際連携食料健康科学専攻				

人間総合科学学術院（東京）	人間総合科学研究群（東京）	博士前期課程	カウンセリング学位プログラム	47
			リハビリテーション科学学位プログラム	42
			スポーツウエルネス学位プログラム	59
		博士後期課程	カウンセリング科学学位プログラム	24
			リハビリテーション科学学位プログラム	18
			スポーツウエルネス学位プログラム	7
グローバル教育院		一貫制博士課程	ヒューマンクス学位プログラム	28
		博士前期課程	ライフイノベーション学位プログラム	40
		博士後期課程	ライフイノベーション学位プログラム	16
		合計		5,437

(4) 卒業・修了者等数

ア 学群卒業者

(令和3年3月31日現在)

学群・学類	卒業 年次 定員	編入学 定員	本年度卒業者(学位「学士」取得者)数				累計
			学位記		計		
人文・ 学文化	人文学類	120	人文学	120 (59) ※1	120 (59) ※1	938 (495) ※1	
	比較文化学類	80	人文 比較文化学	0 (0)	81 (51) ※3	661 (467) ※10	
	日本語・日本文化学類	40	比較文化学 日本語教育	81 (51) ※3 44 (31) ※1 3 (3) ※2	47 (34) ※3	327 (242) ※5	
	小計	240	<0>	248 (144) ※7	248 (144) ※7	1,926 (1,204) ※16	
社会・国際学群	社会学類	80	<10>	社会学	31 (16)	99 (39) ※5	743 (295) ※26
				政治学	21 (9)		
				経済学	22 (6)		
				国際社会学	21 (4) ※1		
	国際総合学類	80	<10>	国際社会学	4 (4) ※4	84 (43) ※11	663 (395) ※46
小計	160	<10>	国際関係学	34 (16) ※2	183 (82) ※16	1,406 (690) ※72	
人間学群	教育学類	35	教育学	42 (22) ※1	35 (28) ※0	288 (219) ※1	
	心理学類	50	国際社会学	8 (5) ※8			
	障害科学類	35	障害科学 特別支援教育学 社会福祉	13 (9) 14 (13) 8 (6)			
	小計	120	<0>	125 (75) ※1			125 (75) ※1
生命学環境学群	生物学類	80	理学	92 (43) ※12	92 (43) ※12	686 (303) ※28	
	生物資源学類	120	<10>	生物資源学	149 (71) ※17	157 (75) ※23	1,140 (608) ※64
	地球学類	50	農学	8 (4) ※6	56 (21) ※4	439 (142) ※8	
	小計	250	<10>	305 (139) ※39	305 (139) ※39	2,265 (1,053) ※100	
理工学群	数学類	40	理学	41 (4) ※1	41 (4) ※1	346 (48) ※7	
	物理学類	60	理学	60 (7) ※3	60 (7) ※3	491 (51) ※18	
	化学類	50	理学	47 (11) ※2	47 (11) ※2	430 (115) ※7	
	応用理工学類	120	<10>	工学	136 (13) ※4	136 (13) ※4	1,079 (115) ※46
	工学システム学類	130	<10>	工学	134 (14) ※4	134 (14) ※4	1,130 (89) ※43
	社会工学類	120	<10>	社会工学	123 (20) ※5	123 (20) ※5	1,010 (187) ※31
情報学群	情報科学類	80	<10>	情報科学	32 (5) ※2	95 (10) ※4	733 (49) ※27
情報メディア創成学類	50	<10>	情報工	63 (5) ※2	57 (11) ※2	491 (119) ※9	
知識情報・図書館学類	100	<10>	図書館情報学	113 (56) ※1	113 (56) ※1	876 (496) ※4	
小計	230	<30>	265 (77) ※7	265 (77) ※7	2,100 (664) ※40		
医学群	医学類	127	<5>	医学	135 (50)	135 (50)	646 (227)
	看護学類	70	<10>	看護学	79 (74)	80 (75) ※1	624 (592)
	医療科学類	37	<3>	ヘルスケア 医療科学 国際医療科学	1 (1) ※1 27 (20) 11 (4) ※1	38 (24) ※1	304 (196) ※9
	小計	234	<18>	253 (149) ※2	253 (149) ※2	1,574 (1,015) ※9	
体育	専門学群	240		体育学	254 (64)	254 (64)	9,786 (2,539) ※7
芸術	専門学群	100		芸術学	104 (87) ※1	104 (87) ※1	3,987 (2,486) ※22
第一学群	人文学類			人文学	0 (0)	0 (0)	3,965 (1,916) ※15
	社会学類			社会学	0	0 (0)	3,669 (1,197) ※37
	自然学類			政治学 経済学	0 0	0 (0)	6,828 (1,374) ※17
	小計			理学	0 (0)	0 (0)	14,462 (4,487) ※69
第二学群	比較文化学類			文化学	0	0 (0)	2,758 (1,693) ※15
	日本語・日本文化学類			比較文化	0	0 (0)	1,454 (1,110) ※18
	人間学類			人間科学	0	0 (0)	3,949 (2,242) ※17
	生物学類			理学	0	0 (0)	2,686 (1,099) ※20
	生物資源学類			生物資源学	0	0 (0)	2,474 (1,155) ※16
第三学群	農林学類			農学	0	0 (0)	2,057 (514) ※4
	小計			0 (0)	0 (0)	15,378 (7,813) ※90	
	社会工学類			社会工学	0	0 (0)	3,835 (559) ※57
	国際総合学類			国際関係学	0	0 (0)	1,242 (777) ※70
	国際関係学類			国際関係学	0	0 (0)	1,001 (466) ※64
	情報学類			情報科学	0	0 (0)	3,017 (377) ※67
	工学システム学類			情報工	0	0 (0)	1,988 (165) ※47
工学基礎学類			工学	0	0 (0)	1,215 (76) ※11	
基礎工学類			工学	0	0 (0)	3,765 (500) ※20	
小計			0 (0)	0 (0)	16,063 (2,920) ※336		
医学専門学群	医学専門学群			医学	0	0 (0)	3,259 (906) ※7
	医学類			医学	0 (0)	0 (0)	315 (297)
	看護学・ 医療科学類			看護学	0	0 (0)	160 (111)
	小計			医療科学	0 (0)	0 (0)	3,734 (1,314) ※7
図書館情報専門学群	図書館情報専門学群			図書館情報学	0	0 (0)	696 (436) ※7
	図書館からの移籍学生			図書館情報学	0	0 (0)	3,819 (2,550) ※34
小計			0 (0)	0 (0)	4,515 (2,986) ※41		
合計	2,094	<78>		2,278 (886) ※92	2,278 (886) ※92	82,660 (30,357) ※968	

- (注) 1. ()は女子を、※は外国人留学生を、それぞれ内数で示し、< >は編入学定員を外数で示す。
 2. 卒業者数には、第2学期推薦入学者等の年度途中卒業者58名を含む。
 3. 累計には、東京教育大学からの移管学生を含む。
 4. 第二学群農林学類は、平成6年度から生物資源学類へ名称変更。
 5. 第三学群国際総合学類は、平成7年度に国際関係学類を改組。
 6. 第三学群工学基礎学類は、平成10年度に基礎工学類を改組。
 7. 図書館からの移籍学生の累計は、平成15年度をもって閉学した図書館情報大学の卒業者を含む。

イ 大学院修了者等

(ア) 修士課程修了者

(令和3年3月31日現在)

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度修了者数	累 計	
地域研究	地域研究	国際学修士		563	(287) ※ 207
		修士(国際学)		8	(6)
		修士(地域研究)		1,002	(615) ※ 335
教 育	障害児教育	教育学修士		290	(125) ※ 18
		修士(教育学)		595	(415) ※ 45
	スクールリーダーシップ開発	修士(教育学)	20 (11) ※ 4	232	(92) ※ 19
		教育学修士		735	(189) ※ 42
	教科教育	修士(教育学)	70 (21) ※ 1	2,258	(864) ※ 68
		教育学修士		30	(12)
	カウンセリング	修士(教育学)		2	(2)
		修士(カウンセリング)		395	(257) ※ 2
		修士(リハビリテーション)		403	(228)
		修士(学術)		1	
特別支援教育	修士(特別支援教育学)		101	(71) ※ 9	
教育学(国際教育) 修士プログラム	修士(教育学)	13 (10) ※ 4	35	(25) ※ 9	
経営・政策科学	経営・政策科学	経済学修士		540	(48) ※ 128
		修士(経済学)		333	(65) ※ 60
		修士(ビジネス)		109	(32) ※ 49
		修士(社会工学)		56	(5) ※ 6
		修士(経営科学)		272	(67) ※ 136
		修士(公共政策)		1	
	経営システム科学	経営学修士		25	(2)
		修士(経営学)		256	(47)
	企業法学	修士(経営システム科学)		121	(19)
		修士(法学)		320	(47)
理工学	理工学	工学修士		772	(30) ※ 56
		修士(工学)		2,326	(181) ※ 197
		理学修士		411	(44) ※ 6
		修士(理学)		733	(118) ※ 16
環境科学	環境科学	学術修士		922	(127) ※ 36
		修士(学術)		91	(21) ※ 3
		修士(環境科学)		1,686	(590) ※ 185
バイオシステム	バイオシステム	修士(学術)		851	(299) ※ 90
医科学	医科学	医科学修士		242	(63) ※ 7
		修士(医科学)		681	(352) ※ 32
体 育	体育方法学	体育学修士		251	(60) ※ 14
		修士(体育学)		429	(123) ※ 71
	コーチ学	体育学修士		328	(25) ※ 15
		修士(体育学)		679	(120) ※ 54
	健康教育学	体育学修士		218	(42) ※ 12
		修士(体育学)		429	(182) ※ 33
	スポーツ健康科学	修士(体育学)		235	(81) ※ 6
	スポーツ科学	修士(体育学)		379	(97) ※ 27
スポーツ健康システム・マネジメント	修士(体育学)		58	(11)	
修士(保健学)		54	(46)		
芸 術	美 術	芸術学修士		175	(45) ※ 9
		修士(芸術学)		440	(210) ※ 40
	デザイン	芸術学修士		190	(49) ※ 43
		修士(芸術学)		28	(15) ※ 3
	世界遺産	修士(デザイン学)		481	(171) ※ 159
		修士(世界遺産学)		34	(31) ※ 2
		修士(学術)		20	(14) ※ 2

研究科	専攻	学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計
人文社会科学	現代語・現代文化	修士（文学）	2	32（ 19 ）※ 2
		修士（言語学）	5（ 1 ）※ 2	51（ 23 ）※ 9
		修士（学術）	3（ 1 ）	17（ 11 ）※ 2
	国際公共政策	修士（国際政治経済学）		43（ 24 ）※ 20
		修士（政治学）		12（ 3 ）※ 2
		修士（社会学）	8（ 5 ）※ 7	70（ 38 ）※ 28
		修士（国際公共政策）	2（ 2 ）※ 1	50（ 22 ）※ 36
	国際地域研究	修士（国際学）	11（ 7 ）※ 11	499（ 331 ）※ 381
		修士（経済学）	15（ 3 ）※ 15	65（ 18 ）※ 64
		修士（地域研究）	15（ 9 ）※ 9	83（ 46 ）※ 49
		修士（公共政策）		12（ 6 ）※ 12
		修士（学術）		14（ 11 ）※ 11
	国際日本研究	修士（国際日本研究）	10（ 8 ）※ 8	24（ 18 ）※ 21
		修士（社会科学）	7（ 7 ）※ 7	70（ 52 ）※ 57
		修士（人文科学）	5（ 3 ）※ 5	58（ 43 ）※ 54
		修士（日本語教育学）	7（ 5 ）※ 4	43（ 33 ）※ 28
		修士（学術）	2（ 1 ）※ 2	10（ 4 ）※ 8
法学	修士（法学）		29（ 17 ）※ 14	
経済学	修士（経済学）		40（ 14 ）※ 34	
数理物質科学	数学	修士（理学）	18	268（ 19 ）※ 8
		修士（数学）		86（ 7 ）※ 2
	物理学	修士（理学）	51（ 5 ）※ 1	727（ 69 ）※ 20
		修士（物理学）		43（ 6 ）※ 4
	化学	修士（理学）	42（ 10 ）※ 7	689（ 171 ）※ 27
		修士（理学）		146（ 34 ）※ 4
	物質創成先端科学	修士（数学）		1
		修士（物理学）		2
		修士（工学）		101（ 6 ）※ 9
	電子・物理工学	修士（工学）	67（ 8 ）※ 13	936（ 78 ）※ 101
物性・分子工学	修士（工学）	71（ 11 ）※ 16	1,066（ 128 ）※ 112	
システム情報工学	社会システム工学	修士（工学）		221（ 40 ）※ 49
		修士（社会工学）		224（ 48 ）※ 25
		修士（社会経済）		24（ 1 ）※ 9
	経営・政策科学	修士（ビジネス）		414（ 181 ）※ 272
		修士（公共政策）		26（ 7 ）※ 9
	リスク工学	修士（工学）	36（ 7 ）※ 10	413（ 48 ）※ 71
		修士（社会工学）	4 ※ 1	48（ 9 ）※ 6
	コンピュータサイエンス	修士（工学）	130（ 14 ）※ 34	1,772（ 179 ）※ 398
	知能機能システム	修士（工学）	119（ 7 ）※ 18	1,555（ 133 ）※ 216
	社会工学	修士（社会工学）	105（ 27 ）※ 31	553（ 209 ）※ 237
修士（サービス工学）		20（ 6 ）※ 1	116（ 30 ）※ 16	
構造エネルギー工学	修士（工学）	81（ 3 ）※ 9	1,154（ 63 ）※ 74	
生命環境科学	生物科学	修士（生物科学）		39（ 18 ）※ 7
		修士（理学）	51（ 17 ）※ 7	594（ 249 ）※ 44
	生物資源科学	修士（学術）	4（ 1 ）※ 1	70（ 31 ）※ 22
		修士（生物工学）	17（ 8 ）※ 4	292（ 128 ）※ 68
		修士（生物資源工学）	16（ 6 ）※ 8	190（ 85 ）※ 101
		修士（農学）	90（ 48 ）※ 14	1,350（ 643 ）※ 202
		修士（バイオタイプロマン）		6（ 4 ）※ 3
	環境科学	修士（環境科学）	75（ 36 ）※ 52	987（ 398 ）※ 428
	地球科学	修士（理学）	57（ 21 ）※ 15	546（ 176 ）※ 83
		修士（地球科学）		7（ 1 ）
修士（地球環境科学）			1	
山岳科学学位プログラム	修士（山岳科学）	14（ 5 ）※ 1	28（ 8 ）※ 1	
国際連携持続環境科学	修士（持続環境科学）	4（ 3 ）※ 1	5（ 4 ）※ 2	
ビジネス科学	企業法学	修士（法学）	19（ 3 ）	521（ 112 ）※ 1
	経営システム科学	修士（経営システム科学）	2（ 1 ）	56（ 8 ）
		修士（経営学）	29（ 6 ）	494（ 100 ）※ 1

研究科	専攻	学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計
人間総合科学	スポーツ健康システムマネジメント	修士（体育学）	11（ 3 ）	156（ 51 ）※ 2
		修士（保健学）	14（ 8 ）	136（ 96 ）※ 3
	スポーツ国際開発学共同	修士（スポーツ国際開発学）	5（ 2 ）※ 2	23（ 8 ）※ 2
		修士（医科学）	49（ 24 ）※ 12	697（ 339 ）※ 79
	フロンティア医科学	修士（公衆衛生学）	10（ 4 ）※ 8	119（ 80 ）※ 58
		修士（ヒューマン・ケア科学）	2（ 1 ）	42（ 29 ）※ 10
	教育学	修士（教育学）	11（ 4 ）※ 5	152（ 82 ）※ 56
	心理	修士（心理学）	11（ 8 ）	186（ 118 ）※ 14
	障害科学	修士（障害科学）	12（ 6 ）※ 1	268（ 183 ）※ 57
		修士（特別支援教育学）	19（ 15 ）※ 4	116（ 86 ）※ 18
	生涯発達	修士（カウンセリング）	22（ 14 ）	274（ 190 ）
		修士（リハビリテーション）	23（ 11 ）	278（ 146 ）
	感性認知脳科学	修士（感性科学）	4（ 4 ）※ 2	57（ 28 ）※ 19
		修士（行動科学）	8（ 2 ）※ 2	70（ 39 ）※ 10
		修士（神経科学）	4（ 2 ）※ 3	44（ 22 ）※ 9
		修士（学術）	2（ 1 ）※ 1	5（ 2 ）※ 2
	体育学	修士（体育学）	110（ 36 ）※ 3	1,422（ 422 ）※ 69
		修士（スポーツ・リハビリテーション学）	18（ 8 ）※ 14	95（ 46 ）※ 77
		修士（スポーツ国際開発学）		2（ 1 ）
		修士（コーチング学）		12（ 4 ）
	看護科学	修士（看護科学）	17（ 16 ）	188（ 172 ）※ 9
	芸術	修士（芸術学）	25（ 17 ）※ 3	392（ 282 ）※ 35
		修士（デザイン学）	32（ 18 ）※ 12	422（ 231 ）※ 117
	世界遺産	修士（世界遺産学）	15（ 9 ）※ 11	123（ 88 ）※ 49
		修士（学術）	1（ 1 ）	81（ 57 ）※ 14
	国際連携食料健康科学	修士（食料健康科学）	10（ 5 ）※ 9	23（ 14 ）※ 19
	図書館情報メディア	図書館情報メディア	修士（図書館情報学）	16（ 9 ）※ 7
修士（情報学）			28（ 3 ）※ 4	395（ 126 ）※ 76
修士（学術）				22（ 12 ）※ 4
グローバル教育院	ライフイノベーション学位プログラム	修士（食料革新学）		17（ 10 ）※ 14
		修士（病態機構学）	1 ※ 1	7（ 4 ）※ 7
		修士（医科学）	4 ※ 2	8（ 1 ）※ 3
		修士（環境制御学）		3（ 2 ）※ 3
計			1,801（ 578 ）※ 430	44,977（ 14,008 ）※ 6,603

(注) 1 ()は女子を、※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

2 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され、単に「修士」とすることとされた。

(イ) 博士課程修了者

(令和3年3月31日現在)

教育組織		学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計
人文社会科学 研究科	哲学・思想専攻	博士（文学）	2（ 2）※ 1	37（ 13）※ 4
	歴史・人類学専攻	博士（文学）	3（ 2）※ 1	44（ 23）※ 9
	文芸・言語専攻	博士（文学）	1	64（ 36）※ 32
		博士（言語学）	8（ 4）※ 3	102（ 59）※ 49
	現代文化・公共政策専攻	博士（言語学）		15（ 10）※ 6
		博士（文学）		7（ 3）※ 1
		博士（学術）		4（ 2）
	経済学専攻	博士（政治学）		14（ 8）※ 5
		博士（経済学）		1
		博士（経済学）		3 ※ 2
	社会科学専攻	博士（社会学）		16（ 8）※ 5
		博士（法学）		2（ 1）※ 1
		博士（法学）		1（ 1）
	国際政治経済学専攻	博士（国際政治経済学）		31（ 11）※ 21
	現代語・現代文化専攻	博士（文学）		5（ 5）
		博士（言語学）	1	23（ 8）
	法学専攻	博士（学術）		1（ 1）
		博士（法学）		2 ※ 1
	国際公共政策専攻	博士（国際政治経済学）		3（ 1）※ 1
		博士（政治学）	1 ※ 1	7（ 3）※ 4
博士（社会学）			3（ 1）	
博士（国際公共政策）			5（ 2）※ 3	
博士（学術）			1（ 1）	
国際日本研究専攻	博士（学術）	2（ 1）※ 2	25（ 13）※ 18	
	博士（国際日本研究）	8（ 5）※ 8	29（ 19）※ 22	
	博士（社会科学）	6（ 6）※ 4	17（ 12）※ 12	
	博士（人文科学）	1（ 1）※ 1	5（ 4）※ 5	
	博士（日本語教育学）	2（ 2）※ 1	4（ 3）※ 2	
ビジネス科学 研究科	企業科学専攻	博士（システム・マネジメント）	2	46（ 7）
		博士（経営学）	6	73（ 10）
		博士（法学）		33（ 6）
数理物質科学 研究科	数学専攻	博士（理学）	3	71（ 6）※ 6
		博士（数学）		11
	物理学専攻	博士（理学）	7 ※ 2	142（ 9）※ 11
		博士（物理学）		14（ 1）※ 1
	化学専攻	博士（理学）	2（ 1）※ 1	128（ 16）※ 10
	物質創成先端科学専攻	博士（理学）		30（ 6）※ 6
		博士（工学）		9 ※ 3
	電子・物理工学専攻	博士（工学）	4（ 2）※ 2	166（ 15）※ 34
	物性・分子工学専攻	博士（工学）	4（ 1）※ 2	144（ 14）※ 48
ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻	博士（工学）	3（ 1）※ 2	53（ 2）※ 12	
物質・材料工学専攻	博士（工学）	13（ 2）※ 9	21（ 8）※ 3	
システム情報工学 研究科	社会システム工学専攻	博士（工学）		12（ 2）※ 4
		博士（社会工学）		18（ 4）※ 7
		博士（社会経済）		10（ 3）※ 5
	社会システム・マネジメント専攻	博士（マネジメント）		12（ 5）※ 8
		博士（社会経済）		10（ 2）※ 1
		博士（社会工学）		16（ 2）※ 2
	リスク工学専攻	博士（工学）	6（ 2）※ 1	42（ 8）※ 16
		博士（社会工学）		75（ 10）※ 16
	コンピュータサイエンス専攻	博士（工学）	9（ 5）※ 6	6（ 1）※ 2
	知能機能システム専攻	博士（工学）	9	235（ 23）※ 82
構造エネルギー工学専攻	博士（工学）	10（ 1）※ 3	223（ 19）※ 48	
社会工学専攻（社会工学学位プログラム）	博士（社会工学）	9（ 5）※ 6	139（ 15）※ 38	
計量ファイナンス・マネジメント専攻	博士（ファイナンス）		46（ 14）※ 20	
	博士（マネジメント）		2（ 1）※ 2	
	博士（社会工学）		4（ 2）※ 4	
生命環境科学 研究科	地球環境科学専攻	博士（理学）	2（ 1）※ 1	2
		博士（理学）		108（ 34）※ 45
	地球進化科学専攻	博士（理学）	4（ 1）※ 4	51（ 14）※ 17
		博士（理学）	6（ 3）※ 1	84（ 27）※ 15
	生物科学専攻	博士（生物科学）	1	68（ 18）※ 2
博士（学術）			10	
構造生物科学専攻	博士（理学）		44（ 11）※ 2	
	博士（生物科学）		2	

教育組織		学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計		
生命環境科学 研究科	情報生物科学専攻	博士（理学）		83（ 27）※	5	
		博士（生物科学）		5（ 2）※	1	
	生命共存科学専攻	博士（理学）		68（ 18）※	25	
		博士（農学）		11（ 3）※	1	
	環境バイオマス共生学専攻	博士（生命共存科学）		7（ 1）※	4	
		博士（学術）	4 ※ 2	14（ 2）※	8	
	国際地緑技術開発科学専攻	博士（学術）		38（ 18）※	20	
		博士（生物資源工学）	11（ 5）※ 11	68（ 27）※	64	
	生物圏資源科学専攻	博士（農学）	5（ 2）※ 2	101（ 36）※	39	
		博士（学術）		25（ 12）※	18	
	生物機能科学専攻	博士（農学）	14（ 6）※ 7	173（ 54）※	78	
		博士（生物学）	5（ 1）※ 1	103（ 26）※	30	
	生命産業科学専攻	博士（農学）	1	97（ 30）※	13	
		博士（学術）	2（ 1）	25（ 6）		
博士（農学）		3（ 3）※ 3	43（ 19）※	19		
博士（生物科学）			22（ 15）※	8		
持続環境学専攻	博士（生物工学）	3（ 3）※ 3	85（ 35）※	56		
	博士（学術）		14（ 4）※	4		
先端農業技術科学専攻	博士（環境学）	16（ 8）※ 15	197（ 80）※	128		
	博士（農学）	4（ 2）	62（ 22）※	12		
人間総合科学 研究科	教育学専攻	博士（教育学）		2		
	学校教育学専攻	博士（教育学）	2（ 1）※ 1	25（ 13）※	6	
	教育基礎学専攻	博士（教育学）		10（ 7）※	3	
	心理学専攻	博士（心理学）	3	57（ 20）※	2	
		博士（学術）		2 ※	1	
	障害科学専攻	博士（障害科学）	8（ 3）※ 1	52（ 27）※	4	
	心身障害学専攻	博士（心身障害学）		15（ 10）※	3	
		博士（ヒューマン・ケア科学）	5（ 3）	140（ 103）※	10	
		博士（心理学）	2（ 1）	43（ 15）※	1	
		博士（心身障害学）		1（ 1）※	1	
		博士（教育学）		11（ 5）※	2	
		博士（体育科学）		5（ 2）		
	生涯発達科学専攻	博士（医学）		3（ 2）		
		博士（学術）		30（ 24）※	2	
		博士（公衆衛生学）		1（ 1）		
		博士（カンパニング科学）	1	26（ 14）		
		博士（生涯発達科学）	4（ 3）	28（ 16）		
	感性認知脳科学専攻	博士（リハビリテーション科学）	4（ 1）	27（ 8）		
		博士（感性科学）	2（ 2）	29（ 14）※	19	
		博士（神経科学）	3（ 1）※ 1	40（ 14）※	4	
		博士（行動科学）	3（ 3）※ 1	38（ 23）※	4	
	スポーツ医学専攻	博士（学術）		6（ 4）※	2	
		博士（スポーツ医学）	4	145（ 50）※	25	
	先端応用医学専攻	博士（医学）		2（ 1）※	1	
		博士（学術）		2		
		分子情報・生体統御医学専攻	博士（医学）		105（ 21）※	11
		病態制御医学専攻	博士（医学）		76（ 36）※	18
		機能制御医学専攻	博士（医学）		79（ 26）※	9
		社会環境医学専攻	博士（医学）		53（ 17）※	4
		生命システム医学専攻	博士（医学）		69（ 31）※	11
		疾患制御医学専攻	博士（医学）	18（ 6）※ 7	180（ 73）※	59
		看護科学専攻	博士（医学）	52（ 16）※ 8	435（ 125）※	35
		体育科学専攻	博士（看護科学）	4（ 4）	38（ 32）※	1
			博士（体育科学）	9（ 1）※ 1	117（ 20）※	17
博士（健康スポーツ科学）			3（ 1）	8（ 2）※	1	
芸術専攻		博士（学術）	1	19（ 5）※	4	
		博士（芸術学）	2（ 2）	72（ 41）※	11	
世界文化遺産学専攻	博士（デザイン学）	1	34（ 18）※	14		
	博士（世界遺産学）		17（ 12）※	6		
コーチング学専攻	博士（学術）	1 ※ 1	20（ 14）※	9		
芸術学専攻	博士（コーチング学）	6（ 2）	50（ 12）※	2		
	博士（芸術学）		19（ 9）※	3		
スポーツウェルネス学位プログラム	博士（デザイン学）		17（ 7）※	9		
	博士（スポーツウェルネス学）	1	5（ 1）			
大学体育スポーツ高度化共同専攻	博士（体育スポーツ学）	5（ 1）	11（ 4）			

教育組織		学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計	
図書館情報 メディア研究科	図書館情報メディア専 攻	博士（図書館情報学）	2（ 1）	38（ 22）※	7
		博士（情報学）	2（ 1）	48（ 15）※	14
		博士（学術）		22（ 14）※	5
グローバル教育院	ヒューマンバイオロジー学位プログラム	博士（人間生物学）	8（ 5）※ 5	48（ 25）※	30
		博士（人間情報学）	5（ 2）※ 3	31（ 7）※	15
	エンパワーメント情報学プログラム	博士（医科学）	2（ 1）	7（ 3）※	3
		博士（食料革新学）	3（ 2）※ 3	10（ 7）※	9
		博士（病態機構学）	1（ 1）※ 1	7（ 2）※	2
		博士（環境制御学）	1（ 1）※ 1	3（ 3）※	3
哲学・思想研究科	哲学専攻	文学博士		3	
		博士（文学）		5（ 1）※	1
	倫理学専攻	文学博士		8（ 1）※	2
		博士（文学）		2	
	宗教学・比較思想学専攻	博士（学術）		3 ※	2
		文学博士		2	
博士（文学）			3		
	博士（学術）		1		
歴史・人類学研究科	史学専攻	文学博士		11（ 2）※	8
		博士（文学）		9（ 4）※	3
		博士（学術）		3（ 1）※	1
	文化人類学専攻	文学博士		6（ 2）※	6
		博士（文学）		9（ 2）※	3
		博士（学術）		2（ 1）※	1
文芸・言語研究科	文学専攻	文学博士		2（ 1）※	2
		博士（文学）		22（ 13）※	14
		博士（学術）		2（ 2）※	1
	各国文学専攻	文学博士		2（ 2）※	1
		博士（文学）		11（ 4）※	2
	博士（学術）		6（ 2）※	5	
言語学専攻	文学博士		8（ 3）※	7	
博士（言語学）		47（ 22）※	35		
教育学研究科	教育学専攻	教育学博士		3 ※	2
	教育基礎学専攻	教育学博士		6（ 4）※	5
		博士（教育学）		12（ 8）※	10
学校教育学専攻	教育学博士		2 ※	2	
	博士（教育学）		17（ 7）※	14	
心理学研究科	心理学専攻	教育学博士		6（ 1）	
		博士（心理学）		44（ 13）※	5
		学術博士		4（ 1）※	2
心身障害学研究科	心身障害学専攻	教育学博士		22（ 10）※	2
		博士（教育学）		24（ 11）※	6
		博士（心身障害学）		25（ 15）※	6
		学術博士		1（ 1）	
		博士（学術）		1	
社会科学研究科	法学専攻	法学博士		11 ※	2
		博士（法学）		23（ 3）※	11
	経済学専攻	経済学博士		1 ※	1
		博士（経済学）		7（ 1）※	4
	社会学専攻	社会学博士		8（ 2）※	5
博士（社会学）		24（ 3）※	17		
計量計画学専攻	経済学博士		1		
社会工学研究科	計量計画学専攻	学術博士		1 ※	1
		博士（社会経済）		13（ 3）※	8
		博士（経営工学）		1	
	経営工学専攻	学術博士		10（ 1）※	8
		博士（経営工学）		27（ 6）※	18
		博士（社会経済）		1 ※	1
	都市・地域計画学専攻	学術博士		11（ 1）※	8
		博士（社会工学）		3 ※	1
	博士（都市・地域計画）		30（ 3）※	20	
	計量ファイナンス・マネジメント専攻	博士（経営学）		6（ 1）※	4
	博士（計量ファイナンス）		1		
社会経済システム専攻	博士（社会経済）		3（ 1）※	3	
都市・環境システム専攻	博士（社会工学）		9（ 2）		
	博士（都市・環境システム）		2 ※	2	
システム情報数理専攻	博士（数理工学）		1 ※	1	

教育組織		学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計
国際政治経済学研究科	国際政治経済学専攻	博士（学術）		2（ 1）※ 1
		博士（国際政治経済学）		21（ 4）※ 15
経営・政策科学研究科	企業科学専攻	博士（法学）		5（ 1）
		博士（経営学）		8（ 3）
		博士（システムズ・マネジメント）		10（ 1）
				36（ 2）※ 6
生物科学研究科	生物学専攻	理学博士		56（ 16）※ 5
		博士（理学）		3
		博士（生物科学）		34（ 4）※ 2
	生物物理化学専攻	理学博士		85（ 23）※ 9
		博士（理学）		8（ 1）
		博士（生物科学）		1
農学研究科	農林学専攻	農学博士		41（ 4）※ 13
		博士（農学）		87（ 9）※ 35
	農林工学専攻	農学博士		21 ※ 10
		博士（農学）		99（ 13）※ 53
	応用生物化学専攻	農学博士		59（ 6）※ 18
		博士（農学）		175（ 41）※ 50
		学術博士		7
		博士（学術）		42（ 8）※ 5
	数学研究科	数学専攻	理学博士	
博士（理学）				53（ 6）※ 6
博士（数学）				17（ 1）※ 3
物理学研究科	物理学専攻	理学博士		119（ 2）※ 3
		博士（理学）		122（ 7）※ 9
		博士（物理学）		21（ 1）※ 1
		学術博士		1
化学研究科	化学専攻	理学博士		98（ 6）※ 6
		博士（理学）		94（ 9）※ 7
地球科学研究科	地理学・水文学専攻	理学博士		46（ 3）※ 19
		博士（理学）		50（ 8）※ 15
	地質学専攻	理学博士		28（ 3）※ 6
		博士（理学）		75（ 15）※ 28
工学研究科	物理工学専攻	工学博士		32 ※ 8
		博士（工学）		102（ 3）※ 21
	物質工学専攻	工学博士		21 ※ 3
		博士（工学）		132（ 6）※ 31
	構造工学専攻	工学博士		18 ※ 3
		博士（工学）		86（ 6）※ 26
知能機能工学専攻	博士（工学）		54（ 4）※ 9	
医学研究科	形態系専攻	工学博士		21 ※ 8
		博士（工学）		134（ 9）※ 42
	形態系専攻	医学博士		19（ 1）
		博士（医学）		103（ 24）※ 17
	生化系専攻	医学博士		30（ 4）※ 1
		博士（医学）		114（ 42）※ 13
生理系専攻	医学博士		53（ 3）※ 2	
	博士（医学）		173（ 50）※ 24	
生物系専攻	医学博士		19（ 4）※ 1	
	博士（医学）		67（ 19）※ 7	
環境生態系専攻	医学博士		34（ 6）※ 2	
	博士（医学）		81（ 36）※ 7	
体育科学研究科	体育科学専攻	教育学博士		30（ 3）※ 12
		博士（体育科学）		88（ 11）※ 22
		学術博士		5
		博士（学術）		20（ 6）※ 6
芸術学研究科	芸術学専攻	学術博士		4（ 1）※ 1
		博士（芸術学）		34（ 25）※ 9
		博士（デザイン学）		39（ 11）※ 23

教育組織		学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計
人文社会ビジネス科学 学術院ビジネス科学研究群	経営学学位プログラム	博士（経営学）	2	2
	物理学学位プログラム	博士（理学）	1	1
理工情報生命学術院数 理物質科学研究群	応用理工学学位プログラム	博士（工学）	5（ 1）	5（ 1）
	社会学学位プログラム	博士（社会学）	3	3
理工情報生命学術院シ ステム情報工学研究群	リスク・レジリエンス工学 学位プログラム	博士（工学）	1（ 1）	1（ 1）
	情報理工学学位プログラム	博士（工学）	8	8
	知能機能システム学位プロ グラム	博士（工学）	4	4
	構造エネルギー工学学位プ ログラム	博士（工学）	3	3
	生物学学位プログラム	博士（理学）	9（ 4）	9（ 4）
理工情報生命学術院生 命地球科学研究群	農学学位プログラム	博士（農学）	5（ 2）	5（ 2）
	生命農学学位プログラム	博士（生命農学）	5（ 3）	5（ 3）
	生命産業科学学位プログラム	博士（生物工学）	3	3
	環境学学位プログラム	博士（環境学）	1	1
	計		421（ 155）※ 140	10,054（ 2,658）※ 2,607

(注) 1 () は女子を, ※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

2 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され, 単に「博士」とすることとされた。

(ウ) 博士課程修士学位授与者

(令和3年3月31日現在)

研究科	専攻	学位(専攻分野の名称)	本年度授与者数	累 計			
人文社会科学	哲学・思想	修士(文学)	5(2)※	2	115(47)※	17	
		修士(文学)	11(4)※	7	182(77)※	28	
	歴史・人類学	修士(言語学)	9(6)※	2	200(111)※	68	
		修士(文学)	3(1)※	2	132(73)※	39	
		修士(学術)	2(2)		10(9)※	3	
	現代文化公共政策	修士(学術)			16(8)※	3	
		修士(言語学)			26(16)※	7	
		修士(政治学)			28(13)※	10	
		修士(文学)			17(11)※	1	
	社会科学	修士(経済学)			10(2)※	2	
		修士(社会学)			21(14)※	5	
		修士(法学)			24(16)※	4	
国際政治経済学	修士(国際政治経済学)			94(36)※	76		
	修士(学術)			2(2)			
数理物質科学	数学	修士(理学)			43(1)		
		修士(数学)			4		
	物理学	修士(理学)			58(5)		
		修士(物理学)			13(1)		
	化学	修士(理学)			66(14)※	2	
		修士(理学)			36(6)		
	物質創成先端科学	修士(工学)			22(2)		
		修士(物理学)			3		
電子・物理工学	修士(工学)			66(3)			
物性・分子工学	修士(工学)			76(7)※	2		
システム情報工学	社会システム工学	修士(社会経済)			7	※	1
		修士(社会工学)			53(8)※	6	
		修士(工学)			27(2)※	6	
	リスク工学	修士(工学)			48(5)※	4	
		修士(社会工学)			5(1)		
	コンピュータサイエンス	修士(工学)			159(11)※	15	
	知能機能システム	修士(工学)			134(9)※	6	
	構造エネルギー工学	修士(工学)			101(5)※	1	
計量ファイナンス・マネジメント	修士(ファイナンス)			15	※	1	
	修士(マネジメント)			3(1)※	3		
	修士(社会工学)			10			
生命環境科学	地球環境科学	修士(理学)			79(25)※	4	
		修士(地球環境科学)			3(2)		
	地球進化科学	修士(理学)			63(20)※	4	
		修士(地球科学)			1		
	構造生物科学	修士(理学)			36(13)		
		修士(生物科学)			3(2)※	1	
	情報生物科学	修士(理学)			98(37)		
		修士(生物科学)			8(1)		
	生命共存科学	修士(理学)			120(44)※	10	
		修士(農学)			29(5)※	1	
		修士(生命共存科学)			19(6)※	6	
		修士(学術)			1		
	環境バイオマス共生学	修士(農学)	4		19(8)※	2	
		修士(理学)	12(2)※	1	70(22)※	14	
		修士(学術)			1		
国際地縁技術開発科学	修士(農学)			54(24)※	6		
	修士(生物資源工学)			16(4)※	7		
	修士(学術)			14(7)※	3		
生物圏資源科学	修士(農学)			89(31)※	15		
	修士(学術)			4(3)※	1		
生物機能科学	修士(農学)			38(12)※	1		
	修士(生物工学)			25(5)※	2		
	修士(学術)			3			
人間総合科学	教育学	修士(教育学)			37(20)※	8	
	学校教育学	修士(教育学)			37(13)※	4	
	心理学	修士(心理学)			46(20)		
	心身障害学	修士(学術)			1		
修士(心身障害学)				46(24)※	4		

研究科	専攻	学位（専攻分野の名称）	本年度授与者数	累 計	
人間総合科学	ヒューマン・ケア科学	修士（ヒューマン・ケア科学）		43（ 40 ）※ 10	
		修士（教育学）		5（ 4 ）	
		修士（心理学）		51（ 28 ）※ 1	
		修士（体育科学）		2（ 1 ）	
		修士（心身障害学）		1	
	感性認知脳科学	修士（学術）		2（ 1 ）	
		修士（感性科学）		18（ 7 ）※ 8	
		修士（行動科学）		28（ 18 ）※ 2	
	スポーツ医学	修士（神経科学）		26（ 11 ）※ 1	
		修士（スポーツ医学）		54（ 15 ）※ 16	
	体育科学	修士（学術）		6（ 3 ）	
		修士（体育科学）		62（ 11 ）※ 9	
	芸術学	修士（デザイン学）		17（ 8 ）※ 5	
修士（学術）			1		
修士（芸術学）			36（ 26 ）※ 5		
グローバル教育院	エンパワーメント情報学プログラム	修士（人間情報学）	8 ※ 3	18（ 1 ）※ 5	
哲学・思想	哲 学	文学修士		19（ 1 ）	
		修士（文学）		18（ 3 ）※ 1	
	哲学・思想	修士（文学）		1	
		文学修士		20（ 3 ）※ 6	
		修士（文学）		18（ 4 ）※ 2	
	倫理学	修士（学術）		5 ※ 4	
		文学修士		30（ 9 ）※ 7	
		修士（文学）		20（ 3 ）※ 1	
宗教学・比較思想学	修士（学術）		3（ 1 ）		
	文学修士		88（ 14 ）※ 12		
	修士（文学）		71（ 23 ）※ 2		
歴史・人類学	史 学	修士（学術）		10（ 3 ）※ 2	
		文学修士		65（ 16 ）※ 10	
		修士（文学）		48（ 10 ）※ 3	
	文化人類学	修士（学術）		5（ 3 ）※ 2	
		文学修士		20（ 7 ）※ 2	
		修士（文学）		23（ 11 ）※ 7	
文芸・言語	文 学	修士（学術）		1（ 1 ）※ 1	
		文学修士		107（ 39 ）※ 12	
		修士（文学）		65（ 22 ）※ 4	
	各国文学	修士（学術）		10（ 4 ）※ 9	
		文学修士		118（ 24 ）※ 16	
		修士（言語学）		117（ 56 ）※ 36	
	言語学	修士（学術）		5（ 4 ）※ 1	
		教育学	教育学修士		65（ 4 ）※ 4
		教育学	教育学基礎学	教育学修士	
修士（教育学）			64（ 21 ）※ 5		
学校教育学	教育学修士		37（ 6 ）※ 5		
	修士（教育学）		62（ 18 ）※ 11		
	心理学	教育学修士		94（ 19 ）※ 6	
心理学	心理学	修士（心理学）		111（ 48 ）※ 9	
		教育学修士		71（ 16 ）※ 4	
		修士（教育学）		23（ 12 ）※ 4	
心身障害学	心身障害学	修士（心身障害学）		48（ 22 ）※ 4	
		法学	法学修士		17（ 5 ）※ 2
		修士（法学）		35（ 9 ）※ 14	
社会科学	経 済 学	経済学修士		12 ※ 2	
		修士（経済学）		21（ 7 ）※ 7	
	社会学	社会学修士		23（ 6 ）※ 8	
		修士（社会学）		37（ 12 ）※ 15	
	計量計画学	経済学修士		2（ 1 ）	
		計量計画学	学術修士		11 ※ 1
社会工学	計量計画学	修士（社会経済）		19（ 2 ）※ 7	
		学術修士		19 ※ 5	
	経営工学	修士（経営工学）		38（ 8 ）※ 15	
		学術修士		8（ 1 ）※ 1	
	都市・地域計画学	修士（都市・地域計画）		32（ 5 ）※ 12	
		社会経済システム	修士（社会経済）		7 ※ 1

研究科	専攻	学位（専攻分野の名称）	本年度授与者数	累 計
社会工学	システム情報数理	修士（社会工学）		1
		修士（数理工学）		12（ 1 ）※ 3
	都市・環境システム	修士（社会工学）		12（ 6 ）
		修士（都市・環境システム）		7（ 1 ）※ 1
	計量ファイナンス・マネジメント	修士（社会工学）		3
修士（計量ファイナンス）			10（ 2 ）※ 2	
		修士（経営学）		5（ 2 ）※ 3
国際政治経済学	国際政治経済学	修士（国際政治経済学）		52（ 18 ）※ 34
		修士（学術）		57（ 24 ）※ 33
生物科学	生物学	理学修士		52（ 7 ）※ 4
		修士（理学）		78（ 27 ）※ 1
		修士（生物科学）		6（ 1 ）
	生物物理化学	理学修士		74（ 16 ）※ 2
		修士（理学）		113（ 44 ）※ 2
		修士（生物科学）		1（ 1 ）
農 学	農林学	農学修士		64（ 2 ）※ 14
		修士（農学）		122（ 29 ）※ 18
	農林工学	農学修士		47（ 1 ）※ 8
		修士（農学）		80（ 15 ）※ 13
	応用生物化学	農学修士		112（ 13 ）※ 10
		修士（農学）		177（ 51 ）※ 12
数 学	数 学	理学修士		90（ 2 ）※ 2
		修士（理学）		76（ 11 ）※ 2
		修士（数学）		46（ 5 ）
物理学	物理学	理学修士		178（ 6 ）※ 1
		修士（理学）		156（ 9 ）
		修士（物理学）		54（ 5 ）
化 学	化 学	理学修士		111（ 13 ）※ 4
		修士（理学）		117（ 19 ）※ 1
		修士（化学）		3（ 1 ）
地球科学	地理学・水文学	理学修士		83（ 5 ）※ 15
		修士（理学）		79（ 11 ）※ 2
		修士（地球科学）		1
	地質学	理学修士		42（ 6 ）※ 6
		修士（理学）		74（ 14 ）※ 19
		修士（地球科学）		1
工 学	物理工学	工学修士		53
		修士（工学）		155（ 4 ）※ 1
	物質工学	工学修士		58（ 4 ）
		修士（工学）		172（ 10 ）※ 2
	構造工学	工学修士		63（ 1 ）
		修士（工学）		171（ 7 ）※ 3
	知能機能工学	修士（工学）		101（ 4 ）※ 1
電子・情報工学	工学修士		60（ 1 ）※ 2	
	修士（工学）		203（ 11 ）※ 9	
体育科学	体育科学	教育学修士		96（ 11 ）※ 23
		修士（体育科学）		118（ 24 ）※ 27
芸術学	芸術学	学術修士		34（ 15 ）※ 2
		修士（芸術学）		35（ 22 ）※ 5
		修士（デザイン学）		23（ 9 ）※ 9
計			54（ 17 ）※ 17	8,466（ 2,022 ）※ 1,047

（注） 1 （ ）は女子を，※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

2 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され，単に「修士」とすることとされた。

(工) 論文博士学位授与者

(令和3年3月31日現在)

	学位(専攻分野の名称)	本年度授与者数	累 計
平成3年6月までの学位授与数	文学博士		72 (4) ※ 11
	教育学博士		86 (13) ※ 12
	法学博士		1
	経済学博士		2
	社会学博士		2 (1) ※ 1
	理学博士		290 (19) ※ 11
	農学博士		67 (1) ※ 6
	工学博士		33 (1)
	学術博士		22 (1) ※ 3
	医学博士		122 (13) ※ 1
平成3年7月以降の学位授与数	博士(文学)	7 (2) ※ 1	245 (48) ※ 21
	博士(言語学)	1	76 (17) ※ 12
	博士(国際日本研究)	1 (1) ※ 1	4 (2) ※ 4
	博士(教育学)	4 (1)	121 (22) ※ 9
	博士(心理学)	1	82 (30) ※ 3
	博士(心身障害学)		27 (9) ※ 1
	博士(法学)		25 (3) ※ 4
	博士(政治学)		3 (2) ※ 1
	博士(経済学)		11 (1)
	博士(社会学)	1	24 (9) ※ 2
	博士(経営学)	2	10 (2)
	博士(社会工学)		3 ※ 1
	博士(社会経済)		10 ※ 1
	博士(経営工学)		6 (1) ※ 1
	博士(数理工学)		1 ※ 1
	博士(都市・地域計画)		4 (1) ※ 2
	博士(ファイナンス)		1
	博士(マネジメント)		1
	博士(システム・マネジメント)		5 (1)
	博士(国際政治経済学)		15 (10) ※ 7
	博士(理学)	1	283 (45) ※ 20
	博士(生物科学)		7 (4) ※ 1
	博士(数学)		8 (2)
	博士(物理学)		1
	博士(化学)		2 (1)
	博士(地球科学)		1 ※ 1
	博士(農学)	1 ※ 1	232 (34) ※ 31
	博士(生物資源工学)		5 ※ 1
	博士(生物工学)		20 (6) ※ 4
	博士(工学)	2 ※ 1	315 (24) ※ 39
	博士(環境学)	2 (1) ※ 1	3 (1) ※ 2
	博士(生命共存科学)		1
	博士(感性科学)		10 (3) ※ 1
	博士(障害科学)		10 (5)
	博士(行動科学)		9 (3)
	博士(神経科学)		5 (1)
	博士(リハビリテーション科学)		2 (1)
	博士(スポーツ医学)	2 (1)	15 (4)
	博士(医学)	7 (2)	411 (74) ※ 7
	博士(看護科学)		1
	博士(体育科学)	1	109 (9) ※ 7
	博士(ヒューマン・ケア科学)		5 (5)
	博士(芸術学)	2 (2)	36 (9) ※ 1
	博士(世界遺産学)		1
	博士(コーチング学)	2	12 (1)
	博士(デザイン学)	1 (1)	20 (8) ※ 2
	博士(学術)		82 (25) ※ 13
博士(図書館情報学)		9 (4) ※ 2	
博士(情報学)		10 (2) ※ 1	
博士(スポーツウェルネス学)	1	1	
計		39 (11) ※ 5	2,997 (482) ※ 248

(注) 1 ()は女子を、※は外国人をそれぞれ内数で示す。

2 平成3年7月以降の学位についてその種類が廃止され、単に「博士」とすることとされた。

(オ) 専門職課程修了者

(令和3年3月31日現在)

研究科	専攻	学位（専攻分野の名称）	本年度修了者数	累 計
ビジネス科学	国際経営プロフェッショナル	国際経営修士（専門職）	22（ 3 ）※ 5	445（ 157 ）※ 58
	法曹（法科大学院）	法務博士（専門職）	24（ 7 ）	382（ 82 ）
計			46（ 10 ）※ 5	827（ 239 ）※ 58

（注） 1 （ ）は女子を，※は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。

(5) 入学者選抜

ア 学群

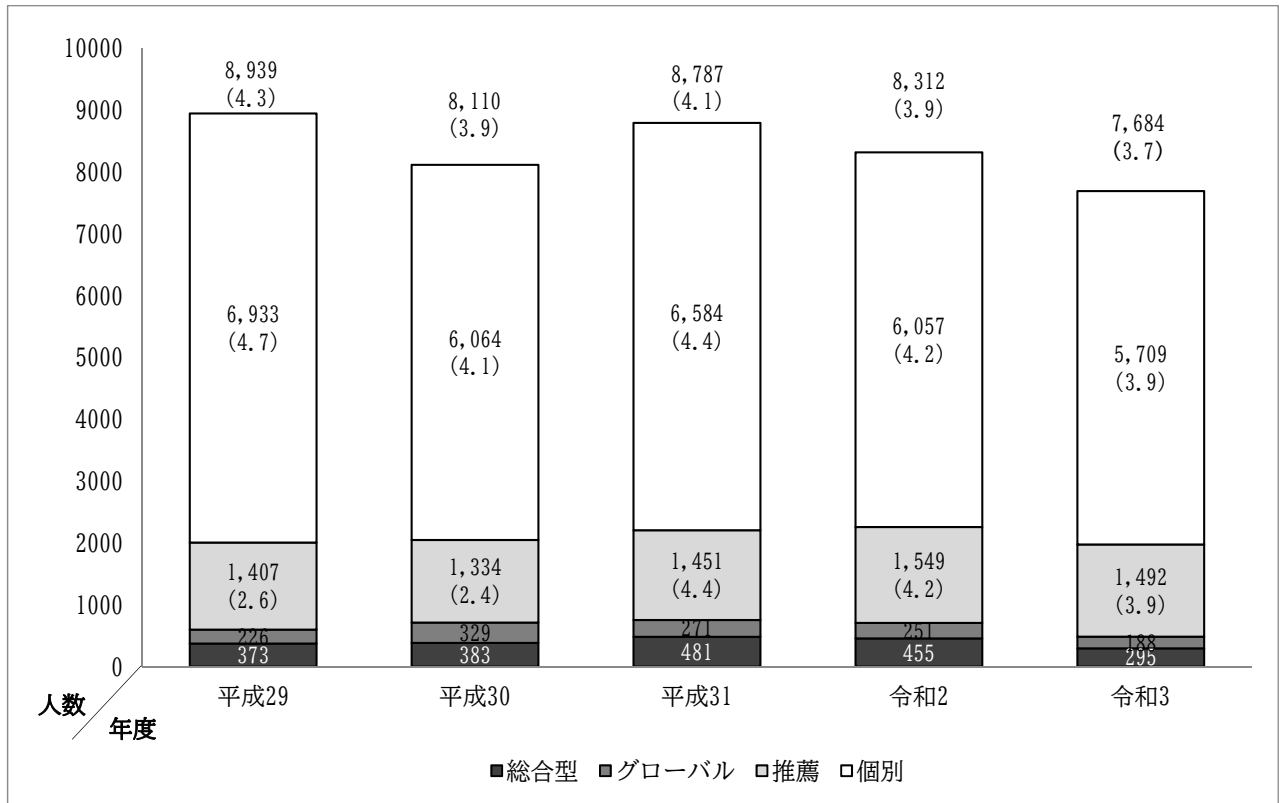
(ア) 令和3年度入学者選抜（4月入学）

(令和3年4月1日現在)

学群・学類	入学定員	アドミッションセンター入試 (国際科学オリンピック特別入試、 国際バカロレア特別入試、 海外教育プログラム特別入試、 研究型人材入試を含む)				推薦入試 (帰国生徒特別入試(体育、芸術)を含む)				個別学力検査等 (前期日程・後期日程)				私費外国人留学生入試			合格者数計		入学者数計
		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数			
総合選抜	文系	128								128	135	71	68				71	68	
	理系Ⅰ	154								154	291	139	131				139	131	
	理系Ⅱ	41								41	71	22	21				22	21	
	理系Ⅲ	90								90	70	15	13				15	13	
	小計	413								413	314	118	112				118	112	
人文・文化学群	人文学類	90	5	13	1	1	29	16	16	65	143	27	23	1	1	1	45	41	
	比較文化学類	60	5	14	2	2	40	18	18	35	55	21	20	6	2	1	43	41	
	日本語・ 日本文化学類	17	3	3	1	1	14	12	12								13	13	
	小計	167	13	30	4	4	83	46	46	100	198	48	43	7	3	2	101	95	
	社会・国際学群	社会学類	56		2	1	0	30	14	14	40	96	8	6				23	20
国際総合学類	56		4	0	0	41	16	16	36	51	20	17				36	33		
小計	112		6	1	0	71	30	30	76	147	28	23				59	53		
人間学群	教育学類	32		0	0	0	15	6	6	25	41	5	5	2	1	1	12	12	
	心理学類	45		3	1	1	29	15	15	30	113	17	17	4	1	1	34	34	
	障害科学類	32		0	0	0	18	11	11	20	28	16	15	0	0	0	27	26	
	小計	109		3	1	1	62	32	32	75	182	38	37	6	2	2	73	72	
	生命環境学群	生物学類	55	3	11	1	0	22	8	8	32	56	15	14	4	1	1	25	23
生物資源学類	94		0	0	0	27	21	21	67	106	32	30				53	51		
地球学類	37		0	0	0	12	8	3	3	25	28	9	8	0	0	0	12	11	
小計	186	3	11	1	0	57	32	32	124	190	56	52	4	1	1	90	85		
理工学群	数学類	30		0	0	0	3	0	0	22	6	0	0	1	0	0	0	0	
	物理学類	45		1	1	1	15	4	4	30	29	9	7	1	0	0	14	12	
	化学類	37		2	1	0	13	6	6	24	33	10	9	1	0	0	17	15	
	応用理工学類	87		0	0	0	8	2	2	71	41	12	10	5	0	0	14	12	
	工学システム学類	95		0	0	0	10	1	1	75	42	10	9	2	0	0	11	10	
	社会工学類	90		1	1	1	19	7	7	75	78	19	18	3	1	1	28	27	
	小計	384	0	3	3	2	67	20	20	297	229	60	53	13	1	1	84	76	
情報学群	情報科学類	60	8	6	2	1	8	2	2	42	12	5	4	7	1	1	10	8	
	情報メディア 創成学類	32	4	45	8	5	10	34	11	11	127	46	44	21	2	1	67	61	
	知識情報・ 図書館学類	55	5	8	1	1	38	29	29	10	14	3	3	2	0	0	4	4	
	小計	147	17	25	3	2	54	32	32	72	56	15	13	12	4	4	54	51	
医学群	医学類	129	5	14	1	1	62	23	23	62	86	21	19				45	43	
	看護学類	65		2	1	1	25	7	7	40	92	40	40	0	0	0	66	65	
	医療科学類	27		0	0	0	12	10	10	15	28	12	12	1	0	0	22	22	
	小計	221	5	16	2	2	99	58	57	117	206	73	71	1	0	0	133	130	
	体育専門学群	240	12	37	7	7	88	37	37	140	73	27	27	0	0	0	71	71	
芸術専門学群	95		1	0	0	40	31	31	55	189	44	43	3	0	0	75	74		
合計	2,074	50	132	22	18	555	318	317	1,469	1,784	507	474	46	11	10	858	819		
前年度合計	2,101	78	216	24	19	566	306	304	1,457	2,053	553	522	66	9	6	920	866		

(注)1. ()内は、女子を内数で、入学者数計欄中#は国費、外国政府派遣または日韓共同理工系留学生を外数で示す。
2. アドミッションセンター入試とは、書類選考と面接・口述試験によって、多面的・総合的に評価する自己推薦型の入試である。

[志願者数の推移]



(注) () は、志願倍率を示す。

「総合型」はAC入試、国際オリンピック特別入試、研究型人材入試の結果を示す。

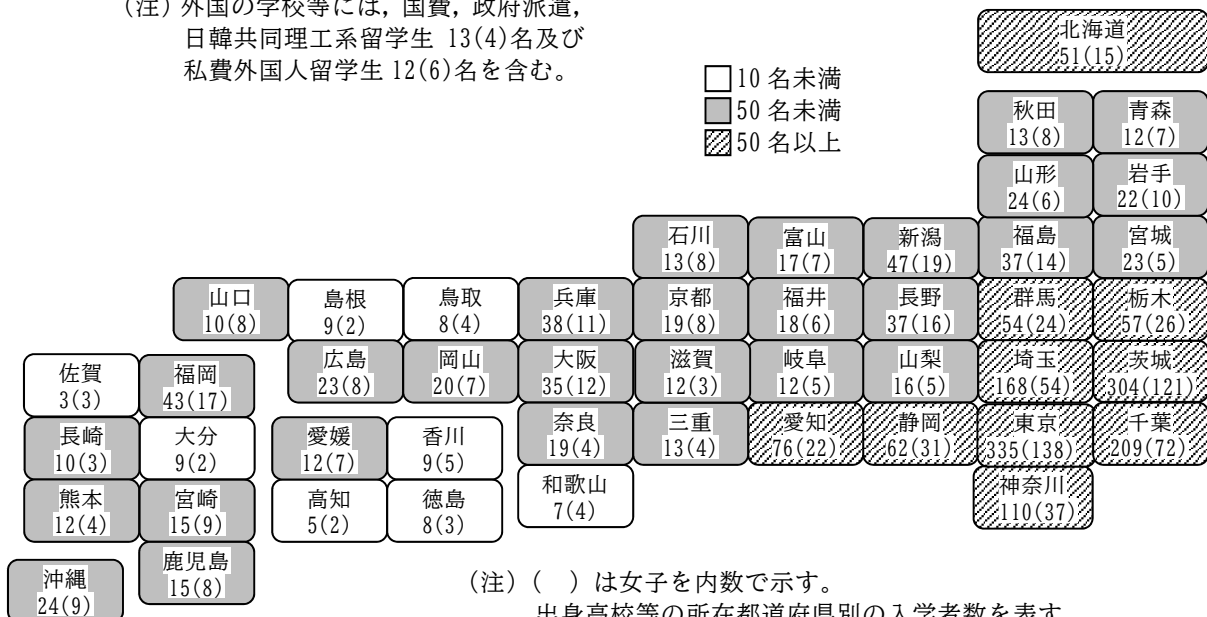
「グローバル」は私費外国人留学生入試、国際バカロレア特別入試、海外教育プログラム特別入試、帰国生徒特別入試（4月入学）の結果を示す。

[令和3年度都道府県等別入学者数]

令和3年4月1日現在

高卒認定試験	5(2)
外国の学校等	27(15)
文部科学大臣の指定した者	3(3)

(注) 外国の学校等には、国費、政府派遣、日韓共同理工系留学生 13(4)名及び私費外国人留学生 12(6)名を含む。



(注) () は女子を内数で示す。

出身高校等の所在都道府県別の入学者数を表す。

(イ) 令和2年度入学者選抜（秋学期入学）

(令和2年10月1日現在)

学群・学類	帰国生徒特別入試(10月入学)			学群英語コース入試			Japan-Expert(学士)プログラム特別入試		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
人文・文化学群	人文学類								
	比較文化学類								
	日本語・日本文化学類						(1)	(0)	(0)
	小計						(3)	(0)	(0)
社会・国際学群	社会学類			(22)	(1)	(1)			
	国際総合学類			(39)	(5)	(3)			
	小計			(28)	(4)	(2)			
人間学群	教育学類			(41)	(7)	(4)			
	心理学類			(50)	(5)	(3)			
	障害科学類			(80)	(12)	(7)			
	小計								
生命環境学群	生物学類	(注2)		(26)	(7)	(4)			
	生物資源学類			(42)	(8)	(4)			
	地球学類			(15)	(6)	(4)	(1)	(0)	(0)
	小計			(22)	(9)	(6)	(8)	(1)	(1)
生命環境学群	生物学類【3年次編入】			(7)	(3)	(1)			
	生物資源学類【3年次編入】			(17)	(5)	(2)			
	地球学類【3年次編入】			(48)	(16)	(9)	(1)	(0)	(0)
	小計			(81)	(22)	(12)	(8)	(1)	(1)
	小計			(1)	(0)	(0)			
理工学群	数学類			(1)	(0)	(0)			
	物理学類			(1)	(0)	(0)			
	化学類			(1)	(1)	(1)			
	応用理工学類			(2)	(2)	(2)			
	工学システム学類			(0)	(0)	(0)			
	社会工学類			(1)	(1)	(1)			
	小計			(2)	(1)	(1)			
情報学群	情報科学類								
	情報メディア創成学類								
	知識情報・図書館学類								
	小計								
医学群	医学類								
	看護学類						(1)	(0)	(0)
	医療科学類【3年次編入】			(2)	(2)	(2)	(5)	(2)	(2)
	小計			(2)	(2)	(2)	(1)	(0)	(0)
体育専門学群									
芸術専門学群						(0)	(0)	(0)	
合計				(102)	(24)	(15)	(3)	(0)	(0)
				(167)	(39)	(24)	(19)	(3)	(3)

前年度合計	(7)	(1)	(0)	(93)	(19)	(13)	(15)	(5)	(5)
	(12)	(1)	(0)	(166)	(31)	(21)	(33)	(9)	(9)

(注) 1. ()内は、女子を内数で示す。

2. 帰国生徒特別入試とは、海外帰国生徒(海外で2年以上継続在学)の学校推薦入試選抜を行うものである。(旧第2学期推薦入試)

令和2年度入試は、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言発令のため、試験を実施しなかった。

3. 学群英語コース入試とは、英語で授業を受け学位が取得できるコースの入試である。

(入学時期は令和3年9月。生命環境学群及び医学群医療科学類では3年次編入を実施)

地球規模課題学位プログラム(学士)入試			
	志願者数	合格者数	入学者数
合計	(13)	(2)	(1)
	(33)	(5)	(4)
前年度合計	(23)	(9)	(8)
	(46)	(10)	(9)

総合理工学位プログラム(学士)入試			
	志願者数	合格者数	入学者数
合計	(16)	(5)	(2)
	(50)	(11)	(7)
前年度合計	(5)	(3)	(0)
	(31)	(7)	(3)

(ウ) 編入学

(令和3年4月1日現在)

学群・学類		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
人文・文化学群	人文学類				
	比較文化学類				
	日本語・日本文化学類				
	小計				
社会・国際学群	社会学類	10	(27)	(6)	(4)
	国際総合学類		78	15	10
	小計	10	(27)	(6)	(4)
			78	15	10
人間学群	教育学類				
	心理学類				
	障害科学類				
	小計				
生命環境学群	生物学類	若干名	(6)	(2)	(2)
	生物資源学類	10	17	2	2
	地球学類	若干名	(5)	(2)	(2)
	小計	10	21	6	5
			(2)	(1)	(0)
			5	2	0
			(13)	(5)	(4)
			43	10	7
理工学群	数学類	若干名	(0)	(0)	(0)
	物理学類	若干名	3	1	1
	化学類	若干名	(0)	(0)	(0)
	応用理工学類	10	2	1	1
	工学システム学類	若干名	(2)	(1)	(1)
	社会工学類	若干名	6	2	2
	小計	10	10	4	4
				115	44
情報学群	情報科学類(単願)		(2)	(0)	(0)
	情報科学類(併願 第1志望)		22	3	2
	情報科学類(併願 第2志望)	10	61	17	16
	情報メディア創成学類(単願)		(0)	(0)	(0)
	情報メディア創成学類(併願 第1志望)		8	0	0
	情報メディア創成学類(併願 第2志望)	10	(4)	(1)	(1)
	小計	10	28	7	6
			(0)	(0)	(0)
			6	4	4
			(19)	(8)	(8)
			44	14	14
			(28)	(9)	(9)
			163	47	42
医学群	医学類	5	(35)	(2)	(2)
	看護学類	10	109	7	6
	医療科学類	3	(22)	(9)	(9)
	小計	18	25	10	10
			(2)	(1)	(1)
			5	1	1
			(59)	(12)	(12)
			139	18	17
体育専門学群					
芸術専門学群					
合計	78	(137)	(36)	(33)	
			538	134	113
前年度合計	78	(145)	(30)	(27)	
			608	124	92

(注) 1. ()内は、女子を内数で示す。

2. 編入学とは、大学等に2年以上在学した者で、2年又は3年次に入学するものである。

イ 大学院
 (ア) 令和3年度大学院入学者選抜

課 程	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
修士課程	68	79 {0}	42	9	78 {0}	42	9	67 {0}	33	6	17 {0}	50 {0}	23	5
博士前期課程	1,738	2,610 {48}	922	520	2,478 {44}	872	489	1,809 {32}	568	305	89 {1}	1,720 {31}	540	288
専門職学位課程	66	211 {0}	67	19	198 {0}	64	19	79 {0}	25	2	5 {0}	74 {0}	22	2
一貫制博士課程	16	36 {0}	13	12	36 {0}	13	12	32 {0}	12	8	3 {0}	29 {0}	11	7
一貫制博士課程（3年次編入）		4 {0}	0	1	4 {0}	0	1	3 {0}	0	1	0 {0}	3 {0}	0	1
博士後期課程	494	516 {52}	171	137	504 {52}	167	135	415 {40}	130	111	15 {2}	400 {38}	124	106
3年制博士課程	37	46 {0}	22	4	46 {0}	22	4	42 {0}	20	4	1 {0}	41 {0}	19	4
医学を履修する博士課程	80	79 {0}	22	11	79 {0}	22	11	79 {0}	22	11	6 {0}	73 {0}	21	11
合 計	2,499	3,581 {100}	1,259	713	3,423 {96}	1,202	680	2,526 {72}	810	448	136 {3}	2,390 {69}	760	424

- 注) 1. { }内は、連携大学院方式を内数で示す。
 2. 特別プログラム等の対象者は除く。
 3. 新型コロナウイルスの影響により、入学時期を令和2年度から令和3年度に変更した者（5名）は本表に記載しない。

学術院	研究群	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	女子内数	外国人留学生内数	受験者数	女子内数	外国人留学生内数	合格者数	女子内数	外国人留学生内数	辞退者数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数
人文社会ビジネス科学	人文社会科学	博士前期	人文学	54	78	39	19	75	37	18	57	27	12	4	53	25	12
			国際公共政策	51	42	30	23	41	29	22	25	17	10	5	20	14	8
			国際日本研究	34	69	50	43	63	46	41	31	22	20	3	28	20	19
			社会人特別選抜		2	1	0	2	1	0	2	1	0	0	2	1	0
		小計	139	191	120	85	181	113	81	115	67	42	12	103	60	39	
		博士後期	人文学	42	14	4	3	13	4	3	12	4	3	0	12	4	3
			国際公共政策	10	2	2	2	2	2	2	1	1	1	0	1	1	1
			国際日本研究	14	22	13	12	21	13	12	16	10	8	1	15	10	7
			社会人特別選抜		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	66	39	20	17	36	19	17	29	15	12	1	28	15	11	
計		205	230	140	102	217	132	98	144	82	54	13	131	75	50		

注) 1. 国際公共政策学位プログラム(博士前期)には、特別プログラムの志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を除く。

学術院	研究群	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	女子内数	外国人留学生内数	受験者数	女子内数	外国人留学生内数	合格者数	女子内数	外国人留学生内数	辞退者数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数
人文社会ビジネス科学	ビジネス科学	博士前期	※法学	33	59	22	0	54	20	0	28	10	0	3	25	8	0
			※経営学	30	95	22	3	89	20	3	38	8	0	2	36	7	0
		小計	63	154	44	3	143	40	3	66	18	0	5	61	15	0	
		博士後期	※法学	6	13	2	0	11	1	0	5	0	0	1	4	0	0
			※経営学	15	32	7	0	30	7	0	14	1	0	1	13	1	0
小計	21	45	9	0	41	8	0	19	1	0	2	17	1	0			
計		84	199	53	3	184	48	3	85	19	0	7	78	16	0		

注) 1. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。

学術院	専攻	課程	募集人員	志願者数	女子内数	外国人留学生内数	受験者数	女子内数	外国人留学生内数	合格者数	女子内数	外国人留学生内数	辞退者数	入学者数	女子内数	外国人留学生内数
人文社会ビジネス科学	※法曹	専門職学位	36	117	28	0	104	25	0	43	12	0	4	39	10	0
		※国際経営プロフェッショナル	30	94	39	19	94	39	19	36	13	2	1	35	12	2
	小計	66	211	67	19	198	64	19	79	25	2	5	74	22	2	
計		66	211	67	19	198	64	19	79	25	2	5	74	22	2	

注) 1. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。

学術院	研究群	課程	学位プログラム (サブプログラム)	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
理工情報生命	数理物質科学	博士前期	数学	32	35	4	2	34	4	2	29	3	2	1	28	3	2
			社会人特別選抜		1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	
			物理学	60	106	15	12	97	12	10	73	9	7	5	68	8	6
			社会人特別選抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			化学	51	60 {5}	14	12	54 {4}	12	9	49 {3}	11	7	2 {0}	47 {3}	11	6
			社会人特別選抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			応用理工学（電子・物理工学）	123	85	12	22	77	11	20	64	8	9	4	60	8	9
			社会人特別選抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			応用理工学（物性・分子工学）		88	9	21	82	9	20	72	8	15	2	70	8	14
			社会人特別選抜	10	2	0	1	2	0	1	2	0	1	1	1	1	0
		国際マテリアルズイノベーション	5		1	1	5	1	1	5	1	1	0	5	1	1	
		社会人特別選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小計	276	382 {5}	55	71	352 {4}	49	63	295 {3}	40	42	16 {0}	279 {3}	39	38	
		博士後期	数学	8	8	0	0	8	0	0	8	0	0	3	5	0	0
			社会人特別選抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			物理学	17	14	1	0	14	1	0	14	1	0	0	14	1	0
			社会人特別選抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			化学	15	3 {1}	0	1	3 {1}	0	1	3 {1}	0	1	0 {0}	3 {1}	0	1
			社会人特別選抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			応用理工学（電子・物理工学）	42	8	1	5	8	1	5	8	1	5	0	8	1	5
			社会人特別選抜		5	0	0	5	0	0	5	0	0	5	0	0	
			応用理工学（物性・分子工学）		7	2	3	7	2	3	7	2	3	0	7	2	3
			社会人特別選抜		1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
			応用理工学（NIMS連係物質・材料工学）	6	26 {26}	9	24	26 {26}	9	24	15 {15}	9	15	2 {2}	13 {13}	7	13
			社会人特別選抜		1 {1}	0	0	1 {1}	0	0	1 {1}	0	0	0 {0}	1 {1}	0	0
			国際マテリアルズイノベーション		9	3	5	9	3	5	9	3	5	1	8	2	5
		社会人特別選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		小計	88	82 {28}	16	38	82 {28}	16	38	71 {17}	16	29	6 {2}	65 {15}	13	27	
		計	364	464 {33}	71	109	434 {32}	65	101	366 {20}	56	71	22 {2}	344 {18}	52	65	

- 注) 1. { }内は、連携大学院方式を内数で示す。なお、物理学学位プログラム（博士前期・後期）、化学学位プログラム（博士前期・後期）、応用理工学学位プログラム電子・物理工学サブプログラム（博士前期・後期）、応用理工学学位プログラム物性・分子工学サブプログラム（博士前期・後期）、応用理工学学位プログラムNIMS連係物質・材料工学サブプログラム（博士後期）については、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。
2. 応用理工学学位プログラム電子・物理工学サブプログラム（博士前期・後期）、物理学学位プログラム（博士後期）には、特別プログラムの志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を除く。
3. 新型コロナウイルスの影響により、入学時期を令和2年度から令和3年度に変更した者（2名）は本表に記載しない。

学術院	研究群	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
理工情報生命	システム情報工学	一貫制	エンパワーメント情報学	8	10	2	2	10	2	2	9	1	1	1	8	1	1
		小計		8	10 {0}	2	2	10 {0}	2	2	9 {0}	1	1	1 {0}	8 {0}	1	1
		博士前期	社会工学	88	131 {5}	34	47	122 {5}	31	41	102 {4}	22	30	3 {0}	99 {4}	22	30
			社会人特別選抜		9	4	1	9	4	1	9	4	1	0	9	4	1
			サービス工学	24	27	6	7	26	6	6	26	6	6	0	26	6	6
			社会人特別選抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			リスク・レジリエンス工学	32	36	6	6	34	6	6	32	6	6	0	32	6	6
			社会人特別選抜		1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
			情報理工	116	182 {6}	27	57	177 {6}	26	55	141 {5}	18	33	11 {0}	130 {5}	18	31
			社会人特別選抜		5	1	1	5	1	1	5	1	1	0	5	1	1
			知能機能システム	100	157 {13}	21	38	149 {12}	21	36	130 {7}	19	28	5 {0}	125 {7}	18	26
			社会人特別選抜		4 {1}	0	1	3 {1}	0	1	2 {0}	0	1	0 {0}	2 {0}	0	1
			構造エネルギー工学	68	107 {7}	11	14	102 {5}	10	14	82 {3}	5	4	6 {0}	76 {3}	5	4
			社会人特別選抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ライフイノベーション (生物情報)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小計		431	659 {32}	110	172	628 {29}	105	161	530 {19}	81	110	25 {0}	505 {19}	80	106
		博士後期	社会工学	22	16 {1}	5	10	16 {1}	5	10	13 {1}	5	8	1 {0}	12 {1}	4	7
			社会人特別選抜		12 {1}	2	1	12 {1}	2	1	12 {1}	2	1	0 {0}	12 {1}	2	1
			リスク・レジリエンス工学	13	7	3	7	6	3	6	6	3	6	0	6	3	6
			社会人特別選抜		5	1	0	5	1	0	5	1	0	0	5	1	0
			情報理工	25	13 {3}	3	8	13 {3}	3	8	13 {3}	3	8	0 {0}	13 {3}	3	8
			社会人特別選抜		7	1	0	7	1	0	7	1	0	0	7	1	0
			知能機能システム	16	20 {4}	2	4	20 {4}	2	4	15 {4}	2	4	1 {0}	14 {4}	2	4
			社会人特別選抜		9	1	0	9	1	0	8	0	0	0	8	0	0
			構造エネルギー工学	16	6	0	3	6	0	3	6	0	3	0	6	0	3
		社会人特別選抜		6 {2}	1	0	6 {2}	1	0	6 {2}	1	0	0 {0}	6 {2}	1	0	
		ライフイノベーション (生物情報)	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	
小計		94	102 {11}	20	34	101 {11}	20	33	92 {11}	19	31	2 {0}	90 {11}	18	30		
計		533	771 {43}	132	208	739 {40}	127	196	631 {30}	101	142	28 {0}	603 {30}	99	137		

注) 1. { }内は、連携大学院方式を内数で示す。なお、サービス工学学位プログラム (博士前期)、社会工学学位プログラム (博士前期・後期)、情報理工学位プログラム (博士前期・後期)、知能機能システム学位プログラム (博士前期・後期)、構造エネルギー工学学位プログラム (博士前期・後期) については、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。
2. 情報理工学位プログラム (博士前期・後期)、構造エネルギー工学学位プログラム (博士前期・後期)、リスク・レジリエンス工学学位プログラム (博士後期) には、特別プログラムの志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を除く。

学術院	研究群	課程	学位プログラム	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数			
理工情報生命	生命地球科学	博士前期	生物学	55	67 {3}	30	6	66 {3}	30	6	65 {3}	30	6	3 {0}	62 {3}	29	6			
			社会人特別選抜		2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0		
			生物資源科学	124	150 {1}	67	27	149 {1}	67	27	140 {1}	63	26	5 {0}	135 {1}	61	26			
			社会人特別選抜		1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1			
			地球科学	52	58 {4}	21	5	56 {4}	20	4	50 {4}	18	3	1 {0}	49 {4}	17	2			
			環境科学		55	42	19	16	42	19	16	40	19	15	3	37	17	13		
			社会人特別選抜	1		1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0			
			山岳科学	20	8	4	1	8	4	1	8	4	1	8	4	1	0	8	4	1
			社会人特別選抜		2	2	0	2	2	0	1	1	0	1	0	1	1	0		
			ライフイノベーション（食料革新）	5	5	4	4	5	4	4	5	4	4	5	4	4	0	5	4	4
			ライフイノベーション（環境制御）		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1
			ライフイノベーション（生体分子材料）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			小計	311	337 {8}	150	61	333 {8}	149	60	313 {8}	142	57	12 {0}	301 {8}	136	54			
			博士後期	生物学	22	16 {1}	3	2	16 {1}	3	2	16 {1}	3	2	0 {0}	16 {1}	3	2		
				社会人特別選抜		9	2	0	9	2	0	9	2	0	9	2	0			
		農学		34	19 {4}	7	7	18 {4}	7	6	17 {4}	7	5	0 {0}	17 {4}	7	5			
		社会人特別選抜			6	2	0	6	2	0	6	2	0	6	2	0				
		生命農学		15	8 {2}	3	0	8 {2}	3	0	7 {1}	2	0	0 {0}	7 {1}	2	0			
		社会人特別選抜			7	0	0	7	0	0	7	0	0	7	0	0				
		生命産業科学		12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		社会人特別選抜			4	2	0	4	2	0	4	2	0	4	2	0				
		地球科学		19	11 {4}	5	3	11 {4}	5	3	11 {4}	5	3	0 {0}	11 {4}	5	3			
		社会人特別選抜			2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0				
		環境学		12	9	5	5	9	5	5	9	5	5	0	9	5	5			
		社会人特別選抜			4	2	0	4	2	0	4	2	0	4	2	0				
		ライフイノベーション（食料革新）		4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1			
		ライフイノベーション（環境制御）			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
		ライフイノベーション（生体分子材料）			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
		小計	118	96 {11}	32	18	95 {11}	32	17	93 {10}	31	16	0 {0}	93 {10}	31	16				
		計	429	433 {19}	182	79	428 {19}	181	77	406 {18}	173	73	12 {0}	394 {18}	167	70				

- 注) 1. { }内は、連携大学院方式を内数で示す。なお、生物学学位プログラム（博士前期・後期）、地球科学学位プログラム（博士前期・後期）、生物資源科学学位プログラム（博士前期）、環境科学学位プログラム（博士前期）、山岳科学学位プログラム（博士前期）、農学学位プログラム（博士後期）、生命農学学位プログラム（博士後期）、生命産業科学学位プログラム（博士後期）、環境学学位プログラム（博士後期）については、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。
2. 生物資源科学学位プログラム（博士前期）には、特別プログラムの志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を除く。
3. 新型コロナウイルスの影響により、入学時期を令和2年度から令和3年度に変更した者（1名）は本表に記載しない。

学術院	専攻	課程	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
理工情報生命	国際連携持続環境科学	博士前期	3	2	2	0	2	2	0	2	2	0	0	2	2	0
		小計	3	2	2	0	2	2	0	2	2	0	0	2	2	0
		計	3	2	2	0	2	2	0	2	2	0	0	2	2	0

- 注) 1. 国際連携持続環境科学専攻（博士前期）には、マレーシア日本国際工科院（MJIT）を主として在籍する者を除く。

学術院	研究群	課程	学位プログラム (サブプログラム)	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
人間総合科学	人間総合科学	一貫制	ヒューマンバイオロジー	8	10	4	6	10	4	6	8	4	4	2	6	3	3
			小計	8	10 {0}	4	6	10 {0}	4	6	8 {0}	4	4	2 {0}	6 {0}	3	3
		修士	フロンティア医科学	50	53	26	1	52	26	1	47	22	0	14	33	14	0
			社会人特別選抜		6	3	0	6	3	0	6	3	0	0	6	3	0
			公衆衛生学	10	12	10	8	12	10	8	7	6	6	1	6	5	5
			社会人特別選抜		2	2	0	2	2	0	1	1	0	1	0	0	0
			小計	60	73 {0}	41	9	72 {0}	41	9	61 {0}	32	6	16 {0}	45 {0}	22	5
		博士前期	教育学(国際教育)	22	22	18	8	22	18	8	10	10	1	0	10	10	1
			社会人特別選抜		10	8	0	9	7	0	3	2	0	0	3	2	0
			教育学(次世代学校教育創成)	102	42	15	6	36	12	6	31	9	3	2	29	9	3
			社会人特別選抜		9	2	0	8	2	0	7	1	0	0	7	1	0
			教育学(教育基礎科学)		20	13	9	20	13	9	15	9	6	1	14	8	5
			心理学	16	54	42	3	50	38	2	15	13	0	0	15	13	0
			障害科学	38	39	31	14	37	31	14	28	25	8	0	28	25	8
			社会人特別選抜		14	5	0	11	3	0	11	3	0	0	11	3	0
			※カウンセリング	23	125	77	0	120	74	0	25	11	0	0	25	11	0
			※リハビリテーション科学	23	45	21	0	43	20	0	24	7	0	0	24	7	0
			ニューロサイエンス	10	8 {2}	3	0	7 {2}	2	0	7 {2}	2	0	1 {1}	6 {1}	2	0
			看護科学	15	12	8	1	12	8	1	11	7	0	1	10	6	0
			社会人特別選抜		5	5	0	5	5	0	2	2	0	0	2	2	0
			体育学	120	166	42	16	165	42	16	115	28	7	1	114	28	7
			社会人特別選抜		17	2	1	16	2	1	15	2	1	0	15	2	1
			スポーツ・オリンピック学	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			※スポーツウエルネス学	24	39	16	0	38	16	0	25	13	0	3	22	12	0
			芸術学	45	64	45	32	57	40	27	40	31	12	5	35	27	10
			社会人特別選抜		12	7	6	12	7	6	5	2	2	0	5	2	2
			デザイン学	18	41 {1}	22	19	40 {1}	21	18	20 {0}	14	3	1 {0}	19 {0}	14	3
			世界遺産学	15	21	15	12	20	14	12	17	12	10	2	15	10	10
			情報学	54	113	40	0	104	35	0	59	14	0	2	57	13	0
			社会人特別選抜		6	4	0	6	4	0	2	1	0	0	2	1	0
			ライフイノベーション(病態機構)	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ライフイノベーション(創薬開発)		1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1
				小計	515	885 {3}	441	128	839 {3}	414	121	488 {2}	218	54	19 {1}	469 {1}	208
		博士後期	教育学	20	14	6	14	6	6	11	3	4	1	10	2	4	
			社会人特別選抜		9	5	0	9	5	0	8	5	0	8	5	0	
			心理学	6	6	2	1	6	2	1	4	1	0	0	4	1	0
			障害科学	10	10	5	2	9	4	2	8	3	2	0	8	3	2
			※カウンセリング科学	4	14	12	0	14	12	0	4	3	0	0	4	3	0
			※リハビリテーション科学	4	9	6	0	9	6	0	4	3	0	0	4	3	0
			ニューロサイエンス	5	11 {2}	2	4	11 {2}	2	4	11 {2}	2	4	1 {0}	10 {2}	2	3
			看護科学	8	12	11	0	11	10	0	8	8	0	0	8	8	0
			体育科学	15	18	4	5	17	4	5	16	3	4	0	16	3	4
			※スポーツウエルネス学	3	5	1	0	5	1	0	3	1	0	0	3	1	0
			芸術学	7	10	4	4	10	4	4	5	4	2	0	5	4	2
			社会人特別選抜		4	2	0	4	2	0	2	0	0	0	2	0	0
			デザイン学	5	3	2	1	3	2	1	3	2	1	0	3	2	1
			世界遺産学	5	9	5	5	9	5	5	6	3	4	1	5	2	4
			情報学	12	9	3	0	9	3	0	9	3	0	0	9	3	0
			社会人特別選抜		4	1	0	4	1	0	4	1	0	1	3	1	0
			ライフイノベーション(病態機構)	3	2	2	1	2	2	1	2	2	1	0	2	2	1
			ライフイノベーション(創薬開発)		3	1	1	3	1	1	3	1	1	0	3	1	1
				小計	107	152 {2}	74	30	149 {2}	72	30	111 {2}	48	23	4 {0}	107 {2}	46
		3年制博士	ヒューマン・ケア科学	9	13	8	1	13	8	1	11	7	1	0	11	7	1
			パブリックヘルス	9	10	6	2	10	6	2	10	6	2	1	9	5	2
			スポーツ医学	10	11	7	1	11	7	1	10	6	1	0	10	6	1
			コーチング学	6	9	1	0	9	1	0	8	1	0	0	8	1	0
				小計	34	43 {0}	22	4	43 {0}	22	4	39 {0}	20	4	1 {0}	38 {0}	19
医学の課程	80		54	16	11	54	16	11	54	16	11	5	49	15	11		
社会人特別選抜		25	6	0	25	6	0	25	6	0	1	24	6	0			
	小計	80	79 {0}	22	11	79 {0}	22	11	79 {0}	22	11	6 {0}	73 {0}	21	11		
計			804	1242 {5}	604	188	1192 {5}	575	181	786 {4}	344	102	48 {1}	738 {3}	319	96	

- 注) 1. { }内は、連携大学院方式を内数で示す。なお、心理学学位プログラム（博士前期・後期）、ニューロサイエンス学位プログラム（博士前期・後期）、デザイン学学位プログラム（博士前期・後期）、パブリックヘルス学位プログラム（3年制博士）、スポーツ医学学位プログラム（3年制博士）、医学学位プログラム（医学の課程）については、募集人員に内数を明示していないが、連携大学院方式の募集あり。
 2. 教育学学位プログラム次世代学校教育創成サブプログラム、障害科学学位プログラムの募集人員には、現職教員1年制プログラムを含む。
 3. ※は、専ら夜間において教育を行う課程。
 4. 公衆衛生学学位プログラム（修士）、教育学学位プログラム教育基礎科学サブプログラム（博士前期）、医学学位プログラム（医学の課程）には、特別プログラムの志願者数、受験者数、合格者数、入学者数を除く。
 5. 新型コロナウイルスの影響により、入学時期を令和2年度から令和3年度に変更した者（2名）は本表に記載しない。

学術院	専攻	課 程	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
人間総合科学	国際連携食料健康科学	修士	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	スポーツ国際開発学共同	修士	5	6	1	0	6	1	0	6	1	0	1	5	1	0
		小 計	8	6	1	0	6	1	0	6	1	0	1	5	1	0
	大学体育スポーツ高度化共同	3年制博士	3	3	0	0	3	0	0	3	0	0	0	3	0	0
		小 計	3	3	0	0	3	0	0	3	0	0	0	3	0	0
	計		11	9	1	0	9	1	0	9	1	0	1	8	1	0

- 注) 1. 国際連携食料健康科学専攻（修士）には、国立台湾大学、ボルドー大学を主として在籍する者を除く。
 2. スポーツ国際開発学共同専攻（修士）及び大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士）には、鹿屋体育大学を主として在籍する者を除く。

	課 程	学位プログラム	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
グローバル教育院	一貫制	ヒューマニクス学位プログラム	若干名	16	7	4	16	7	4	15	7	3	0	15	7	3
		小 計		16	7	4	16	7	4	15	7	3	0	15	7	3
	一貫制 (3年次編入)	エンパワメント情報学プログラム	若干名	4	0	1	4	0	1	3	0	1	0	3	0	1
		小 計		4	0	1	4	0	1	3	0	1	0	3	0	1
	計			20	7	5	20	7	5	18	7	4	0	18	7	4

(イ) その他

学術院	研究群	課程	学位プログラム (サブプログラム)	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
-----	-----	----	----------------------	------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	------	----------	------------------

【再入学】

理工情報生命	システム情報工学	博士前期	サービス工学	若干名	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
計					1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0

【人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群 ASIIP】

人文社会ビジネス科学	人文社会科学	博士前期	国際公共政策	若干名	3	3	0	3	3	0	3	3	0	0	3	3	0
計					3	3	0	3	3	0	3	3	0	0	3	3	0

【理工情報生命学術院数理工物質科学研究群 ダブル・ディグリープログラムに基づきグルノーブル・アルプス大学から筑波大学へ派遣される大学院学生を募集する特別選抜】

理工情報生命	数理工物質科学	博士前期	応用理工学（電子・物理工学）	若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1
		博士後期	物理学	若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1
			応用理工学（電子・物理工学）	若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1
計					3	0	3	3	0	3	3	0	3	0	3	0	3

【理工情報生命学術院システム情報工学研究群 海外居住者対象特別選抜】

理工情報生命	システム情報工学	博士後期	リスク・レジリエンス工学	若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1
			情報理工	若干名	2	0	2	2	0	2	2	0	2	0	2	0	2
			構造エネルギー工学	若干名	2 {1}	0	2	2 {1}	0	2	2 {1}	0	2	0 {0}	2 {1}	0	2
計					5 {1}	0	5	5 {1}	0	5	5 {1}	0	5	0 {0}	5 {1}	0	5

注) 1. { }内は、連携大学院方式を内数で示す。

【理工情報生命学術院システム情報工学研究群 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム（フロンティアインフォマティクス国際プログラム）】

理工情報生命	システム情報工学	博士前期	情報理工	若干名	5 {1}	0	5	5 {1}	0	5	4 {0}	0	4	0 {0}	4 {0}	0	4
		博士後期	情報理工	若干名	3	1	3	3	1	3	3	1	3	0	3	1	3
計					8 {1}	1	8	8 {1}	1	8	7 {0}	1	7	0 {0}	7 {0}	1	7

注) 1. { }内は、連携大学院方式を内数で示す。

【理工情報生命学術院システム情報工学研究群 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム（少人数PBLによる分野融合レジリエンス工学人材育成プログラム）】

理工情報生命	システム情報工学	博士前期	構造エネルギー工学	若干名	2	0	2	2	0	2	2	0	2	0	2	0	2
		博士後期	構造エネルギー工学	若干名	6	0	6	6	0	6	5	0	5	0	5	0	5
計					8	0	8	8	0	8	7	0	7	0	7	0	7

【理工情報生命学術院生命地球科学研究群 国際農業科学プログラム】

理工情報生命	生命地球科学	博士前期	生物資源科学	若干名	6	1	6	6	1	6	6	1	6	0	6	1	6
計					6	1	6	6	1	6	6	1	6	0	6	1	6

学術院	研究群	課程	学位プログラム (サブプログラム)	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
-----	-----	----	----------------------	------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	------	----------	------------------

【理工情報生命学術院生命地球科学研究群 国立台湾大学とのダブルディグリープログラム】

理工情報生命	生命地球科学	博士前期	生物資源科学	若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1
計					1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1

【人間総合科学学術院人間総合科学研究群 東北師範大学とのダブルディグリープログラム】

人間総合科学	人間総合科学	博士前期	教育学 (教育基礎科学)	若干名	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2
計					2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2

【人間総合科学学術院人間総合科学研究群 博士(医学)と修士(公衆衛生学)のデュアルディグリープログラム】

人間総合科学	人間総合科学	修士	公衆衛生学	若干名	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0
計					1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0

【人間総合科学学術院人間総合科学研究群 海外居住者特別選抜】

人間総合科学	人間総合科学	修士	公衆衛生学	若干名	4	4	4	4	4	4	3	3	3	0	3	3	3
		医学の課程	医学	若干名	3	2	3	3	2	3	3	2	3	0	3	2	3
計					7	6	7	7	6	7	6	5	6	0	6	5	6

学術院	専攻	課程	募集人員	志願者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	受験者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	合格者数	女子 内数	外国人 留学生 内数	辞退者数	入学者数	女子 内数	外国人 留学生 内数
-----	----	----	------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	----------	------------------	------	------	----------	------------------

【人間総合科学学術院 鹿屋体育大学との共同専攻 (主として鹿屋体育大学に在籍)】

人間総合科学	スポーツ国際開発学共同	修士	3	3	1	0	3	1	0	2	1	0	0	2	1	0
	大学体育スポーツ高度化共同	3年制博士	2	2	1	0	2	1	0	2	1	0	0	2	1	0
計			5	5	2	0	5	2	0	4	2	0	0	4	2	0

3 研究関係

(1) 科学研究費助成事業採択状況（新規+継続分）

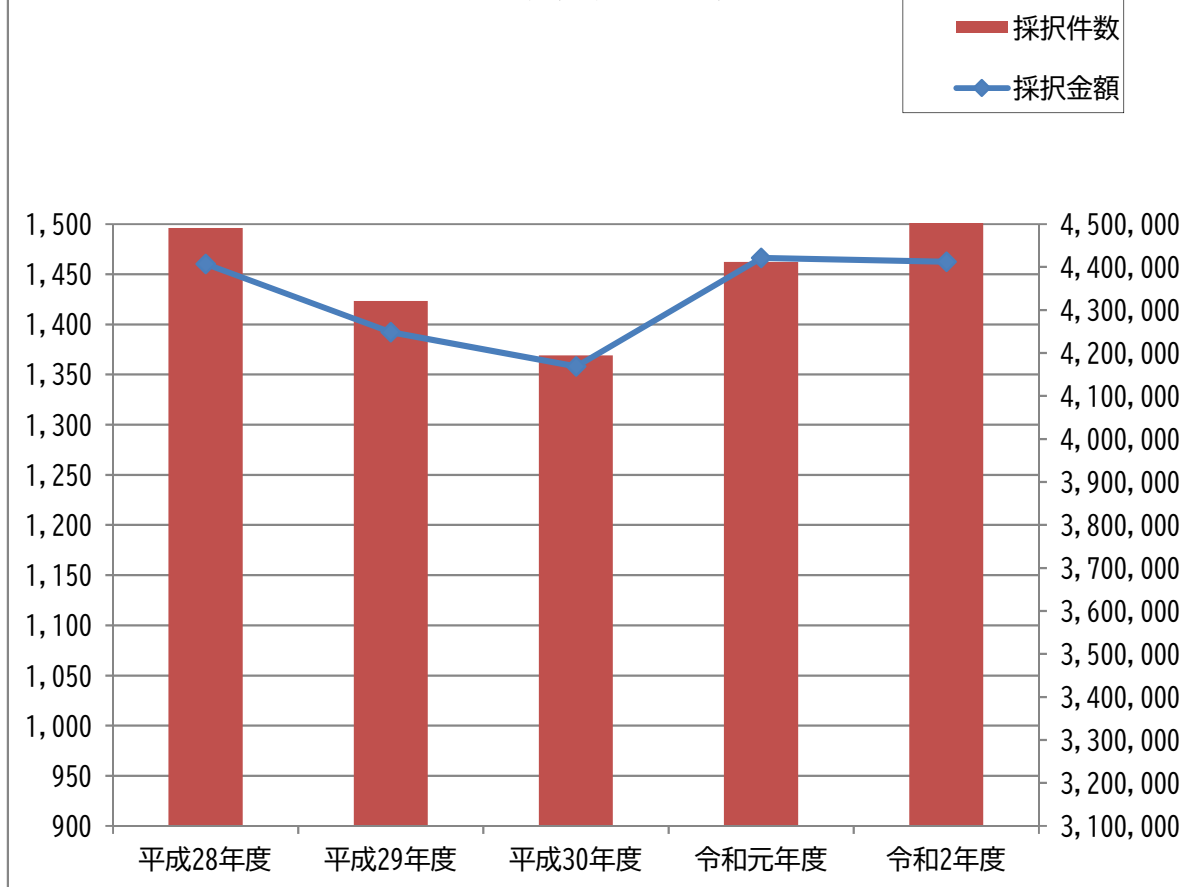
ア 総括表

令和3年3月31日現在
(単位：千円)

系等	特別推進研究		新学術領域研究		学術変革領域研究(A)		学術変革領域研究(B)		基盤研究(S)		基盤研究(A)		基盤研究(B)		国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))		国際共同研究加速基金(帰国発展研究)		基盤研究(C)		若手研究(A)		若手研究(B)		若手研究		研究活動スタート支援		挑戦的研究(萌芽)		挑戦的研究(開拓)		研究成果公開促進費		特別研究員奨励費		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
人文社会系	0	0	5	76,960	0	0	0	0	0	0	4	34,970	20	65,910	1	3,640	0	0	62	61,750	0	0	1	910	23	21,710	5	5,850	3	6,110	0	0	4	3,150	26	22,000	154	302,960
ビジネスサイエンス系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	18,070	6	17,290	0	0	0	0	20	22,230	0	0	0	0	4	3,770	0	0	4	10,140	0	0	0	0	1	1,430	37	72,930
数理工学系	2	190,970	18	70,980	0	0	0	0	3	91,130	9	97,630	32	161,070	3	12,870	0	0	52	69,680	1	4,420	2	1,950	17	22,769	8	10,303	19	45,110	0	0	0	0	32	34,490	198	813,372
システム情報系	0	0	5	28,340	0	0	0	0	0	0	8	80,860	48	228,020	1	5,980	0	0	52	70,460	1	4,030	3	2,470	26	36,920	1	1,430	18	36,270	3	15,600	0	0	21	21,000	187	531,380
生命環境系	0	0	12	146,250	1	4,680	0	0	1	15,210	6	45,630	45	221,130	6	32,760	0	0	60	84,110	0	0	2	1,300	19	30,550	6	7,930	12	30,810	2	9,620	0	0	31	29,768	203	659,748
人間系	0	0	1	2,990	0	0	0	0	0	0	4	42,640	14	58,890	1	4,030	0	0	39	48,100	2	9,100	0	0	20	22,880	2	520	12	27,690	0	0	0	0	15	12,550	110	229,390
体育系	0	0	2	23,140	0	0	0	0	0	0	2	19,370	14	74,230	0	0	0	0	26	32,890	0	0	1	1,170	14	15,523	3	4,160	4	9,230	1	25,090	0	0	9	8,740	76	213,543
芸術系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	33,020	6	20,930	3	14,690	0	0	12	13,260	0	0	0	0	6	5,460	3	3,510	1	1,950	0	0	0	0	7	5,633	41	98,453	
医学医療系	0	0	8	124,800	0	0	0	0	1	30,550	5	63,960	50	268,710	1	7,410	1	19,500	135	177,320	0	0	0	0	64	93,990	7	9,490	19	56,810	2	9,100	0	0	16	15,870	309	877,510
図書館情報学系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8,840	10	46,930	0	0	0	0	17	18,720	1	3,770	2	1,300	8	9,473	1	1,430	2	2,730	0	0	0	0	0	0	42	93,193	
計算科学研究センター	0	0	6	11,960	0	0	0	0	0	0	2	23,920	7	32,500	1	5,460	0	0	9	10,400	1	4,680	0	0	10	13,650	1	1,300	2	3,770	0	0	0	0	2	2,730	41	110,370
生存ダイナミクス研究センター	0	0	3	30,420	0	0	0	0	1	30,680	1	9,750	3	16,510	0	0	0	0	6	6,500	0	0	0	0	4	6,500	2	2,860	1	3,900	0	0	0	0	4	3,730	25	110,850
附属病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	9,490	0	0	1	0	26	41,340	8	11,310	0	0	0	0	0	0	0	0	41	62,140	
国際統合睡眠医学研究機構	1	88,660	4	12,350	0	0	0	0	0	0	1	10,140	8	44,980	0	0	0	0	15	21,320	0	0	0	0	5	6,630	2	2,860	3	9,100	0	0	0	0	9	10,760	48	206,800
地中海・北アフリカ研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2,860	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2,860	
ヘルスサービス開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2,600	0	0	0	0	3	3,640	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	6,240	
プレジジョン・メディスン開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7,150	1	1,820	0	0	1	1,430	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	10,400	
テーラーメイドQOLプログラム開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3,120	1	1,430	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4,550	
革新的創薬開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,950	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,950	
人工知能科学センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	650	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	650	
アイソトープ環境動態研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,170	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,170	
本部任用教員等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,560	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,560	
合計	3	279,630	64	528,190	1	4,680	0	0	6	167,570	48	488,800	264	1,264,250	18	88,660	1	19,500	516	652,990	6	26,000	12	9,100	255	343,385	50	64,383	100	243,620	8	59,410	4	3,150	173	168,701	1,529	4,412,020

※ 本学から申請し、内定を受けた課題の数、金額を集計している。
 ※ 転入・転出状況を反映した。
 ※ 奨励研究は除く。
 ※ 学長、副学長、名誉教授等は元の所属部局に加算した。
 ※ 本部任用教員等はまとめて計上。(内訳：教育推進部(1)、利益相反・輸出管理マネジメント室(1))
 ※ 間接経費を含む。
 ※ 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))：1件、7,280千円(全研究期間分)の採択あり。(うち令和2年度の交付決定は0件)

科研費の推移



年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
採択件数	1,496	1,423	1,369	1,462	1,529
採択金額	4,407,088	4,248,540	4,168,674	4,421,030	4,412,020

(単位：千円)

(2) 研究プロジェクト支援経費

ア 戦略イニシアティブ (SS), (S), (A) 採択・配分状況 <令和2年度>

(ア) 総括表

(単位:千円、以下同じ。)

配分先	平成 29 年度採 択 A	平成 30 年度採 択 SS	平成 30 年度採 択 S	平成 30 年度採 択 A	配分金額
人文社会系	0	0	0	0	0
ビジネスサイエンス系	0	0	0	0	0
数理物質系	0	0	0	0	0
システム情報系	0	0	0	0	0
生命環境系	1	0	0	0	3,200
人間系	0	0	0	0	0
体育系	0	0	0	0	0
芸術系	0	0	0	0	0
医学医療系	0	0	0	0	0
図書館情報メディア系	0	0	0	0	0
計算科学研究センター	0	1	0	0	5,000
生存ダイナミクス研究センター	0	1	0	0	5,000
つくば機能植物イノベーション研究センター	0	0	1	0	5,600
下田臨海実験センター	0	0	1	0	5,600
地中海・北アフリカ研究センター	0	0	1	0	5,600
アイソトープ環境動態研究センター	0	0	1	0	6,000
人工知能科学センター	0	0	1	0	5,000
陽子線医学利用研究センター	0	0	1	0	3,500
山岳科学センター	0	0	0	1	3,200
微生物サステナビリティ研究センター	0	0	0	1	3,200
ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター	0	0	0	1	3,711
トランスポーター医学研究センター	0	0	0	1	3,200
宇宙史研究センター	0	0	0	1	2,000
合 計	1	2	6	5	59,811

(イ) 研究代表者等

1) 継続<戦略イニシアティブSS> R1:世界級研究拠点(平成30年度採択)

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
計算科学研究センター・センター長	朴 泰祐	計算科学研究センター (重点研究センター)	5,000
生存ダイナミクス研究センター・センター長	林 純一	生存ダイナミクス研究センター (重点研究センター)	5,000

2) 継続<戦略イニシアティブS> R2：全国級研究拠点（平成30年度採択）

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
つくば機能植物イノベーション研究センター・センター長	江面 浩	つくば機能植物イノベーション研究センター	5,600
下田臨海実験センター・センター長	笹倉 靖徳	下田臨海実験センター	5,600
地中海・北アフリカ研究センター・センター長	弥永 真生	地中海・北アフリカ研究センター	5,600
アイソトープ環境動態研究センター・センター長	恩田 裕一	アイソトープ環境動態研究センター	6,000
人工知能科学センター・センター長	櫻井 鉄也	人工知能科学センター	5,000
陽子線医学利用研究センター・センター長	榮 武二	陽子線医学利用研究センター	3,500

3) 継続<戦略イニシアティブA> R3：重点育成研究拠点（平成30年度採択）

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
山岳科学センター・センター長	津村 義彦	山岳科学センター	3,200
微生物サステナビリティ研究センター・センター長	高谷 直樹	微生物サステナビリティ研究センター	3,200
ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター・センター長	征矢 英昭	ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター	3,711
トランスポーター医学研究センター・センター長	高橋 智	トランスポーター医学研究センター	3,200
宇宙史研究センター・センター長	久野 成夫	宇宙史研究センター	2,000

4) 継続<戦略イニシアティブA>（平成29年度採択）

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
生命環境系・教授	野村 暢彦	ERATO (野村集団微生物制御プロジェクト)	3,200

イ プレ戦略イニシアティブ（研究拠点提案型）申請・採択・配分状況 <令和2年度>
(ア) 総括表

系	新規申請件数	新規採択件数	継続件数	配分金額
人文社会系	1	0	0	0
ビジネスサイエンス系	0	0	1	700
数理物質系	1	0	1	800
システム情報系	0	0	2	1,300
生命環境系	1	0	0	0
人間系	0	0	1	800
体育系	0	0	0	0

芸術系	0	0	0	0
医学医療系	1	0	1	400
図書館情報メディア系	0	0	0	0
合 計	4	0	6	4,000

(イ) 研究代表者等

1) 新規 (令和2年度新規採択課題なし)

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
---	---	---	---

2) 継続 (令和元年度採択)

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
システム情報系・教授	伊藤 誠	交通移動体の安全な自動運転のためのヒューマンマシンインタラクション研究拠点の形成	800
システム情報系・助教	善甫 啓一	障害支援技術研究の拠点形成に向けた取り組み	500
医学医療系・教授	島野 仁	持続的脂質医学研究拠点形成	400

3) 継続 (平成30年度採択)

代表者		拠 点 名	配分額
所属部局・職	氏名		
ビジネスサイエンス系・教授	山田 雄二	市場取引とオープン化を基盤とするビジネスイノベーション支援のためのデータサイエンス研究拠点の形成	700
数理物質系・教授	重川 秀実	極限量子計測・量子生命科学	800
人間系・教授	小川 園子	ソーシャル・ニューロダイバーシティ科学研究拠点の創成と推進	800

ウ 研究基盤支援プログラムSタイプ（スタートアップ支援）申請・採択・配分状況
（令和2年度）

（ア）総括表

組織名	Sタイプ							配分金額 (合計)
	令和2年度採択 (採択1年目)			令和元年度採択 (採択2年目)		平成30年度採択 (採択3年目)		
	申請 件数	採択 件数	配分金額	継続 件数	配分金額	継続 件数	配分金額	
人文社会系	4	1	770,000	1	884,000	1	1,000,000	2,654,000
ビジネスサイエンス系	0	0	0	0	0	0	0	0
数理物質系	6	1	1,000,000	1	1,000,000	1	1,000,000	3,000,000
システム情報系	5	1	1,000,000	1	1,000,000	0	0	2,000,000
生命環境系	1	1	993,000	0	0	1	1,000,000	1,993,000
人間系	0	0	0	0	0	0	0	0
体育系	1	0	0	1	1,000,000	0	0	1,000,000
芸術系	0	0	0	0	0	0	0	0
医学医療系	2	1	1,000,000	0	0	2	2,000,000	3,000,000
図書館情報メディア系	1	0	0	1	998,000	0	0	998,000
計算科学研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
生存ダイナミクス研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	20	5	4,763,000	5	4,882,000	5	5,000,000	14,645,000

（イ）採択状況

	所属部局・職	氏名	研究課題名	令和2年度 配分金額	
S タイプ (採 択 1 年 目)	人文社会系	助教	蔡 芸琦	刑法における性的自由の構造と性犯罪の立法・解釈	770,000
	数理物質系	助教	皇甫 度均	生体に照射可能な低温高密度大気圧マイクロ波プラズマ源の開発	1,000,000
	システム情報系	助教	蜂須 拓	振動刺激を用いた痙縮抑制法における振動刺激パラメータの最適化	1,000,000
	生命環境系	助教	徳納 吉秀	電気を使った微生物機能制御技術の基盤構築	993,000
	医学医療系	講師	貞廣 威太郎	リプログラミングによるヒト血液細胞からの心筋細胞誘導法の開発	1,000,000
S タイプ (採 択 2 年 目)	人文社会系	助教	土方 裕子	北米で働く日本人駐在員の英語語用論的能力の発達：「助言」で使用する方略を中心に	884,000
	数理物質系	助教	丸山 実那	原子種-空隙-外場による原子層ヘテロ積層系の電子物性制御	1,000,000
	システム情報系	准教授	町田 文雄	フォッグコンピューティング応用システムに対するスケラブル信頼性設計技術の研究	1,000,000
	体育系	助教	下山 寛之	潜在的な低エネルギーアペラビリティを検出するため為の新規バイオマーカーの探索	1,000,000
	図書館情報メディア系	准教授	加藤 誠	統計データの引用分析とそれに基づく誤引用特定手法の開発	998,000
S タイプ (採 択 3 年 目)	人文社会系	助教	関 能徳	経済投票における財政政策に関する有権者の選好の役割：多国間統計分析とサーベイ実験	1,000,000
	数理物質系	准教授	藤岡 淳	強相関トポロジカル半金属における電子・光機能性の開拓	1,000,000
	生命環境系	准教授	平川 秀彦	ゲル状多酵素複合体のサイズ制御	1,000,000
	医学医療系	准教授	宮腰 昌利	病原性細菌のRNA制御ネットワークの解明	1,000,000
	医学医療系	助教	黒川 宏美	エリスロポエチンを用いた新規抗がん剤効果増強効果のin vivo検討と機序解明	1,000,000

エ 研究基盤支援プログラムAタイプ（若手研究者研究奨励費）申請・採択・配分状況
 （令和2年度）

（ア）総括表

（単位：千円）

所 属	申請件数					採択件数					配分額
	准教授	講師	助教	研究員	計	准教授	講師	助教	研究員	計	
人文社会系	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	215
ビジネスサイエンス系	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
数理物質系	0	0	3	0	3	0	0	1	0	1	1,000
システム情報系	0	0	2	1	3	0	0	2	1	3	2,733
生命環境系	0	0	1	3	4	0	0	1	1	2	1,000
人間系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
体育系	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0
芸術系	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
医学医療系	0	0	2	0	2	0	0	1	0	1	1,000
図書館情報メディア系	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
国際統合睡眠医科学研究機構	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1,000
計算科学研究センター	0	0	0	2	2	0	0	0	1	1	1,000
生存ダイナミクス研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	10	10	21	0	0	5	5	10	7,948

(イ) 採択状況

(単位：千円)

A タイプ	所属部局・職		氏名	研究課題名	配分額
	人文社会系	特任研究員	駒居 幸	日本の犯罪小説のトランスナショナルな可能性：桐野夏生作品を手掛かりに	215
	数理物質系	助教	宮川 晃尚	超音波放射力による結合破断を利用した平衡定数の小さい反応系の超微量計測	1,000
	システム情報系	助教	萬 礼応	アーム搭載掃除ロボットの物体の属性と関係を考慮した清掃作業計画	1,000
	システム情報系	研究員	山崎 純子	二次元ホローカソードを用いた内部のプラズマ可視化	1,000
	システム情報系	助教	金澤 健治	計算困難な最適化問題向けソルバに対するハードウェア・アクセラレータの構築	733
	生命環境系	研究員	二宮 章洋	糸状菌の二次代謝を刺激する微生物シグナルの解明	1,000
	生命環境系	特任助教	西田 梢	革新的安定同位体比分析技術による古生物の環境履歴復元への挑戦	0※
	医学医療系 (トランスボーダー医学 研究センター)	助教	全 孝静	ヒト血液キメラマウス作製への新たな戦略～経胎盤移植法の実証	1,000
	計算科学研究センター	研究員	井上 茂樹	星間ガス分光観測と銀河形成シミュレーションを直接比較可能にする理論モデル	1,000
国際統合睡眠医科学研究 機構	研究員	キムステイ シージャキョ ン	「眠気」のシグナル伝達機構としてのSIK3パスウェイ	1,000	

※令和2年度研究基盤支援プログラムBタイプに採択され、研究費支援を受けているため経費支援はなし。

オ 研究基盤支援プログラムBタイプ（ステップ・アップ支援）申請・採択・配分状況
 （令和2年度）

（ア）総括表

（単位：千円）

組織名	Bタイプ		
	申請件数	採択件数	配分金額
人文社会系	1	0	0
数理物質系	1	1	1,000
システム情報系	4	2	1,590
生命環境系	3	2	1,579
人間系	2	1	738
芸術系	1	1	560
医学医療系	2	2	1,450
生存ダイナミクス研究センター	1	1	2,700
合 計	15	10	9,617

（イ）採択状況

（単位：千円）

	所属部局・職		氏 名	研 究 課 題 名	配 分 額
B タ イ プ	数理物質系	准教授	寺田 康彦	ヒト胎児脳の数理的形態解析のための高精度MRIの開発	1,000
	システム情報系	准教授	延原 肇	時系列表現可能な画像生成確率分布の学習推定と画像フレームの連続的補間への応用	900
	システム情報系	助教	山口 友之	人の熟練作業の知識化による既設コンクリート構造物の安全性自動診断技術に関する研究	690※ (900)
	生命環境系	教授	DeMar Taylor	Regulation of reproduction and immune responses by the nutrient signaling pathway in a soft tick.	579
	生命環境系	特任助教	西田 梢	革新的同位体分析システムを活用した古生物の行動生態復元への挑戦	1,000
	人間系	教授	川間 健之介	知的障害のある児童生徒のための各教科の評価に関する研究	738
	芸術系	教授	太田 圭	多様なテクスチャーとマテリアルを活用した日本画のマチエールの研究	560※ (700)
	医学医療系	講師	松井 裕史	藻類由来カロテノイド色素内包型ナノ粒子の開発	550※ (900)
	医学医療系	准教授	村越 伸行	心筋症・不整脈疾患における統合的オミックス解析	900
	生存ダイナミクス研究センター	助教	鍋倉 宰	ナチュラルキラー細胞の適応免疫特性獲得の制御機構の研究	2,700

※令和2年度研究基盤支援プログラムCタイプに採択されており、Cタイプ支給額を差し引いた金額を支給。

カ 研究基盤支援プログラムCタイプ（ステップ・アップ強化）配分状況 〈令和2年度〉

(千円)

採択部局	配分額
人文社会系	1,680
数理物質系	900
システム情報系	2,310
生命環境系	350
人間系	1,050
芸術系	700
医学医療系	2,450
合計	9,440

キ 研究基盤支援プログラム科研費獲得支援（部局取組み支援）配分状況（令和2年度）

（千円）

採択部局	配分額
人文社会系	1,000
ビジネスサイエンス系	1,330
数理物質系	1,170
システム情報系	1,170
生命環境系	1,330
人間系	1,330
体育系	1,330
芸術系	1,330
医学医療系	1,170
図書館情報メディア系	1,330
国際統合睡眠医科学研究機構	1,170
計算科学研究センター	1,170
生存ダイナミクス研究センター	1,170
合計	16,000

(3) その他の研究費

ア 受託研究費

(金額：円)

部 局 名	受託研究費		医薬品等受託研究費		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
人文社会系	3	3,573,380			3	3,573,380
ビジネスサイエンス系	3	14,879,000			3	14,879,000
数理物質系	39	775,739,799			39	775,739,799
システム情報系	62	514,477,295			62	514,477,295
生命環境系	55	717,038,330			55	717,038,330
人間系	10	26,662,469			10	26,662,469
体育系	13	170,584,012			13	170,584,012
芸術系	5	12,071,610			5	12,071,610
医学医療系	56	488,079,156			56	488,079,156
図書館情報メディア系	12	123,246,295			12	123,246,295
国際統合睡眠医科学研究機構	11	149,447,420			11	149,447,420
計算科学研究センター	16	207,055,000			16	207,055,000
生存ダイナミクス研究センター	5	972,032,146			5	972,032,146
地中海・北アフリカ研究センター	1	22,356,100			1	22,356,100
アイトープ環境動態研究センター	2	16,999,983			2	16,999,983
人工知能科学センター	1	56,489,400			1	56,489,400
藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター	1	5,750,000			1	5,750,000
プレジジョン・メディシン開発研究センター	1	3,900,000			1	3,900,000
スポーツイノベーション開発研究センター	3	9,852,000			3	9,852,000
ヘルスサービス開発研究センター	2	20,000,000			2	20,000,000
テラーメイドQOLプログラム開発研究センター	2	68,145,100			2	68,145,100
イノバイティブ計測技術開発研究センター	1	1,300,000			1	1,300,000
国際産学連携本部	1	85,862,400			1	85,862,400
附属病院（つくば臨床医学研究開発機構）	93	700,536,562	334	75,506,085	427	776,042,647
合 計	398	5,166,077,457	334	75,506,085	732	5,241,583,542

※医薬品等受託研究費は、産学連携等実施状況調査における治験等受入実績の件数、金額である。

〔過去5年間の推移〕

(金額：千円)

		H28	H29	H30	H31/R1	R2
受託研究費	件数	357	400	444	421	398
	金額	4,940,870	4,260,627	4,734,611	4,638,480	5,166,077
医薬品等受託研究費	件数	314	291	328	322	334
	金額	182,124	57,027	133,071	115,669	75,506
合 計	件数	671	691	772	743	732
	金額	5,122,994	4,317,654	4,867,683	4,754,149	5,241,584

※医薬品等受託研究費は、産学連携等実施状況調査における治験等受入実績の件数、金額である。

イ 寄附金（学術研究関係）および研究助成金 <令和2年度>

（金額：円）

部 局 名	1. 寄附金 (学術研究関係)		2. 研究助成金		3. 寄附研究部門		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
人文社会系	7	2,378,201	6	86,841,028			13	89,219,229
ビジネスサイエンス系	4	1,950,000	3	3,500,000			7	5,450,000
数理物質系	20	15,154,240	34	56,950,000			54	72,104,240
システム情報系	29	24,844,445	20	32,470,500			49	57,314,945
生命環境系	30	66,970,000	32	40,070,290			62	107,040,290
人間系	4	1,250,000	8	5,720,000			12	6,970,000
人間系(東京地区)	2	2,700,000	2	2,100,000			4	4,800,000
体育系	22	17,516,000	5	5,525,217			27	23,041,217
芸術系	7	4,770,000	4	2,430,000			11	7,200,000
医学医療系	286	210,966,293	134	161,258,387	1	40,000,000	421	412,224,680
図書館情報メディア系	1	200,000					1	200,000
国際統合睡眠医科学研究機構	3	1,000,000	13	20,300,000			16	21,300,000
計算科学研究センター			1	1,000,000			1	1,000,000
生存ダイナミクス研究センター	2	2,250,000	13	56,400,000			15	58,650,000
プラズマ研究センター							0	0
人工知能科学研究センター							0	0
下田臨海実験センター							0	0
アイトープ環境動態研究センター							0	0
地中海・北アフリカ研究センター	4	4,547,358					4	4,547,358
つくば機能植物イノベーション研究センター							0	0
サイバニクス研究センター							0	0
藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター	1	1,000,000					1	1,000,000
プレゼンテーション・メディア開発研究センター							0	0
未来社会工学開発研究センター							0	0
スポーツイノベーション開発研究センター	1	2,000,000	1	2,000,000			2	4,000,000
ヘルスサービス開発研究センター	3	1,675,000	1	1,868,000			4	3,543,000
テラーメイドQOLプログラム開発研究センター	2	2,400,000					2	2,400,000
働く人への心理支援開発研究センター	1	330,000					1	330,000
イノベティブ計測技術開発研究センター	2	100,000,000					2	100,000,000
革新的創業開発研究センター							0	0
デジタルネイチャー開発研究センター							0	0
健幸イノベーション開発研究センター							0	0
スマートウェルネスシティ政策開発研究センター							0	0
高細精医療イノベーション研究コア							0	0
研究基盤総合センター							0	0
つくば臨床医学研究開発機構							0	0
グローバルコミュニケーション教育センター							0	0
学術情報メディアセンター							0	0
附属病院	5	4,800,000	17	21,376,040	9	551,525,555	31	577,701,595
附属学校			4	4,125,000			4	4,125,000
教育推進部	1	370,722					1	370,722
人間総合科学研究群			1	1,000,000			1	1,000,000
数理物質科学研究科			1	300,000			1	300,000
計	437	469,072,259	300	505,234,462	10	591,525,555	747	1,565,832,276

定義

1. 寄附金（学術研究関係）……国立大学法人筑波大学寄附金等取扱規程第2条第1項
2. 研究助成金……国立大学法人筑波大学寄附金等取扱規程第2条第2項
3. 寄附研究部門……国立大学法人筑波大学寄附講座及び寄附研究部門取扱規程第2条第2項

(4) 日本学術振興会特別研究員採用状況

区 分 \ 年 度	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用
S P D		0		0		0		0		1		0
P D	51	8	61	8	30	5	34	8	44	14	45	16
D C	328	70	320	58	277	64	296	65	342	52	304	78
計	379	78	381	66	307	69	330	73	386	67	349	94

区 分 \ 年 度	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用
R P D	6	3	7	3	13	0	5	0	8	4	3	2

(5) 国際テニユアトラック採用状況 <令和2年度>

配置組織名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
計算科学研究センター		4					2	
生命領域学際研究センター(~30.3) 生存ダイナミクス研究センター(30.4~)	2		1				1	
人文社会国際比較研究機構 (人文社会系)		3						
数理物質融合科学センター (数理物質系)		3	1					
地球・人類共生科学研究機構 (生命環境系)		2	1					
数理物質系		1	1				1	
生命環境系		1					2	
人間系		1						
体育系		1						
医学医療系		3						1
合計	2	19	4	0	0	0	6	1

(6) 論文数等

ア 査読付き論文数

	2016	2017	2018	2019	2020	合計
大学全体	3,352	3,474	3,670	3,694	3,907	18,097
主要部局別						
人文社会系	26	30	30	28	46	160
ビジネスサイエンス系	26	44	42	44	47	203
数理物質系	828	744	818	859	697	3,946
システム情報系	486	535	553	546	470	2,590
生命環境系	473	401	456	492	508	2,330
人間系	53	53	58	46	63	273
体育系	118	129	124	123	137	631
芸術系	12	22	33	18	20	105
医学医療系	850	934	959	893	1,015	4,651
図書館情報メディア系	90	95	91	83	61	420
計算科学研究センター	145	157	178	187	158	825
生存ダイナミクス研究センター	55	45	56	46	48	250

イ TOP1%ジャーナル掲載論文数

	2016	2017	2018	2019	2020	合計
大学全体	90	77	77	99	118	461
主要部局別						
人文社会系	1	1	1	0	2	5
ビジネスサイエンス系	0	0	0	1	1	2
数理物質系	27	13	16	19	14	89
システム情報系	16	9	4	7	11	47
生命環境系	23	13	9	13	22	80
人間系	2	3	3	1	4	13
体育系	1	2	1	1	1	6
芸術系	0	1	1	1	1	4
医学医療系	23	29	34	30	24	140
図書館情報メディア系	1	0	0	0	0	1
計算科学研究センター	5	2	1	2	0	10
生存ダイナミクス研究センター	2	1	3	6	2	14

ウ 学術図書数

	2016	2017	2018	2019	2020	合計
大学全体	93	94	79	54	53	373
主要部局別						
人文社会系	4	8	2	3	6	23
ビジネスサイエンス系	1	0	1	1	0	3
数理物質系	10	8	3	8	4	33
システム情報系	7	10	8	3	5	33
生命環境系	13	10	11	15	4	53
人間系	0	5	5	3	1	14
体育系	3	3	3	4	0	13
芸術系	0	1	0	2	0	3
医学医療系	11	15	12	3	3	44
図書館情報メディア系	0	1	0	0	0	1
計算科学研究センター	0	0	4	1	1	6
生存ダイナミクス研究センター	0	0	2	0	0	2

※ Scivalを利用して抽出

※ データ抽出日 令和3年10月7日

工 産学共著論文等実績

(2018年 - 2020年)

種類	論文数	被引用数	被引用率
産学共著論文	660	17,342	26.3
国際共著論文	3,819	58,618	15.3
国内共著論文	5,032	24,261	4.8
学内共著論文	1,953	6,208	3.2
単著論文	467	779	1.7

※ Scivalを利用して抽出

※ データ抽出日 令和3年10月6日

(7) 各種受賞学会賞等

所属	氏名	受賞名	受賞月
人文社会系	DADABAEV TIMUR	Academia via Serica学会 Silk Road Prize賞	2020年12月31日
人文社会系	塩谷 哲史	2020年度（第35回）大同生命地域研究賞（地域研究奨励賞）	2020年7月22日
数理物質系	都甲 薫	第42回 本多記念研究奨励賞	2021年2月5日
数理物質系	中村 貴志	日本化学会 第70回進歩賞	2021年1月7日
数理物質系	岩室 憲幸	日経エレクトロニクス パワーエレクトロニクスアワード2020 最優秀賞	2020年12月10日
数理物質系	飯田 崇史	東北大学金属材料研究所 第8回研究部共同利用・共同研究 若手萌芽研究最優秀賞	2020年10月6日
数理物質系	青嶋 誠	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	2020年4月14日
数理物質系	都甲 薫	2019年度 船井学術賞	2020年4月8日
システム情報系	金川 哲也	Featured Article, Physics of Fluids, American Institute of Physics	2021年3月17日
システム情報系	馬場 雪乃	人工知能学会インタラクティブ情報アクセスと可視化マイニング研究会 研究会奨励賞	2021年3月8日
システム情報系	金川 哲也	服部報公会令和2年度工学研究奨励援助金	2020年10月9日
システム情報系	金川 哲也	日本混相流学会 奨励賞	2020年8月22日
システム情報系	西尾 真由子	令和元年度 土木学会論文賞	2020年6月12日
システム情報系	加藤 和彦	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	2020年4月14日
システム情報系	嶋村 耕平	宇部興産学術振興財団 学術奨励賞	2020年4月1日
生命環境系	浅野 敦之	令和3年度日本家禽学会学会賞	2021年3月27日
生命環境系	豊福 雅典	日本微生物学連盟 野本賞	2021年2月25日
生命環境系	向井 広樹	日本粘土学会 奨励賞	2020年9月15日

生命環境系	西田 梢	日本地球化学会 奨励賞	2020年9月15日
生命環境系	石川 香	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	2020年4月14日
生命環境系	津村 義彦	日本農学賞・読売農学賞	2020年4月5日
人間系	大塚 泰正	第27回日本行動医学会学術総会優秀演題賞	2020年12月12日
人間系	大塚 泰正	日本産業衛生学会 産業衛生学雑誌 優秀論文賞	2020年5月25日
名誉教授 (体育科学系)	加藤 澤男	令和2年度文化功労者	2020年11月5日
体育系	内山 治樹	日本体育学会学会賞	2020年10月17日
芸術系	山本 美希	第24回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞	2021年3月12日
芸術系	山本 早里	日本デザイン学会年間作品賞	2020年11月5日
芸術系	小山 慎一	The 2020 International Conference on Kansei Engineering and Emotion Research (KEER 2020) Best Paper Award	2020年9月9日
医学医療系	香川 璃奈	人工知能学会インタラクティブ情報アクセスと可視化マイニング研究会 研究会奨励賞	2021年3月8日
医学医療系	照沼 利之	日本放射線技術学会・日本医学物理学会 2020年度Most Citation Award	2021年1月25日
医学医療系	坂田(柳元) 麻実子	第4回日本医療研究開発大賞 日本医療研究開発機構 (AMED) 理事長賞	2020年12月24日
医学医療系(トランスポーター医学研究センター)	藤田 諒	第6回日本筋学会学術集会Young Investigator's award 優秀賞	2020年12月18日
医学医療系	田宮 菜奈子	US National Academy of Medicine Healthy Longevity Global Grand Challenge Catalyst Award	2020年10月15日
医学医療系	松坂 賢	一般社団法人日本糖尿病学会2020年度リリー賞	2020年10月10日
医学医療系	佐々木 哲也	LEGEND Research Grant Program 2020	2020年9月1日
医学医療系	斎藤 環	第19回小林秀雄賞	2020年9月1日
医学医療系	高橋 智	日本実験動物学会 安東・田嶋賞	2020年6月29日

医学医療系	堀 大介	日本産業衛生学会学術委員会 第5回若手論文賞	2020年5月15日
医学医療系	八神 健一	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）	2020年4月14日
医学医療系	高橋 智	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（科学技術振興部門）	2020年4月14日
医学医療系	家田 真樹	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	2020年4月14日
図書館情報メディア系	松原 正樹	人工知能学会インタラクティブ情報アクセスと可視化マイニング研究会 研究会奨励賞	2021年3月8日
図書館情報メディア系	関 洋平	Best Paper Award Runner-up	2020年12月1日
図書館情報メディア系	関 洋平	ARG 第16回Webインテリジェンスとインタラクション研究会 優秀研究賞	2020年11月28日
図書館情報メディア系	関 洋平	国際規格開発賞	2020年9月1日
計算科学研究センター	日下 博幸	アメリカ気象学会（AMS）ヘルムート・ランズベルグ賞（The Helmut E. Landsberg Award）	2021年1月10日
計算科学研究センター	堀 優太	量子生命科学会 第二回大会 優秀発表賞	2020年12月23日
計算科学研究センター	庄司 光男	量子生命科学会 第二回大会 優秀発表賞	2020年12月23日
計算科学研究センター	朴 泰祐	情報処理学会コンピュータサイエンス領域功績賞	2020年10月8日
計算科学研究センター	天笠 俊之	SQiP Best Paper Effective Award	2020年9月10日
計算科学研究センター	北川 博之	情報処理学会コンピュータサイエンス領域功績賞	2020年9月5日
計算科学研究センター	塩川 浩昭	日本データベース学会上林奨励賞	2020年6月26日
生存ダイナミクス研究センター	澁谷 彰	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	2020年4月14日
国際統合睡眠医科学研究機構	本城 咲季子	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	2020年4月14日

4 産学連携関係

(1) 民間等との共同研究費

ア 総表

(金額：円)

部 局 名	件 数	研究員 受入数	金 額
人文社会系	1	0	2,000,000
ビジネスサイエンス系	5	0	4,532,000
数理物質系	65	9	227,770,052
システム情報系	101	2	146,097,059
生命環境系	113	14	305,414,984
人間系	12	0	16,912,000
体育系	56	0	47,392,537
芸術系	3	3	4,920,000
医学医療系	68	6	160,733,557
図書館情報メディア系	5	0	38,730,000
国際統合睡眠医科学研究機構	13	3	72,240,000
計算科学研究センター	14	0	37,420,000
生存ダイナミクス研究センター	5	0	13,860,000
つくば機能植物イノベーション研究センター	2	2	66,204,000
プラズマ研究センター	56	0	244,498,000
サイバニクス研究センター	1	0	4,800,000
アイソトープ環境動態研究センター	3	0	9,564,800
人工知能科学センター	1	0	30,000,000
藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター	2	0	3,888,000
プレジジョン・メディシン開発研究センター	1	0	35,000,000
未来社会工学開発研究センター	2	0	220,000,000
スポーツイノベーション開発研究センター	2	0	3,906,012
ヘルスサービス開発研究センター	6	1	31,120,000
テラーメイドQOLプログラム開発研究センター	6	8	14,865,923
スマートウエルネスシティ政策開発研究センター	2	0	44,960,000
学術情報メディアセンター	5	2	2,225,800
国際産学連携本部	4	3	7,440,000
附属病院（つくば臨床医学研究開発機構）	23	0	213,053,672
計	577	53	2,009,548,396

(金額：千円)

項	年度	H28	H29	H30	H31/R1	R2
	件 数		472	516	542	515
金 額		1,318,676	1,410,848	2,077,818	2,057,002	2,009,548

(2) 産学連携推進プロジェクト申請・採択・配分状況〈令和2年度〉

ア 総括表

(単位:千円)

系等	つくば産学連携強化プロジェクト			共同研究実用化プーストプロジェクト			産学連携推進プロジェクト						合 計		
							共同研究プロジェクト			ベンチャー創業プロジェクト					
	申請件数	採択件数	採択金額	申請件数	採択件数	採択金額	申請件数	採択件数	採択金額	申請件数	採択件数	採択金額	申請件数	採択件数	採択金額
人文社会系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ビジネスサイエンス系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
数理物質系	12 (0)	10 (0)	10,000 (0)	2 (0)	2 (0)	4,000 (0)	2 (1)	2 (1)	1,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (1)	14 (1)	15,000 (0)
システム情報系	2 (0)	1 (0)	1,000 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	2 (3)	1,000 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	6 (4)	3 (4)	2,000 (0)
生命環境系	13 (0)	8 (0)	8,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	1 (2)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (2)	9 (2)	8,000 (0)
人間系	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
体育系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	5,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	5,000 (0)
芸術系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
医学医療系	7 (0)	6 (0)	6,000 (0)	2 (0)	1 (0)	3,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (0)	7 (0)	9,000 (0)
図書館情報メディア系	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1,000 (0)
国際統合睡眠医科学研究機構	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2,000 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	2,000 (0)
人間総合科学研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)
つくば機能植物イノベーション研究センター	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)
大学発ベンチャー企業等	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)
合 計	37 (0)	25 (0)	25,000 (0)	9 (0)	7 (0)	15,000 (0)	6 (6)	5 (6)	2,000 (0)	3 (3)	0 (3)	0 (0)	55 (9)	37 (9)	42,000 (0)

注) ()内の数字は、継続研究課題の申請件数、採択件数及び採択金額で内数。

イ 種目別採択状況

(単位：千円)

種類	研究代表者		プロジェクト名	配分額	
	配分先(所属)・職	氏名			
共同研究実用化ブーストプロジェクト	2年度新規採択分(採択研究)	数理物質系 教授	伊藤雅英	ホルモン分子可視化を目指した新規ラベルフリー分子イメージング法の開発	2,000
		数理物質系 研究員	谷中淳	再生医療応用実現の為のMuse細胞高収率技術の開拓	2,000
		体育系 教授	白木仁	ゴルフクラブシャフトの性能を客観的に評価する技術の開発	2,000
		体育系 研究員	尹之恩	「新認知機能管理システム」の実用化(フォローアップ研究)	3,000
		医学医療系 助教	門根秀樹	起立着座訓練支援機器Qo1o-STARを用いた下肢麻痺および下肢筋力低下に対する起立訓練の実施可能性、治療効果および介助者負荷軽減効果に関する臨床研究	3,000
		図書館情報メディア系 准教授	手塚太郎	複数の神経集団の同時撮像が可能な超小型脳内視鏡と、リアルタイム解析技術の開発	1,000
		国際統合睡眠医学科学研究機構 准教授	阿部高志	レム睡眠中に発生する夢の情動性を脳波から解読する技術の開発	2,000
オープンイノベーション促進プロジェクト	(共同2年度新規採択分)	数理物質系 准教授	後藤博正	導電性高分子の工業的応用に関する開発	500 (ILC等施設利用)
		数理物質系 准教授	近藤剛弘	水素貯蔵材料としての応用に向けたホウ化水素シートの基礎研究	500 (ILC等施設利用)
		システム情報系 准教授	掛谷英紀	自動車用高精細裸眼3Dヘッドアップディスプレイの研究開発	500 (ILC等施設利用)
		システム情報系 准教授	伊達央	設備性能検査の自動化に関する研究	500 (ILC等施設利用)
		生命環境系 教授	野村暢彦	細胞イメージング技術とAI融合による非破壊細胞評価技術の開発	0 (ILC等施設利用)
	(共同元年度継続採択分)	数理物質系 講師	柏木隆成	宇宙産業に向けた高強度・狭線幅テラヘルツ波発振器の開発	0 (ILC等施設利用)
		システム情報系 教授	相山康道	ロボット作業機に関する研究 - 床下で作業する移動マニピュレータの高機能化とより良い操作手法の研究	0 (ILC等施設利用)
		システム情報系 教授	中内靖	水中ドローンと連動する海洋IoTシステムの開発	0 (ILC等施設利用)
		システム情報系 准教授	山際伸一	高性能ストリームデータ圧縮技術を利用した高解像度映像編集のためのアクセラレータハードウェアの開発	0 (ILC等施設利用)
		生命環境系 准教授	坂本和一	健康長寿に向けた植物生理機能物質の生理作用解析と機能性ヘルスケア製品の開発	0 (ILC等施設利用)
		生命環境系 教授	高谷直樹	うんちで健康チェック：セルフメディケーション推進特別研究事業	0 (ILC等施設利用)
		生命環境系 准教授	大津巖生		
	元年度継続採択創業分(ベンチャープロジェクト)	システム情報系 教授	星野聖	眼のほぼ横に設置した小型カメラを用いた視線追跡と眼球回旋運動の同時計測システム開発と事業化	0 (ILC等施設利用)
	人間総合科学研究科	遠山寛人	超高精細イメージでの文化財の保存と活用	0 (ILC等施設利用)	
	株式会社デバイスラボ	大毛利健治	雑音制御エレクトロニクスのための研究開発	0 (ILC等施設利用)	

(3) 取得特許等（令和3年3月31日現在）

ア 発明等の届け出状況

年度	発明等の届け出数	発明者に権利帰属	法人（国）に権利帰属数
27	102	20	82
28	132	6	115
29	125	12	113
30	128	14	114
R1	139	20	119
R2	119	7	112

イ 現有特許件数

申請状況	国内特許件数	外国特許件数	合計
登録済	479	371	850
申請中	372	246	618

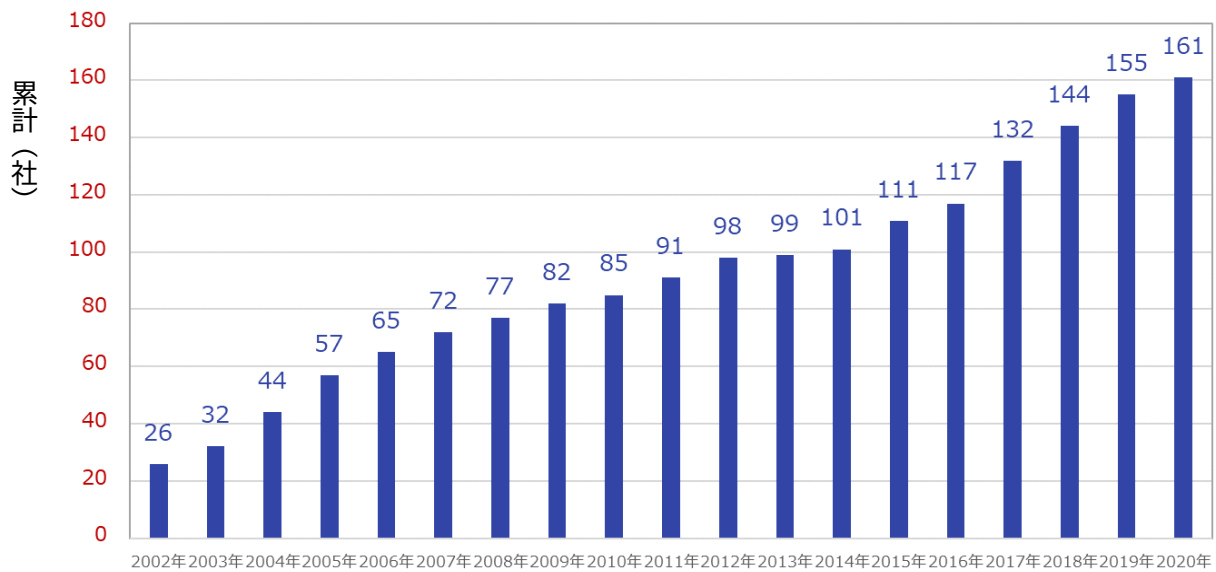
(4)アントレプレナーシップ教育実施状況

	次世代起業家養成講座	次世代起業家養成のための 経営・知財知識講座	TCC-Basic	TCC-Advanced	EDGE-NEXT	
			※2018年度から EDGE-NEXTの ①基礎編アイデアベース として実施	※2018年度から EDGE-NEXTの ②発展編アイデアベース として実施	※2018年度から ③基礎編研究成果ベース として実施	※2017年度から ④発展編研究成果ベース として実施
2020	140	56	43	24	30	34
2019	131	23	56	21	45	★43
2018			50	26	39	29
2017			38	22		56
2016			32	21		

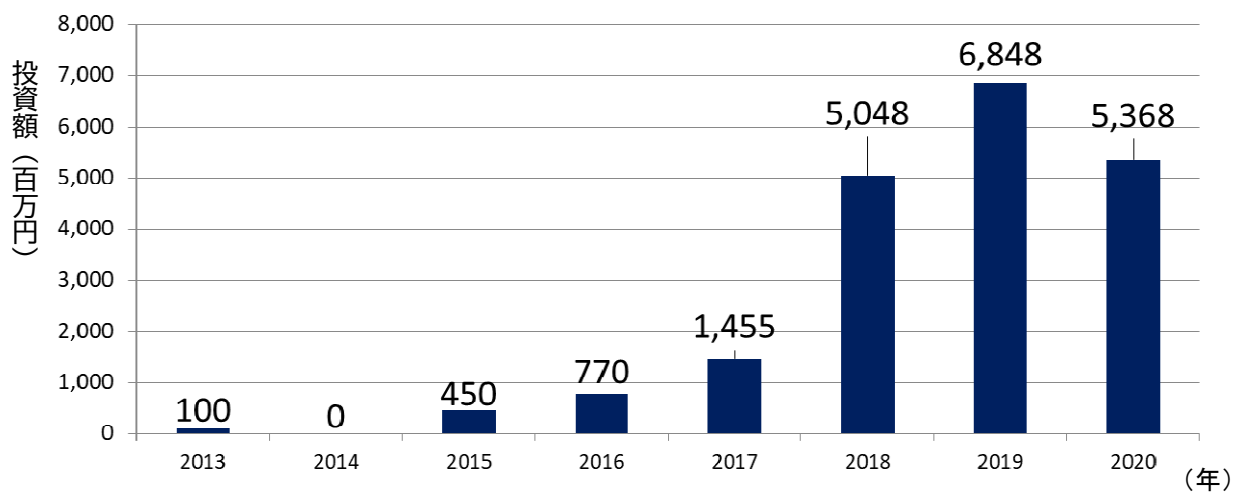
★2019年度集計方法に変更あり

(5) 大学発ベンチャー

ア 大学発ベンチャー累計設立数



イ 大学発ベンチャー資金調達額



5 学生生活関係

(1) 学生の表彰

令和2年9月

No.	所属（年次） 氏 名	適用 条項	表 彰 に 価 す る 行 為
1	生命環境科学研究科 博士後期課程 持続環境学専攻 （3年次） 注 学 志	第4条 第1項 第1号	<p><u>学術誌への論文掲載</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Wang Xuezhi, Yuan Tian, Lei Zhongfang, Kobayashi Motoyoshi, Adachi Yasuhisa, Shimizu Kazuya, Lee Duu-Jong, Zhang Zhenya, 2020. Supplementation of O₂-containing gas nanobubble water to enhance methane production from anaerobic digestion of cellulose. Chem. Eng. J. 125652 (IF=10.860). 2. Wang Xuezhi, Lei Zhongfang, Shimizu Kazuya, Zhang Zhenya, Lee Duu-Jong, 2020. Improved methane production from corn straw using anaerobically digested sludge pre-augmented by nanobubble water. Bioresour. Technol. 331, 123479 (IF=7.763). 3. Wang Xuezhi, Yuan Tian, Guo Zitao, Han Hanlin, Lei Zhongfang, Shimizu Kazuya, Zhang Zhenya, Lee Duu-Jong, 2020. Enhanced hydrolysis and acidification of cellulose at high loading for methane production via anaerobic digestion supplemented with high mobility nanobubble water. Bioresour. Technol. 297, 122499 (IF=7.763). 4. Wang Xuezhi, Cui Weihua, Hu Weiwu, Feng Chuanping, 2020. Abscisic acid-enhanced starch accumulation of bioenergy crop duckweed (<i>Spirodela polyrrhiza</i>). RSC Adv. 10 (18):10394-10401 (IF=3.230).

令和3年3月
(大学院)

No.	所属 (年次) 氏名	適用 条項	表彰に値する行為
1	教育研究科 教科教育専攻 (2年次) 高橋 慶悟	第4条 第1項 第1号	日本数学教育学会第54回秋期研究大会の以下の発表論文が、「論文発表論文」として採択され(採択率13.4%)、同学会の学会賞(大学院生研究奨励部門)の対象に選定された。 高橋慶悟(2020)「学校数学における証明の発見機能の活用に関する一考察—動的幾何ソフトと具体物の役割に着目して—」
2	人文社会科学研究所 一貫制博士課程 文芸・言語専攻 (5年次) 大塚 貴史	第4条 第1項 第1号	日本語文法学会(会員数約500名)学会誌「日本語文法」20巻3号(2020年9月)に掲載された「副詞『決して』の意味—条件的関係の不成立と非一回性—」により、「第3回日本語文法学会論文賞」を受賞した。
3	数理工学物質科学研究科 博士後期課程 ナノサイエンス・ナノ テクノロジー専攻 (3年次) 村田 博雅	第4条 第1項 第1号	学術誌への論文掲載:11件(筆頭10件) ・Applied Physics Letters 111, 243104 (2017). (Highlighted in Nature INDEX) ・Scientific Reports 9, 4068 (2019). (Top 100 downloaded papers for Scientific Reports) ・ACS Applied Energy Materials 3, 8410 (2020). (Journal Cover), 他8件(筆頭7件) 学会発表:国際17件(筆頭11件、招待講演2件)、国内12件(筆頭8件) 受賞:7件 助成金:日本学術振興会特別研究員(DC1)、村田学術振興会 平成30年度 研究者海外派遣、東電記念財団 2019年度 国際委技術交流援助(海外渡航)
4	数理工学物質科学研究科 3年制博士課程 物質・材料工学専攻 (3年次) 水野 陽介	第4条 第1項 第1号	学術誌への論文掲載 1. Mizuno, Y., Watanabe, S. & Taguchi, T. Int. J. Biol. Macromol. 163, 2365-2373 (2020). 2. Mizuno, Y. & Taguchi, T. RSC Adv. 10, 24800-24807 (2020). 3. Mizuno, Y. & Taguchi, T. NPG Asia Mater. 12, 48 (2020). 他7件 (総説) 1. 水野 陽介、田口 哲志, 『Materials Stage 2020年1月号』, 技術情報協会, 第19巻 第10号, 2020年 2. 水野 陽介、田口 哲志, 『現代化学 2019年12月号』, 東京化学同人, No.585, 2019年 3. 水野 陽介、田口 哲志, 『生体吸収性材料の開発と安全性評価』, 技術情報協会, 第5章 2節, 2017年 (受賞等) 1. 水野 陽介 “日本学術振興会特別研究員 PD” (受付番号: 202100321) 日本学術振興会 2020年 2. 水野 陽介 “研究奨励賞”, つくば医工連携フォーラム 2020, 2020年 3. 水野 陽介 “優秀研究ポスター賞”, 第41回日本バイオマテリアル学会大会, 2019年 他9件

5	システム情報工学 研究科 博士前期課程 構造エネルギー 工学専攻 (2年次) 鮎貝 崇広	第4条 第1項 第1号	気泡流中の非線形波動の数値解析に取り組み、査読付雑誌論文5編、査読付国際会議論文8編、国際会議発表10件(論文なし)、国内会議発表27件、解説記事(招待原稿)1編の実績をあげる。 流体力学分野のトップ国際誌(IF=3.51、低採択率の権威誌)に2編掲載、内1編がJournal bestとしてFeatured Articleに選出。
6	システム情報工学 研究科 博士前期課程 知能機能システム専攻 (2年次) 矢倉 大夢	第4条 第1項 第1号	学会賞等の受賞：1件(情報処理学会 山下記念研究賞) 雑誌論文：1編(Computers & Security [IF:3.579]) 国際会議論文：6編(AAAI, IJCAI, ACM CHI x 2, IEEE ISMAR, ACM ICMI)
7	システム情報工学 研究科 博士後期課程 コンピュータ サイエンス専攻 (3年次) 李 莉	第4条 第1項 第1号	1) 査読付雑誌論文 筆頭2件、査読付国際会議 筆頭11件、査読無し国内大会 筆頭7件 査読付雑誌論文 共著3件、査読付国際会議 共著10件、査読無し国内大会 共著11件 2) IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award 3) IEEE SPS Tokyo Joint Chapter Student Award 4) 日本音響学会 学生優秀発表賞 5) 電気音響研究会 学生研究奨励賞 他7件の功績
8	生命環境科学研究科 博士後期課程 生物機能科学専攻 (3年次) 永沢 亮	第4条 第1項 第1号	学術誌への論文掲載 1) Hidenobu Senpuku, Elif Bahar Tuna, Ryo Nagasawa, Ryoma Nakao, Makoto Ohnishi. The inhibitory effects of polypyrrole on the biofilm formation of <i>Streptococcus mutans</i> . PLoS One. 14. e0225584. 2019. (IF: 2.74) 2) 永沢 亮、尾花 望、Andrew S Utada, 野村 暢彦. <i>Streptococcus mutans</i> のクオラムセンシングに応答した細胞外 DNA 産生. Bacterial Adherence & Biofilm. 33. 11-12. 2019. 3) Ryo Nagasawa, Tsutomu Sato, Nobuhiko Nomura, Tomoyo Nakamura, Hidenobu Senpuku. Potential risk of spreading resistance genes within extracellular-DNA-dependent biofilms of <i>Streptococcus mutans</i> in response to cell envelope stress induced by sub-MICs of bacitracin. Applied and Environmental Microbiology. 86. e00770-20. 2020. (IF: 4.01) 4) Ryo Nagasawa, Tatsuya Yamamoto, Andrew S Utada, Nobuhiko Nomura, Nozomu Obana. Competence-stimulating-peptide-dependent localized cell death and extracellular DNA production in <i>Streptococcus mutans</i> biofilms. Applied and Environmental Microbiology. 86. e02080-20. 2020. (IF: 4.01)

9	<p>生命環境科学研究科 一貫制博士課程 環境バイオマス共生学 専攻 (5年次)</p> <p>くみかわ まさおみ 黒川 真臣</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>学術誌への論文掲載</p> <p>1)Liu Liu*, Masaomi Kurokawa*, Motoki Nagai, Shigeto Seno & Bei-Wen Ying “Correlated chromosomal periodicities according to the growth rate and gene expression” Scientific Reports, 10: 15531. (2020) *equal contribution 【IF: 4.149】</p> <p>2)Motoki Nagai, Masaomi Kurokawa, and Bei-Wen Ying “The highly conserved chromosomal periodicity of transcriptomes and the correlation of its amplitude with the growth rate in Escherichia coli” DNA Research 27: 3. (2020) 【IF: 4.009】</p> <p>3)Masaomi Kurokawa and Bei-Wen Ying “Experimental Challenges for Reduced Genomes: The Cell Model Escherichia coli” Microorganisms, 8: 3. (2020) 【IF: 4.167】</p> <p>4)Kouhei Tsuchiya, Yang-Yang Cao, Masaomi Kurokawa, Kazuha Ashino, Tetsuya Yomo and Bei-Wen Ying “A decay effect of the growth rate associated with genome reduction in Escherichia coli” BMC Microbiology, 18: 101. (2018) 【IF: 3.280】</p>
10	<p>生命環境科学研究科 博士後期課程 生命産業科学専攻 (3年次)</p> <p>マ チェンヌー Ma Qiansu</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>学術誌への論文掲載</p> <p>1) Qiansu Ma, Xiaohong Hu, Na Liu, Aditya Sharma, Cheng Zhang, Naoki Kawazoe, Guoping Chen, Yingnan Yang: Polyethylene glycol (PEG)-modified Ag/Ag2O/Ag3PO4/Bi2WO6 photocatalyst film with enhanced efficiency and stability under solar light. Journal of Colloid and Interface Science. 569, 101–113 2020. https://doi.org/10.1016/j.jcis.2020.02.064 (IF:7.489, CiteScore: 11)</p> <p>2) Xiaohong Hul, Qiansu Mal, Xinlong Wang, Yingjun Yang, Na Liu, Cheng Zhang, Naoki Kawazoe, Guoping Chen, Yingnan Yang: Layered Ag/Ag2O/BiPO4/Bi2WO6 heterostructures by two-step method for enhanced photocatalysis. Journal of Catalysis. 387, 28–38 2020. https://doi.org/10.1016/j.jcat.2020.04.002 (First author, IF: 7.888, CiteScore: 11.9)</p> <p>他3編</p>
11	<p>人間総合科学研究科 医学を履修する 博士課程 生命システム医学 専攻 (3年次)</p> <p>たかはし とおる 高橋 徹</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>冬眠・休眠の原理解明に迫り、また人工冬眠の技術開発にもつながる重要な発見を行い、成果を筆頭著者として論文にまとめ、Nature誌(インパクトファクター:42.779)に発表した(Takahashi TM, Sakurai T, et al. A discrete neuronal circuit induces a hibernation-like state in rodents. Nature, 583(7814):109-114, 2020)。</p>
12	<p>人間総合科学研究科 博士後期課程 障害科学専攻 (3年次)</p> <p>いづみら だいち 飯村 大智</p>	<p>第4条 第1項 第1号</p>	<p>5編の論文が次の英文誌に掲載された: Frontiers in Psychology (3.2, Scopus 同分野上位10%), Language, Speech, and Hearing Services in Schools (同2.6, 上位9%), Journal of Communication Disorders (同2.4, 上位10%), Speech, Language, and Hearing (同1.1, 上位26%), Acoustical Science and Technology (同0.8, 上位76%)。</p>

13	人間総合科学研究科 博士後期課程 体育科学専攻 (3年次) とほし こうへい 土橋 康平	第4条 第1項 第1号	原著論文 Dobashi K, Fujii N, Ichinose M, Fujimoto T, Nishiyasu T. Voluntary hypocapnic hyperventilation lasting 5 min and 20 min similarly reduce aerobic metabolism without affecting power outputs during Wingate anaerobic test. <i>Eur J Sport Sci</i> . Online ahead of print, 2020 (IF=2.42) 他在籍中の筆頭論文、共著論文4件、学会賞等受賞等4件
14	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 博士前期課程 体育学学位プログラム (1年次) かじはら ゆうみ 梶原 悠未	第4条 第1項 第2号	自転車競技の日本選手権と世界選手権に女子日本代表選手として出場し、優秀な成績を取めた。 ①自転車競技日本選手権トラック女子(6種目), 優勝, 6冠達成, 2020年11月7日 ②自転車競技世界選手権トラック女子2020, 優勝(世界チャンピオン). 2020年2月28日

(学群)

No.	所属 (年次) 氏 名	適用 条項	表 彰 に 価 す る 行 為
1	生命環境学群 生物学類 (4年次) やすだ たくのり 保田 拓範	第4条 第1項 第1号	<学術誌への論文掲載> 1 T. Yasuda, Y. Shigeta, R. Harada, <i>J. Chem. Inf. Model.</i> , 60, 4021-4029 (2020) IF 4.549 2 T. Yasuda, Y. Shigeta, R. Harada, <i>Chem. Lett.</i> , 49, 785-788(2020) IF 1.361 3 T. Yasuda, Y. Shigeta, R. Harada, <i>Chem. Lett.</i> , <i>accepted</i> , DOI: 10.1246/cl.200699 (2020) IF 1.361 <国内学会発表> *()内はポスター番号 4 保田拓範, 原田隆平, 生物物理夏の学校 2019(2) 5 保田拓範, 重田育照, 原田隆平, 第58回日本生物物理学会年会 (20001A) 6 保田拓範, 森田陸離, 重田育照, 原田隆平, 第34回分子シミュレーション討論会(109P) 7 T. Yasuda, Y. Shigeta, R. Harada, 第20回日本蛋白質科学会年会 (P3-03) <受賞歴> 8 保田拓範, 2019年度 筑波大学先導的研究体験プログラム研究発表会 優秀賞
2	生命環境学群 生物資源学類 (4年次) やまもと りほ 山本 里穂	第4条 第1項 第1号	○学術論文 Trade-off between plasticity and velocity in mycelial growth Sayumi Fukuda*, Riho Yamamoto*, Naoki Yanagisawa, Naoki Takaya, Yoshikatsu Sato, Meritxell Riquelme, Norio Takeshita (*Equal contribution) mBio (in revision, accepted in principle), bioRxiv, doi: https://doi.org/10.1101/2020.10.25.354373 ○学会賞 糸状菌分子生物学研究会若手の会 第8回ワークショップ 学生優秀発表賞 「マイクロ流体デバイスを用いた糸状菌の菌糸における可変性の解析」
3	生命環境学群 生物資源学類 (4年次) こまき ひろき 小牧 弘季	第4条 第1項 第2号	オリエンテーリング競技大会の優勝実績 (全7件)) 1. 2020年度日本学生オリエンテーリング選手権 スプリント競技部門・優勝/ロングディスタンス競技部門・優勝 2. 2019年度全日本オリエンテーリング選手権大会スプリント競技・優勝 3. 2020年全日本オリエンテーリング選手権大会 ミドルディスタンス種目・優勝/ロングディスタンス種目・優勝 他4件 日本オリエンテーリング協会・日本代表実績 (全3件) 1. 世界ジュニアオリエンテーリング選手権 2018 2. 世界オリエンテーリング選手権 2019

4	理工学群 工学システム学類 (4年次) か が み しゅんすけ 加賀見 俊介	第4条 第1項 第1号	(1) 査読付雑誌論文に採択(筆頭). (2) 学会から講演表彰受賞. (3) 査読付・IF付国際会議論文に採択. (4) 国際会議3件に採択・発表(内1件は米国音響学会主催の90年の歴史を有し参加者1000人規模). (4) 国内会議5件で発表(筆頭).
5	理工学群 社会工学類 (4年次) な ら き りく 奈良木 陸	第4条 第1項 第2号	硬式野球部に所属し、2020年度秋季リーグにおいてリリーフ投手として、4試合(全5試合)に出場。登板6イニング、自責点0の活躍をおさめた。2020年日本野球機構プロ野球ドラフト会議において、読売ジャイアンツより育成枠9位での指名を受けた。
6	情報学群 情報メディア 創成学類 (4年次) いとう ゆうた 伊藤 優太	第4条 第1項 第1号	(1) コンピュータグラフィックスとインタラクティブ技術分野の最高峰として知られる査読付き国際会議「ACM SIGGRAPH2019」にデモ採択、同分野の同じく最高峰として知られる「ACM SIGGRAPH ASIA 2018」にポスター採択(いずれも主著者として自ら発表) (2) 2019年度日本学生支援機構優秀学生顕彰「学術部門」にて大賞を受賞
7	情報学群 情報科学類 (4年次) は が しんや 芳賀 慎也	第4条 第1項 第1号	国内最大級のセキュリティシンポジウムであるコンピュータセキュリティシンポジウム2020(CSS2020)において、「コントラクトウォレットを用いたIoT機器による暗号資産従量課金制の自動決済システム」の研究発表を行い、『CSS2020学生論文賞』を受賞した。
8	医学群 医学類 (6年次) ちちぶ ほるか 秩父 陽香	第4条 第1項 第1号	査読付きの国際誌 Journal of Atherosclerosis and Thrombosis (インパクトファクター 3.876) に筆頭著者として下記の論文を投稿し、受理された。 Seaweed intake and risk of cardiovascular disease: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS)
9	体育専門学群 (4年次) とくだ れんのすけ 徳田 廉之介	第4条 第1項 第2号	ハンドボール男子日本代表チームの選手として世界選手権大会に出場する。 第27回ハンドボール男子世界選手権 期間:2021年1月13日(水)~31日(日) 場所:エジプト
10	体育専門学群 (4年次) たかの そうた 高野 颯太	第4条 第1項 第2号	ハンドボール男子日本代表チームの選手として世界選手権大会に出場する。 第27回ハンドボール男子世界選手権 期間:2021年1月13日(水)~31日(日) 場所:エジプト

11	体育専門学群 (2年次) よしだ しゅいち 吉田 守一	第4条 第1項 第2号	ハンドボール男子日本代表チームの選手として世界選手権大会に出場する。 第27回ハンドボール男子世界選手権 期間：2021年1月13日(水)～31日(日) 場所：エジプト
----	--------------------------------------	-------------------	---

(団体)

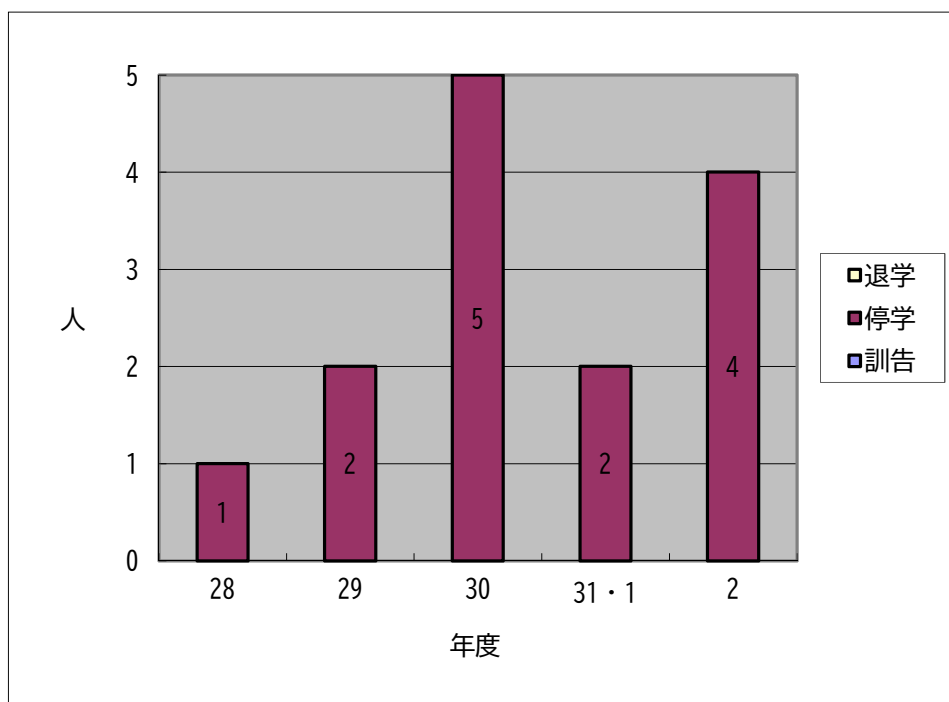
No.	団体名称 代表者	適用 条項	表彰に 値する 行為
1	team PhilOpt 専門導入 科目時間割作成チーム 【代表者】 システム情報工学 研究科 博士前期課程 社会工学専攻 サービス工学学位 プログラム (2年次) ほんだ りき 本多 理紗	第4条 第1項 第4号	最適化技術を用いた学群専門導入科目時間割の作成により、令和3年度開始予定の総合選抜入試の実質化と、システム構築にかかる経費削減に多大に貢献した。

※ 適用条項は、「筑波大学学生表彰に関する規程」第4条第1項の各号の規定による。

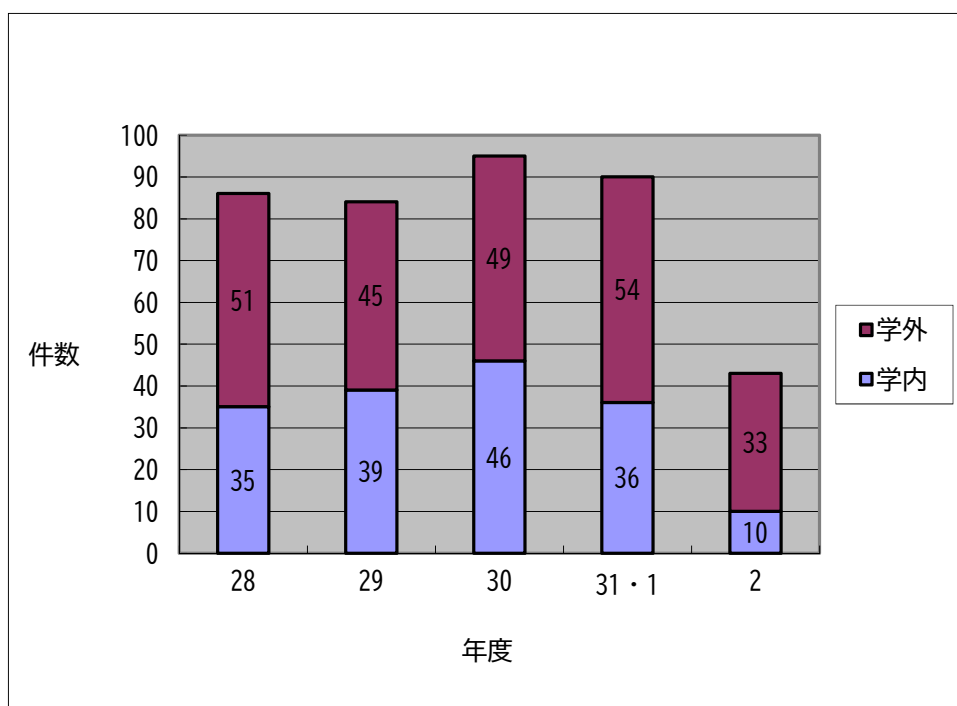
第4条 学生表彰は、次の各号のいずれかに該当する学生又は学生団体に対し行うことができる。

- (1) 筑波大学における卒業論文、修士論文又は博士論文、卒業制作又は修了制作、研究その他の学修の成果が優れていると認められるもの
- (2) 筑波大学における課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、筑波大学の課外活動の振興に功績があったと認められるもの
- (3) 社会活動において顕著な功績があったと認められるもの
- (4) その他前3号と同等の学生表彰に値する功績があったと認められるもの

(2) 学生の懲戒



(3) 学生の交通事故



(4) 奨学生数

ア 日本学生支援機構奨学生

(ア) 学群

(令和3年3月1日現在)

学群 ・ 学類		学生数	第一種	第二種	貸与併用	給付 (新制度)	給付 (旧制度)	計	比率 (%)
人文・文 化学群	人文学類	537	57	49	14	41	0	161	30.0
	比較文化学類	351	41	26	11	23	0	101	28.8
	日本語・日本文化学類	170	23	14	5	10	0	52	30.6
	小計	1,058	121	89	30	74	0	314	29.7
社会・国 際学群	社会学類	360	39	38	5	20	0	102	28.3
	国際総合学類	347	43	30	8	38	0	119	34.3
	小計	707	82	68	13	58	0	221	31.3
人間学群	教育学類	155	15	8	4	11	0	38	24.5
	心理学類	220	28	19	1	13	1	62	28.2
	障害科学類	153	20	11	5	15	0	51	33.3
	小計	528	63	38	10	39	1	151	28.6
生命環境 学群	生物学類	336	28	24	6	18	2	78	23.2
	生物資源学類	527	55	34	11	35	1	136	25.8
	地球学類	209	17	29	3	15	0	64	30.6
	小計	1,072	100	87	20	68	3	278	25.9
理工学群	数学類	168	29	15	2	14	0	60	35.7
	物理学類	257	30	21	4	12	0	67	26.1
	化学類	204	18	12	4	7	1	42	20.6
	応用理工学類	518	63	48	14	33	0	158	30.5
	工学システム学類	556	40	39	16	36	1	132	23.7
	社会工学類	517	50	46	8	34	0	138	26.7
	小計	2,220	230	181	48	136	2	597	26.9
情報学群	情報科学類	376	46	26	11	29	0	112	29.8
	情報メディア創成学類	250	28	16	6	19	0	69	27.6
	知識情報・図書館学類	443	57	33	14	50	1	155	35.0
	小計	1,069	131	75	31	98	1	336	31.4
医学群	医学類	848	34	31	13	26	0	104	12.3
	看護学類	309	47	37	13	25	0	122	39.5
	医療科学類	153	26	13	8	15	0	62	40.5
	小計	1,310	107	81	34	66	0	288	22.0
体育専門学群	1,021	125	121	54	67	0	367	35.9	
芸術専門学群	440	53	47	15	50	0	165	37.5	
合 計	9,425	1,012	787	255	656	7	2,717	28.8	

(注) 1. 学生数は、外国人留学生を除いた数である。

2. 令和2年度の貸与月額、次のとおりである。

第一種（自宅外通学） 51,000円・30,000円からの選択制

第一種（自宅通学） 45,000円・30,000円からの選択制

第二種 30,000円, 50,000円, 80,000円, 100,000円, 120,000円からの選択制

3. 令和2年度の給付月額は、次のとおりである。

第一区分（自宅通学／自宅外通学） 29,200円（33,300円）／66,700円

第二区分（自宅通学／自宅外通学） 19,500円（22,200円）／44,500円

第三区分（自宅通学／自宅外通学） 9,800円（11,100円）／22,300円

※生活保護を受けている生計維持者と同居している人及び社会的養護を必要とする人で児童養護施設等から通学する人は（）内の金額である。

(イ) 大学院

(令和3年3月1日現在)

課程・研究科/学術院	学生数	奨学生数				比率 (%)	
		第一種	第二種	併用	計		
(修士課程・博士前期・一貫制修士相当)	教育研究科	107	25	0	0	25	23.4
	人文社会科学研究科	56	13	3	1	17	30.4
	ビジネス科学研究科	183	1	1	0	2	1.1
	数理物質科学研究科	236	91	0	8	99	41.9
	システム情報工学研究科	425	164	9	8	181	42.6
	生命環境科学研究科	263	80	1	8	89	33.8
	人間総合科学研究科	442	101	5	7	113	25.6
	図書館情報メディア研究科	40	10	1	0	11	27.5
	人文社会ビジネス科学学術院	168	15	3	0	18	10.7
	理工情報生命学術院	865	275	11	13	299	34.6
	人間総合科学学術院	478	103	12	4	119	24.9
	グローバル教育院	21	2	0	0	2	9.5
小計	3,284	880	46	49	975	29.7	
(博士課程・一貫制博士相当・博士後期・医学)	人文社会科学研究科	148	21	0	2	23	15.5
	ビジネス科学研究科	109	1	0	0	1	0.9
	数理物質科学研究科	76	19	0	0	19	25.0
	システム情報工学研究科	129	16	0	1	17	13.2
	生命環境科学研究科	121	19	0	1	20	16.5
	人間総合科学研究科	665	57	3	4	64	9.6
	図書館情報メディア研究科	55	4	0	0	4	7.3
	人文社会ビジネス科学学術院	36	3	1	0	4	11.1
	理工情報生命学術院	169	30	1	1	32	18.9
	人間総合科学学術院	203	23	1	2	26	12.8
	グローバル教育院	29	1	0	0	1	3.4
小計	1,740	194	6	11	211	12.1	
合計	5,024	1,074	52	60	1,186	23.6	

(注) 1. 学生数は、外国人留学生を除いた数である。

2. 専門職学位課程は、修士課程に含む。

3. 令和2年度の貸与月額は、次のとおりである。

第一種 (修士課程・博士前期課程)	1・2年	50,000円・88,000円からの選択制
第一種 (一貫制博士課程)	1・2年	50,000円・88,000円からの選択制
第一種 (一貫制博士課程)	3～5年	80,000円・122,000円からの選択制
第一種 (博士後期課程・博士医学課程)	1～4年	80,000円・122,000円からの選択制
第二種		50,000円, 80,000円, 100,000円, 130,000円, 150,000円からの選択制

イ 地方公共団体・民間育英団体奨学生

(令和3年3月31日現在)

奨学団体	学 群						大 学 院						合 計	
	給 与		貸 与		小 計		給 与		貸 与		小 計			
	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数	団体数	奨学生数
地方公共団体	5	5	10	15	15	20	0	0	0	0	0	0	15	20
民間育英団体	40	157	8	24	48	181	39	97	1	3	40	100	88	281
合 計	45	162	18	39	63	201	39	97	1	3	40	100	103	301

令和2年7月1日現在
* ()内は前年同月の数

(5) 学生団体数及び加入者数

系別	課外活動団体		一般学生団体		計	
	団体数	加入者数	団体数	加入者数	団体数	加入者数
文化系	34 (35)	922 (1,369)	70 (65)	674 (1,611)	104 (100)	1,596 (2,980)
体育系	71 (72)	2,836 (3,534)	33 (36)	687 (1,830)	104 (108)	3,523 (5,364)
芸術系	30 (30)	960 (1,417)	12 (12)	189 (436)	42 (42)	1,149 (1,853)
合 計	135 (137)	4,718 (6,320)	115 (113)	1,550 (3,877)	250 (250)	6,268 (10,197)

- (注) 1. 課外活動団体：学長が認定した学生団体のうち、援助・育成に値するもの
2. 一般学生団体：学長が認定した学生団体のうち、課外活動団体以外のもの

(6) 課外活動団体の主な成績

【文化系】

団体名	競技会等名称・種目	団体・個人名等	成績	備考
電気通信研究会	第32回電信電話記念日コンテスト	団体	GXMA 1位	一般電信電話部門
宇宙工学研究会	第14回GPS・QZSSロボットカーコンテスト	GPSロボットカー班	審査員長賞	
歌留多部	第39回全国競技かるた東京吉野大会(A)	佐藤公亮	準優勝	
	第39回全国競技かるた東京吉野大会(B)	日高晴	3位	
	小倉百人一首競技かるた第66回新春全国大会(E)	関梢子	優勝	

【芸術系】

団体名	競技会等名称・種目	団体・個人名等	成績	備考
THK筑波放送協会	2020年夏季OMECモニター会	団体	最優秀賞	You Tube

【体育会：部会】

団体名	競技会等名称・種目	団体・個人名等	成績	備考
男子アイスホッケー部	2020年度関東大学アイスホッケーリーグ戦(特別大会)	団体	5位	Div. II
アメリカンフットボール部	第87回関東学生アメリカンフットボールリーグ戦	団体	2位	2部Aブロンク
オリエンテーリング部	2020年度日本学生オリエンテーリング選手権大会ロング・ディスタンス競技部門	小牧弘季 宮本和奏	ME 1位 WE 3位	
	2020年度日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門	小牧弘季	ME 1位	
	第9回全日本ミドルオリエンテーリング大会	小牧弘季	M21E 1位	
	第47回全日本ロングオリエンテーリング大会	小牧弘季 佐藤隆奈	M21E 1位 W21AS 1位	
	第10回全日本スキーオリエンテーリング大会	佐野響	2位	女子スプリント競技、ハーフマラソン競技
剣道部	第68回全日本剣道選手権大会	松崎賢士郎 星子啓太	優勝 3位	
硬式庭球部	全日本学生テニス選手権大会	阿部宏美	優勝	女子シングルス
		阿部宏美 川出莉子	優勝	女子ダブルス
		田形諒平	準優勝	男子シングルス
	2020年度 全日本学生室内テニス選手権大会	田形諒平 弘光慎太郎	準優勝	男子ダブルス
		我那覇真子 阿部宏美	優勝	女子ダブルス
関東学生テニストーナメント大会	田形諒平	優勝	男子シングルス	
硬式野球部	2020年度首都大学野球秋季リーグ戦	団体	4位	1部
サイクリング部	2020全日本大学自転車競技大会	齋藤伸吾	6位	男子個人ロードレース
蹴球部	天皇杯JFA第100回全日本サッカー選手権大会	団体	ベスト8	
	JR東日本カップ 2020第94回関東大学サッカーリーグ戦1部	団体	10位	
女子サッカー部	第34回関東大学女子サッカーリーグ戦	団体	2位	1部
	第26回関東女子サッカーリーグ戦	団体	4位	1部B
柔道部	第33回全国体育系学生柔道体重別選手権大会	若狭智也 阿部拓馬 旭征哉	優勝 準優勝 3位	男子66kg級 男子90kg級 男子73kg級
準硬式野球部	東都大学準硬式野球連盟秋季リーグ戦	団体	優勝	3部

水泳部	第96回日本学生選手権水泳競技大会水球競技	団体	2位	
	第96回日本学生選手権水泳競技大会マーメイドカップ	滝宮空未 佐藤友花	2位	デュエット競技
	第96回 日本選手権水泳競技大会競泳競技	込山瞳 飯塚千遥	4位 4位	女子50m自由形 女子100mハーフライ
	第96回日本学生選手権水泳競技大会競泳競技	込山瞳 横田早桜	4位 2位	女子50m自由形 女子200m個人メドレー
	ジャパンオープン2020 (50m)	飯塚千遥	優勝	女子100mハーフライ
体操競技部	第74回全日本学生体操競技選手権大会	男子団体 橘汐芽 前田航輝 長崎柊人 女子団体 井関実紀 深沢こころ	総合4位 優勝 2位 3位 総合4位 2位 3位	1部 種目別ゆか 種目別跳馬 種目別あん馬 1部 種目別ゆか 種目別ゆか
卓球部	全日本卓球選手権大会茨城県予選会	竹内佑 佐藤祐人	優勝 準優勝	男子シングルス 男子シングルス
軟式庭球部	関東学生ソフトテニス秋季リーグ	男子団体 女子団体	3部6位 3部3位	
馬術部	関東学生馬術競技大会	団体	9位	三種総合成績
男子バスケットボール部	第72回全日本大学バスケットボール選手権大会	団体	準優勝	
	オータムカップ2020 1部	団体	3位	
女子バスケットボール部	第72回全日本大学バスケットボール選手権大会	団体	3位	
	第70回関東大学女子バスケットボールリーグ戦	団体	3位	
バドミントン部	東日本メモリアルマッチ2020 in青森	男子団体 女子団体	準優勝 3位	
	Badminton Survivor (※インカレ代替大会)	栗原あかり	優勝	女子シングルス
	関東大学バドミントン1部リーグ交流戦	男子団体 女子団体	準優勝 優勝	
男子バレーボール部	第73回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会ミキプルンスパカレッジバレー2020	団体	5位	
	2020年度秋季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦代替大会	団体	4位	Bグループ
女子バレーボール部	第67回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会ミキプルンスパカレッジバレー2020	団体	3位	
	2020年度秋季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦代替大会	団体	2位	
男子ハンドボール部	2020年度関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦	団体	3位	1部
女子ハンドボール部	2020年度関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦	団体	3位	1部
ラグビー部	2020関東大学対抗戦 グループA	団体	5位	Aグループ
男子ラクロス部	関東学生ラクロス2020特別大会	団体	3位	2部Cブロック
女子ラクロス部	関東学生ラクロス2020特別大会	団体	全勝(順位なし)	3部Dブロック
陸上競技部	第104回日本陸上競技選手権大会	高良彩花	優勝	女子走幅跳
	天皇賜杯第89回日本学生陸上競技対校選手権大会	川瀬宙空 浅井さくら 寺谷諭美 山下桐子 半田水晶 渡邊ももこ シュレスタマヤ 景山-三浦-小林-檀上	5位 優勝 3位 2位 2位 2位 2位 3位 優勝	男子3000m障害 女子走高跳 女子走高跳 女子三段跳 女子円盤投 女子ハンマー投 女子七種競技 女子4×100mR
	第99回関東学生陸上競技対校選手権大会	堤洸太郎 三浦由奈 高良彩花 兵藤秋穂	優勝 優勝 優勝 優勝	男子やり投 女子100m 女子走幅跳 女子やり投

【体育系：同好会・医学】

団体名	競技会等名称・種目	団体・個人名等	成績	備考
サッカー同好会	ATHLEAD FIELD FOOTBALL AUTUMN TOURNAMENT 2020	団体	優勝	

【その他】

氏名	競技会名称	種目	成績	備考
梶原悠未	第89回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース	エリミネーション、オムニアム、スクラッチ、マディソン、3km個人パシュート、ポイントレース	各種目優勝 (6冠)	

(7) 就職等状況

ア 学群

① 令和2年度学群・学類卒業生進路状況

(令和3年5月1日現在)

学群・学類	卒業生	進学者	就職者	就職者の内訳					その他		
				企業	教員	公務員	独法等	研修医	研究生等・留学	資格・試験等準備 他	
人文・文化学群	人文学類	120 (59) [1] <1>	22 (6)	80 (47)	61 (35)	3 (2)	13 (8)	3 (2)	/	2 (1)	16 (5) [1] <1>
	比較文化学類	81 (51) [3] <2>	11 (5) [1] <1>	63 (43) [1] <1>	52 (36) [1] <1>	1 (1)	6 (4)	4 (2)	/		7 (3) [1]
	日本語・日本文化学類	47 (34) [3] <3>	10 (7) [2] <2>	34 (25) [1] <1>	26 (21) [1] <1>	4 (1)	3 (3)	1	/		3 (2)
社会学群・国際	社会学類	99 (39) [5] <4>	13 (8) [2] <2>	72 (25)	59 (20)		12 (4)	1 (1)	/		14 (6) [3] <2>
	国際総合学類	84 (43) [11] <6>	7 (3) [1] <1>	65 (35) [3] <2>	55 (29) [3] <2>		7 (5)	3 (1)	/		12 (5) [7] <3>
人間学群	教育学類	36 (10)	11 (3)	22 (7)	12 (2)	8 (4)	1 (1)	1	/		3
	心理学類	54 (37) [1] <1>	12 (7)	31 (23)	22 (17)		7 (5)	2 (1)	/	1 (1)	10 (6) [1] <1>
	障害科学類	35 (28)	11 (10)	21 (17)	16 (12)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	/		3 (1)
生命環境学群	生物学類	92 (43) [12] <7>	77 (32) [10] <6>	7 (6)	6 (5)			1 (1)	/		8 (5) [2] <1>
	生物資源学類	157 (75) [23] <11>	108 (48) [9] <3>	30 (17) [1] <1>	23 (14) [1] <1>	1 (1)	4 (1)	2 (1)	/	1 (1)	18 (9) [13] <7>
	地球学類	56 (21) [4] <2>	40 (14) [1] <1>	10 (4)	9 (3)	1 (1)			/		6 (3) [3] <1>
理工学群	数学類	41 (4) [1] <1>	20 (1) [1] <1>	16 (1)	7	6 (1)	3		/		5 (2)
	物理学類	60 (7) [3]	46 (3) [3]	10 (3)	8 (2)	1	1 (1)		/		4 (1)
	化学類	47 (11) [2]	41 (10) [1]	2	1	1			/		4 (1) [1]
	応用理工学類	136 (13) [4]	109 (10)	21 (3)	19 (2)	1	1 (1)		/		6 [3]
	工学システム学類	134 (14) [4] <2>	115 (11) [3] <2>	16 (3)	16 (3)				/		3 [1]
	社会工学類	123 (20) [5] <2>	69 (9) [2] <2>	46 (10) [1]	36 (8) [1]			10 (2)	/		8 (1) [2]
情報学群	情報科学類	95 (10) [4]	70 (6) [2]	18 (3)	18 (3)				/		7 (1) [2]
	情報メディア創成学類	57 (11) [2]	31 (7)	17 (4)	15 (3)		2 (1)		/		9 [2]
	知識情報・図書館学類	113 (56) [1] <1>	27 (10) [1] <1>	71 (38)	53 (28)		14 (8)	4 (2)	/	2 (1)	13 (7)
医学群	医学類	135 (50)		135 (50)					/	135 (50)	
	看護学類	80 (75) [1] <1>	5 (3)	70 (67) [1] <1>	61 (58) [1] <1>	3 (3)	6 (6)		/		5 (5)
	医療科学類	38 (24) [1] <1>	21 (9)	16 (14)	15 (13)		1 (1)		/		1 (1) [1] <1>
体育専門学群	254 (64)	54 (18)	172 (41)	137 (35)	25 (5)	10 (1)		/	1	27 (5)	
芸術専門学群	104 (87) [1] <1>	28 (22)	52 (45)	42 (38)	5 (5)	5 (2)		/		24 (20) [1] <1>	
学群合計	2,278 (886) [92] <46>	958 (262) [40] <22>	1,097 (531) [8] <6>	769 (387) [8] <6>	62 (26)	107 (55)	24 (13)	135 (50)	/	7 (4)	216 (89) [44] <18>

(注) () 内は、女子を内数で示す
[] は、留学生を内数で示す
< > は留学生のうち女子を内数で示す

令和元年度卒業生

学群合計	2,253 (953) [78] <43>	955 (294) [37] <24>	1,132 (597) [10] <7>	838 (441) [9] <6>	50 (32)	113 (76)	18 (15) [1] <1>	113 (33)	/	5 (1) [1]	161 (61) [30] <12>
------	--------------------------	------------------------	-------------------------	----------------------	---------	----------	--------------------	----------	---	--------------	-----------------------

② 産業分類別進路状況（学群）

（令和3年5月1日現在）

学群・学類	企業（自営業を含む）													公務員					令和元年度最終 （同期）		
	農業	林業	漁業	鉱業・採石業・ 砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・ 熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業・ 飲食店	金融・保険業	不動産業・ 物品賃貸業	サービス業	分類不能産業	小計	教員	（国家公務員 国家公務員 （国家公務員 除）	独立行政法人等	地方公務員		小計	合計
人文・文化学群	人文学類	3 (2)		1		1	6 (2)		3	12 (6)	5 (3)	2 (2)	28 (20)	61 (35)	3 (2)	2 (1)	3 (2)	11 (7)	16 (10)	80 (47)	79 (48)
	比較文化学類					2 (2)	6 (4)		6 (6)	11 (6)	1 (1)	4 (4)	22 (13)	52 (36)	1 (1)	1 (1)	4 (2)	5 (3)	10 (6)	63 (43)	67 (50)
	日本語・日本文化学類			1 (1)			5 (5)		2 (1)	6 (6)		1 (1)	11 (7)	26 (21)	4 (1)		1	3 (3)	4 (3)	34 (25)	36 (28)
社会学群・国際	社会学類				1	8 (4)	1 (1)	3	5 (1)	17 (5)	1 (1)	23 (8)	59 (20)		4 (1)	1 (1)	8 (3)	13 (5)	72 (25)	88 (31)	
	国際総合学類				3	8 (5)	1 (1)	6 (4)	5 (4)	6 (1)	3 (3)	23 (11)	55 (29)		4 (3)	3 (1)	2 (2)	10 (6)	65 (35)	68 (37)	
人間学群	教育学類							2			2	8 (2)	12 (2)	8 (4)		1	1 (1)	2 (1)	22 (7)	19 (12)	
	心理学類					2 (1)		1	5 (4)		1	13 (11)	22 (17)		2 (2)	2 (1)	5 (3)	9 (6)	31 (23)	28 (17)	
	障害科学類					2 (2)		3 (1)			1	10 (9)	16 (12)	2 (2)		2 (2)	1 (1)	3 (3)	21 (17)	18 (14)	
生命環境学群	生物学類					1 (1)			2 (2)	1 (1)		2 (1)	6 (5)			1 (1)		1 (1)	7 (6)	18 (11)	
	生物資源学類	1 (1)				1	3 (2)			3 (1)	4 (3)	11 (7)	23 (14)	1 (1)	1	2 (1)	3 (1)	6 (2)	30 (17)	40 (25)	
	地球学類					1		2		1 (1)		5 (2)	9 (3)	1 (1)					10 (4)	17 (9)	
理工学群	数学類									4	1	2	7 (1)	6 (1)	1		2	3	16 (1)	13 (4)	
	物理学類					3 (2)						5	8 (2)	1 (1)				1 (1)	10 (3)	17 (2)	
	化学類											1	1	1					2	7 (6)	
	応用理工学類					6 (1)	2		1	1		9 (1)	19 (2)	1	1 (1)			1 (1)	21 (3)	13 (2)	
	工学システム学類					3		2 (1)	1 (1)	1 (1)	1	8	16 (3)						16 (3)	13 (2)	
	社会工学類					2 (2)	6 (2)	1	4	1	6 (2)	3	13 (2)	36 (8)		3		7 (2)	10 (2)	46 (10)	43 (20)
情報学群	情報科学類					2 (1)		2				14 (2)	18 (3)						18 (3)	17	
	情報メディア創成学類					1		1		1		12 (3)	15 (3)		1 (1)		1	2 (1)	17 (4)	22 (11)	
	知識情報・図書館学類					2	9 (6)	2 (1)	4 (2)	3 (2)	5	28 (15)	53 (28)		3 (1)	4 (2)	11 (7)	18 (10)	71 (38)	92 (64)	
医学群	医学類																				
	看護学類											61 (58)	61 (58)	3 (3)			6 (6)	6 (6)	70 (67)	65 (65)	
	医療科学類											15 (13)	15 (13)			1 (1)	1 (1)	16 (14)	18 (14)		
体育専門学群					10 (1)	24 (6)	4	5	11 (4)	11 (3)	4	68 (21)	137 (35)	25 (5)	1		9 (1)	10 (1)	172 (41)	167 (51)	
芸術専門学群					1 (1)	10 (10)		2 (2)	3 (3)	3 (3)	1	22 (19)	42 (38)	5 (5)	1 (1)		4 (1)	5 (2)	52 (45)	54 (41)	
学群合計	4 (3)		2 (1)		24 (6)	105 (54)	11 (3)	48 (17)	69 (40)	67 (26)	25 (12)	414 (225)	769 (387)	62 (26)	26 (13)	24 (13)	81 (42)	131 (68)	962 (481)	1,019 (564)	
令和元年度最終 （同期）	1			3 (1)	24 (7)	155 (73)	8 (4)	48 (20)	61 (34)	58 (25)	24 (12)	456 (265)	838 (441)	50 (32)	21 (13)	18 (15)	92 (63)	131 (91)	1,019 (564)		

（注）（ ）内は女子を内数で示す

(イ) 大学院

① 令和2年度修了者の進路状況

(令和3年5月1日現在)

Table showing career status of graduates in 2020. Columns include: 研究科 (Department), 修了者 (Graduates), 進学者 (Enrolled), 就職者 (Employed) with sub-categories (Enterprise, Teacher, Public, etc.), 研究員 (Researcher), and その他 (Others) with sub-categories (Career return, Return, etc.). Rows list various departments like Education, Humanities, Business, etc.

(注) 1 ()内は女子を内数で示す
2 []は、留学生を内数で示す ()は留学生のうち女子を内数で示す

令和元年度修了者

Summary table for graduates in 2019, showing counts for various categories like 修了者, 進学者, 就職者, etc.

Detailed table showing career status of graduates in 2019. Columns include: 研究科 (Department), 修了者 (Graduates), 進学者 (Enrolled), 就職者 (Employed) with sub-categories, 研究員 (Researcher), 博士特別研究員 (PhD Special Researcher), and その他 (Others) with sub-categories. Rows list departments like Humanities, Business, etc.

(注) 1 ()内は女子を内数で示す
2 []は、留学生を内数で示す ()は留学生のうち女子を内数で示す

令和元年度修了者

Summary table for graduates in 2019, showing counts for various categories like 博士合計, 修了者, 進学者, etc.

② 産業分類別進路状況（大学院）

（令和3年5月1日現在）

研究科	企業（自営業を含む）											公務員					合計	令和元年度最終 （同期）				
	農業	林業	漁業	鉱業・採石業・ 砂利採取業	建設業	製造業	熱供給・水道業	電気・ガス・ 熱供給	運輸・通信業	卸売・小売業・ 飲食店	金融・保険業	不動産業・ 物品賃貸業	サービス業	分類不能産業	小計	教員			（国家公務員 （国大法除）	独立行政法人等	地方公務員	小計
教育研究科						2 (1)			1			7 (2)	10 (3)	63 (22)			1 (1)			1 (1)	74 (26)	55 (18)
人間総合科学研究科 （修士課程）					1	21 (11)	1			1 (1)		6 (3)	30 (15)			1				1 (1)	31 (15)	45 (29)
人文社会科学研究科 （修士課程）						1		1 (1)	1			3 (2)	6 (3)				1			1 (1)	7 (3)	11 (5)
人文社会科学研究科 （博士前期課程）									1 (1)			11 (7)	12 (8)	2 (1)							14 (9)	29 (17)
ビジネス科学研究科 （博士前期課程）																					1	1
数理工学物質科学研究科 （博士前期課程）				1		139 (19)	2 (1)	4 (1)		2	1	32 (2)	181 (23)	5	2 (1)	1			3 (1)	189 (24)	205 (31)	
システム情報工学研究科 （博士前期課程）					23 (3)	118 (10)	8	55 (4)	7 (2)	2	4	177 (1)	394 (42)		2	2	5 (2)	9 (2)	403 (44)	422 (57)		
生命環境科学研究科 （博士前期課程）	4 (1)	1 (1)			10 (4)	72 (40)	1	4	5 (3)	3 (2)	4 (2)	72 (30)	176 (82)	2 (1)	6 (2)	5 (2)	8 (3)	19 (7)	197 (90)	190 (89)		
人間総合科学研究科 （博士前期課程）	2 (1)				1	20 (12)		2	8 (7)	2 (1)	1 (1)	81 (41)	117 (63)	35 (19)		3 (2)	7 (5)	10 (7)	162 (89)	169 (88)		
図書館情報メディア研究科 （博士前期課程）						2		3	1 (1)	2		15 (5)	23 (6)					1 (1)	24 (7)	34 (10)		
グローバル教育院 （博士前期課程）												1	1							1	3 (1)	
ビジネス科学研究科 （国際経営）																						
修士合計	6 (1)	1 (1)		1	35 (7)	375 (93)	12 (1)	69 (6)	24 (14)	12 (4)	10 (4)	405 (114)	950 (245)	107 (43)	11 (3)	13 (5)	21 (11)	45 (19)	1,102 (307)	1,164 (345)		
令和元年度最終（同期）	2	1	2		29 (9)	397 (98)	14 (1)	79 (16)	39 (15)	18 (5)	11 (7)	405 (124)	997 (277)	100 (32)	19 (7)	29 (17)	19 (12)	67 (36)	1,164 (345)			

研究科	企業（自営業を含む）											公務員					合計	令和元年度最終 （同期）			
	農業	林業	漁業	鉱業・採石業・ 砂利採取業	建設業	製造業	熱供給・水道業	電気・ガス・ 熱供給	運輸・通信業	卸売・小売業・ 飲食店	金融・保険業	不動産業・ 物品賃貸業	サービス業	分類不能産業	小計	教員			（国家公務員 （国大法除）	独立行政法人等	地方公務員
人文社会科学研究科 （一貫制博士課程）															2 (1)					2 (1)	1
人文社会科学研究科 （博士後期課程）												1 (1)	1 (1)	3 (3)						4 (4)	2 (1)
ビジネス科学研究科 （博士後期課程）																					
数理工学物質科学研究科 （一貫制博士課程）																					
数理工学物質科学研究科 （博士後期課程）						4						1	5 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (1)		2 (1)	8 (2)	13 (1)	
数理工学物質科学研究科 （3年制博士課程）						2 (1)							2 (1)	2		2		2 (1)	6 (1)	3	
システム情報工学研究科 （一貫制博士課程）																					
システム情報工学研究科 （博士後期課程）						3 (1)						5 (1)	8 (2)	3 (1)	3 (1)		3	3 (3)	14 (3)	13 (2)	
生命環境科学研究科 （一貫制博士課程）												1	1			1		1	2	3	
生命環境科学研究科 （博士後期課程）						6 (4)						5 (3)	11 (7)	2 (1)	1 (1)	9 (3)	1	11 (4)	24 (12)	13 (4)	
生命環境科学研究科 （3年制博士課程）																					
人間総合科学研究科 （一貫制博士課程）						1						18 (4)	19 (4)	5 (2)	3 (1)	3 (1)		3 (1)	27 (7)	24 (8)	
人間総合科学研究科 （博士後期課程）						1						4 (2)	5 (2)	16 (4)	4 (3)	1 (1)	5 (4)	26 (10)	16 (5)		
人間総合科学研究科 （3年制博士課程）												2	2 (1)	3 (1)	1 (1)	1		2 (1)	7 (1)	16 (11)	
図書館情報メディア研究科 （博士後期課程）															1				1	6 (4)	
グローバル教育院 （一貫制博士課程）						4 (1)						1 (1)	5 (2)	1 (1)	2 (1)	2 (1)		2 (1)	8 (4)	19 (7)	
グローバル教育院 （博士後期課程）						1 (1)						1 (1)	1 (1)			2 (2)		2 (2)	3 (3)	5 (3)	
ビジネス科学研究科 （法曹）																					
博士合計						22 (8)		1		1 (1)		33 (12)	60 (20)	39 (15)	2 (1)	29 (11)	2 (1)	33 (13)	132 (48)	134 (46)	
令和元年度最終（同期）					2	20 (3)		1		1 (1)		33 (14)	58 (18)	38 (13)	5 (2)	33 (13)		38 (15)	134 (46)		

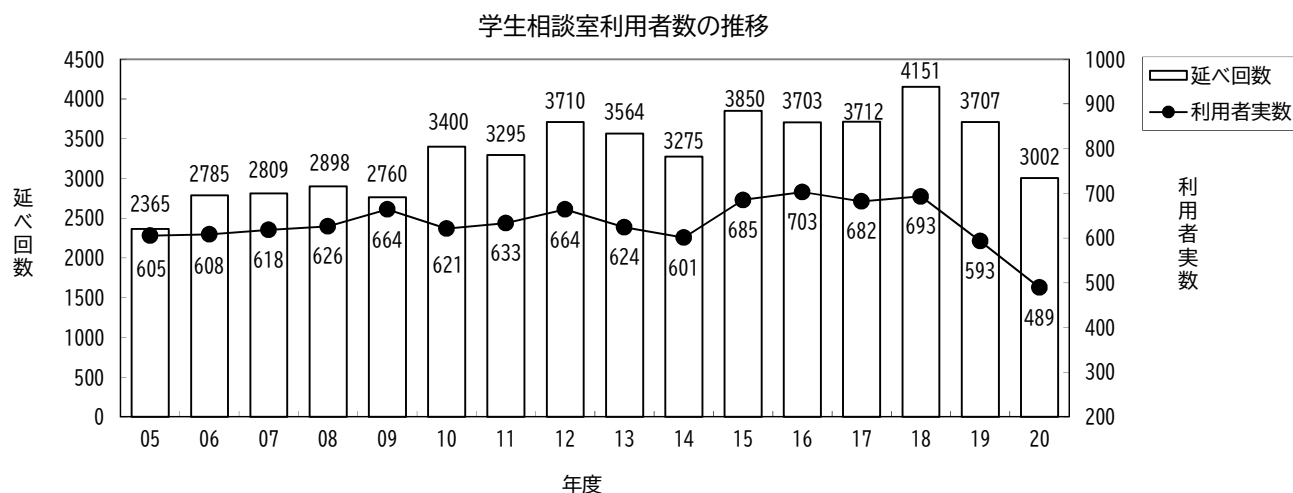
（注）（ ）内は女子を内数で示す

(8) 学生相談利用状況

ア 学生相談内訳

区 分		修 学	進 路	友 人 関 係	異 性	結 婚	家 庭	情 緒 性 格	人 生 問 題	経 済	住 居	そ の 他 の 問 題	F A 呼 出 面 接 (*1)	合 計	実 数
学 群 学 生	人 文 ・ 文 化 学 群	75	7	6	3		2	166	2	1	3	18	9	292	44
	社 会 ・ 国 際 学 群	10	18				3	25				8	7	71	21
	人 間 学 群	10	26	1	7		2	196				14	15	271	44
	生 命 環 境 学 群	95	9		7			101	1	1		18	19	251	58
	理 工 学 群	102	12	2				146				33	17	312	66
	情 報 学 群	87	15		4		2	128	3			18	13	270	45
	医 学 群	9			4			111				1	11	136	26
	体 育 専 門 学 群	1	1		1			2				2	6	13	12
	芸 術 専 門 学 群	21	1					147	1			17	7	194	27
	小 計	410	89	9	26		9	1,022	7	2	3	129	104	1,810	343
大 学 院 生	人 文 社 会 科 学 研 究 群 ・ 人 文 社 会 科 学 研 究 科	7	5					72				7		91	12
	ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 群 ・ ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科														
	数 理 物 資 科 学 研 究 群 ・ 数 理 物 資 科 学 研 究 科	27	3					59				2		91	14
	生 命 地 球 科 学 研 究 群 ・ 生 命 環 境 科 学 研 究 科	43	8	4	1		2	159	2			13		232	25
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 群 ・ シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科	62	16					154	1			10		243	39
	人 間 総 合 科 学 研 究 群 ・ 人 間 総 合 科 学 研 究 科	58	10		1		12	294	3			34		412	41
	教 育 研 究 科		2					28				4		34	3
	図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科							31				3		34	5
	グ ロ ー バ ル 教 育 院							29				1		30	2
	小 計	197	44	4	2		14	826	6			74		1,167	141
研 究 生							12						12	1	
そ の 他	1						3				9		13	4	
合 計	608	133	13	28		23	1,863	13	2	3	212	104	3,002	489	
実 数	105	28	5	6		4	200	2			35	104	489		

(*1) FAは、学生相談室で実施している新入生用アンケートをいう。



イ 総合相談窓口の利用状況

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	計
相談	267	74	2	45		388
問い合わせ	245	51	1	5	9	311
苦情要望	3	3		1		7
その他	12	1		4	2	19
計	527	129	3	55	11	725

各相談窓口内訳

・スチューデントプラザ

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	計
相談	167	44	2	32		245
問い合わせ	183	48	1	5	9	246
苦情要望	2	2		1		5
その他	3	1		1	2	7
計	355	95	3	39	11	503

・春日

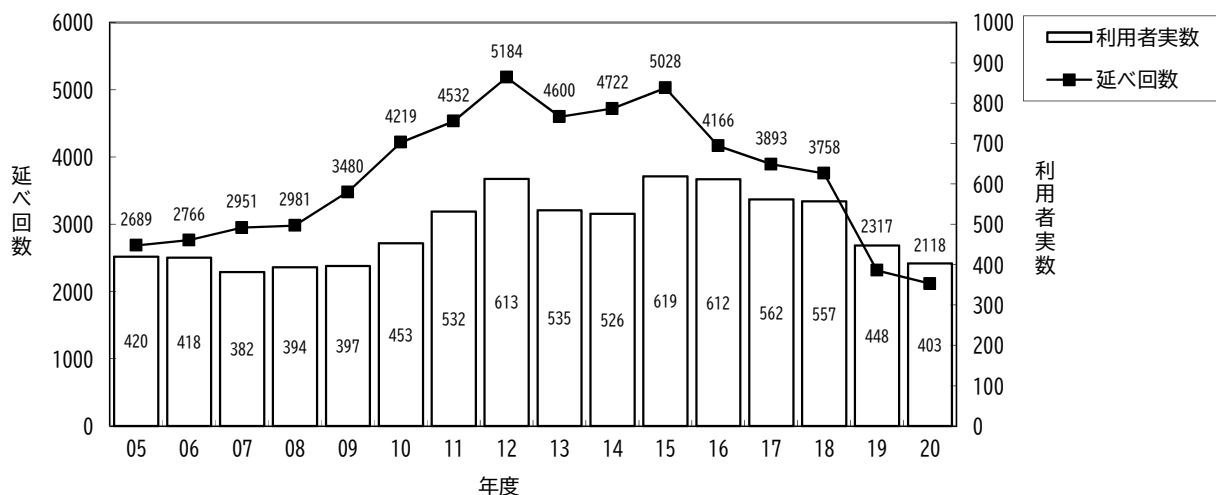
	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	計
相談	100	30		13		143
問い合わせ	62	3				65
苦情要望	1	1				2
その他	9	1		2		12
計	172	35	0	15	0	222

ウ 精神衛生相談利用状況

区 分		延 数	実 数	
学 群 学 生	人 文 ・ 文 化 学 群	人 文 学 類	90	16
		比 較 文 化 学 類	64	14
		日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	2	2
	社 会 ・ 国 際 学 群	社 会 学 類	60	10
		国 際 総 合 学 類	13	8
	人 間 学 群	教 育 学 類	48	5
		心 理 学 類	62	9
		障 害 科 学 類	25	8
	生 命 環 境 学 群	生 物 学 類	119	16
		生 物 資 源 学 類	51	12
		地 球 学 類	10	5
	理 工 学 群	数 学 類	4	3
		物 理 学 類	48	7
		化 学 類	3	1
		応 用 理 工 学 類	31	7
		工 学 シ ス テ ム 学 類	37	13
		社 会 工 学 類	57	7
	情 報 学 群	総 合 理 工 学 位 プ ロ グ ラ ム	0	0
		情 報 科 学 類	22	3
		情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	63	11
	医 学 群	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	65	13
		医 学 類	49	14
		看 護 学 類	25	6
体 育 専 門 学 群	医 療 科 学 類	18	3	
	体 育 専 門 学 群	24	7	
芸 術 専 門 学 群	芸 術 専 門 学 群	94	19	
グ ロー バ ル 教 育 院	地 球 規 模 課 題 学 位 プ ロ グ ラ ム	0	0	
小 計		1,084	219	
大 学 院 生	修 士 (前 期) 課 程	559	106	
	博 士 (後 期) 課 程	453	71	
	小 計	1012	177	
研 究 生		20	5	
そ の 他		2	2	
合 計		2,118	403	

(注) その他は学生以外の急患等である

精神衛生相談利用者数の推移



6 国際交流関係

(1) 教職員等の交流

(令和2年度)

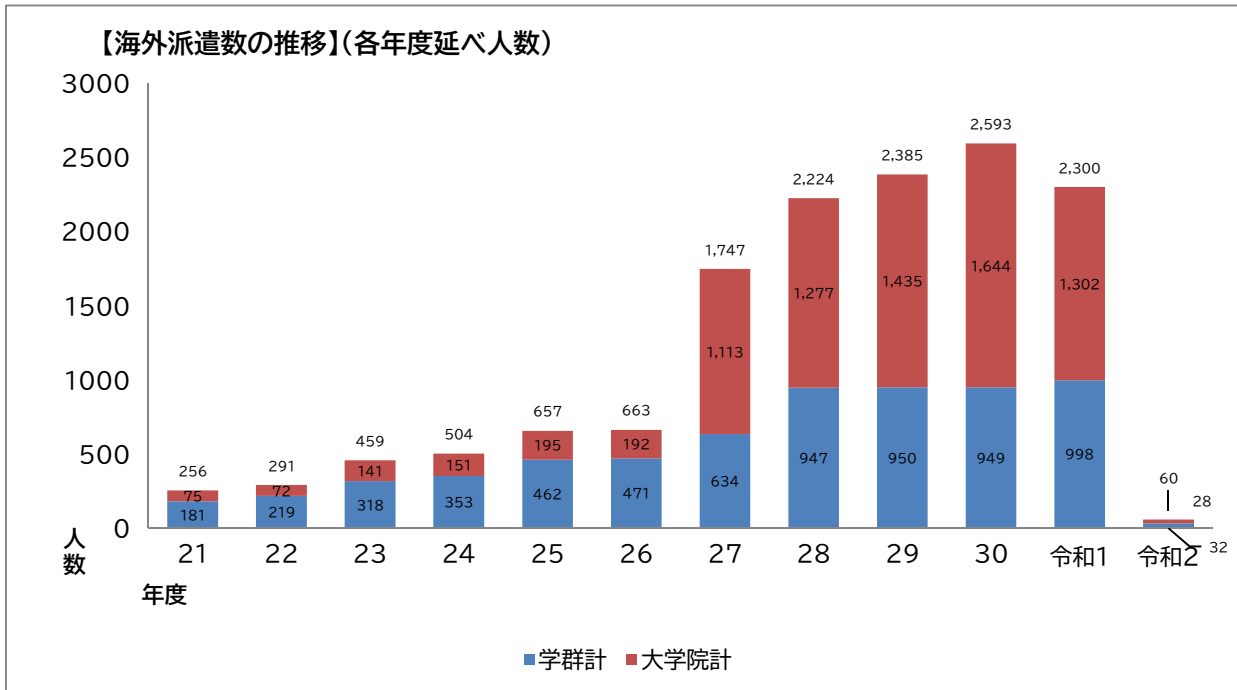
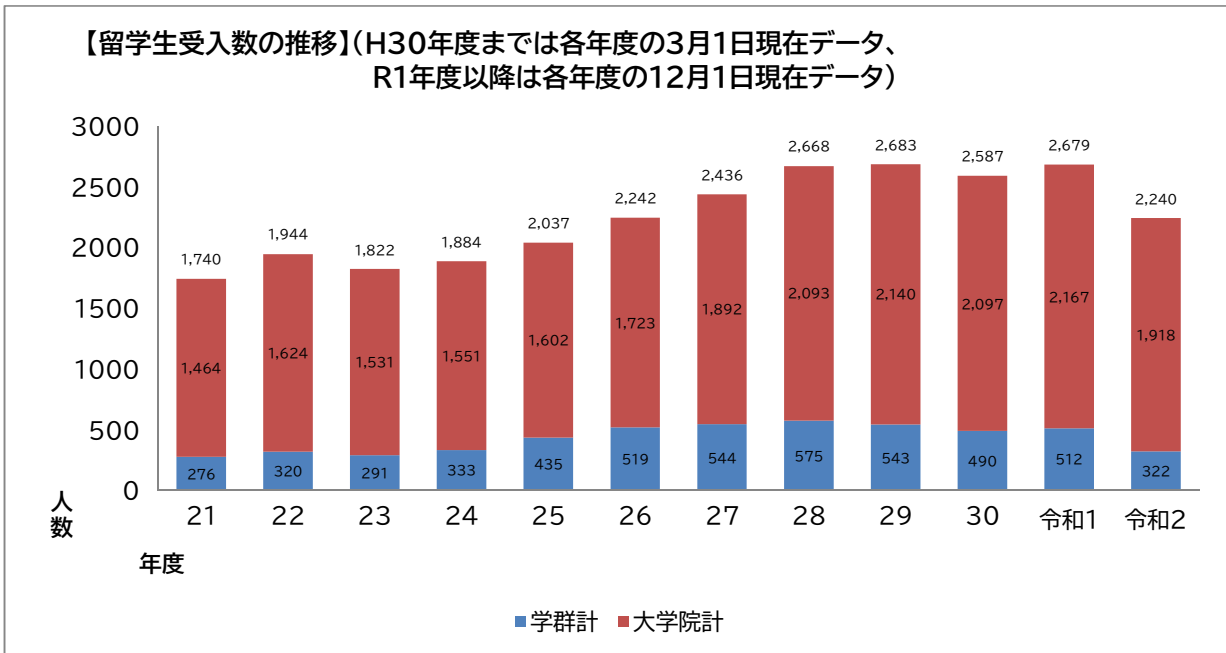
交流組織	外国人研究者等の受入数								合計	教職員等の海外派遣数			合計	
	雇用者				雇用者以外					自 機 関 資 金	外 部 資 金	そ の 他		
	外 国 人 研 究 員	外 国 人 教 員	そ の 他	小 計	自 機 関 資 金	外 部 資 金	そ の 他	小 計						
学群	人文・文化学群	0	6	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0
	社会・国際学群	0	7	0	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0
	人間学群	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	生命環境学群	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	理工学群	0	4	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	情報学群	0	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	医学群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	体育専門学群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	芸術専門学群	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0
総合学域群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
大学院	人文社会ビジネス科学学術院	0	8	0	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0
	人文社会科学研究群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ビジネス科学研究群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	法曹専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国際経営プロフェッショナル専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理工情報生命学術院	0	4	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	数理物質科学研究群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	システム情報工学研究群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生命地球科学研究群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国際連携持続環境科学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人間総合科学学術院	0	5	0	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
	人間総合科学研究群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	スポーツ国際開発学共同専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大学体育スポーツ高度化共同専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国際連携食料健康科学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	グローバル教育院	0	64	0	64	0	0	0	0	64	0	0	0	0
	人文社会科学研究科	0	9	0	9	0	0	0	0	9	0	0	0	0
	ビジネス科学研究科	0	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	数理物質科学研究科	0	3	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	システム情報工学研究科	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0
生命環境科学研究科	0	2	0	2	0	1	0	1	3	0	1	0	1	
人間総合科学研究科	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
図書館情報メディア研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
系	人文社会系	9	34	0	43	0	0	0	0	43	0	1	0	1
	ビジネスサイエンス系	0	4	0	4	0	0	1	1	5	0	0	0	0
	数理物質系	10	32	0	42	2	9	7	18	60	1	1	2	4
	システム情報系	14	15	0	29	1	4	3	8	37	0	0	1	1
	生命環境系	14	28	0	42	0	18	10	28	70	1	1	0	2
	人間系	3	9	0	12	1	0	0	1	13	1	0	1	2
	体育系	7	10	0	17	0	3	0	3	20	0	0	2	2
	芸術系	1	4	0	5	0	0	0	0	5	1	0	2	3
	医学医療系	6	20	0	26	1	6	8	15	41	1	0	1	2
	図書館情報メディア系	3	6	0	9	0	5	1	6	15	0	0	0	0
教育組織・センター等	学際研究系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国際統合睡眠医科学研究機構	12	6	4	22	0	3	0	3	25	0	0	0	0
	計算科学研究センター	2	4	0	6	0	0	1	1	7	0	1	0	1
	生存ダイナミクス研究センター	2	1	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	つくば機能植物イノベーション研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	下田臨海実験センター	1	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0
	プラズマ研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地中海・北アフリカ研究センター	2	0	0	2	0	1	0	1	3	1	0	0	1
	サイバニクス研究センター	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	アイソトープ環境動態研究センター	1	0	0	1	0	1	0	1	2	0	0	0	0
	人工知能科学センター	3	0	0	3	0	1	0	1	4	0	0	0	0
	陽子線医学利用研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	山岳科学センター	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0
	微生物サステナビリティ研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トランスボーダー医学研究センター	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	
生命科学動物資源センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

交流組織	外国人研究者等の受入数								合計	教職員等の海外派遣数			合計
	雇用者				雇用者以外					自 機 関 資 金	外 部 資 金	そ の 他	
	外 国 人 研 究 員	外 国 人 教 員	そ の 他	小 計	自 機 関 資 金	外 部 資 金	そ の 他	小 計					
宇宙史研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
エネルギー物質科学センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
研究基盤総合センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
学術情報メディアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
グローバルコミュニケーション教育センター	0	21	0	21	0	0	0	0	21	0	0	0	
体育センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アドミッションセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
保健管理センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
人文社会国際比較研究機構	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
高細精医療イノベーション研究コア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
つくば臨床医学研究開発機構	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
プレジジョン・メディシン開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
未来社会工学開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
教育組織・センター等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
スポーツイノベーション開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルスサービス開発研究センター	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	
テラーメイドQOLプログラム開発研究センター	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	
働く人への心理支援開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
イノベティブ計測技術開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
革新的創業開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
デジタルネイチャー開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
健幸イノベーション開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
スマートウェルネスシティ政策開発研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アスレチックデパートメント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
リサーチユニット・リサーチグループ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
研究戦略イニシアティブ推進機構	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医療科教員養成施設	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
薬類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター	1	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	
附属図書館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
附属病院	2	0	7	9	0	1	0	1	10	0	0	0	
附属学校教育局・附属学校	0	11	3	14	0	0	0	0	14	0	0	0	
本部・事務・技術職他	0	6	23	29	1	0	0	1	30	0	2	0	
合計	99	336	37	472	7	55	33	95	567	6	7	9	22

(2) 学生の交流

区 分		外国人留学生の受入れ数			学生の海外派遣数	合 計
		正 規 生	非 正 規 生	小 計		
人文・文化学群	人 文 学 類	5	10	15	0	15
	比 較 文 化 学 類	7	0	7	7	14
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	9	5	14	0	14
社会・国際学群	社 会 学 類	25	0	25	1	26
	国 際 総 合 学 類	32	2	34	13	47
人間学群	教 育 学 類	2	0	2	2	4
	心 理 学 類	4	0	4	3	7
	障 害 科 学 類	2	0	2	1	3
生命環境学群	生 物 学 類	30	0	30	2	32
	生 物 資 源 学 類	48	0	48	0	48
	地 球 学 類	11	1	12	0	12
理工学群	数 学 類	3	0	3	1	4
	物 理 学 類	6	0	6	0	6
	化 学 類	5	0	5	0	5
	応 用 理 工 学 類	16	0	16	0	16
	工 学 シ ス テ ム 学 類	15	0	15	0	15
	社 会 工 学 類	5	0	5	1	6
	総 合 理 工 学 位 プ ロ グ ラ ム	10	0	10	0	10
情報学群	情 報 科 学 類	15	0	15	0	15
	情 報 メ テ ` イ ア 創 成 学 類	6	0	6	0	6
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	7	0	7	0	7
医学群	医 学 類	2	0	2	0	2
	看 護 学 類	10	0	10	0	10
	医 療 科 学 類	2	0	2	0	2
体 育 専 門 学 群	0	0	0	0	0	
芸 術 専 門 学 群	11	0	11	1	12	
グローバル教育院	地 球 規 模 課 題 学 位 プ ロ グ ラ ム	16	0	16	0	16
	学 群 計	304	18	322	32	354
修士課程	教 育 研 究 科	8	9	17	1	18
博士課程	人 文 社 会 科 学 研 究 科	178	10	188	6	194
	ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科	0	0	0	0	0
	数 理 物 質 科 学 研 究 科	105	12	117	1	118
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科	176	29	205	1	206
	生 命 環 境 科 学 研 究 科	228	9	237	8	245
	人 間 総 合 科 学 研 究 科	196	28	224	8	232
	図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科	19	0	19	1	20
	グ ロ ー バ ル 教 育 院	48	1	49	0	49
	博 士 課 程 小 計	950	89	1,039	25	1,064
専門職学位課程	ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科	0	0	0	1	1
	専 門 職 学 位 課 程 小 計	0	0	0	1	1
大 学 院 (旧) 計		958	98	1,056	27	1,083
	人 文 社 会 ビ ジ ネ ス 科 学 学 術 院 人 文 社 会 科 学 研 究 群	102	23	125	0	125
	人 文 社 会 ビ ジ ネ ス 科 学 学 術 院 ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 群	1	0	1	0	1
	人 文 社 会 ビ ジ ネ ス 科 学 学 術 院	2	0	2	0	2
	理 工 情 報 生 命 学 術 院 数 理 物 質 科 学 研 究 群	69	29	98	0	98
	理 工 情 報 生 命 学 術 院 シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 群	167	33	200	0	200
	理 工 情 報 生 命 学 術 院 生 命 地 球 科 学 研 究 群	161	45	206	0	206
	理 工 情 報 生 命 学 術 院	1	0	1	0	1
	人 間 総 合 科 学 学 術 院 人 間 総 合 科 学 研 究 群	173	44	217	1	218
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	11	1	12	0	12
大 学 院 (新) 計		687	175	862	1	863
合 計		1,949	291	2,240	60	2,300

(注) 外国人留学生については、令和2年12月1日現在の現員を示す。



注：平成27年度より、学内の支援による短期海外出張等も含めた。

(3) 国際交流協定

(令和2年度)

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
中国	河北農業大学	部局間	2017/12/12 ~ 2022/12/11	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域（主に生命環境科学、食料バイオ科学、バイオ環境科学、バイオシステム科学、地域システム経済学）
	華中師範大学	部局間	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	情報セキュリティ、人工知能、ビッグデータ解析、及びその関連分野
	華東師範大学	全学	2017/7/25 ~ 2022/7/24	研究者 学 生	全領域（特に、理学・工学、日本語・日本文化、中国語・中国文化、生命環境、体育）
	吉林大学	全学	2018/2/7 ~ 2023/2/6	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	湖南大学	部局間	2016/8/22 ~ 2021/8/21	研究者 学 生	人文科学及び社会科学(文学、語学、社会学、文化学、国際関係学)
	江南大学	部局間	2020/9/28 ~ 2025/9/27	研究者 学 生	生物技術、生命科学分野及びその関連分野
	香港科技大学	全学	2017/9/1 ~ 2022/8/31	研究者 学 生	全領域
	香港中文大学	全学	2020/2/17 ~ 2025/2/16	研究者 学 生	協議により決定
	香港理工大学	部局間	2014/11/11 ~ 2019/11/10	学 生	社会工学全領域
	四川大学	部局間	2018/3/16 ~ 2023/3/15	研究者 学 生	半導体材料とデバイス及び関連分野
	上海外国語大学	部局間	2019/3/4 ~ 2024/3/3	研究者 学 生	日本語・日本文化を中心とする人文社会系分野
	上海図書館	部局間	2020/1/5 ~ 2025/1/4	研究者 学 生	図書館情報学及び関連分野
	清華大学	部局間	2017/2/27 ~ 2022/2/26	研究者 学 生	都市計画・建築計画
	清華大学	部局間	2018/5/10 ~ 2023/5/9	研究者 学 生	環境科学・工学、生命科学、生態学、及び関連分野
	西安外国語大学	部局間	2016/11/1 ~ 2021/10/31	研究者 学 生	日本語・日本文化を中心とする人文社会系分野
	西安交通大学	全学	2018/2/21 ~ 2023/2/20	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	西北農林科技大学	部局間	2017/11/1 ~ 2022/10/31	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域（主に生命環境科学、食料バイオ科学、バイオ環境科学、バイオシステム科学、地域システム経済学）
	青島大学附属医院	部局間	2020/9/1 ~ 2025/8/31	研究者	放射線治療分野、特に陽子線治療、BNCTなどの先端のがん粒子線治療分野
	蘇州大学	部局間	2017/11/13 ~ 2022/11/12	研究者 学 生	体育、スポーツ科学
	大連大学	部局間	2017/2/18 ~ 2022/2/17	研究者 学 生	日本語・日本文化を中心とした人文科学、社会科学及び関連分野
	大連民族大学	全学	2018/3/1 ~ 2023/2/28	研究者 学 生	全学
	中央美術学院	全学	2018/9/22 ~ 2023/9/21	研究者 学 生	全領域（特に芸術および社会工学）
	中国科学院 地理科学・資源研究所	部局間	2012/4/1 ~ 2017/3/31	研究者 学 生	生命環境科学及び関連分野
	中国科学技術大学	全学	2019/4/6 ~ 2024/4/5	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	中国原子能科学研究院	部局間	2012/8/1 ~ 2017/7/31	研究者 学 生	加速器科学及び関連分野
	中国人民大学	部局間	2018/10/1 ~ 2023/9/30	研究者 学 生	日本語・日本文化を中心とする人文社会系分野
	中国地質大学	部局間	2020/11/23 ~ 2025/11/22	研究者 学 生	環境科学、環境工学、生命環境科学及びエネルギー資源
	中国美術学院	部局間	2018/5/19 ~ 2023/5/18	研究者 学 生	芸術諸分野
	鄭州大学	部局間	2020/11/28 ~ 2025/11/27	研究者 学 生	環境科学、環境工学、衛生環境医学、生命環境科学など
	東北師範大学	全学	2019/4/10 ~ 2024/4/9	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	東北大学	部局間	2017/7/1 ~ 2020/6/30	研究者 学 生	経営学、経済学及び関連分野
	同濟大学	部局間	2020/8/1 ~ 2025/7/31	研究者 学 生	環境科学、環境工学、水環境及び関連分野
	内蒙古農牧業科学院	部局間	2016/4/12 ~ 2021/4/11	研究者 学 生	畜産学・草地学及び関連分野
	南開大学	全学	2019/9/5 ~ 2024/9/4	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	南京農業大学	部局間	2019/2/1 ~ 2024/1/31	研究者 学 生	農業、生命環境科学及びその関連分野
	復旦大学	全学	2018/9/13 ~ 2023/9/12	研究者 学 生	人文社会科学、生命環境科学、人工知能科学及び関連分野
	福建師範大学	部局間	2016/11/1 ~ 2021/10/31	研究者 学 生	日本語・日本文化を中心とする人文社会系分野
	北京師範大学	全学	2016/4/28 ~ 2021/4/27	研究者 学 生	全領域
	北京大学	全学	2016/10/12 ~ 2021/10/11	研究者 学 生	両大学におけるすべての分野

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	蘭州大学	部局間	2016/8/17 ~ 2021/8/16	研究者 学 生	原子核物理学及び関連分野
	厦門大学	全学	2018/5/21 ~ 2023/5/20	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	浙江科技学院	部局間	2018/7/1 ~ 2023/6/30	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域（主に生命環境科学）
	浙江大学	全学	2017/11/9 ~ 2022/11/8	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	澳門大学	部局間	2020/4/1 ~ 2025/3/31	学 生	人文科学及び関連分野
台湾	高雄医学大学	部局間	2019/9/3 ~ 2024/9/2	研究者 学 生	医学（臨床医学、基礎医学、社会医学）及び関連分野
	国立嘉義大学	部局間	2019/6/17 ~ 2024/6/16	研究者 学 生	人文社会科学（教育学、心理学、特別支援教育及びその関連分野を含む）
	国立交通大学	部局間	2015/8/25 ~ 2020/8/24	研究者 学 生	ナノエレクトロニクス関連分野での教育及び研究
	国立交通大学	部局間	2017/8/2 ~ 2022/8/1	研究者 学 生	医学、工学
	国立交通大学	全学	2020/7/21 ~ 2025/7/20	研究者 学 生	全領域
	国立彰化師範大学	部局間	2018/3/7 ~ 2023/3/6	研究者 学 生	障害科学、教育学、心理学
	国立成功大学	全学	2019/3/21 ~ 2024/3/20	研究者 学 生	全領域（基礎・応用自然科学、バイオサイエンス、医学、人文科学、社会科学、工学分野）
	国立政治大学	全学	2016/7/1 ~ 2021/6/30	研究者 学 生	両大学の全ての領域
	国立清華大学	全学	2017/11/29 ~ 2022/11/28	研究者 学 生	全領域
	国立台北大学	全学	2018/5/23 ~ 2023/5/22	研究者 学 生	全領域
	国立台湾科技大学	部局間	2018/9/30 ~ 2023/9/29	研究者 学 生	美術、構成、デザイン、感性情報学、感性デザイン学、感性人間工学
	国立台湾芸術大学	部局間	2020/7/12 ~ 2025/7/11	研究者 学 生	芸術諸分野
	国立台湾師範大学	全学	2017/12/1 ~ 2022/11/30	研究者 学 生	両大学に共通するすべての分野
	国立台湾体育運動大学	全学	2016/11/19 ~ 2021/11/18	研究者 学 生	体育、医学
	国立台湾大学	全学	2012/11/16 ~ 2017/11/15	研究者 学 生	全領域
	国立台湾大学	部局間	2015/4/20 ~ 2020/4/19	学 生	農学分野
	国立台湾大学	CIC	2015/9/30 ~ 2020/9/29	研究者 学 生	CiC協定における全領域
	国立屏東科技大学	部局間	2016/11/1 ~ 2021/10/31	研究者 学 生	生命環境科学
	東呉大学	全学	2016/4/23 ~ 2021/4/22	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域（特に人文社会科学、図書館情報メディア科学）
	輔仁大学	全学	2019/4/16 ~ 2024/4/15	研究者 学 生	全分野（主として人文社会科学、体育学）
韓国	ソウル市立大 大学校	部局間	2018/2/15 ~ 2023/2/14	研究者 学 生	都市計画、空間情報科学、建築・環境デザイン、生命環境科学に関わる分野
	ソウル大学校	部局間	2020/6/18 ~ 2025/6/17	研究者 学 生	体育・スポーツ科学及び関連分野
	延世大学校	全学	2019/10/1 ~ 2024/9/30	研究者 学 生	両大学に共通するすべての領域
	釜山大学校	部局間	2017/2/16 ~ 2022/2/15	研究者 学 生	材料科学、物理学及び関連分野
	釜山大学校	部局間	2018/8/16 ~ 2023/8/15	研究者 学 生	障害科学、教育学、心理学及びその他の関連分野
	釜山大学校	部局間	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	図書館情報学及び関連分野
	漢陽大学校	全学	2019/1/26 ~ 2024/1/25	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域
	漢陽大学校	部局間	2019/5/28 ~ 2024/5/27	研究者 学 生	両対応組織に共通するすべての分野、高齢化社会における健康・活力増進対策
	韓国科学技術院	全学	2020/6/1 ~ 2025/5/31	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域（主にHCI、情報学、感性情報、感性デザイン・インタラクション、ロボット工学、情報工学、材料工学等の研究領域）
	韓国外国語大学校	部局間	2017/10/22 ~ 2022/10/21	研究者 学 生	人文科学、社会科学、地域研究、日本語・日本文化及び関連分野
	韓国教員大学校	部局間	2018/4/1 ~ 2023/3/31	研究者 学 生	教育学関連分野
	韓国国土研究院	部局間	2016/6/12 ~ 2021/6/11	研究者	都市及び地域計画及び関連分野
	啓明大学校	部局間	2017/11/1 ~ 2022/10/31	研究者 学 生	人文社会科学及び関連分野
	慶熙大学校	部局間	2014/6/17 ~ 2019/6/16	研究者 学 生	健康・スポーツ科学及び関連分野
	弘益大学校	全学	2019/4/13 ~ 2024/4/12	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	高麗大学校	全学	2018/2/1 ~ 2023/1/31	学 生	人文科学、社会科学及び自然科学全般（協議により決定）
	国立核融合研究所	部局間	2015/8/1 ~ 2020/7/31	研究者	プラズマ核融合科学
	仁荷大学校	部局間	2017/5/20 ~ 2022/5/19	研究者 学 生	日本語学、日本文学、韓国語学、韓国文学、応用言語学、比較文学、文化交流論及び関連分野
	大邱大学校	部局間	2018/8/24 ~ 2023/8/23	研究者 学 生	心身障害学、リハビリテーション科学及び関連分野
	忠南大学校	部局間	2016/12/6 ~ 2021/12/5	研究者 学 生	医学教育、医学研究、医学分野における産学連携方法についての交流
	忠南大学校	部局間	2017/3/21 ~ 2022/3/20	研究者 学 生	農学、生物学、地球環境科学及び関連分野
	梨花女子大学校	全学	2018/2/1 ~ 2023/1/31	研究者 学 生	全領域（両大学に共通する全ての分野）
インド	ジャワハルラル・ネール大学	部局間	2016/4/1 ~ 2021/3/31	研究者 学 生	日本研究、インド研究、日本語教育、英語教育を含む人文社会科学分野及び関連分野
	ハイデラバード大学	部局間	2016/12/14 ~ 2021/12/13	研究者 学 生	生物学、生命科学及び関連分野
	マドラス大学	部局間	2019/2/4 ~ 2022/2/3	研究者 学 生	陽電子消滅を用いた物性研究
	マナブラチャナ国際大学	部局間	2017/11/1 ~ 2022/10/31	研究者 学 生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学、スポーツ理学療法、栄養学
	青少年スポーツ省インドスポーツ協会	部局間	2018/10/29 ~ 2021/10/28	研究者	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学、オリンピック教育
インドネシア	KIBIインドネシア生命医科学団体	部局間	2018/9/21 ~ 2023/9/20	研究者 学 生	生命医科学分野
	インドネシア共和国海事調整省	全学	2019/2/14 ~ 2024/2/13	研究者	藻類科学技術および関連技術に関わる分野・領域
	インドネシア教育大学	部局間	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	障害科学、教育学、心理学、その他の関連分野
	インドネシア大学	全学	2014/5/22 ~ 2019/5/21	研究者 学 生	協議により決定
	ウダヤナ大学	部局間	2013/6/1 ~ 2018/5/31	研究者 学 生	医学分野
	ガジャマダ大学	全学	2018/9/1 ~ 2023/8/31	研究者 学 生	生命環境科学分野、生命科学分野、システム情報工学分野、土木工学分野、都市地域計画分野
	スリウィジャヤ大学	全学	2020/12/14 ~ 2025/12/13	研究者 学 生	協議により決定
	バジャジャラン大学	全学	2020/10/27 ~ 2025/10/26	研究者 学 生	協議により決定
	バンドン工科大学	部局間	2018/1/27 ~ 2023/1/26	研究者 学 生	生命環境科学分野
	ピヌス大学	全学	2020/3/18 ~ 2025/3/17	研究者 学 生	生命環境関連（AIMSプログラムで指定される10学問分野）
	ボゴール農科大学	部局間	2016/8/6 ~ 2021/8/5	研究者 学 生	環境科学、農学、生物工学、生命科学および関連分野
	リアウ大学	部局間	2019/10/7 ~ 2024/10/6	研究者 学 生	生命環境科学及び関連分野
	国立アイルランガ大学	全学	2020/3/10 ~ 2025/3/9	研究者 学 生	両大学に共通するすべての分野
カンボジア	王立ブノンペン大学	部局間	2015/6/22 ~ 2020/6/21	研究者 学 生	生物学及び環境科学
	王立農業大学	全学	2020/7/21 ~ 2025/7/20	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
タイ	アジア工科大学院	全学	2018/9/1 ~ 2023/8/31	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域（主に、生命環境科学、建設工学、情報工学、社会工学、及び関連分野）
	カセサート大学	全学	2019/2/25 ~ 2024/2/24	研究者 学 生	生命環境関連（AIMSプログラムで指定される10学問分野）
	キング・モンクット工科大学トンブリ校	部局間	2016/8/1 ~ 2021/7/31	研究者 学 生	生物資源科学、環境バイオマス共生学及び関連分野
	キング・モンクット工科大学ラートクラバン校	部局間	2020/4/1 ~ 2025/3/31	研究者 学 生	光学・光学計測・生体工学
	コンケン大学	全学	2016/10/19 ~ 2021/10/18	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域
	コンケン大学	部局間	2017/2/8 ~ 2022/2/7	研究者 学 生	医学
	シーナカリンウィロート大学	部局間	2019/11/9 ~ 2024/11/8	研究者 学 生	健康・スポーツ科学及び関連分野
	スラナリー工科大学	部局間	2011/4/1 ~ 2016/3/31	研究者 学 生	食物、エネルギー、天然資源及び関連分野
	タイ王国司法裁判所事務局	部局間	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者	両機関に共通するすべての領域（人文社会科学研究科の各専攻、SDGs (sustainable development goals) をめぐる関連諸領域）
	タマサート大学	部局間	2016/9/1 ~ 2021/8/31	研究者 学 生	AIMSプログラム関連分野、主に 農業、食料科学技術、生物多様性、環境科学
	チェンマイ大学	全学	2020/3/5 ~ 2025/3/4	研究者 学 生	生命環境関連（AIMSプログラムで指定される10学問分野）
	チュラロンコン大学	部局間	2016/8/9 ~ 2021/8/8	研究者 学 生	地球進化科学及び関連分野

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	チュラロンコン大学	部局間	2017/4/1 ~ 2022/3/31	研究者 学 生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学
	プリンスオブソンクラ大学	部局間	2018/3/11 ~ 2023/3/10	研究者 学 生	物質科学、バイオマテリアル、薬学、医学及び関連分野
	プリンスオブソンクラ大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	生命環境関連 (AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	メーファールアン大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	生命環境関連 (AIMSプログラムで指定される10学問分野)を中心とした全分野
	メジョ大学	全学	2020/11/18 ~ 2025/11/17	研究者 学 生	協議により決定
バングラデシュ	バングラデシュ工科大学	部局間	2018/10/1 ~ 2023/9/30	研究者 学 生	土木工学、機械工学及び関連分野
	バングラデシュ農業大学	部局間	2017/10/1 ~ 2022/9/30	研究者 学 生	農学、環境科学及び関連分野
	国際下痢症研究センター	部局間	2017/6/8 ~ 2022/6/7	研究者 学 生	医学 (社会医学、臨床医学、基礎医学) 及び関連分野
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	全学	2020/3/31 ~ 2025/3/30	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	セイントラサル大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	生命環境関連 (AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	セントラルピコール州立農業大学	部局間	2014/10/1 ~ 2019/9/30	研究者 学 生	生命環境関連 (AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	セントラルルソン州立大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	生命環境関連 (AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	デ・ラ・サル大学	全学	2019/5/20 ~ 2024/5/19	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	フィリピン大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	生命環境関連 (AIMSプログラムで指定される10学問分野)
	聖トマス大学	全学	2021/3/1 ~ 2026/2/28	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
ブルネイ	ブルネイ・ダルサラム大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	学 生	生命環境関連 (AIMSプログラムで指定される10学問分野)
ベトナム	ヴァン大学	部局間	2015/5/25 ~ 2020/5/24	研究者 学 生	藻類バイオマスおよび藻類バイオマスに関連する基礎から応用までの分野
	チョライ病院	部局間	2018/9/21 ~ 2023/9/20	研究者	医学及び関連分野
	トゥイロイ大学	全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	ナムディン看護大学	部局間	2017/12/8 ~ 2022/12/7	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域
	ハノイ医科大学	部局間	2012/10/1 ~ 2017/9/30	研究者 学 生	両大学に共通するすべての分野
	フエ医科薬科大学	部局間	2011/4/28 ~ 2016/4/27	研究者 学 生	両大学・研究に共通する全ての領域
	ベトナム科学技術アカデミー・バイオテクノロジー研究所	部局間	2016/7/1 ~ 2021/6/30	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域
	ベトナム国家大学ハノイ校	全学	2020/10/14 ~ 2025/10/13	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	ベトナム国家大学ホーチミン校	全学	2020/9/17 ~ 2025/9/16	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	ベトナム国家農業大学	部局間	2018/12/16 ~ 2023/12/15	研究者 学 生	生命環境及び関連分野
	ホーチミン市バイオテクノロジーセンター	部局間	2011/9/22 ~ 2016/9/21	学 生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野
	ホーチミン市バイオテクノロジーセンター	全学	2016/1/9 ~ 2021/1/8	研究者 学 生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野
	ホーチミン市医科薬科大学	全学	2016/9/22 ~ 2021/9/21	学 生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野
	ホーチミン市医科薬科大学	部局間	~		医学、医療科学、公衆衛生学、看護学、助産学を含む、ヘルスケア分野
	ホーチミン市科学技術局	部局間	2011/9/22 ~ 2016/9/21	研究者 学 生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野
	ホーチミン市師範大学	全学	2019/8/12 ~ 2024/8/11	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	ホーチミン市美術大学	部局間	2019/1/21 ~ 2024/1/20	研究者 学 生	芸術、デザインの諸分野
	交通通信大学	全学	2016/9/9 ~ 2021/9/8	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域
	熱帯生物学研究所	部局間	2011/9/22 ~ 2016/9/21	学 生	医学、生命科学、バイオテクノロジー及び関連分野
	マレーシア	ウタラマレーシア大学	部局間	2016/2/16 ~ 2021/2/15	研究者 学 生
ケバンサアン・マレーシア大学		全学	2019/10/1 ~ 2024/9/30	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
マラヤ大学		全学	2019/5/15 ~ 2024/5/14	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
マラ工科大学		全学	2019/4/1 ~ 2024/3/31	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
マレーシア・トレンガヌ大学		全学	2020/12/23 ~ 2025/12/22	研究者 学 生	協議により決定
マレーシア・プトラ大学		部局間	2018/2/1 ~ 2023/1/31	研究者 学 生	協議により決定

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	マレーシアサバ大学	全学	2019/2/1 ~ 2024/1/31	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	マレーシア科学大学	全学	2020/9/10 ~ 2025/9/9	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
	マレーシア工科大学	CIC	2016/9/19 ~ 2021/9/18	研究者 学 生	CiC協定における全領域
ミャンマー	パテイン大学	部局間	2014/12/1 ~ 2019/11/30	研究者 学 生	協議により決定
	教育省・監査及び評価局	全学	2018/1/10 ~ 2023/1/9	研究者	全学
モンゴル	フスタイ国立公園	部局間	2020/5/7 ~ 2025/5/6	研究者	生命環境科学及びその関連分野
	モンゴル国立医科大学	部局間	2018/7/6 ~ 2023/7/5	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域
	モンゴル国立大学	部局間	2017/8/8 ~ 2022/8/7	研究者	法律学
	モンゴル生命科学大学	部局間	2019/7/1 ~ 2024/6/30	研究者 学 生	農学及び関連分野
ラオス	ラオス健康科学大学	部局間	2020/3/30 ~ 2025/3/29	研究者 学 生	医学・健康科学とその関連分野
	ラオス国立大学	全学	2020/7/27 ~ 2025/7/26	研究者 学 生	AIMSプログラムで指定される10学問分野
オーストラリア	アデレード大学	全学	2013/11/25 ~ 2018/11/24	学 生	両大学に共通する全ての領域（ただし、一部交流できない分野もある）
	ウーロンゴン大学	部局間	2015/11/18 ~ 2020/11/17	研究者	医学物理学
	オーストラリア国立大学	全学	2018/2/16 ~ 2023/2/15	学 生	人文科学、社会科学、自然科学全般（学生交流は医学分野を除く。）
	クイーンズランド大学	全学	2019/8/21 ~ 2024/8/20	学 生	すべての分野
	ジェームズクック大学	全学	2021/2/11 ~ 2023/12/31	学 生	全領域（ただし、大学、キャンパスあるいは学部 の都合により、交流できない分野もある。）
	ジェームズクック大学	部局間	2015/5/20 ~ 2020/5/19	研究者 学 生	全領域（ただし、大学、キャンパスあるいは学部 の都合により、交流できない分野もある。）
	タスマニア大学	全学	2018/1/1 ~ 2020/12/31	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域（特に世界遺産 学、自然保護寄附講座に関する領域）
	ディーキン大学	全学	2015/9/24 ~ 2020/9/23	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域（とくに海洋学、 生物学、自然保護寄附講座、世界遺産学に関わる 領域）
	ビクトリア大学	部局間	2017/7/24 ~ 2022/7/23	研究者 学 生	健康、スポーツ科学
	フリンダース大学	部局間	2019/11/1 ~ 2024/10/31	研究者 学 生	都市イノベーション、都市開発技術、都市デザイ ン、環境計画及び関連分野
	モナシュ大学	全学	2015/9/1 ~ 2020/8/31	研究者 学 生	協議により決定
	西オーストラリア大学	全学	2016/2/10 ~ 2021/2/9	研究者 学 生	ビジネス科学（企業法学）、農学及び食糧科学、 環境学、スポーツ科学
ニュージーランド	オークランド大学	部局間	2015/5/1 ~ 2020/4/30	研究者 学 生	健康、スポーツ科学及びその他関連分野
	オタゴ大学	部局間	2013/6/30 ~ 2018/6/29	研究者 学 生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医 学分野及び関連分野
カナダ	サスカチュワン大学	部局間	2016/10/27 ~ 2021/10/26	研究者 学 生	協議により決定
	ブリティッシュ・コロンビア大学	全学	2018/4/1 ~ 2023/3/31	学 生	全領域
	プリンス・エドワード島大学	部局間	2018/3/28 ~ 2023/3/27	研究者 学 生	カナダ研究、日本研究を中心とした人文科学、社 会科学及び関連分野
	ブロック大学	部局間	2019/10/30 ~ 2024/10/29	研究者 学 生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医 学、スポーツ国際開発学
	モントリオール大学	全学	2019/9/3 ~ 2024/9/2	研究者 学 生	協議により決定
米国	アラスカ大学フェアバンクス校	部局間	2015/1/11 ~ 2020/1/10	研究者 学 生	地球環境科学
	アリゾナ州立大学	部局間	2015/3/3 ~ 2020/3/2	研究者 学 生	藻類バイオマスおよび藻類バイオマスに関連する 基礎から応用までの分野
	イリノイ大学・シカゴ校	部局間	2019/6/12 ~ 2024/6/11	研究者 学 生	医学医療系の研究と教育に共通する全ての領域
	オハイオ州立大学	部局間	2016/8/30 ~ 2021/8/29	研究者 学 生	人文科学・社会科学及び関連分野
	オハイオ州立大学	CiC	2018/6/14 ~ 2023/6/13	研究者 学 生	交流可能な全分野
	オハイオ州立大学	部局間	2016/7/7 ~ 2021/7/6	研究者 学 生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医 学
	カリフォルニア州立大学	全学	2015/5/18 ~ 2020/5/17	研究者 学 生	協議により決定
	カリフォルニア大学アーバイン校	部局間	2014/10/1 ~ 2019/9/30	研究者 学 生	システム生物学および関連分野
	カリフォルニア大学アーバイン校	部局間	2015/6/30 ~ 2018/5/31	研究者 学 生	医学、生命科学、およびその関連分野
	カリフォルニア大学アーバイン校	全学	2016/4/19 ~ 2021/4/18	研究者 学 生	医学、生命科学、スポーツ科学、システム情報お よびその関連分野

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	カリフォルニア大学アーバイン校	CIC	2017/1/9 ~ 2021/4/18	研究者	CiC協定における全領域 (Research Partner)
	カリフォルニア大学サンディエゴ校	全学	2016/3/4 ~ 2021/3/3	学 生	両機関に共通するすべての領域(主に藻類バイオマスを基軸とした生命環境科学分野、医科学分野とその他双方の関心の一致する分野)
	ケント州立大学	部局間	2013/2/25 ~ 2018/2/24	研究者 学 生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学
	コーネル大学	部局間	2010/9/8 ~ 2015/9/7	研究者 学 生	農学全般、生物科学、生命科学、環境科学
	サンディエゴ大学	部局間	2017/3/1 ~ 2020/2/29	学 生	経営学、経済学及び関連分野
	シェファード大学	部局間	2018/4/24 ~ 2023/4/23	研究者 学 生	医学の研究と教育に共通する全ての領域
	ニューメキシコ大学	部局間	2015/7/13 ~ 2020/7/12	研究者	体育・スポーツ科学
	ニューヨーク州立大学・オスウェゴ校	部局間	2016/7/1 ~ 2021/6/30	研究者 学 生	教育学、社会科学及び関連分野
	ニューヨーク州立大学・ストニブルク校	部局間	~	研究者	X線領域の放射線実験の応用
	パデュー大学	全学	2016/4/26 ~ 2021/4/25	研究者 学 生	全領域
	ハワイ大学マノア校	全学	2014/10/9 ~ 2019/10/8	研究者 学 生	協議により決定
	ハワイ大学マノア校	部局間	2017/10/1 ~ 2020/9/30	学 生	経営学
	ピッツバーグ大学	部局間	2019/3/16 ~ 2024/3/15	研究者 学 生	情報学
	プリンストン大学	部局間	2018/4/17 ~ 2023/4/16	研究者 学 生	核融合分野
	ミシガン州立大学	部局間	2017/11/20 ~ 2022/11/19	研究者 学 生	植物科学、作物科学研究
	ミシガン大学	部局間	2019/11/27 ~ 2024/11/26	研究者 学 生	図書館情報学及び関連分野
	ユタ州立大学	部局間	2015/4/1 ~ 2020/3/31	研究者 学 生	生命科学・農学及び関連分野
	ユタ州立大学	全学	2016/2/17 ~ 2021/2/16	研究者 学 生	両大学に共通するすべての領域(特に農学、芸術学、デザイン学、物理学、宇宙開発分野)
	ルイジアナ州立工科大学	部局間	2019/9/5 ~ 2024/9/4	研究者 学 生	コンピュータサイエンスおよび関連分野
	ワシントン大学・セントルイス	部局間	2018/9/1 ~ 2023/8/31	研究者 学 生	人文・社会科学及び関連分野
	聖アンソニー看護大学	部局間	2019/9/18 ~ 2024/9/17	研究者 学 生	看護学の研究と教育に共通する全ての領域
	南インドリアナ大学	部局間	2019/9/14 ~ 2024/9/13	研究者 学 生	人間学、看護学、リハビリテーション科学、ソーシャル・ワーク、医科学及び関連分野
アルゼンチン	ブエノスアイレス大学	全学	2019/7/12 ~ 2024/7/11	研究者 学 生	両大学に共通するすべての分野
コロンビア	サンタンデール工科大学	全学	2017/1/13 ~ 2022/1/13	研究者 学 生	全学(主に藻類バイオマス・エネルギーシステムに関する分野)
	ロスアンデス大学	全学	2015/8/19 ~ 2020/8/18	研究者 学 生	協議により決定
チリ	チリ大学	全学	2014/8/5 ~ 2019/8/4	研究者 学 生	協議により決定
ブラジル	カンピナス州立大学	全学	2017/2/28 ~ 2022/2/27	研究者 学 生	農学、生命科学、環境科学、システム情報工学
	サンタ・クルス病院	部局間	2016/9/19 ~ 2021/9/18	研究者 学 生	医学および関連分野
	サンパウロ州研究財団	全学	2017/9/1 ~ 2022/8/31	研究者	
	サンパウロ州立パウリスタ大学	全学	2018/3/8 ~ 2023/3/7	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域(特に、医学、システム情報工学)
	サンパウロ大学	全学	2014/1/16 ~ 2019/1/15	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域(ただし、具体的な交流の実施については、個別の協定書により規定することとする(第2条参照))
	サンパウロ大学	CiC	2016/9/19 ~ 2021/9/18	研究者 学 生	CiC協定における全領域
	サンパウロ大学	部局間	2015/4/16 ~ 2020/4/15	研究者 学 生	健康・スポーツ科学及び関連分野
	サンパウロ大学リベロンプレイト校	部局間	2016/12/7 ~ 2021/12/6	研究者 学 生	主に両大学における健康科学および薬学の領域
	ブラジリア大学	全学	2019/11/7 ~ 2024/11/6	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
	ペルナンブーコ連邦大学	部局間	1981/7/12 ~	研究者	ラテンアメリカ研究
ペルー	ペルー・カトリカ大学	全学	2018/3/1 ~ 2023/2/28	研究者 学 生	全領域(特に、人文社会科学、自然科学)
	国立サンマルコス大学	全学	2020/1/6 ~ 2025/1/5	研究者 学 生	両大学に共通するすべての分野
メキシコ	グアダラハラ大学	全学	2017/3/15 ~ 2022/3/14	研究者 学 生	生命環境科学、人文社会科学、芸術が主体だが世界展開力強化推進事業の対象は全て含む

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	メキシコ大学院大学	部局間	2007/10/4 ~	研究者 学 生	人文科学、社会科学及び関連分野
	メキシコ農業科学大学院大学	部局間	2019/10/4 ~ 2024/10/3	研究者 学 生	農業科学およびそれに関連した研究分野
トルコ	パムッカレ大学	全学	2014/4/10 ~ 2019/4/9	研究者 学 生	協議により決定
	ボアジチ大学	部局間	2018/3/5 ~ 2023/3/4	研究者 学 生	日本語・日本文化、日本語教育、トルコ語・トルコ文化
ヨルダン	ヨルダン科学技術大学	全学	2019/9/5 ~ 2024/9/4	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域（主に生命環境科学、システム情報工学）
イタリア	イタリア学術研究会議地球水文保護研究所	部局間	2020/8/26 ~ 2025/8/25	研究者	環境防災及びその関連分野
	カ・フォスカリ大学	部局間	2011/9/8 ~ 2016/9/7	研究者 学 生	日本語・日本文化研究、イタリア語・イタリア文化を中心とした人文科学、社会科学及び関連分野
	フィレンツェ国立美術学院	部局間	2016/7/1 ~ 2021/6/30	研究者 学 生	芸術諸分野
	ポローニャ大学	部局間	2015/7/16 ~ 2020/7/15	研究者 学 生	医学に関する領域
	マルシェ科学技術大学	部局間	2017/4/24 ~ 2022/4/23	研究者 学 生	生命科学、生命環境科学、海洋生物学、海洋生態学、環境科学、バイオリソース学
	ミラノ工科大学	全学	2018/9/13 ~ 2023/9/12	研究者 学 生	デザイン領域（建築デザイン、環境デザイン、情報デザイン、プロダクトデザイン）、感性認知脳科学、建築工学、他
エストニア	タリン大学	全学	2016/1/21 ~ 2021/1/20	研究者 学 生	人文社会科学（地域研究・歴史研究・国際関係学など）、人間総合科学を中心とした学問分野
オーストリア	ウィーン経済・経営大学	部局間	2017/4/29 ~ 2022/4/28	研究者 学 生	経営・社会経済システム分野
	ウィーン大学	部局間	2020/2/14 ~ 2025/2/13	研究者 学 生	核化学、核物理、放射性同位体トレーサー
	リンツ工造形芸術大学	部局間	2018/8/22 ~ 2023/8/21	研究者 学 生	ヒューマンコンピューターインタラクション、メディアアート、アートアンドサイエンス
オランダ	アイントホーフェン工科大学	部局間	2018/6/12 ~ 2023/6/11	研究者 学 生	感性情報メディア、感性インタラクション、情報デザイン、工業デザイン、建築デザイン及び関連分野
	アイントホーフェン工科大学	部局間	2019/1/1 ~ 2021/12/31	研究者 学 生	デザイン、工業デザイン、イノベーション、データサイエンス
	デルフト工科大学	部局間	2015/7/1 ~ 2020/6/30	研究者 学 生	土木工学、環境工学、水管理、環境史、地球科学
	デルフト工科大学	部局間	2017/4/1 ~ 2022/3/31	研究者 学 生	感性認知脳科学、芸術学、デザイン学、情報学及び関連分野
	デルフト工科大学	部局間	2019/3/20 ~ 2024/3/19	研究者	工学及び関連分野
	ユトレヒト大学	部局間	2016/10/21 ~ 2021/10/20	研究者 学 生	健康、スポーツ科学
	ユトレヒト大学	CIC	2017/9/15 ~ 2022/9/14	研究者	交流可能な全分野（CIC協定）
	ユトレヒト大学	部局間	2018/3/12 ~ 2022/9/14	研究者 学 生	物理学（特に、高エネルギー重イオン衝突実験及び関連分野）
	ユトレヒト大学	部局間	2019/9/1 ~ 2022/8/31	学 生	法学分野
英国	イースト・アングリア大学	全学	2014/3/10 ~ 2024/3/9	研究者	両機関に共通する全ての領域（特に環境学、生命科学、農学、芸術学）
	ウースター大学	部局間	2020/2/4 ~ 2025/2/3	研究者 学 生	体育・スポーツ・健康科学
	エディンバラ大学	全学	2015/5/11 ~ 2020/5/10	研究者 学 生	計算科学、ロボット、地球科学、医学分野
	オックスフォード・ブルックス大学	全学	2020/2/18 ~ 2025/2/17	学 生	協議により決定
	シェフィールド大学	全学	2017/9/1 ~ 2022/8/31	研究者 学 生	全分野
	ノーザンプリア大学	部局間	2017/4/1 ~ 2020/3/31	研究者 学 生	美術とデザイン分野全般、感性認知脳科学
	プリマス大学	部局間	2017/7/27 ~ 2022/7/26	研究者 学 生	放射性同位体トレーサー、放射能による土壌汚染・水域汚染、土壌侵食
	マンチェスター大学	部局間	2019/8/24 ~ 2024/8/23	研究者 学 生	生物科学及び関連分野
	ラフバラ大学	部局間	2019/6/11 ~ 2024/6/10	研究者 学 生	両対応組織に共通するすべての分野
	リバプール大学	部局間	2014/8/6 ~ 2019/8/5	研究者 学 生	河川流域内の土砂生産及び土砂移動プロセス、放射性同位体トレーサー、放射能による土壌汚染・水域汚染、土壌侵食
クロアチア	ユライ・ドブリラ大学ブーラ	部局間	2018/7/1 ~ 2023/6/30	研究者 学 生	日本語教育、言語学、文学、辞書学
スイス	国際スポーツ科学アカデミー	部局間	2017/7/18 ~ 2020/7/17	研究者	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学
スウェーデン	スウェーデン王立美術大学	部局間	2017/4/1 ~ 2022/3/31	研究者 学 生	芸術及び関連分野
	ルンド大学	部局間	2016/1/8 ~ 2021/1/7	研究者 学 生	健康科学に関する全ての領域
スペイン	サラマンカ大学	全学	2018/2/5 ~ 2023/2/4	研究者 学 生	全領域（特に、人文社会科学及び芸術学・世界遺産学）

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	バルセロナ大学	部局間	2016/2/1 ~ 2021/1/31	研究者 学 生	芸術及び関連分野
	マドリード・コンプルテンセ大学	全学	2014/1/1 ~ 2018/12/31	研究者 学 生	両大学に共通するすべての分野
スロベニア	リュブリャーナ大学	全学	2017/11/4 ~ 2022/11/3	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域
チェコ	カレル大学	全学	2021/1/8 ~ 2026/1/7	研究者 学 生	両大学に共通するすべての領域（特に社会科学、国際関係学、日本語・日本文化）
ドイツ	アウクスブルク応用科学大学	部局間	2016/2/14 ~ 2021/2/13	研究者 学 生	機械工学及びその周辺分野
	アンハルト応用科学大学	部局間	2019/3/13 ~ 2024/3/12	研究者 学 生	藻類バイオテクノロジー、藻類プロダクト生産
	ケルン大学	全学	2018/10/1 ~ 2023/9/30	研究者 学 生	両大学に共通する全ての分野
	シュトゥットガルト・メディア大学	部局間	2017/11/14 ~ 2022/11/13	研究者 学 生	図書館情報学及び情報学
	デュースブルグエッセン大学	部局間	2019/3/29 ~ 2024/3/28	研究者 学 生	ナノ科学技術分野、及びその関連分野
	デュースブルグエッセン大学	部局間	2020/5/5 ~ 2025/5/4	研究者	先端がん放射線治療（BNCTならびに陽子線治療）の共同研究
	デュッセルドルフ大学	部局間	2016/10/19 ~ 2021/10/18	研究者 学 生	人文社会科学に係る分野
	ドルトムント工科大学	部局間	2016/6/1 ~ 2021/5/31	研究者 学 生	健康、スポーツ科学
	バイロイト大学	全学	2019/8/5 ~ 2024/8/4	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域（特に言語学、文学、ドイツ文学、ドイツ語教授法論、比較文学、スポーツ科学、アフリカ研究）
	ハンブルク大学	全学	2018/10/12 ~ 2023/10/11	研究者 学 生	両大学に共通するすべての分野
	ブランデンブルク工科大学コトブ ス・ゼンフテンベルク校	全学	2018/9/7 ~ 2023/9/6	研究者 学 生	全領域、特に芸術分野、システム情報工学分野
	ベルリン自由大学	全学	2018/3/6 ~ 2023/3/5	研究者 学 生	全領域
	ボーフム大学	全学	2016/8/16 ~ 2021/8/15	研究者 学 生	両大学に共通するすべての分野
	ボーフム大学	CIC	2019/3/19 ~ 2024/3/18	研究者 学 生	交流可能な全分野
	ボン大学	全学	2016/2/14 ~ 2021/2/13	研究者 学 生	全領域
	マルティン・ルター・ハレ・ヴィッ テンベルク大学	全学	2017/3/14 ~ 2022/3/13	研究者 学 生	全学（人文社会科学と数理物質科学をはじめとする学内で交流可能な分野）
	ミュンスター大学	部局間	2020/4/1 ~ 2025/3/31	研究者 学 生	健康、スポーツ科学
	ミュンヘン工科大学	部局間	2018/1/1 ~ 2022/12/31	研究者	量子ビーム（陽電子消滅・中性子ビーム）を用いた物性研究
	ユーリッヒ総合研究機構	部局間	2020/11/1 ~ 2025/10/31	研究者	核融合研究
	ライブチヒ大学	部局間	2020/6/8 ~ 2025/6/7	研究者 学 生	健康・スポーツ科学
	ライブニッツ大学ハノーファー	部局間	2014/10/1 ~ 2019/9/30	研究者 学 生	化学および関連分野
ルートヴィヒ・マクシミリアン大学 ミュンヘン	部局間	2017/8/1 ~ 2020/7/31	学 生	経営学、経済学及び関連分野	
ルートヴィヒ・マクシミリアン大学 ミュンヘン	部局間	2018/4/1 ~ 2023/3/31	研究者 学 生	障害科学、教育学、心理学、その他の関連分野	
ノルウェー	オスロ大学	部局間	2017/4/25 ~ 2022/4/24	研究者 学 生	地球科学及び環境科学
	ノルウェー生命科学大学	部局間	2019/1/8 ~ 2024/1/7	研究者	放射性同位体トレーサー、放射能による土壌汚染・水域汚染、土壌侵食
ハンガリー	エトヴェシュ・ローランド大学	部局間	2018/10/1 ~ 2023/9/30	研究者	健康、スポーツ科学及び関連分野
	セゲド大学	全学	2015/8/25 ~ 2020/8/24	研究者 学 生	医学、ビジネス科学、化学、生物学
	ハンガリー体育大学	部局間	2020/6/17 ~ 2025/6/16	研究者 学 生	体育科学、健康科学、スポーツ科学、スポーツ医学
フィンランド	ヘルシンキ芸術大学 美術アカデ ミー	部局間	2016/5/1 ~ 2021/4/30	研究者 学 生	芸術及び関連分野
フランス	グルノーブル経営大学院	部局間	2017/2/1 ~ 2020/1/31	学 生	経営学、経済学及び関連分野
	グルノーブル大学連合	CIC	2017/11/22 ~ 2022/11/21	研究者 学 生	交流可能な全分野
	ストラートデザイン大学	部局間	2017/10/3 ~ 2022/10/2	研究者 学 生	プロダクトデザイン、情報デザイン、環境デザイン、建築デザイン
	ナント大学	部局間	2019/4/17 ~ 2024/4/16	研究者 学 生	主に藻類バイオマスに関する分野
	パリ・ラ・ヴィレット建築大学	部局間	2017/6/26 ~ 2022/6/25	研究者 学 生	社会工学、国際関係学及び国際開発学、北アフリカ学
	パリ-サクレ大学	全学	2018/2/14 ~ 2023/2/13	研究者 学 生	全領域（特に、芸術、理学・工学、生命環境）
	パリ第13大学	部局間	2016/9/13 ~ 2020/9/12	研究者 学 生	生物学関連分野

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	パリ第八大学	全学	2020/10/1 ~ 2025/9/30	研究者 学 生	両大学に共通する関心領域（特に、人文学全般、社会科学、言語科学、教育、芸術分野）
	フランシュ=コンテ大学	全学	2015/11/1 ~ 2020/10/31	研究者 学 生	両機関に共通するすべての領域（主に人文、社会科学、体育科学、体育教育）
	フランス放射線防護原子力安全研究所	全学	2018/4/25 ~ 2023/4/24	研究者	両機関に共通するすべての領域（特に放射線生態学、環境保全）
	ベルフォル・モンペリエール工科大学	部局間	2019/9/6 ~ 2024/9/5	研究者 学 生	システム情報工学及び関連分野
	ポール・ヴァレリー モンペリエ第3大学	全学	2017/9/1 ~ 2022/8/31	研究者 学 生	全学（特に社会工学、国際関係学及び国際開発学、北アフリカ学）
	ポリテクニック・オー＝ド＝フランス大学	部局間	2016/2/10 ~ 2021/2/9	研究者 学 生	人間機械共生系、システム工学、情報工学、制御工学及び関連分野
	ボルドー・モンテーニュ大学	全学	2016/10/6 ~ 2021/10/5	研究者 学 生	言語研究・芸術・メディア・コミュニケーションを中心とした人文学全般、芸術・デザインに関する研究、感性認知脳科学に関する研究、地中海・アフリカ研究
	ボルドーサイエンスアグリ	全学	2018/3/12 ~ 2023/3/11	研究者 学 生	全領域（特に、生命環境科学、食料健康科学）
	ボルドー政治学院	部局間	2019/2/1 ~ 2024/1/31	研究者 学 生	社会科学、人文学、その他の関連分野
	ボルドー大学	全学	2016/12/26 ~ 2020/9/29	研究者 学 生	交流可能な全分野
	ボルドー大学	CIC	2015/9/30 ~ 2020/9/29	研究者 学 生	Cic協定における全領域
	モンペリエ大学	全学	2016/10/1 ~ 2021/9/30	研究者 学 生	全学（特に生命環境科学、システム情報系、人文社会科学及び医学）
	国立工業工芸大学（パリ工科大学）	部局間	2014/12/16 ~ 2019/12/15	研究者 学 生	感性情報学、感性デザイン学、プロダクトデザイン、情報デザイン、環境デザイン、建築デザインを中心とした全ての教育プログラム
ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学	全学	2018/4/30 ~ 2023/4/29	研究者 学 生	全学（主に数理物質科学研究科）
ポーランド	ピアウイストック大学	部局間	2016/2/16 ~ 2021/2/15	研究者 学 生	社会科学及び関連分野
	ヤギェウォ大学	全学	2017/9/2 ~ 2022/9/1	研究者 学 生	両大学に共通するすべての領域（特に人文社会科学、数理物質科学）
	ワルシャワ大学	全学	2018/1/10 ~ 2023/1/9	研究者 学 生	両大学に共通するすべての領域（特に人文社会科学、数理物質科学）
ラトビア	ラトビア大学	全学	2016/1/24 ~ 2021/1/23	研究者 学 生	全学（人文社会科学（地域研究・歴史研究など）、人間総合科学など）
リトアニア	ヴィリニウス大学	全学	2016/12/19 ~ 2021/12/18	研究者 学 生	人文社会科学（言語・地域研究・歴史研究など）、情報学および関連分野を中心に相互協力により交流範囲を広げる努力を行う
ルーマニア	ティミショアラ西大学	部局間	2015/9/23 ~ 2020/9/22	研究者 学 生	コンピュータサイエンス、情報通信技術（ICT）およびその関連分野
ロシア	カザン連邦大学	全学	2015/2/16 ~ 2020/2/15	研究者 学 生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野。交換学生としての本学学生の語学留学（ロシア語、英語）の推進。
	サンクト・ペテルブルグ大学	全学	2017/3/27 ~ 2022/3/26	研究者 学 生	全学（人文社会科学、人間総合科学などの関連分野）
	ノヴォシビルスク国立医科大学	全学	2015/2/16 ~ 2020/2/15	研究者 学 生	H26年度に採択された「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム（全学群対象、責任対応組織：人文社会系）」（大学の世界展開力強化事業）における医療実務研修および関連の学生交流活動。医学医療系を中心とした学問分野。
	ノヴォシビルスク国立大学	全学	2015/9/18 ~ 2020/9/17	研究者 学 生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
	ピロゴフ記念ロシア国立研究医科大学	全学	2015/2/16 ~ 2020/2/15	研究者 学 生	H26年度に採択された「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム（全学群対象、責任対応組織：人文社会系）」（大学の世界展開力強化事業）における医療実務研修および関連の学生交流活動。医学医療系を中心とした学問分野。
	ブドカー原子物理学研究所	部局間	2013/2/16 ~ 2018/2/15	研究者	核融合研究
	モスクワ国立大学	部局間	2014/10/7 ~ 2019/10/6	研究者 学 生	高分子化学、コロイド科学、生物資源、土壌環境及び関連分野
	モスクワ国立大学	全学	2015/3/3 ~ 2020/3/2	研究者 学 生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野。交換学生としての本学学生の語学留学（ロシア語、英語）の推進
	モスクワ市立大学	全学	2019/5/22 ~ 2024/5/21	研究者 学 生	両大学の全ての領域
	ロシア国立人文大学	部局間	2018/3/14 ~ 2023/3/13	研究者 学 生	アーカイブズ学及び情報学などの関連分野
	ロシア国立体育・スポーツ・青年・観光大学	部局間	2015/12/1 ~ 2020/11/30	研究者 学 生	体育・スポーツ科学及び関連分野
極東連邦大学	全学	2015/6/17 ~ 2020/6/16	研究者 学 生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした関連分野	

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
	太平洋国立医科大学	全学	2015/2/16 ~ 2020/2/15	研究者 学 生	H26年度に採択された「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム(全学群対象、責任対応組織:人文社会系)」(大学の世界展開力強化事業)における医療実務研修および関連の学生交流活動。医学医療系を中心とした学問分野。
アゼルバイジャン	ADA大学	全学	2016/4/15 ~ 2021/4/14	研究者 学 生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野
	アゼルバイジャン言語大学	部局間	2021/3/14 ~ 2026/3/13	研究者 学 生	人文科学及び社会科学など幅広い分野
アルメニア	ロシア・アルメニア・スラヴ大学	全学	2016/5/2 ~ 2021/5/1	研究者 学 生	全学(人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野)
ウクライナ	ウクライナ国立生命環境科学大学	部局間	2017/11/6 ~ 2022/11/5	研究者	両機関に共通するすべての領域(特に環境放射能、水文学、放射生態学)
	キエフ国立大学	部局間	2016/9/11 ~ 2021/9/10	研究者 学 生	人文社会科学(地域研究・日本研究など)及び関連分野
ウズベキスタン	ウズベキスタン共和国国家地質鉱物資源委員会付属国家地質博物館	部局間	2020/3/10 ~ 2025/3/9	研究者 学 生	地球科学分野
	ウズベキスタン国立世界言語大学	部局間	2015/10/25 ~ 2020/10/24	研究者 学 生	日本語教育、日本語学、教育学を中心とした学問分野
	ウズベキスタン国立世界言語大学	部局間	2019/7/8 ~ 2024/7/7	研究者	日本語教育学、ロシア語学、翻訳・通訳学を中心とした言語教育分野
	サマルカンド国立外国語大学	部局間	2016/9/30 ~ 2021/9/29	研究者 学 生	人文社会科学及び人間総合科学
	タシケント国立東洋学大学	全学	2015/5/27 ~ 2020/5/26	研究者 学 生	人文科学及び関連分野
	世界経済外交大学	部局間	2016/10/29 ~ 2021/10/28	研究者 学 生	人文社会科学
カザフスタン	アバイ・カザフ国立教育大学	全学	2020/8/28 ~ 2025/8/27	研究者 学 生	人間総合科学、人文社会科学を中心とした幅広い学問分野
	アルファラビ・カザフ国立大学	全学	2017/1/23 ~ 2022/1/22	研究者 学 生	全領域(主として人文社会科学・数理物質科学および関連分野)
	アルファラビ・カザフ国立大学	CIC	2019/9/19 ~ 2024/9/18	研究者 学 生	交流可能な全分野(人文社会科学分野に加えて数理物質科学および生命環境科学関連分野)
	カザフ国際関係外国語大学	全学	2018/8/25 ~ 2023/8/24	研究者 学 生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
	ナザルバエフ大学	全学	2016/5/19 ~ 2021/5/18	研究者 学 生	全学(人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野)
	ナルホーズ大学	部局間	2017/8/31 ~ 2022/8/30	研究者 学 生	人文社会科学
	ユーラシア国立大学	全学	2018/6/3 ~ 2023/6/2	研究者 学 生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
	国立腫瘍移植科学センター	部局間	2015/2/1 ~ 2020/1/31	研究者	両機関に関する医学領域
キルギス	カラサエフ記念ビシュケク人文大学	全学	2018/8/26 ~ 2023/8/25	研究者 学 生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
	キルギス国立大学	部局間	2015/5/27 ~ 2020/5/26	研究者 学 生	人文科学及び社会科学
	ジュスブ・バラサグン記念キルギス国立総合大学	全学	2018/10/9 ~ 2023/10/8	研究者 学 生	人文社会科学、人間総合科学を中心とした幅広い学問分野
ジョージア	トビリシ自由大学	全学	2016/4/14 ~ 2021/4/13	研究者 学 生	全学(人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野)
タジキスタン	タジク国立言語大学	部局間	2015/10/24 ~ 2020/10/23	研究者 学 生	人文社会科学及び関連分野
	ロシア・タジク・スラヴ大学	全学	2019/9/1 ~ 2024/8/31	研究者 学 生	両大学に共通するすべての領域(主として、人文社会科学、人間総合科学等の分野)
トルクメニスタン	トルクメニスタン国立アザディ世界言語大学	全学	2018/9/12 ~ 2023/9/11	研究者 学 生	人文科学及び社会科学及びその他の関連分野
ベラルーシ	ビテプスク国立医科大学	部局間	2018/11/1 ~ 2023/10/31	研究者 学 生	医学教育・研究、および関連分野
	ベラルーシ国立医科大学	全学	2015/2/16 ~ 2020/2/15	研究者 学 生	H26年度に採択された「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム(全学群対象、責任対応組織:人文社会系)」(大学の世界展開力強化事業)における医療実務研修および関連の学生交流活動。医学医療系を中心とした学問分野。
	ベラルーシ国立大学	全学	2017/2/21 ~ 2022/2/20	研究者 学 生	全学(主として人文社会科学、生命環境科学)
モルドバ	モルドバ国立大学	全学	2016/4/12 ~ 2021/4/11	研究者 学 生	全学(人文社会科学、人間総合科学を中心とした学問分野)
アルジェリア	アルジェリア民主人民共和国高等教育・科学技術研究省	全学	2011/4/7 ~ 2016/4/6	研究者 学 生	両機関が興味関心を共有するすべての領域(包括協定)
	オラン科学技術大学モハマド・ブーディアフ	全学	2012/11/5 ~ 2017/11/4	研究者 学 生	両大学に共通する全ての領域(主に生命環境科学、物質工学、土木工学)
	ホウアリ・ブーメディエン科学技術大学	全学	2015/3/2 ~ 2020/3/1	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域(主に生命環境科学、都市工学、情報工学)
エジプト	アインシャムス大学	部局間	2018/2/9 ~ 2023/2/8	研究者 学 生	日本語・日本文化研究、アラビア語・アラビア文化研究、アラブ・イスラーム研究、中東地域研究、国際関係論
	エジプト日本科学技術大学(E-JUST)	全学	2018/1/22 ~ 2023/1/21	研究者 学 生	両大学に共通するすべての分野
	カイロ大学	全学	2013/6/26 ~ 2018/6/25	研究者 学 生	生命環境科学、人文科学、ビジネス科学、情報通信科学、等

国名・地域名	協定締結先機関名	全学協定 部局間協定	協定期間	交流対象	交流分野
ケニア	ケニヤッタ大学	部局間	2020/5/21 ~ 2025/5/20	研究者 学 生	両対応組織に共通するすべての分野 体育学、スポーツ科学、スポーツマネージメント (特にスポーツと観光)、スポーツ人類学・社会学、 野外運動とスポーツ、スポーツ医学、インテグ ラティブ体育・スポーツ分野
チュニジア	カルタゴ大学	全学	2011/3/17 ~ 2016/3/16	研究者 学 生	バイオテクノロジー、環境科学、情報通信工学、 人文社会科学
	スース大学	全学	2011/3/17 ~ 2016/3/16	研究者 学 生	人文科学、社会科学、生命環境科学、医学、情報 工学を含む、北アフリカ関連の諸問題に関する全 学的な学術領域
	スファックス・バイオテクノロジー・センター	部局間	2011/10/30 ~ 2016/10/29	研究者	バイオテクノロジー、環境科学及び関連分野
	スファックス大学	全学	2011/10/26 ~ 2016/10/25	研究者 学 生	バイオテクノロジー、環境科学、医学及び関連分 野
	チュニス・エル=マナール大学	全学	2018/7/2 ~ 2023/7/1	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域（主に、語学を含む 人文社会科学、医療科学）
ナイジェリア	ナイジェリア大学	部局間	2017/10/17 ~ 2022/10/16	研究者 学 生	微生物科学、生化学、植物科学、動物科学、農 学、環境科学及び関連分野
マラウイ	マラウイ大学	全学	2020/11/18 ~ 2025/11/17	研究者 学 生	全領域
モーリタニア	高等技術学院	部局間	2012/10/15 ~ 2017/10/14	研究者 学 生	生命環境科学
モロッコ	アル・アハワイン大学	全学	2014/8/1 ~ 2019/7/31	研究者 学 生	両大学共通する全ての領域
	カディ・アヤド大学	全学	2015/3/2 ~ 2020/3/1	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域（主に生命環境科 学、人文社会科学、情報工学）
	シディー・モハメド・ベン・アブ ダッラー大学	全学	2011/3/17 ~ 2016/3/16	研究者 学 生	両大学共通する全ての領域（主に生命環境科学、 人文社会科学、情報工学）
	ハッサンII世農獣医大学	部局間	2011/5/17 ~ 2016/5/16	研究者 学 生	生物資源科学、農業土木工学及び関連分野
	モハメッド5世大学	全学	2017/2/16 ~ 2022/2/15	研究者 学 生	全学（生命科学、環境科学、人文科学、社会科 学、情報通信科学）
	モロッコ王国高等教育・科学研究・ 幹部養成省	全学	2012/9/10 ~ 2017/9/9	研究者	両機関が興味関心を共有するすべての領域
リビア	セブハ大学	全学	2015/5/13 ~ 2020/5/12	研究者 学 生	両機関に共通する全ての領域
ルワンダ	ルワンダ国立オリンピック・スポー ツ委員会	部局間	2020/12/15 ~ 2023/12/14	研究者 学 生	スポーツ教育、体育科学、健康科学、スポーツ科 学、スポーツ医学、スポーツ経営、オリンピック 教育
南アフリカ	ヨハネスブルク大学	部局間	2019/8/12 ~ 2022/8/11	研究者 学 生	健康、スポーツ科学
国際連合	国際連合食糧農業機関	部局間	2017/11/7 ~ 2020/11/6	学 生	生命環境科学分野、食料農学分野
	国際連合食糧農業機関	全学	2020/2/6 ~ 2025/2/6	研究者	全領域（特に生命環境科学分野、食料農学分野）

(4) グローバル化に向けた教育研究
 ア Campus-in-Campus(CiC)協定校一覧

令和3年5月1日

番号	協定校名	協定校(和名)	国・地域名	締結年度	備考
1	University of Bordeaux	ボルドー大学	フランス	2015	
2	National Taiwan University	国立台湾大学	台湾	2015	
3	University of Sao Paulo	カリフォルニア大学アーバイン校	米国	2016	Research Partner
4	Universiti Teknologi Malaysia	サンパウロ大学	ブラジル	2016	
5	University of California, Irvine	マレーシア工科大学	マレーシア	2016	
6	Utrecht University	ユトレヒト大学	オランダ	2017	Research Partner
7	Communauté Université Grenoble Alpes	グルノーブル・アルプ大学	フランス	2017	
8	Ohio State University	オハイオ州立大学	米国	2018	
9	Ruhr University Bochum	ボーフム大学	ドイツ	2018	
10	Al-Farabi Kazakh National University	アルファラビ・カザフ国立大学	カザフスタン	2019	

※ Research Partner・・・CiCとしての交換留学を対象としない研究パートナー

イ 海外教育研究ユニット招致 招致・配分状況 <令和2年度>

(ア) 総括表

(単位：千円)

系	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	配分金額 (運営費)
人文社会系	1	0	0	0	0	1	0	2,000
数理物質系	0	2	0	1	0	0	2	22,250
下田臨海実験センター (生命環境系)	0	1	0	0	0	0	1	5,700
人間系	0	0	0	1	0	0	0	10,000
体育系	0	0	1	0	0	0	0	9,700
医学医療系	1	0	0	0	0	1	0	8,000
合計	2	3	1	2	0	2	3	57,650

(イ) 受入責任者等

(単位：千円)

受入責任者			PI			運営費 配分額	備考
所属	職名	氏名	所属機関	職名	氏名		
人文社会系	教授	吉水 千鶴子	Department of Indian and Tibetan Studies, Aisa-Asica Institute, University of Hamburg	教授	Harunaga Isaacson Dorji Wangchu Michael Zimmerman	2,000	平成26年度招致 研究重点型 (期間：H26～H30) (継続：R1～R2)
医学医療系	教授	加藤 光保	Leiden University Medical Center	教授	Peter ten Dijke	8,000	平成26年度招致 研究重点型 (期間：H26～H30) (継続：R1～R2)
数理物質系	教授	西堀 英治	オーフス大学 (デンマーク) 融合材料研究センター	教授・センター長 Senior Researcher	Bo Brummerstedt Iversen OVERGAARD, Jacob	2,250	平成27年度招致 研究重点型 (期間：H27～R1) (継続：R2～R4)
下田臨海実験センター (生命環境系)	教授	稲葉 一男	プリマス大学 (英国) 海洋科学工学部	教授	Jason Hall-Spencer	5,700	平成27年度招致 研究重点型 (期間：H27～R1) (継続：R2～R4)
人間系	教授	小川 園子	Emory University, Atlanta, USA	William P. Timmie Professor	Larry J. Young, Ph.D.	10,000	平成29年度招致 研究重点型 (期間：H29～R3)
数理物質系	教授	黒田 眞司	Université Grenoble Alpes	教授 教授 准教授	GHEERAERT ETIENNE MARIETTE HENRI BONVALOT Marceline	10,000	平成27年度招致 教育重点型 (期間：H27～R1) (継続：R2～R4)
体育系	教授	征矢 英昭	University of California, Irvine	准教授	Yassa, Michael A	9,700	平成28年度招致 C1C型 (期間：H28～R2)
数理物質系	講師	中條 達也	Institute for Subatomic Physics, Utrecht University	Full Professor and Institute Director Assistance Professor(UD)	Peitzmann, Thomas Van Leeuwen, Marco V.	10,000	平成29年度招致 C1C型 (期間：H29～R3)

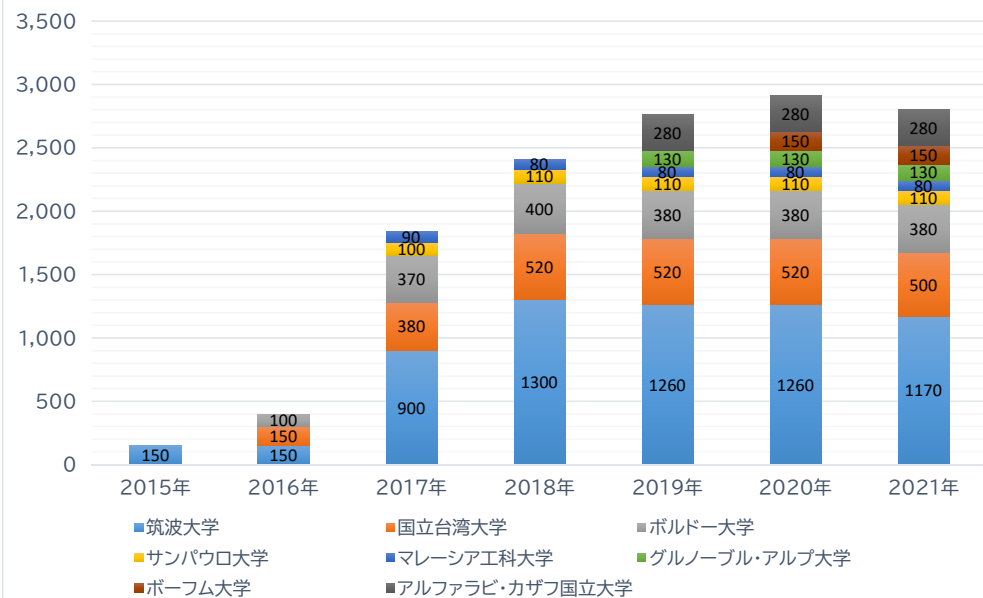
ウ 科目ジュークボックス科目数

科目ジュークボックス登録科目数（概数）の変遷

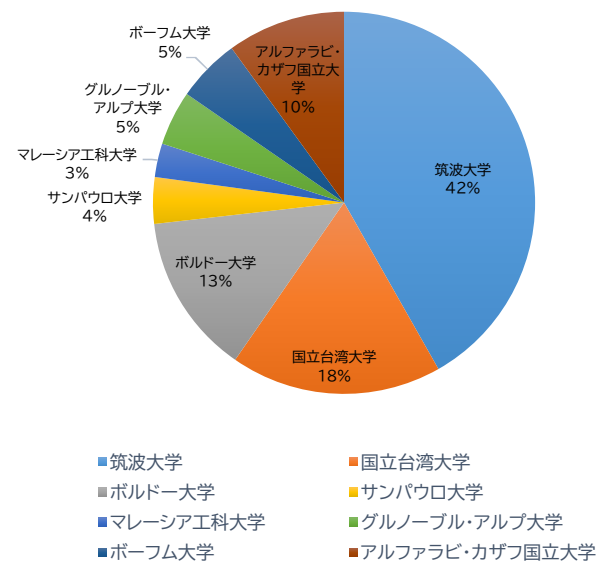
各年5月1日時点

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
筑波大学	150	150	900	1,300	1,260	1,260	1,170
国立台湾大学		150	380	520	520	520	500
ボルドー大学			100	370	400	380	380
サンパウロ大学				100	110	110	110
マレーシア工科大学				90	80	80	80
グルノーブル・アルプ大学					130	130	130
ポーフォーム大学						150	150
アルファラビ・カザフ国立大学					280	280	280
合計	150	400	1,840	2,410	2,760	2,910	2,800

科目ジュークボックス登録科目数(概数)の変遷



2021年



エ 海外大学とのデュアル・ディグリー/ジョイント・ディグリー プログラム等一覧

【海外の大学とのダブル・ディグリー・プログラム】

(協定単位/開始年度順)

No	主専攻	副専攻	形態	開始年度※
1	人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群 人文学学位プログラム・国際公共政策学位プログラム ・国際日本研究学位プログラム〔博士前期課程〕	ボン大学 高麗大学	修士－修士	R2 (H25)
2	理工情報生命学術院 数理物質科学研究群 工学系の学位プログラム〔博士前期課程〕	グルノーブル・アルプス大学	修士－修士	R2 (H29)
3	理工情報生命学術院 数理物質科学研究群 各学位プログラム〔博士後期課程〕	グルノーブル・アルプス大学	博士－博士	R2 (H27)
4	理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 生物資源科学学位プログラム〔博士前期課程〕	ボルドー大学	修士－修士	R2 (H27)
5	理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 生物資源科学学位プログラム〔博士前期課程〕	国立台湾大学	修士－修士	R2 (H27)
6	理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 生物資源科学学位プログラム〔博士前期課程〕	ユタ州立大学	修士－修士	R2 (H28)
7	理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム〔博士後期課程〕	中国地質大学	博士－博士	R2 (H27)
8	理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 農学学位プログラム〔博士後期課程〕	国立台湾大学	博士－博士	R2 (H29)
9	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 教育学学位プログラム〔博士前期課程〕	東北師範大学	修士－修士	R2 (H29)
10	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 フロンティア医科学学位プログラム〔修士課程〕	ベトナム国家大学ホーチミン校	修士－修士	R2 (H21)
11	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 公衆衛生学学位プログラム〔修士課程〕	ベトナム国家大学ホーチミン校	修士－修士	R2 (H21)
12	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 フロンティア医科学学位プログラム〔修士課程〕	ホーチミン市医科薬科大学	修士－修士	R2 (H21)
13	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 公衆衛生学学位プログラム〔修士課程〕	ホーチミン市医科薬科大学	修士－修士	R2 (H21)
14	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 フロンティア医科学学位プログラム〔修士課程〕	国立台湾大学	修士－修士	R2 (H23)
15	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 公衆衛生学学位プログラム〔修士課程〕	国立台湾大学	修士－修士	R2 (H23)
16	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 医学学位プログラム〔医学の課程〕	ベトナム国家大学ホーチミン校	医学－博士	R2 (H23)
17	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 医学学位プログラム〔医学の課程〕	ホーチミン市医科薬科大学	医学－博士	R2 (H23)
18	人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 医学学位プログラム〔医学の課程〕	国立台湾大学	医学－博士	R2 (H23)
19	理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 生物学学位プログラム〔博士前期課程〕	国立台湾大学	修士－修士	R2

【海外の大学とのジョイント・ディグリー・プログラム（国際連携専攻）】

(協定単位/開始年度順)

No	専攻名	連携大学	学位	開始年度※
1	理工情報生命学術院 国際連携持続環境科学専攻〔博士前期課程〕	マレーシア工科大学マレーシア日本国際工科院	修士	R2 (H29)
2	人間総合科学学術院 国際連携食料健康科学専攻〔修士課程〕	国立台湾大学 ボルドー大学	修士	R2 (H29)

※令和2年度大学院改組以前より継続しているプログラムについては括弧書きで旧組織における開始年度を記載。

オ 英語のみで卒業・修了できるプログラム一覧

令和3年5月1日

【学部】				
No.	学群	学類・専攻	プログラム名	学位
1	社会・国際学群 School of Social and International Studies	社会学類 College of Social Sciences	社会国際学教育プログラム Undergraduate Program of International Social Studies	学士 (国際社会科学) Bachelor of Arts in International Social Studies
2		国際総合学類 College of International Studies		
3	生命環境学群 School of Life and Environmental Sciences	生物学類 College of Biological Sciences	生命環境学際プログラム Interdisciplinary Program of Life and Environmental Sciences	学士 (理学) Bachelor of Science
4		生物資源学類 College of Agro-Biological Resource Sciences		学士 (生物資源学) Bachelor of Bioscience
5		地球学類 College of Geoscience		学士 (理学) Bachelor of Science
6	医学群 School of Medicine and Medical Sciences	医療科学類 School of Medical Sciences	国際医療科学人養成プログラム Undergraduate-Education Program for Medical Science	学士 (国際医療科学) Bachelor of International Medical Sciences
7	グローバル教育院 School of Integrative and Global Majors	地球環境課題学類プログラム Bachelor's Program in Global Issues	地球環境課題学類プログラム Bachelor's Program in Global Issues	学士 (学術) Bachelor of Arts and Science
8	理工学群 School of Science and Engineering	応用理工学類 College of Engineering Sciences	総合理工学学位プログラム (学士) Bachelor's Program in Interdisciplinary Engineering	学士 (工学) Bachelor of Engineering
9		工学システム学類 College of Engineering Systems		

【大学院】				
No.	学術院	研究群	プログラム名	学位
1			国際公共政策学学位プログラム International Public Policy	修士 (国際公共政策) Master of Arts in International Public Policy
2	人文社会ビジネス科学学術院 Graduate School of Business Sciences,	人文社会科学研究群 Degree Programs in Humanities and Social Sciences	国際公共政策学学位プログラム International Public Policy	博士 (国際公共政策) Doctor of Philosophy in International Public Policy
3	Humanities and Social Sciences		国際日本研究学学位プログラム International and Advanced Japanese Studies	修士 (国際日本研究) Master of Arts in International and Advanced Japanese Studies
4				博士 (国際日本研究) Doctor of Philosophy in International and Advanced Japanese Studies
5		(専門職学位課程) (Professional Degree Programs)	国際経営プロフェッショナル専攻 MBA Program in International Business	国際経営修士 (専門職) Master of International Business Administration
6			数学学位プログラム Mathematics	博士 (理学) Doctor of Philosophy in Science
7			物理学学位プログラム Physics	修士 (理学) Master of Science
8				博士 (理学) Doctor of Philosophy in Science
9			化学学位プログラム Chemistry	修士 (理学) Master of Science
10		数理物質科学研究群 Degree Programs in Pure and Applied Sciences		博士 (理学) Doctor of Philosophy in Science
11			応用理工学学位プログラム Engineering Sciences	修士 (工学) Master of Engineering
12				博士 (工学) Doctor of Philosophy in Engineering
13			国際マテリアルズイノベーション学学位プログラム Materials Innovation	修士 (工学) Master of Engineering
14				博士 (工学) Doctor of Philosophy in Engineering
15			社会工学学位プログラム Policy and Planning Sciences	博士 (社会工学) Doctor of Philosophy in Policy and Planning Sciences
16			リスク・レジリエンス工学学位プログラム Risk and Resilience Engineering	博士 (工学) Doctor of Philosophy in Engineering
17			情報理工学学位プログラム Computer Science	修士 (工学) Master of Engineering
18				博士 (工学) Doctor of Philosophy in Engineering
19		システム情報工学研究群 Degree Programs in Systems and Information Engineering	知能機能システム学学位プログラム Intelligent and Mechanical Interaction Systems	博士 (工学) Doctor of Philosophy in Engineering
20			構造エネルギー工学学位プログラム Engineering Mechanics and Energy	修士 (工学) Master of Engineering
21				博士 (工学) Doctor of Philosophy in Engineering
22			エンバウメント情報学プログラム Empowerment Informatics	修士 (人間情報学) Doctor of Philosophy in Human Informatics
23	理工情報生命学術院 Graduate School of Science and Technology		ライフイノベーション (生物情報) 学学位プログラム Life Science Innovation: Bioinformatics	修士 (生物情報学) Master of Bioinformatics
24				博士 (生物情報学) Doctor of Philosophy in Bioinformatics
25			生物学学位プログラム Biology	修士 (理学) Master of Science
26				博士 (理学) Doctor of Philosophy in Science
27			生物資源科学学位プログラム Agro-Biosources, Science and Technology	修士 (農学) Master of Agricultural Science
28			農学学位プログラム Agricultural Sciences	博士 (農学) Doctor of Philosophy in Agricultural Science
29			生命農学学位プログラム Life and Agricultural Sciences	博士 (生命農学) Doctor of Philosophy in Life and Agricultural Sciences
30			生命産業科学学位プログラム Bioindustrial Sciences	博士 (生物工学) Doctor of Philosophy in Biotechnology
31			地球科学学位プログラム Geosciences	博士 (理学) Doctor of Philosophy in Science
32		生命地球科学研究群 Degree Programs in Life and Earth Sciences	環境科学学位プログラム Environmental Sciences	修士 (環境科学) Master of Environmental Sciences
33			環境学学位プログラム Environmental Studies	博士 (環境学) Doctor of Philosophy in Environmental Studies
34			ライフイノベーション (食料革新) 学学位プログラム Life Science Innovation: Food Innovation	修士 (食料革新学) Master of Food Innovation
35				博士 (食料革新学) Doctor of Philosophy in Food Innovation
36			ライフイノベーション (環境制御) 学学位プログラム Life Science Innovation: Environmental Management	修士 (環境制御学) Master of Environmental Management
37				博士 (環境制御学) Doctor of Philosophy in Environmental Management
38			ライフイノベーション (生体分子材料) 学学位プログラム Life Science Innovation: Biomolecular Engineering	修士 (生物工学) Master of Bioengineering
39				博士 (生物工学) Doctor of Philosophy in Bioengineering
40		<外国の大学との国際連携教育課程> (International Joint Degree Programs)	国際連携持続環境科学専攻 Joint Master's Degree Program in Sustainability and Environmental Sciences	修士 (持続環境科学) Master of Sustainability and Environmental Sciences
41			教育学学位プログラム Education	修士 (教育学) Master of Education
42			医学学位プログラム Medical Sciences	博士 (医学) Doctor of Philosophy in Medical Sciences
43			フロンティア医科学学位プログラム Medical Sciences	修士 (医科学) Master of Science in Medical Sciences
44			公衆衛生学学位プログラム Public Health	修士 (公衆衛生学) Master of Public Health
45			スポーツ・オリンピック学学位プログラム Sport and Olympic Studies	修士 (スポーツ・オリンピック学) Master of Arts in Sport and Olympic Studies
46			デザイン学学位プログラム Design	修士 (デザイン学) Master of Design
47				博士 (デザイン学) Doctor of Philosophy in Design
48	人間総合科学学術院 Graduate School of Comprehensive Human Sciences	人間総合科学研究群 Degree Programs in Comprehensive Human Sciences	情報学学位プログラム Informatics	修士 (情報学) Master of Science in Informatics
49				博士 (情報学) Doctor of Philosophy in Informatics
50			ヒューマンバイオロジー学学位プログラム Human Biology	博士 (人間生物学) Doctor of Philosophy in Human Biology
51			ライフイノベーション (病態機構) 学学位プログラム Life Science Innovation: Disease Mechanism	修士 (病態機構学) Master of Disease Mechanism
52				博士 (病態機構学) Doctor of Philosophy in Disease Mechanism
53			ライフイノベーション (創薬開発) 学学位プログラム Life Science Innovation: Drug Discovery	修士 (医科学) Master of Medical Sciences
54				博士 (医科学) Doctor of Philosophy in Medical Science
55		<他大学との共同教育課程> (Domestic Joint Degree Programs)	スポーツ国際開発学共同専攻 Joint Master's Program in International Development and Peace through Sport	修士 (スポーツ国際開発学) Master of Arts in International Development and Peace through Sport
56		<外国の大学との国際連携教育課程> (International Joint Degree Programs)	国際連携食料健康科学専攻 International Joint Degree Master's Program in Agro-Biomedical Science in Food and Health	修士 (食料健康科学) Master of Agro-Biomedical Science in Food and Health
57	グローバル教育院 School of Integrative and Global Majors (SIGMA)		ヒューマンクス学学位プログラム Ph.D. Program in Humanities	博士 (医学), 博士 (理学), 博士 (工学) Doctor of Philosophy in Medical Sciences, Doctor of Philosophy in Science, Doctor of Philosophy in Engineering

(5) 国別交流者数

ア 研究者等の受入、教職員の派遣

国・地域名		研究者等の受入	教職員の派遣	計
アジア	インド	32	0	32
	インドネシア	10	0	10
	カンボジア	0	0	0
	シンガポール	3	0	3
	スリランカ	1	1	2
	タイ	4	1	5
	ネパール	6	0	6
	パキスタン	3	0	3
	バングラデシュ	12	0	12
	フィリピン	6	0	6
	ブルネイ	0	0	0
	ベトナム	14	1	15
	マレーシア	5	0	5
	ミャンマー	1	0	1
	モルディブ	0	0	0
	モンゴル	1	0	1
	ラオス	0	0	0
	韓国	59	0	59
	香港	0	0	0
	台湾	22	3	25
中国	86	0	86	
東ティモール	0	0	0	
中東	アフガニスタン	0	0	0
	アラブ首長国連邦	0	0	0
	イエメン	1	0	1
	イスラエル	1	0	1
	イラク	1	0	1
	イラン	4	0	4
	オマーン	0	0	0
	カタール	0	1	1
	キプロス	1	0	1
	クウェート	0	0	0
	サウジアラビア	0	0	0
	シリア	2	0	2
	トルコ	1	0	1
	バーレーン	0	0	0
	ヨルダン	0	0	0
	レバノン	0	0	0
	C I S	アゼルバイジャン	0	0
アルメニア		0	0	0
ウクライナ		2	0	2
ウズベキスタン		5	1	6
カザフスタン		3	0	3
キルギス		1	0	1
ジョージア		0	0	0
タジキスタン		1	0	1
トルクメニスタン		0	2	2
ベラルーシ		1	0	1
モルドバ		0	0	0
ロシア		5	0	5
ヨーロッパ		アイスランド	1	0
	アイルランド	2	0	2
	アルバニア	0	0	0
	イタリア	3	1	4
	エストニア	0	0	0
	オーストリア	5	0	5
	オランダ	11	0	11
	ギリシャ	5	0	5
	クロアチア	0	0	0
	スイス	1	2	3
	スウェーデン	1	0	1
	スペイン	4	0	4
	スロバキア	1	0	1
	スロベニア	0	0	0
	セルビア	1	0	1
	チェコ	0	0	0
	デンマーク	1	0	1
	ドイツ	25	2	27
	フルウェー	1	0	1
	ハンガリー	3	0	3
	フィンランド	0	0	0
	フランス	21	1	22
	ブルガリア	0	0	0
	ベルギー	1	0	1
	ポーランド	5	0	5
	ポスニア・ヘルツェゴビナ	0	0	0
	ポルトガル	1	0	1
	マルタ	0	0	0
	モナコ	0	0	0
	モンテネグロ	0	0	0
	ラトビア	0	0	0
	リトアニア	0	0	0
ルーマニア	3	0	3	
ルクセンブルク	1	0	1	
英国	23	2	25	

国・地域名		研究者等の受入	教職員の派遣	計
北米	カナダ	11	0	11
	米国	53	4	57
オセアニア	オーストラリア	10	0	10
	サモア	0	0	0
	ソロモン諸島	0	0	0
	ニューカレドニア	0	0	0
	ニュージーランド	1	0	1
	パヌアツ	0	0	0
	バブアニューギニア	0	0	0
	パラオ	0	0	0
	フィジー	0	0	0
	マーシャル諸島	0	0	0
ミクロネシア	0	0	0	
中南米	アルゼンチン	1	0	1
	アンティグア・バーブーダ	0	0	0
	イエメン	1	0	1
	イスラエル	1	0	1
	ウルグアイ	0	0	0
	ガイアナ	0	0	0
	キューバ	1	0	1
	グアテマラ	0	0	0
	コスタリカ	0	0	0
	コロンビア	2	0	2
	ジャマイカ	0	0	0
	チリ	2	0	2
	ドミニカ	0	0	0
	ニカラグア	1	0	1
	ハイチ	0	0	0
	パナマ	0	0	0
	パラグアイ	0	0	0
	ブラジル	8	0	8
	ベネズエラ	3	0	3
	ペルー	2	0	2
ボリビア	0	0	0	
メキシコ	2	0	2	
アフリカ	アルジェリア	0	0	0
	ウガンダ	0	0	0
	エジプト	7	0	7
	エチオピア	1	0	1
	エリトリア	0	0	0
	ガーナ	0	0	0
	ガボン	0	0	0
	カメルーン	1	0	1
	ギニア	1	0	1
	ケニア	3	0	3
	コートジボワール	0	0	0
	コンゴ民主共和国	2	0	2
	サントメ・プリンシペ	0	0	0
	ザンビア	0	0	0
	シエラレオネ	0	0	0
	ジンバブエ	1	0	1
	スーダン	1	0	1
	セネガル	0	0	0
	タンザニア	0	0	0
	チュニジア	5	0	5
ナイジェリア	0	0	0	
ボツワナ	0	0	0	
マダガスカル	0	0	0	
マラウイ	0	0	0	
マリ	1	0	1	
モーリシャス	0	0	0	
モーリタニア	0	0	0	
モザンビーク	0	0	0	
モロッコ	1	0	1	
リベリア	0	0	0	
ルワンダ	0	0	0	
南アフリカ	0	0	0	
その他	17	0	17	
国・地域不明	13	0	13	
合計	567	22	589	

イ 外国人留学生、学生の派遣

	国・地域名	外国人留学生	学生の派遣	計
アジア	インド	29	1	30
	インドネシア	80	0	80
	カンボジア	9	1	10
	シンガポール	1	1	2
	スリランカ	21	1	22
	タイ	25	1	26
	ネパール	6	1	7
	パキスタン	15	0	15
	バングラデシュ	34	1	35
	フィリピン	12	1	13
	ブータン	3	0	3
	ブルネイ	2	0	2
	ベトナム	73	0	73
	マカオ	0	0	0
	マレーシア	26	2	28
	ミャンマー	17	0	17
	モルディブ	0	0	0
	モンゴル	27	1	28
	ラオス	6	0	6
	韓国	126	1	127
	香港	5	0	5
台湾	72	9	81	
中国	1,256	0	1,256	
東ティモール	0	0	0	
中東	アフガニスタン	9	0	9
	アラブ首長国連邦	0	0	0
	イエメン	1	0	1
	イスラエル	2	0	2
	イラク	2	0	2
	イラン	4	0	4
	キプロス	1	0	1
	クウェート	1	0	1
	サウジアラビア	1	0	1
	シリア	4	0	4
	トルコ	3	0	3
	バーレーン	2	0	2
	パレスチナ	1	0	1
ヨルダン	1	0	1	
CIS	アゼルバイジャン	3	0	3
	アルメニア	1	0	1
	ウズベキスタン	13	0	13
	カザフスタン	17	0	17
	キルギス	4	0	4
	タジキスタン	7	1	8
	トルクメニスタン	1	0	1
	ベラルーシ	0	0	0
	モルドバ	0	0	0
	ロシア	21	2	23
ヨーロッパ	アイスランド	0	0	0
	アイルランド	0	0	0
	アルバニア	1	0	1
	イタリア	2	0	2
	ウクライナ	4	0	4
	エストニア	1	0	1
	オーストリア	0	1	1
	オランダ	2	1	3
	キプロス	0	1	1
	ギリシャ	0	0	0
	クロアチア	1	0	1
	スイス	0	1	1
	スウェーデン	0	0	0
	スペイン	2	0	2
	スロバキア	0	0	0
	スロベニア	1	1	2
	ジョージア	3	0	3
	セルビア	2	0	2
	チェコ	2	0	2
	デンマーク	0	0	0
	ドイツ	9	2	11
	ルウェー	0	0	0
	ハンガリー	0	0	0
	フィンランド	0	0	0
	フランス	19	4	23
	ブルガリア	2	0	2
	ベルギー	0	0	0
	ポーランド	3	1	4
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1	0	1
	ポルトガル	2	0	2
	マルタ	0	1	1
	モナコ	0	0	0
	モンテネグロ	1	0	1
	ラトビア	0	0	0
	リトアニア	4	0	4
	ルーマニア	0	0	0
	ルクセンブルク	0	0	0
	英国	5	2	7

	国・地域名	外国人留学生	学生の派遣	計
北米	カナダ	0	4	4
	米国	49	6	55
オセアニア	オーストラリア	1	4	5
	サモア	1	0	1
	ソロモン諸島	2	0	2
	ニュージーランド	1	0	1
	バヌアツ	1	0	1
	バブアニューギニア	1	0	1
	パラオ	0	0	0
中南米	フィジー	3	0	3
	アルゼンチン	1	0	1
	アンティグア・バーブーダ	0	0	0
	エクアドル	0	0	0
	エルサルバドル	1	0	1
	ガイアナ	0	0	0
	キューバ	0	0	0
	グアテマラ	1	0	1
	コスタリカ	2	0	2
	コロンビア	3	0	3
	ジャマイカ	2	0	2
	チリ	1	1	2
	ドミニカ	1	0	1
	トリニダード・トバゴ	2	0	2
	ニカラグア	0	0	0
	ハイチ	0	0	0
	パラグアイ	0	0	0
	ブラジル	33	0	33
	ベネズエラ	2	0	2
	ペルー	13	2	15
	ボリビア	0	0	0
メキシコ	8	2	10	
アフリカ	アルジェリア	5	0	5
	アンゴラ	1	0	1
	ウガンダ	2	1	3
	エジプト	17	0	17
	エチオピア	8	0	8
	エリトリア	2	0	2
	ガーナ	12	0	12
	カメルーン	2	0	2
	ギニア	1	0	1
	ケニア	2	0	2
	コートジボワール	1	0	1
	コンゴ民主共和国	0	0	0
	ザンビア	2	0	2
	シエラレオネ	0	0	0
	ジンバブエ	3	0	3
	スーダン	0	0	0
	セネガル	1	1	2
	タンザニア	3	0	3
	チュニジア	4	0	4
	トーゴ	0	0	0
	ナイジェリア	10	0	10
	ブルキナファソ	0	0	0
	ベナン	1	0	1
	ボツワナ	2	0	2
	マダガスカル	3	0	3
	マラウイ	6	0	6
	マリ	1	0	1
	モーリシャス	0	0	0
	モーリタニア	0	0	0
	モザンビーク	1	0	1
モロッコ	3	0	3	
リビア	0	0	0	
リベリア	2	0	2	
ルワンダ	4	0	4	
南アフリカ	1	0	1	
その他	その他	0	0	0
その他	国・地域不明	0	0	0
合計		2,240	60	2,300

7 筑波研究学園都市連携等関係

(1) 連携大学院を実施している連携機関一覧

第一号連携

機関種別	機関名	機関数
国立研究機関	国立感染症研究所	4
	気象庁 気象研究所	
	国土技術政策総合研究所	
	国立保健医療科学院	
独立行政法人	国立研究開発法人物質・材料研究機構	17
	国立研究開発法人産業技術総合研究所	
	国立研究開発法人防災科学技術研究所	
	国立研究開発法人国立環境研究所	
	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	
	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所	
	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター	
	国立研究開発法人土木研究所	
	国立研究開発法人建築研究所	
	国立研究開発法人理化学研究所	
	独立行政法人国立科学博物館	
	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	
	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	
	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	
独立行政法人医薬品医療機器総合機構		
国立研究開発法人国立がん研究センター東病院		
国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所		
民間等研究機関	アステラス製薬（株）	7
	エーザイ（株）筑波研究所	
	富士フイルム（株）先進研究所 バイオサイエンス&テクノロジー開発センター	
	武田薬品工業（株）湘南ヘルスイノベーションパーク	
	公益財団法人東京都医学総合研究所	
	日本電信電話（株）NTT物性科学基礎研究所	
	日本電気（株）筑波研究所	
	28	

第二号連携

国立研究開発法人物質・材料研究機構
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

(2) 筑波研究学園都市主要機関との共著論文実績

(抽出期間：2018年 - 2020年)

機関名	共著論文数
大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構（大学共同利用機関を含む）	368
国立研究開発法人産業技術総合研究所	734
国立研究開発法人物質・材料研究機構	349
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	223
国立研究開発法人国立環境研究所	108
国立研究開発法人国際農林水産業研究センター	49
国立研究開発法人森林研究・整備機構	71
国立研究開発法人防災科学技術研究所	12
国立研究開発法人土木研究所	4
国立研究開発法人建築研究所	2
国立大学法人筑波技術大学	80
気象庁気象研究所	27
国土交通省国土技術政策総合研究所	6

※ Scivalを利用して抽出

※ データ抽出日 令和3年10月6日

(3) Tsukuba Global Science Week (TGSW) 2020 実施状況

- ・会期：2020年9月28日(月)～2021年2月12日(金)
- ・開催形式：オンライン、一部ハイブリッド(対面会場：筑波大学内)
- ・参加登録者数：976名(うち国外356名)
- ・参加者の国・地域数：53か国・地域
- ・参加者の所属機関数：256機関(うち国外108機関)
- ・実施セッション数：36セッション(うちデジタルポスターセッション11)

番号	セッションタイトル	開催日時	オーガナイザー
	0 オープニング総会		
0	TGSW2020オープニング総会：ポストコロナ社会を目指して-都市と大学の連携-	9月28日(月) 18:00-19:40	
	1 メインセッション		
1-1	グローバル化の後で：進む課題創造	9月28日(月) 14:00-16:15	大庭良介 医学医療系 准教授
	2 CiCジョイントセッション		
2-1	学際的・国際的視点からみたダイバーシティとインクルージョン：効果的な教育的アプローチに焦点をあてて	2月12日(金) 9:00-12:00	小川園子 人間系長 西保岳 体育系長
2-2	国際連携食料健康科学シンポジウム：食と健康の未来への飛躍	9月30日(水) 16:00-19:00	大林典彦 医学医療系 准教授
2-3	令和2(2020)年度研究拠点形成事業(B.アジア・アフリカ学術基盤形成型)「社会的要請に対応可能な日本語教師養成の拠点形成」キックオフシンポジウム	11月14日(土) 16:00-19:00	小野正樹 人文社会系 教授
2-4	筑波大学×国立台湾大学ダブルディグリープログラムによる生物資源研究の深化を目指して	9月28日(月) 10:00-12:00	北村豊 生命環境系 教授
2-5	研究者の皆さん、未来の共同研究パートナーに会ってみませんか？	9月29日(火) 16:00-18:00 9月30日(水) 9:00-11:00	大庭良介 医学医療系 准教授
	3 筑波研究学園都市セッション		
3-1	筑波会議セッション -Perspectives on global challenges in attaining Society 5.0 and SDGs-	9月29日(火) 14:00-16:00	野中秀彦 筑波会議・TGSW推進ユニット 教授
3-2	第6期科学技術・イノベーション基本計画の検討の方向性	9月30日(水) 13:00-14:00	犬塚隆志 国際産学連携本部 産学連携部 部長
	4 学生企画セッション		
4-1	オンライン発表について考える～学生プレゼン及びビジュアルデザインとオンライン授業の実例～	9月29日(火) 13:00-16:00	福丸翔 システム情報工学研究科 学生
	5 ポスターセッション		
5-1	医学・生命科学国際共同セッション(学生発表会)	9月29日(火) 12:30-16:00	宮腰昌利 医学医療系 准教授
5-2	環境問題の解決に貢献する生物資源工学コロイド/ナノ技術の基礎と応用	9月30日(水) 9:00-12:00	江前敏晴 生命環境系 教授
5-3	生物資源と環境工学のフロンティアと持続可能性	9月29日(火) 11:30-13:00	Ghazali Muhamad Ezral Bin 生命環境科学研究科 学生

	6 自由テーマセッション		
6-1	コロイドの凝集から標榜する生命環境の科学工学	9月29日(火) 9:00-18:00	足立泰久 生命環境系 教授
6-2	憲法はいかにCOVID-19に対応できるか?	9月29日(火) 14:30-18:00	秋山肇 人文社会系 助教
6-3	学際的・国際的視点からみたダイバーシティとインクルージョン：LGBTQを巡る今日的課題に焦点を当てて	9月29日(火) 15:00-17:00	河野禎之 人間系 助教
6-4	協調的社會問題解決のためのオープンデータ利活用基盤の挑戦	9月28日(月) 21:00-0:00	加藤誠 図書館情報メディア系 准教授
6-5	身体機能の補完と拡張：サイバニクスとAIは人間をどう変えるか?	12月2日(水) 16:30-18:55	堀江和正 システム情報系/ 計算科学研究センター 助教
6-6	インド古典学の再発見	9月28日(月) 15:00-19:00	志田泰盛 人文社会系 准教授
6-7	言語学とデータサイエンス	10月8日(木) 13:30-17:30 12月10日(木) 13:30-16:30	島田雅晴 人文社会系 准教授
6-8	The 6th South East Asia Collaborative Symposium on Energy Materials (SACSEM6)	11月24日(火) 16:00-20:10 11月25日(水) 16:00-20:10	中村潤児 数理物質系 教授
6-9	持続可能なエネルギーの未来のための革新的な材料とシステム	9月29日(火) 17:00-19:45	Islam Muhammad Monirul 数理物質系/地中海・北アフリカ研究センター 助教
6-10	農業x人工知能：世界的なSociety5.0とSDGs達成に向けた食料生産の自給自足	9月30日(水) 12:25-17:00	Ahamed Tofael 生命環境系 准教授
6-11	描出力ー科学研究におけるアートおよびデザインの役割	11月21日(土) 14:00-18:00	林みちこ 芸術系 准教授
6-12	COVID-19危機を一緒に考え挑む仲間に逢うワークショップ	12月3日(木) 13:00-15:00	加藤英之 URA研究戦略室 室長代理
	7 デジタルポスターセッション	ポスター掲示期間	
7-1	多様性のある政治的代表に向けて：ジェンダー・障害者・エスニシティの平等	9月18日(金) ~ 10月18日(日)	海後宗男 人文社会系 教授
7-2	”つくばの社工”：6年間の成果とこれから		鈴木勉 システム情報系 教授・社会工学類長
7-3	証拠に基づく犯罪対策に向けた実証研究の展開		雨宮護 システム情報系 准教授
7-4	COVID-19 パンデミック：人間科学の貢献と今後の展望		小川園子 人間系 教授
7-5	スポーツの将来ー倫理シリーズ		深澤浩洋 体育系 教授
7-6	世界の最新スポーツ科学・事情～新型コロナウイルスの難局の中で～		真田久 体育系 教授
7-7	スポーツ国際開発における地球規模課題の解決策～教育から開発～		佐藤貴弘 体育系 教授
7-8	コロナ禍のアート&デザイン：地球規模課題に対する芸術の役割		藤田直子 芸術系 教授
7-9	図書館情報学における情報基盤研究		松村敦 図書館情報メディア系 助教
7-10	中央アジアにおける文化とアイデンティティ		梶山祐治 グローバル・コミュニケーションズ機構 国際アドミニストレーター
7-11	医学・生命科学国際共同セッション（学生発表会）（※5-1と併催）		宮腰昌利 医学医療系 准教授

(4) つくば産学連携強化プロジェクト

(単位：千円)

種類	研究代表者		プロジェクト名	配分額
	配分先(所属)・職	氏名		
2年度新規採択分(合わせ技ファンド)	数理物質系 教授	伊藤雅英	10nm幅有機物の形状評価	1,000
	数理物質系 准教授	都甲薫	絶縁体上多層グラフェンの配向制御と革新二次電池負極応用	1,000
	数理物質系 准教授	丸本一弘	ペロブスカイト太陽電池の電荷状態のオペランド直接観測と素子構造制御による効率・耐久性の向上	1,000
	数理物質系 准教授	吉田昭二	放射線耐量の高い放射線検出器用3C-SiCフォトダイオード(3C-SiC-PD)の開発	1,000
	数理物質系 教授	山本洋平	シルク素材の発光・紫外線防護および抗菌機能化	1,000
	生命環境系 准教授	吉岡洋輔	高精度選抜マーカー付き単為結果性メロン中間母本の育成	1,000
	生命環境系 教授	菅谷純子	モモの栽培管理が果実香気に及ぼす影響	1,000
	生命環境系 教授	江面浩	メロンにおける形質転換不要のゲノム編集技術の開発	1,000
	システム情報系 准教授	海老原格	音響・振動を用いる園芸施設向け防虫工学の創成	1,000
	医学医療系 教授	山崎正志	革新的医療機器開発：粗鬆骨でもゆるまない骨固定材料：成長因子含有アパタイトコーティングネジ	1,000
	医学医療系 准教授	西村健	miRNAの網羅的リアルタイムモニタリングによる分化細胞誘導・選択系の最適化と汎用性向上	1,000
	医学医療系 講師	伊藤嘉朗	脳保護治療としての新規FGF-2徐放性人工硬膜の開発	1,000

種類	研究代表者		プロジェクト名	配分額
	配分先(所属)・職	氏名		
2年度新規採択分(つくば産学連携強化事業)	数理物質系 教授	柳原英人	環境調和型材料を用いたロール型ネルンスト素子の創発	1,000
	数理物質系 教授	神原貴樹	製造プロセスのゼロエミッション化に貢献する高分子半導体合成技術の開発	1,000
	医学医療系 教授	櫻井英幸	現場における生体内DNA損傷モニタリング手法を用いた放射線がん治療後の有害事象リスク予測システムの構築	1,000
2年度新規採択分(茨城県支援事業)	数理物質系 講師	柏木隆成	結晶-放熱基板接合技術による高温超伝導高出力テラヘルツ波発振器の開発	1,000
	数理物質系 助教	武安光太郎	バイポーラ局所電気化学反応によるCO2-アルコール低温転換	1,000
	数理物質系 准教授	近藤剛弘	異種元素をドーピングしたホウ化水素シートの合成と構造決定	1,000
	生命環境系 教授	楊英男	暗条件でも殺菌作用を有する水処理用光触媒材料の開発(2)	1,000
	生命環境系 教授	青柳秀紀	持続可能な農業を実現するための新規微生物資材の探索-有用微生物の効率的な選抜技術の開発-	1,000
	生命環境系 准教授	有泉亨	トマトの果実軟化に関与する遺伝子と軟化抑制変異体の同定	1,000
	生命環境系 教授	磯田博子	微細藻類由来多糖生産と抗炎症作用の解析	1,000
	生命環境系 教授	植田宏昭	季節予報の社会実装に向けた2019/2020 大暖冬の要因解明	1,000
	医学医療系 講師	小林麻己人	新規高機能性乳酸菌株のゼブラフィッシュを用いたスクリーニング	1,000
	医学医療系 講師	松井裕史	早期退院可能な光線力学療法用光増感剤/金ナノ粒含有インジェクタブルゲルの開発	1,000

8 社会連携・大学公開関係

(1) 社会貢献プロジェクト(採択課題)

※所属/氏名欄の網掛けは、学生の取組みを示す。

分野	所属/氏名	取組み名
科学振興	数理工学系 /後藤博正	先端研究・国際活動を生かした地域社会貢献のための理科教育啓発活動
国際	人文社会系 /小野正樹	外国人児童のためのイラストつき多言語学習辞書開発
	生命環境系 /田村憲司	筑波大学発SDGs活動発信拠点形成とつくばSDGsパートナーズの育成
	人文社会系 /明石純一	国際都市つくばの新しい国際化施策一定住外国籍児童に対する「職業」プログラム
	芸術系 /直江俊雄	高校生アートライター大賞英語部門の独立発展による国際貢献推進
文化・地域活性化	附属坂戸高等学校 /深澤孝之	つくさか食農体験活動支援プロジェクト
	芸術系 /藤田直子	つくば市周辺市街地におけるロゲイニングを活用した地域活性化-大学生とR8地域の交流から生まれる魅力の発見と発信、賑わいの創出、マップづくりとまち歩きの実施-
	人文社会系 /松崎寛	つくば市における外国人児童生徒支援体制の構築
	人間系 /原田悦子	高齢者コミュニティで作る産学・社会連携プロジェクト：広報誌を介した地域づくり
	理工学群社会工学類 /安藤慎悟	まかべ「繋」プロジェクト
	人間学群教育学類 /吉崎雄登	学校ボランティア
環境	生命環境系 /丸尾文昭	「いもりの里」をモデル拠点とした谷津田・里山の復元・維持管理ネットワークの継続的発展2020
	生命環境系 /上條隆志	生物多様性つくば戦略の作成推進を通じた環境マイスターの育成・スキルアップ事業
健康・医療・福祉	医学医療系 /岡本嘉一	若き才能を潰さない！車載型MRIによる青少年スポーツ検診の試み
	人間系 /佐々木銀河	発達障害のある高校生向け大学生1日体験講座：縦と横につながる支援の輪
	医学医療系 /水野智美	ダイバーシティの使い方を子ども、保護者、保育者に伝える障害理解活動-ダイバーシティの街で多様性を認める人をつくる人づくりの第一段階として-
	医学医療系 /宮園弥生	救急隊を対象とした新たな病院前周産期救急教育の推進
	医学医療系 /増本幸二	小児外科として社会貢献できることは・・・
その他	生命環境系 /加藤盛夫	農業体験学習を通じた地元小学生の農業理解の推進
	特別支援教育連携推進グループ /佐藤北斗	特別支援教育におけるオンライン会議システムを活用した指導力向上研修プログラムの開発と発信

(2) 地方自治体との連携協定

自治体名	連携事項	締結日	備考
つくば市	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と市の情報、資源及び研究成果等の交流並びにその活用 ・大学と市が共同して行う事業の企画及び実施 	H15.9.30	包括
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と県の相互の情報、技術等知的資源の活用 ・地域の活力を育む人材の育成 ・大学と県が共同して実施する事業の企画、調整及び推進 	H17.2.7	包括
大子町	<ul style="list-style-type: none"> ・教育等の人材育成のための特色ある取り組みに関すること ・地域の健康増進 ・地域の自然、文化を活かしたまちづくり ・農産物等の地域資源の振興 	H20.8.7	包括
文京区	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・文化、スポーツ、芸術の発展及び産業の振興 ・地域コミュニティの発展 	H22.2.9	包括
牛久市	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、文化、スポーツの振興 ・健康及び福祉の増進 ・地域資源の活用及び振興 ・地域の自然及び環境対策 ・まちづくりの推進 	H22.7.28	包括
土浦市	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの推進 ・地域資源の活用及び振興 ・教育、文化及びスポーツの振興 ・地域施策の助言 	H23.3.1	包括
常総市	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を活かしたまちづくり ・文化・スポーツ・芸術を通じた地域活性化 ・教育支援及び人材育成 ・健康及び福祉の増進 	H24.2.14	包括
行方市	<ul style="list-style-type: none"> ・農業・食、運動、休息による地域活性化 ・まちづくり推進及び健康サービスモデル開発事業 	H24.10.3	共同研究
福島県いわき市	<ul style="list-style-type: none"> ・津波等により甚大な被害を受けた沿岸地域等の復興 ・地域力の再生及び強化 ・地域産業の再生及び復興 ・都市魅力の再生及び復興 	H23.8.10	震災復興
宮城県仙台市及び 国立大学法人東北 大学	<ul style="list-style-type: none"> ・藻類バイオマス技術による東北の復興に向けて、 ・三者の相互の情報、技術的知的資源の活用 ・三者が共同して実施する事業の企画、調整及び推進 	H23.11.10	震災復興
潮来市	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちづくり ・産業の振興による復興支援 ・震災復興に係る施策への助言 	H23.11.21	震災復興
福島県伊達市	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的根拠に基づく先進的な健康づくり ・放射性核種による汚染の実態と対策及び健康管理 	H23.11.28	震災復興
神栖市	<ul style="list-style-type: none"> ・液状化被害、ライフライン被害等の調査検討 ・地域防災計画の見直し ・復興に向けたまちづくりの推進 	H23.11.29	震災復興
北茨城市	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活基盤の復旧及び地域コミュニティの再生 ・地域産業及び経済の再建 ・防災基盤の整備及び防災体制の強化 ・地域の現状や特性に応じたまちづくり 	H23.12.2	震災復興
高萩市	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちづくり ・生涯を通じた心身の健康づくり 	H23.12.6	震災復興
鹿嶋市	<ul style="list-style-type: none"> ・震災からの復興に向けたまちづくりの推進 ・津波及び液状化対策 ・地域防災計画の改定 	H24.2.27	震災復興

(3) 高大連携事業一覧

事業名		対応員数等	参加人数	備考
茨城県教育委員会	高校生公開授業	—	実施せず	
	高校生公開講座	—	実施せず	
	未来の科学者育成プロジェクト	—	実施せず	科学体験教室 ※県からの委託事業
		—	実施せず	科学系コンテスト参加者強化トレーニング
	医学系進学コース研修	—	実施せず	県立高校・中等教育学校5校の生徒対象
	茨城県高校生科学研究発表会	審査員36名	発表件数114件	オンラインで実施 物・化・生・地・情報、 審査員には大学院生含む
竹園高校	国際科オリエンテーション	—	実施せず	国際科進級予定1年生対象
	筑波大学図書館研修	—	実施せず	
		—	実施せず	高校教員対象の文献検索研修
	「探Q」指導員派遣	大学院生 10名	80名	国際科対象
	研究室体験学習（文系）	—	実施せず	国際科2年 教育研究科で担当
	研究室体験学習（理系）	—	実施せず	国際科2年
	探Q（課題研究）指導	教員5名	41名	国際科 文系2年
	先端科学講座（物化生）	—	実施せず	1～2年生中心 1分野40名～100名
	学類・学群紹介模擬授業	教員16名	300名程度	1年生全員、2～3年生希望者
	探Q成果発表会	派遣教員 1名	発表者200名程度	1～2年生
	医学部進学支援特別授業	—	実施せず	1～2年生 医学部進学希望者
茗溪学園	SSH講演会（学類紹介）	—	実施せず	1年生対象
	SS研究・個人課題研究発表会	室員（座長） 10名	発表者 40名	オンデマンド形式で実施
土浦一高	出前講義 （医学研2年生対象）	教員 1名	36名	6月 オンラインで実施
		教員 1名	35名	9月 オンラインで実施
		教員 1名	28名	10月
		教員 1名	32名	10月
	病院実習（医学研）	—	実施せず	附属病院、2日間
		—	実施せず	水戸協同病院
	SDGsチャレンジサポートプロジェクト （探求学習）	教員 1名	320名	1年生 6月 オンラインで実施
		大学院生等延18名	320名	1年生 11月 オンラインで実施
		教員 1名	探求学習委員14名	12月 英語プレゼンテーション
		—	1-2年生	1年生：ポスターセッション 2年生：プレゼンテーション
海外フィールドワーク （2年生）	—	実施せず	オーストラリアについての事前指導 5月、7月	
留学生とのワークショップ	—	実施せず		

事業名		対応員数等	参加人数	備考
附属 駒場	高校生大学訪問 (研究室体験)	—	実施せず	2年生
	中学生大学訪問 (研究室体験)	—	実施せず	中学3年生、午前は講演会
附属 高校	大学訪問 (研究室体験)	—	実施せず	2年生
附属 坂戸	農場実習	—	実施せず	畜産・園芸部門 センター (農場) 対応
	大学訪問 (模擬授業+施設見学)	教員 12名	158名	オンラインで実施 1年生、生物資源学類は2グループ受け 入れ
附属 聴覚	大学訪問	—	実施せず	3年生、DACアクセシビリティ部門が対応
附属 視覚	大学訪問	—	実施せず	2年生、DACアクセシビリティ部門が対応
組織 独自の 取り 組み	哲学研究発表会の深化とオンライ ンへの展開	人文学類	10名	
	高等学校教員と考える筑波大学 の学士教育	比較文化学類	31名	
	中高生を対象とした古典籍入門	日本語・日本文化学類	10名	
	教育職を目指す高校生との教育 学協働学習プロジェクト	教育学類	45名	
	附属駒場高校とのトライアル・ コラボ	生物資源学類	実施せず	
	応用理工学類体験教室	応用理工学類	実施せず	
	高大連携シンポジウム2020	社会工学類	107名	
	第9回高校生アトライター大 賞	芸術専門学群	209名	
	インタラクティブ遊具のデザイ ンワークショップ	芸術専門学群	60名	
	学生の生徒支援能力の育成と高 度専門職業人育成	教育学学位プログラム	121名	
	ハーバード流法考渉学の技術支 援に関する取り組み	ビジネスサイエンス系	42名	
全国高校「探求」キャンプ in TSUKUIBA	人文社会系	106名		
米軍子弟教育高大連携プロジェクト	—	実施せず	太平洋地区在留米軍ハイスクール生徒の 受入れ	
出前 (出張) 講義、模擬授業・研究 室体験等	教員 延72名	—	WEB申込分 (全国)	

(4) 公開講座実施状況

ア 一般公開講座

公開講座名	講座数	対象者	募集人数	応募者数	受講者数	修了者数
剣道(春季)	1	一般市民(小学校1年生以上)	50	24	(中止)	
剣道(秋季)	1	一般市民(小学校1年生以上)	50	(中止)		
弓道	1	一般市民(高校生以上の初心者)	35	10	(中止)	
バレーボール(成人女性)	1	一般市民(成人女性・経験者)	36	(中止)		
ゴルフ(初級)	1	一般市民(初心者)	24	16	(中止)	
ゴルフ(中級)	1	一般市民(「初級講座」修了者)	24	31	22	22
ゴルフ(上級)	1	一般市民(「中級講座」を修了し、ベストスコアが ≥ 100 以下の方)	24	27	24	24
ゴルフ(上級アドバンスコース)	1	一般市民(「上級講座」を修了し、ベストスコアが ≥ 95 以下の方)	24	31	(中止)	
スポーツ教室 8 講座			267	139	46	46
油絵(初級・中級)	1	一般市民(初級:16歳以上、中級:18歳以上)	35	16	(中止)	
日本画	1	一般市民(16歳以上)	20	6	(中止)	
電気炉でガラス作品を作ろう! (入門基礎、応用)	2	一般市民(入門基礎:初心者、応用:経験者)	32	12	(中止)	
芸術教室 4 講座			87	34	0	0
ジオパークの視点で楽しむ筑波山	1	一般市民(中学生以上)	25	21	(中止)	
リハビリテーション科学の最新教育研究動向	1	一般市民	20	21	20	18
弓道具	1	一般市民	25	35	26	23
第5回植物遺伝資源研究の最前線～育種から植物分子デザイン研究まで～	1	一般市民(高校生以上)	80	73	73	73
構造から探る生命のダイナミクス	1	一般市民	30	(中止)		
海洋生物学入門	1	高校生	25	(中止)		
くらしの中の生化学～生きもののしくみを知る～	1	一般市民	30	(中止)		
家庭でできる代替医療～手による療法、灸による療法～	1	一般市民	40	(中止)		
筑波大式鍼療法の理論と技術、その実際～Acupuncturistを目指す方へ～	1	はり師養成学校学生(20才以上)	20	(中止)		
教養講座 9 講座			295	150	119	114
計 21 講座			649	323	165	160

イ 現職教育講座

公開講座名	講座数	対象者	募集 人数	応募 者数	受講 者数	修了 者数
視覚に障害のある重複障害児の指導と教材・教具	1	特別支援学校・特別支援学級教員等	40	(中止)		
さまざまな障害の子供たちの体育指導	1	中学・高校の保健体育教員、小学校・特別支援学校の教員、支援員	20	(中止)		
教員のための遺伝子組換え実験教育研修会	1	中学・高校の教員及び博物館等の教育施設に勤務する者	16	(中止)		
自閉症児のアセスメント	1	現職教員、教職を目指す学生、療育機関及び福祉施設の職員	25	34	22	19
特別支援教育における子どもの見立てと教材・指導法の基礎	1	幼・小・中・高及び特別支援学校教員等	25	(中止)		
特別支援教育における社会性支援のための音楽活動Ⅰ	1	教員、保育士、介助員・施設等指導員・大学生(学部以上)	30	25	21	21
子どもたちの情操と関わりを育む表現活動	1	教員、保育士、介助員・施設等指導員・大学生(学部以上)	20	12	10	9
静的弛緩誘導法を基盤とする障害の重い子の成長・発達の援助	1	特別支援学校教員、医療・療育施設職員等	26	(中止)		
自立活動に活かす動作法実習	1	小・中・高及び特別支援学校教員等	25	29	25	25
特別な教育的ニーズのある子どもの学習支援	1	小・中・高及び特別支援学校の教員、教育委員会等の教育関係者	20	19	14	11
特別支援教育における社会性支援のための音楽活動Ⅱ	1	教員、保育士、介助員・施設等指導員・大学生(学部以上)	20	25	25	22
自閉症のある子供と音楽	1	教員・保育士・施設職員	40	31	31	21
自閉症の実態に応じた教材・教具づくり	1	現職教員、教職を目指す学生、療育機関及び福祉施設の職員	15	15	14	8
盲・弱視児童生徒理科実験指導研修講座	1	視覚障害児の教育に関わる教員等	15	(中止)		
免許法認定公開講座「障害児の心理・生理・病理・教育課程・指導法論」	1	次の要件を全て満たす者 ①幼、小、中、高の教諭普通免許状を有する者 ②国公立学校に勤務する教員(非常勤講師等を含む) ③特別支援学校教諭免許状を取得しようとする者	80	(中止)		
免許法認定講習「特別支援学校(視覚)療育科教員免許法認定講習」	1	視覚特別支援学校に勤務している教員で、療育に係る特別支援学校自立教科教諭の臨時免許状または二種免許状を有する者	35	8	8	8
計	16	講座	452	198	170	144

(5) 教員免許状更新講習

(令和2年度)

区分		講習名	受講者数		
必修領域	必修 A	教育の最新事情(4講習)	469人		
選択必修領域	選択必修 a	「教育法規と教育政策」及び「学校における危機管理上の課題」	10人		
		新学習指導要領が求めるキャリア教育の在り方(2講習)	34人		
		国際バカロレア教育と日本の教育課題	29人		
		開かれた学校(2講習)	29人		
		すぐに役立つ！児童生徒の望ましい人間関係づくりを身につけよう(2講習)	63人		
		学校を巡る近年の状況の変化(2講習)	64人		
		カリキュラム・マネジメント(2講習)	13人		
		学習指導要領の変遷と学校教育をめぐる今日的課題(2講習)	49人		
		アクティブ・ラーニングの理論と方法—主体的・対話的で深い学びの成立を目指して—	25人		
		いじめ・不登校の理解と対応	46人		
		グローバル時代の教育課題	25人		
		新学習指導要領に対応した小学校英語教育の理論と実践	10人		
		学校で苦戦する子どもの援助～チーム学校の視点から	43人		
		進路と教育	13人		
		選択領域	選択 B	理科好きな子どもを育てる授業	36人
				国語科における教育課程の動向と対話活動の充実	38人
				身近な地域の理解におけるGIS(地理情報システム)の活用	21人
				「おや?」「なるほど!」による算数・数学科問題解決の指導—愉しく・優しく育まれる人の心、生きる術、卓越した教習	41人
英語で教える英語授業 (CLIL/TEE/EMI)の実践実習	9人				
世界の授業、日本の授業—国際比較を通してみる日本の算数・数学授業	26人				
特別なニーズのある子どもの理解と支援(2講習)	91人				
4技能を伸ばす授業と、測定するテスト	14人				
特別支援教育における体育の授業づくり～すべての子どもが“いきいきと輝く”体育活動をめざして～	28人				
性や薬物乱用等の現代的課題に対応した保健教育の考え方と進め方	38人				
オリンピック・パラリンピック教育の授業づくり	19人				
英語で教科書本文を教える、活用する、力をつける	16人				
オリンピックを題材とする体育理論の授業づくり—文化としてのスポーツ学習を中心に	11人				
エクセルとフリーソフトRを用いたやさしい統計教材の作成	9人				
考える算数・体験的算数	44人				

区分		講習名	受講者数
選択領域	選択 C	学校の大規模災害対処と法的責任(2講習)	73人
		哲学カフェ——「アクティブラーニング」スタート講座	27人
		身近にあるものから考える光と化学	15人
		過度の要求・要望に対して学校はどう対処するべきか(2講習)	89人
		学校における子どもの情報の管理(2講習)	42人
		アジア・太平洋戦争を問い直す(4講習)	73人
		粒子線(陽子線、重粒子線)のがん治療応用～生活の質の改善を目指して～	22人
		使って伸ばそう、あなたの英語力～小学校英語授業に挑む教師のための、簡単英語で楽しむ講習～	27人
		病いとともに生きる～慢性疾患や発達障害等の子や家族の支援を考える～	38人
		学校トラブルへの法的対処(幼稚園・小学校編)	42人
		楽しく学ぶやさしい天気予報活用術(3講習)	138人
		学校トラブルへの法的対処(中学校・高等学校編)	43人
		ミュージアムパークで開く野外観察へのとびら —身近な草木やコケの名前を調べよう—	29人
		「主体的・対話的で深い学び」を実現する一手法としての社会調査の計画と実施	9人
		リハビリテーションの理論と実際	9人
		具体例を通じ学びなおす日本国憲法	16人
		響き合うアンサンブル	13人
		学校トラブルへの法的対処	20人
		選択 D	附属高等学校実践演習
	合計		67講習

※受講者数:受講申込者数から事前辞退者・当日欠席者を除いた数

(6) 特別支援学校教員資格認定試験

(令和3年3月31日現在)

科目	受験者数	第1次試験 合格者数	第2次試験 合格者数	合格率
聴覚障害教育	37 [10]	19 [10]	7	18.9%
肢体不自由教育	123 [14]	57 [14]	2	1.6%
合 計	160 [24]	76 [24]	9	5.6%

(注) [] は、第1次試験免除者を内数で示す。

(7) 視察・来訪者

ア キャンパスツアー見学受入数(令和2年度)

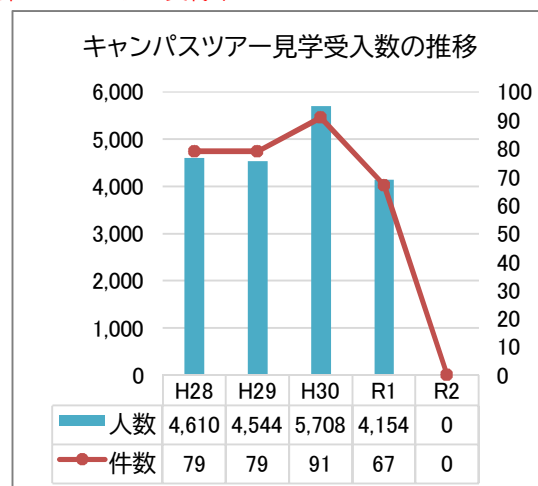
見学者別受入数

新型コロナウイルス感染症対策のためツアー受付中止

団体の種類	件数	人数
高等学校(中等教育学校4年以上含む)	0	0
中学校	0	0
P T A	0	0
その他(高専含む)	0	0
合計	0	0

目的別受入数

目的の種類	件数	人数
進路指導	0	0
研修・研究会	0	0
施設見学	0	0
修学旅行	0	0
合計	0	0



見学日	学校等名	件数	人数	見学目的
		0	0	-
	合計	0	0	

イ 外国人来訪者

令和2年度

●キャンパスツアー

年・月	キャンパスツアー	件数	人数
	新型コロナウイルス感染症対策のためツアー受付中止		
	合 計	0	0

●視察等

年・月	主な視察・来訪者	件数	人数
令和2.4		0	0
令和2.5		0	0
令和2.6		0	0
令和2.7		0	0
令和2.8		0	0
令和2.9	駐日ブラジル大使館	1	3
令和2.10		0	0
令和2.11	駐日ウズベキスタン大使館	1	4
令和2.12		0	0
令和3.1		0	0
令和3.2	駐日キプロス共和国大使館	1	2
令和3.3	駐日ヨルダン大使館	1	2
	合 計	4	11

(8) エクステンションプログラム実績

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
講座数（件）	5	14	19	23	14
参加者数（人）	115	453	590	645	446

(9) 現金による寄附受入実績

(単位：千円)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	寄附額	件数	寄附額	件数	寄附額	件数	寄附額	件数
寄附目的								
○一般基金	62,322	4,090	51,380	3,071	73,331	2,698	133,240	3,192
○新型コロナウイルス流行に伴う「学生のための緊急支援金」	-	-	-	-	-	-	170,824	5,469
○特定基金	113,835	3,016	116,511	4,374	126,337	5,731	138,103	4,355
<内訳>								
創基151年筑波大学50周年記念基金			13,900	1,350	33,378	2,652	66,893	2,624
筑波大学スポーツアソシエーション (TSA) 事業	6,949	383	5,496	309	30,245	1,300	5,116	247
附属病院支援事業	38,483	127	15,344	44	13,893	34	26,617	56
紫峰会基金	39,569	1,481	36,836	1,372	36,730	1,399	26,954	1,101
留学生後援会基金	887	180	804	170	745	161	2,281	263
附属駒場中・高70周年基金	22,665	826	38,929	1,096	6,005	141	-	-
修学支援事業基金	5,282	19	5,202	33	5,341	44	9,892	62
研究者の卵サポート基金	-	-	-	-	-	-	350	2
○現物資産活用基金					6	1	6	1
計	176,157	7,106	167,891	7,445	199,674	8,430	442,173	13,017

9 医療・保健関係

(1) 附属病院

ア 診療科構成

(令和3年3月1日現在)

診療科	延従事者
腎臓内科	13
血液内科	13
総合診療科	15
感染症科	5
内分泌代謝・糖尿病内科	12
メンタルヘルス科	5
遺伝診療科	6
睡眠呼吸障害科	4
病院総合内科	6
精神神経科	14
神経内科	13
呼吸器内科	15
消化器内科	16
循環器内科	25
腫瘍内科	6
膠原病・リウマチ・アレルギー内科	8
小児内科	32
乳腺・甲状腺・内分泌外科	9
消化器外科	16
救急・集中治療科	22
整形外科	28
リハビリテーション科	3
形成外科	6
脳神経外科	24
脳卒中科	6
呼吸器外科	9
心臓血管外科	11
小児外科	9

診療科	延従事者
皮膚科	9
泌尿器科	12
産科・婦人科	17
眼科	12
耳鼻咽喉科	8
放射線腫瘍科	11
放射線診断・IVR科	11
病理診断科	10
臨床病理科	7
歯科・口腔外科	6
麻酔科	15
合計	469

イ 業務従事者数(実数)

(令和3年3月1日現在)

職 種		人 数
教 員	医学医療系	260
	人間系	1
	体育系	2
	国際統合睡眠医科学研究機構	1
	小 計	264
病 院 講 師	医師・歯科医師	58
	薬剤師	3
	事務系・技術系	2
病院助教 医師・技術系	54	
医員・医員(研修医)	294	
看護師	851	
助産師	48	
保健師	1	
薬剤師	72	
診療放射線技師	52	
臨床検査技師	64	
臨床工学技士	30	
理学療法士	40	
作業療法士	13	
言語聴覚士	4	
歯科技工士	1	
歯科衛生士	2	
視能訓練士	3	
栄養士	20	
調理師	17	
臨床心理士	8	
社会福祉士	13	
診療情報管理士	9	
精神保健福祉士	1	
保育士	3	
内視鏡技師	1	
看護助手	2	
技術職員	29	
事務職員	194	
合 計	1,889	

ウ 診療実績

区分	件数	備考	
患者数	外来	405,048	1日平均 1,667名
			新 来 20,959名
患者数	入院	240,479	1日平均 659名(病床800床)
			稼働率 82.4%
			新入院 18,141名
			退 院 18,161名
計	645,527		
臨床検査	2,741,270		
X線	133,845		
リハビリテーション	103,112		
調剤処方	661,628	処方延患者 301,861名	
手術	20,045		
麻酔	15,806		
分娩	1,061	(死産を除く。)	
病理解剖	17		

エ 受託実習生等受入数

区分	受託実習生	病院研修生
臨床検査関係	2	2
放射線関係	50	0
薬剤関係	55	0
看護関係	159	4
理学療法関係	31	2
栄養士関係	6	0
合 計	303	8

オ ボランティア受入状況

活動内容	人数
総合案内	4
成人病棟	3
小児病棟 (読み聞かせ4名を含む)	7
患者図書室	11
裁縫	6
合 計	31

(2) 保健管理センター

ア 保健管理センター勤務職員数

職 種		人数
教 員	内 科	3
	整 形 外 科	1
	眼 科	0
	精 神 科	3
	婦 人 科	0
	歯 科	0
	小 計	7
薬 剤 師	1	
看 護 職 員	4	
保 健 師	1	
診 療 放 射 線 技 師	1	
歯 科 衛 生 士	1	
精 神 保 健 福 祉 士	1	
事 務 職 員	1	
合 計	17	

イ 利用者数

利用者 \ 事項	一般定期健康診断	その他の健康診断	診療及び健康相談	予防接種	救護等その他	合計
学 群 学 生	9,981	429	2,009	281	2,188	14,888
大 学 院 生	4,983	831	1,660	119	1,872	9,465
研 究 生 等	236	4	72	2	104	418
職 員	2,936	4,801	422	416	32	8,607
そ の 他	17	0	0	0	144	161
合 計	18,153	6,065	4,163	818	4,340	33,539

(注1) 一般定期健康診断及び精神衛生相談利用状況における利用者区分の詳細については、後掲の項目参照

(注2) 救護等その他の内容は、入試・各種大学行事等における救護、入学志願者等の健康診断書の書類審査、健康診断書の発行件数等について計上

(注3) 利用者のその他は、理療科教員養成施設の学生、研究員、外部者等

ウ 一般定期健康診断受診内訳

a) 学群生

健 診 種 別	2月(実習)			Web問診			7~9月 (証明書)	10~12月新入生		
	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	在籍者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	受診者数 (人)	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)
学 群										
人文・文化学群	60	58	96.7%	1,089	831	76.3%	58	247	122	49.4%
社会・国際学群	5	2	40.0%	778	602	77.4%	41	177	61	34.5%
人間学群	59	56	94.9%	537	478	89.0%	35	126	90	71.4%
生命環境学群	40	37	92.5%	1,202	981	81.6%	28	281	117	41.6%
理工学群	40	39	97.5%	2,297	1,820	79.2%	40	565	227	40.2%
情報学群	3	3	100.0%	1,102	906	82.2%	25	278	81	29.1%
グローバル教育院	1	0	0.0%	24	15	62.5%	0	4	2	50.0%
医学群	510	490	96.1%	1,329	1,264	95.1%	26	261	205	78.5%
体育専門学群	160	139	86.9%	1,024	795	77.6%	66	249	113	45.4%
芸術専門学群	36	30	83.3%	453	372	82.1%	16	103	45	43.7%
学 群 計	914	854	93.4%	9,835	8,064	82.0%	335	2291	1063	46.4%

b) 大学院生

大 学 院 計	5	4	80.0%	6,960	4,574	65.7%	403	2,547	405	15.9%
---------	---	---	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-----	-------

c) 研究生

研 究 生 計	0	0	0.0%	726	228	31.4%	3	60	8	13.3%
---------	---	---	------	-----	-----	-------	---	----	---	-------

合 計	919	858	93.4%	17,521	12,866	73.4%	741	4,898	1,476	30.1%
-----	-----	-----	-------	--------	--------	-------	-----	-------	-------	-------

(注) 新型コロナウイルス感染対策のため、通常4月に実施されている健康診断は行わず、Web問診を実施した。

10 附属図書館関係

(1) 利用統計

ア 利用者数等

	中央	体芸	医学	図情	大塚	合計	
年間開館日数 (日)	平日	195	196	196	196	168	-
	土・日・祝日	51	30	51	36	56	-
	合計	246	226	247	232	224	-
入館者数 (人)	平日	116,626	28,653	64,631	9,932	4,072	223,914
	(学外者 内数)	150	0	0	0	159	309
	土・日・祝日	19,939	2,372	8,574	848	1,831	33,564
	(学外者 内数)	5	0	0	0	32	37
	合計	136,565	31,025	73,205	10,780	5,903	257,478
平均入館者数 (人/日)	平日	598	146	330	51	24	-
	(学外者 内数)	1	0	0	0	1	-
	土・日・祝日	391	79	168	24	33	-
	(学外者 内数)	0	0	0	0	1	-
	1日当たり	555	137	296	46	26	-
貸出冊数 (冊)	学群生	53,618	10,995	6,336	5,078	109	76,136
	院生	52,444	8,135	3,042	3,090	5,611	72,322
	教員	22,935	3,805	4,321	2,965	2,973	36,999
	学外者	40	6	0	3	0	49
	その他	90	0	0	0	0	90
合計	129,127	22,941	13,699	11,136	8,693	185,596	
貸出利用者数 (人)	学群生	19,274	4,235	3,124	2,064	54	28,751
	院生	15,790	2,928	1,181	1,085	1,728	22,712
	教員	4,815	630	1,386	812	607	8,250
	学外者	20	1	0	1	0	22
	その他	10	0	0	0	0	10
合計	39,909	7,794	5,691	3,962	2,389	59,745	
文献複写(コピー) (件)	学外依頼	2,817	447	1,727	338	1,195	6,524
	学外提供	1,670	157	266	74	99	2,266
	合計	4,487	604	1,993	412	1,294	8,790
相互貸借(図書) (件)	学外借受	1,028	80	33	89	220	1,450
	学外貸出	1,702	123	60	80	85	2,050
	合計	2,730	203	93	169	305	3,500
レファレンス件数 (件)	学生	5,052	762	426	375	1,879	8,494
	教職員	4,034	552	2,339	480	719	8,124
	その他	778	16	5	11	197	1,007
	合計	9,864	1,330	2,770	866	2,795	17,625
	資料に関するもの	6,717	909	2,704	672	1,989	12,991
	利用案内・指導	3,131	421	66	190	806	4,614
	事実に関するもの	16	0	0	4	0	20
合計	9,864	1,330	2,770	866	2,795	17,625	

*新型コロナウイルス対策のため、学外者の入館は原則停止

イ Webコンテンツアクセス数

Webサイトアクセス件数

	(件)
学内	233,821
学外	982,718
合計	1,216,539

つくばリポジトリアクセス件数

	(件)
メタデータアクセス数	2,126,166
本文ダウンロード数	4,171,717

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数

	(件)
Cambridge Journals Online	10,630
JSTOR	36,844
Nature	304,067
Oxford Journals	66,517
ProQuest Central	28,305
Science	156,358
ScienceDirect	872,132
SpringerLink	210,209
Wiley Online Library	333,305

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)

	(件)
Business Source Complete	3,128
InCites-Journal and Highly Cited Data	12,033
Lexis Advance	4,956
Oxford English Dictionary	2,783
ProQuest Central	13,384
SciFinder-n(Academic)	85,326
Web of Science	210,566
医中誌Web	85,514

主要な電子ブックアクセス件数

	(件)
Cambridge University Press	1,470
ProQuest Ebook Central	3,629
Maruzen eBook Library*	12,503
EBSCO eBooks	1,559
Springer eBooks	18,235
Wiley Online Library	7,207

*タイトルアクセス数(その他はフルテキストアクセス数)

(2) 基盤統計

ア 図書

(冊)

年度受入冊数 (和洋区分)		中央	体芸	医学	図情	大塚	合計
	和書	8,239	2,108	1,205	1,735	950	14,237
	洋書	1,833	285	70	906	88	3,182
	合計	10,072	2,393	1,275	2,641	1,038	17,419
(受入区分)	購入	6,083	1,008	1,101	1,436	863	10,491
	寄贈	3,303	1,229	126	1,109	58	5,825
	製本	625	154	48	95	113	1,035
	その他	61	2	0	1	4	68
	合計	10,072	2,393	1,275	2,641	1,038	17,419
蔵書冊数 (和洋区分)	和書	1,136,418	201,998	95,434	186,905	55,719	1,676,474
	洋書	799,595	68,214	80,782	75,090	26,988	1,050,669
	合計	1,936,013	270,212	176,216	261,995	82,707	2,727,143

イ 雑誌 (冊子)

	年度受入タイトル数			所蔵 タイトル数
	購入	寄贈	合計	
和雑誌	732	5,499	6,231	17,790
洋雑誌	329	589	918	12,969
合計	1,061	6,088	7,149	30,759

ウ Webコンテンツ

つくばリポジトリ累積登録件数 (*2020年度末現在)

内訳	件数
学術雑誌掲載論文	11,318
学位論文全文	5,379
学位論文内容・審査の要旨	10,654
修士論文	385
紀要論文	21,890
研究報告書	4,281
会議発表資料	453
講義資料	156
研究業績目録	23
貴重書コレクション	132
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	65
その他 (図書)	645
合計	55,476

電子ジャーナル契約タイトル数 (*有料契約誌のみ)

内訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	412
JSTOR	963
Nature	30
Oxford Journals	248
ProQuest Central	25,000
Science	1
ScienceDirect	2,316
SpringerLink	1,607
Wiley Online Library	1,401
その他	5,046
合計	37,024

提供データベース・検索ツール
(主要契約データベース)

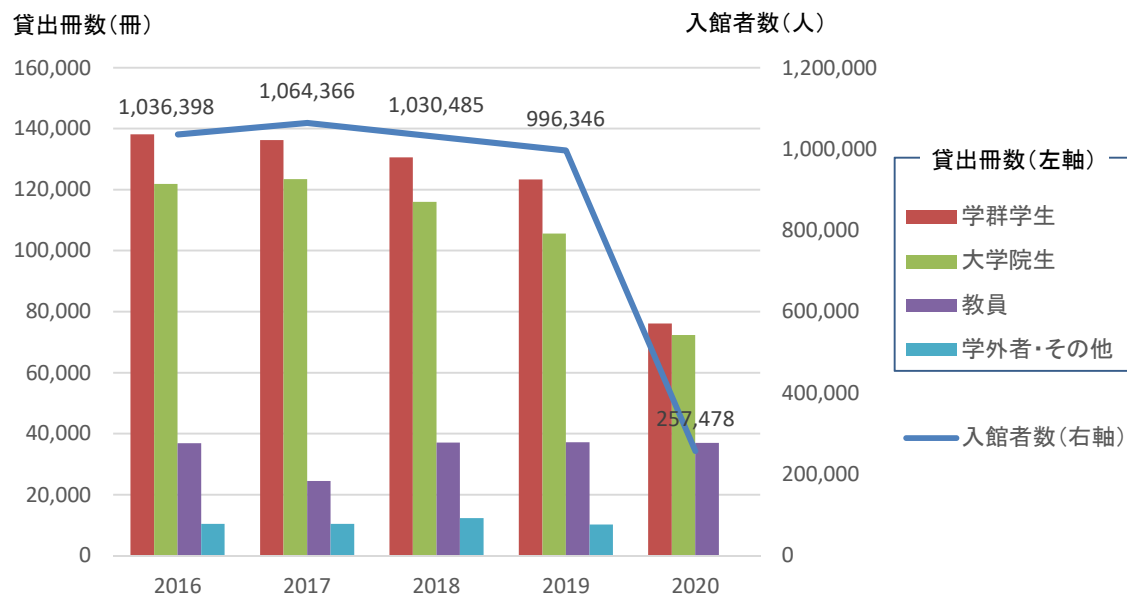
データベース名
Business Source Complete
CINAHL
DL-Law.com
InCites-Journal and Highly Cited Data
Lexis.com
Oxford English Dictionary
ProQuest Central
PsycINFO
SciFinder-n(Academic)
Web of Science
Westlaw Japan
医中誌Web
聞蔵II ビジュアル
雑誌記事索引集成データベース
ジャパンナレッジLib
日経テレコン21
毎索
ヨミダス歴史館

電子ブック契約タイトル 累積数(*2020年度末現在)

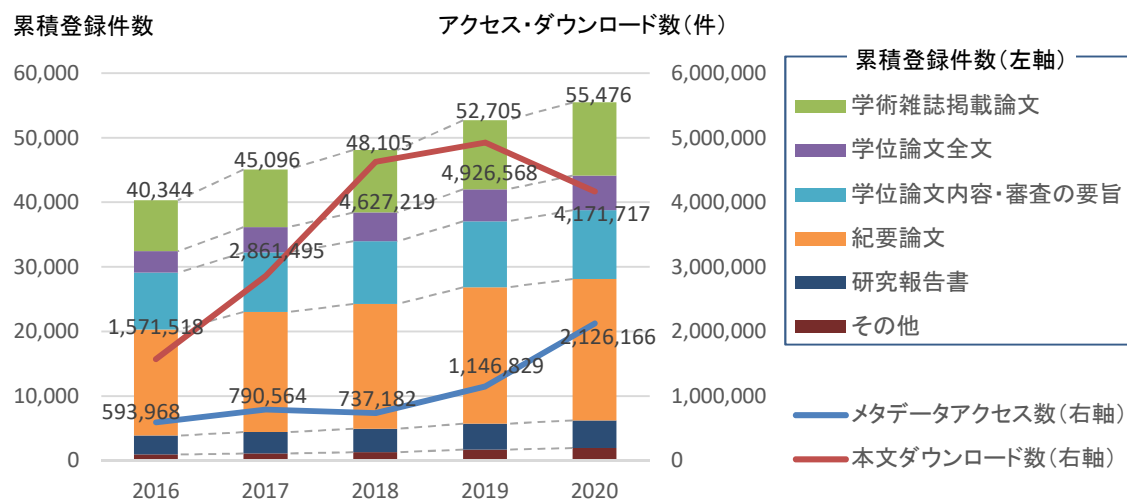
内訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	-	1,675
ProQuest Ebook Central	-	651
Maruzen eBook Library	2,742	491
EBSCO eBooks	492	1,068
Springer	-	28,380
Wiley Online Library	-	1,138
その他	72	3,783
合計	3,306	37,186

(3) 推移

ア 利用サービスの推移



イ つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



(4) オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション（学群生）	2回	2,242名
新入大学院生オリエンテーション（院生）	2回	110名
留学生オリエンテーション	1回	110名
新任教員オリエンテーション	1回	- 名
論文の探し方講習会	18回	488名
自由テーマオリエンテーション	4回	129名
科目関連指導	10回	2,040名
（内訳）		
フレッシュマン・セミナー	1回	1,638名
カウンセリングコース向け講習会	2回	60名
リハビリテーションコース向け講習会	2回	51名
経営システム科学専攻講習会	1回	31名
授業「知の探検法」	4回	260名
その他	2回	44名

※新任教員オリエンテーションは資料アップロードをもって実施とし、参加者数は集計しない。

自由テーマオリエンテーションは対面で2回実施した。その他の講習会・オリエンテーションは全てオンライン開催。

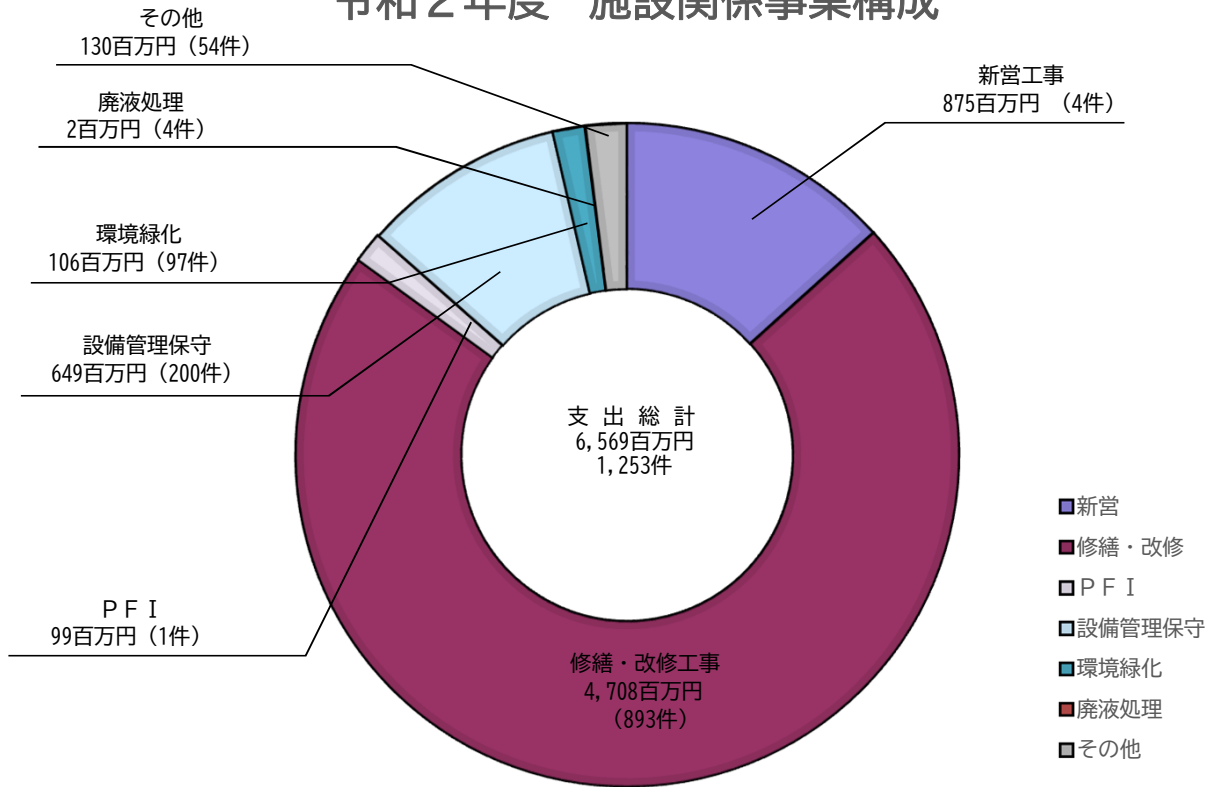
開催日	内 容	講 師	参加者数
LAセミナー			
2021.1.5～	LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた （You Tube での動画配信） 第1弾「研究テーマ・進路」 第2弾「レポート執筆について」 第3弾「資料の探し方」	江頭健斗、大村浩之、酒井晴香、笹川大河、古畑翼、廖曦彤、渡邊涼一 （附属図書館ラーニング・アドバイザー）	680名
その他の研究・学習支援企画			
2020.12.13	令和2年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH）「メディア虎の穴」「学術情報の探し方」（筑波大学附属駒場中・高等学校）（オンライン開催）	大和田康代（学習支援担当）	14名

11 施設・環境関係

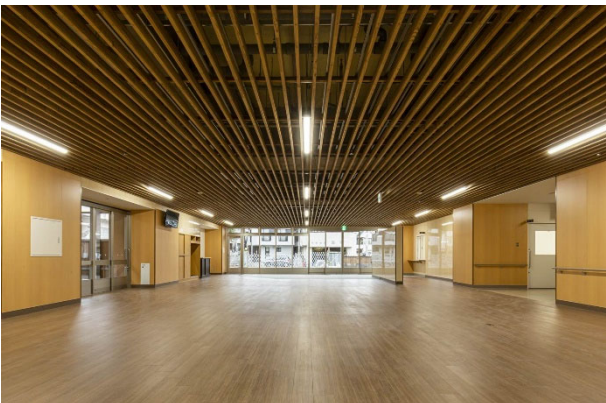
(1) 施設整備状況（令和2年度竣工ベース）

名称	財源	予算年度	構造階数	建築面積	延面積	完成日
筑波大学附属桐が丘特別支援学校(本校)校舎新営工事(Ⅱ期)	施設整備費/運営費交付金	H30/R2年度	RC4	1,349	3,878	令和3年1月15日
筑波大学人間系学系B棟改修工事	施設整備費	H31年度	RC5	1,185	5,832	令和2年7月27日
筑波大学自然系学系D棟改修工事	施設整備費/運営費交付金	H31/R2年度	SRC8	1,272	5,968	令和2年9月18日
筑波大学附属駒場中・高等学校他無線LAN取設工事	施設整備費	R1年度	-	-	-	令和2年12月1日
筑波大学基幹・環境整備(受変電設備他)工事	施設整備費	R1年度	-	-	-	令和3年2月26日
筑波大学基幹・環境整備(電話交換機設備)工事	施設整備費/運営費交付金	R1/R2年度	-	-	-	令和3年3月15日
筑波大学中央機械室(中地区)屋上防水改修工事	施設整備費	R1年度	RC3	2,482	4,264	令和3年3月25日
筑波大学中央機械室(通信センター)外壁改修工事	施設整備費	R1年度	RC3	2,532	4,482	令和3年3月30日
筑波大学基幹・環境整備(受変電設備他)工事(その2)	施設整備費	R1年度	-	-	-	令和3年3月29日
筑波大学下田臨海実験センター急傾斜地災害復旧工事	施設整備費/運営費交付金	R2年度	-	-	-	令和3年3月26日
筑波大学1B棟改修工事	施設整備費/運営費交付金	R2年度	RC4	797	2,809	令和3年3月29日
筑波大学1C棟改修工事	施設整備費/運営費交付金	R2年度	RC5	1,769	4,883	令和3年3月31日
筑波大学附属坂戸高等学校校舎C館トイレ改修工事	施設整備費	R2年度	RC3	502	1,526	令和3年3月30日
筑波大学附属駒場中・高等学校校舎トイレ改修工事	施設整備費	R2年度	RC3他	2,422	5,362	令和3年3月30日
筑波大学附属大塚特別支援学校校舎トイレ改修工事	施設整備費/運営費交付金	R2年度	RC3他	1,168	2,850	令和3年3月30日
筑波大学平砂学生宿舎1号等防災設備改修工事	施設費交付金	R2年度	RC4他	5,884	16,378	令和2年11月26日
筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター外壁改修工事	施設費交付金	R2年度	RC2	1,028	1,576	令和3年1月29日
筑波大学プラズマ実験棟等ハロゲン化物消火設備貯蔵容器更新工事	施設費交付金	R2年度	SRC3-1他	2,598	5,398	令和3年1月29日
筑波大学総合交流会館屋上防水改修工事	施設費交付金	R2年度	RS2	827	831	令和3年3月24日
筑波大学3C・D棟屋上防水改修工事	施設費交付金/運営費交付金	R2年度	RC4他	2,736	8,674	令和3年3月25日
筑波大学総合研究棟A集中検針設備取設工事	運営費交付金	R2年度	RC7	1,525	9,285	令和2年5月1日
筑波大学屋内プール暖房設備等改修工事	運営費交付金	R2年度	RC2-1	2,497	2,778	令和2年7月31日
筑波大学追越学生宿舎13号給排水設備改修工事	運営費交付金	R2年度	RC4	216	863	令和2年8月21日
筑波大学総合研究棟B302室他空調設備改修工事	運営費交付金	R2年度	SRC12-1	1,533	17,430	令和2年9月10日
筑波大学研究基盤総合センター(応用加速器部門)純水冷却用空冷チラー更新工事	運営費交付金	R2年度	RC9	1,913	3,155	令和2年9月24日
筑波大学附属駒場中・高等学校ボイラー室他とりこわし工事	運営費交付金/寄附金	R2年度	-	-	-	令和2年10月23日
筑波大学追越学生宿舎共用棟太陽光発電設備工事	運営費交付金	R2年度	RC2	2,019	2,730	令和2年11月12日
筑波大学構内高圧変電設備改修工事(令和2年度)	運営費交付金	R2年度	-	-	-	令和2年11月30日
筑波大学構内PHS基地局更新工事(令和2年度)	運営費交付金	R2年度	-	-	-	令和2年12月10日
筑波大学山岳科学センター(菅平高原実験所)実験研究棟トイレ改修工事	運営費交付金	R2年度	RC3	221	877	令和2年12月21日
筑波大学附属聴覚特別支援学校自動火災報知設備改修工事	運営費交付金	R2年度	RC4他	5,682	13,226	令和2年12月24日
筑波大学6B棟他エレベーター設備改修工事	運営費交付金	R2年度	RC5他	4,247	10,998	令和3年3月19日
筑波大学総合研究棟A等研究・実験室空調設備改修工事	運営費交付金	R2年度	RC7他	6,906	42,188	令和3年3月19日
筑波大学T-PIRC農場工作機械棟トイレ改修工事	運営費交付金	R2年度	S1	596	590	令和3年3月26日
筑波大学虹の広場ランニングロード改修工事	運営費交付金	R2年度	-	-	-	令和3年3月30日
筑波大学春日講堂トイレ改修工事	運営費交付金	R2年度	RC2	1,188	1,046	令和3年3月29日
筑波大学7B棟太陽光発電設備工事	運営費交付金	R2年度	RC5	3,599	8,744	令和3年3月30日
筑波大学附属大塚特別支援学校受水槽他改修工事	運営費交付金	R2年度	RC3	739	1,563	令和3年3月30日
筑波大学附属病院陽子線照射研究棟空調設備改修工事	附属病院収入	R2年度	RC4	2,142	5,297	令和2年6月25日
筑波大学附属病院外来診療棟ハロゲン化物消火設備貯蔵容器更新工事	附属病院収入	R2年度	RC4	4,494	13,798	令和3年3月8日
筑波大学附属病院病棟B改修事業に伴う移転先改修工事	附属病院収入	R2年度	SRC12-1他	12,256	89,486	令和3年3月31日
筑波大学生命科学動物資源センターB棟屋上防水改修工事	自己収入	R2年度	RC5	1,138	4,324	令和3年3月30日
筑波大学換気設備取設工事他(コロナ対策)	目的積立金	R2年度	-	-	-	令和3年1月27日

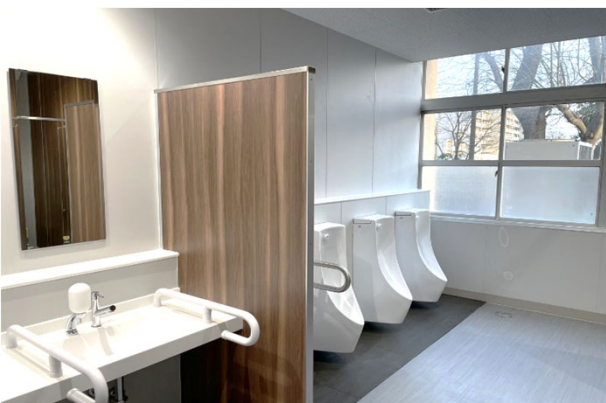
令和2年度 施設関係事業構成



【小茂根2丁目】 附属桐が丘特別支援学校(本校)校舎新営工事(Ⅱ期)



【池尻】 附属駒場中・高等学校校舎トイレ改修工事



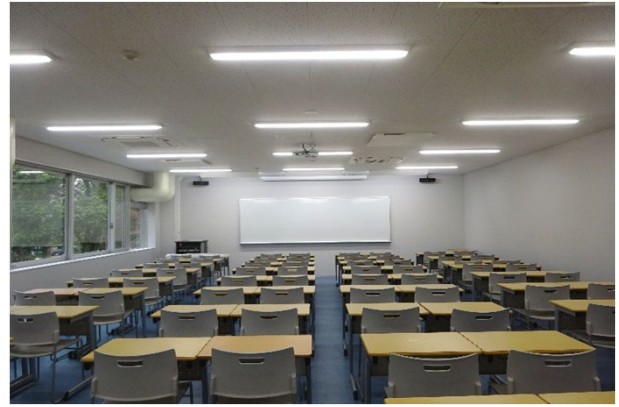
【中地区】 人間系学系B棟改修工事



【中地区】 自然系学系D棟改修工事



【中地区】 1B棟改修工事



【中地区】 1C棟改修工事



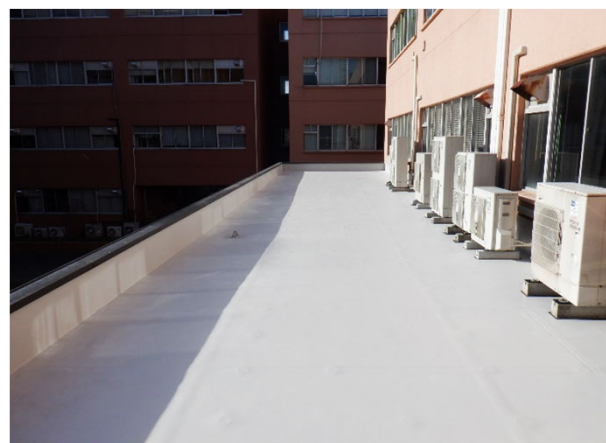
【中地区】 中央機械室(中地区)屋上防水改修工事、外壁改修工事



【中地区】 つくば機能植物イノベーション研究センター外壁改修工事



【中地区】 3C・D棟屋上防水改修工事



【西地区】 追越学生宿舎共用棟太陽光発電設備工事 【春日地区】 7B棟太陽光発電設備工事



【春日地区】 春日講堂トイレ改修工事



【中地区】 虹の広場ランニングロード改修工事

